593
089-3

# 標準裁縫書

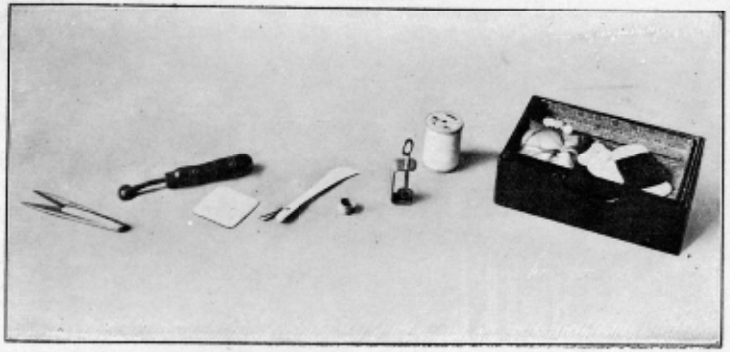
大妻技藝學校長
大妻高等女學校長
大妻コタカ著

前編

株式會社
三省堂

東京都千代田区
大妻女子院図書館
昭和
2944

（前）着参り宮　一つ身綿入　着参り宮（後）



裁縫用具

# はしがき

一　本書は,實科高等女學校,技藝學校,實業補習學校等各種學校の裁縫教科用書,又一般家庭用裁縫書として編纂したものであります。

一　本書は前編,後編の二册からなり,前編には,普通和服,後編には主として洋服,又和服のミシン仕立のものなどを收めました。されば前編は下級用に,後編は上級用に充てるのが適當であります。

一　本書は多年の經驗と研究とを基として,種種の方法の中から最も一般的と思はれるものを採用し,徒に理論に走らず,流儀に囚れないやうにいたしました。

一　從來使用の鯨尺·曲尺がメートル法になりましたので,本書もメートル法を採用いたしました。そしてこれまでの寸法については適宜に取捨し,學習者の實習と記憶とに便利

## はしがき

なやうにいたしました。

一　尚表紙裏に鯨尺・メートル尺の對照表をつけ,一般の方の參考に供しました。

昭和二年三月

著者しるす

# 標準裁縫書

## 前編

### 目次


第一章　總論 …… 1
第二章　基礎的技術 …… 5
第三章　襦袢 …… 24
第四章　本裁女物單衣 …… 33
第五章　本裁男物單衣 …… 46
第六章　綿布の繕ひ方 …… 54
第七章　四つ身單衣 …… 58
第八章　四つ身袷 …… 67
第九章　三つ身袷 …… 77
第十章　本裁女物袷 …… 82
第十一章　本裁男物袷 …… 9[illegible]
第十二章　本裁女物綿入 …… 100
第十三章　本裁男物綿入 …… 107

第十四章　一つ身綿入……111
第十五章　女物袷長襦袢附男物長襦袢……122
第十六章　女袴……131
第十七章　女物單衣合羽……149
第十八章　本裁女物袷羽織……159
第十九章　本裁男物袷羽織……169
第二十章　一つ身袖無し綿入羽織……178
第二十一章　中小裁羽織・被布の裁ち方……183
第二十二章　絹布・麻布單衣……188
第二十三章　毛織物單衣……19
第二十四章　絹布・毛織物の繕ひ方……194
第二十五章　子供帶……199
第二十六章　腹合せ帶附名古屋帶……202
第二十七章　男袴……211
第二十八章　男襠無し袴……237
第二十九章　下穿……241
第三十章　寢冷え知らず……244



# 標準裁縫書

## 前編

## 第一章　總論

**裁縫科の意義及び價値**　裁縫科とは,衣類の材料の選擇と,その積り方・裁ち方・縫ひ方・繕ひ方等を學習する教科である。而して衣類は,衣食住の一として我等の生活に缺くことの出來ないものである。從つて裁縫に關する知識と技術の如何は,家庭の經濟に大きな關係を及ぼすものであるから,昔から女子の必ず修めなければならない技の一つとされて來た。裁縫科は,ただかうした實用上から重要な學科であるばかりでなく,又これによつて,勤勞や努力の効果を教へ,或は綿密・精確・忍耐の習慣を養ふ等,その他,婦德の涵養上からいつても,極めて價値の多い教科である。

**裁縫學習上の心得**　裁縫は,衣類の種類と材料の品質によつて,その仕方がいろいろあるか

ら,一通りの技術の會得のみではなく,自發的に工夫をこらして知識と技術を磨き,時勢の進歩にも伴ふやうにしなければならぬ。又,仕事の能率を高めるには用具を整頓し,秩序を守り,手順をよくしなければならぬ。用具や材料は丁寧に取り扱ひ,用具は使用の都度整理し,その手入をおこたつてはならぬ。

又その學習には注意を集中して教へを受け,熱心に繰り返して練習し,自ら進んで工夫し,研究することが最も大切である。

## 第一 裁縫用具

裁縫用具の主なるものは,

針箱·針·針山·指貫·鋏·篦·チョーク·尺度·絎臺又は懸針·糸巻·袂丸み形·烙鏝·火熨斗·アイロン·烙鏝板·篦臺·火熨斗蒲團·霧吹·壓板·眞綿伸し·萬力·衣紋掛·目打·槌·鑿·擦板·ミシン等である。

## 第二 用具の選擇及び使用上の注意

**1, 針** 針は,すべて各自の指に合ふ長さのものを用ひ,その太さは,布の地質によつて定める.縫針は,木綿物には三の二,三の三,絹布には四の二,四の三を使ふがよい。

絎針は,木綿物には三の五,絹布には四の五を使ふ。

待針は,待針用のものが便利である。

針はその數をきめておいて,使用の前後にはよく調べて見なければならない。

**2, 糸** 裁縫に使ふ糸の種類には,木綿糸·絹糸小町糸·絹小町糸·カタン糸·木綿絎糸·絹絎糸(ゾベ)·羽二重糸·色紙糸等がある。それぞれ地質及び用途に適したものを用ひなければならぬ。

**3, 指貫** これは指に傷のつくことを防ぐために用ひるもので,その種類はいろいろあるが,糸の損じ難い皮製のものがよい。

**4, 鋏** 大小,形狀等種々あるけれども,裁鋏と糸切り鋏の二種あればよい。

**5, 篦** 布を損じないやうな材料,即ち象牙·角·竹製のものがよい。縫ひ方を正確にするには,篦附を正しくすることが必要である。

**6, 尺度** 眞直ぐな薄手のものがよい。正しく使はないと,寸法に狂ひが出來る。

標をつける時は,すべて左手に持つてする。

7, **烙鏝**　使用する前には,必ず紙の上で,熱度を試(ため)べ,中途で下におくやうな場合には,烙鏝臺にのせておくことを忘れてはならない。

8, **火熨斗**　これも烙鏝の場合のやうに,紙の上で火加減を試べてから使用する。

色物·黒地物には,薄い布を當てて,その上からかける。



# 第二章　基礎的技術

## 第一　運針

運針は縫ひ方の基礎となるもので,その熟練の如何は着物の出來榮えと,仕立上げの時間とに,非常に關係があるから,運針練習は初步の間は勿論,稍上達した後でもなほざりにしてはならない。次にその練習に當つて注意しなければならない事柄を二·三揭げる。

1, **運針**　素縫(すぬひ)と,本縫(ほんぬひ)との二種がある。順序としては,素縫から初め,次に本縫に入るがよい。素縫は,二十糎位の糸を通して二本に折りまげて縫ふ。

本縫は,用布よりも糸を十糎位長くして,練習するがよい。

2, **縫ひ方**　姿勢を正しくして下腹に力を入れ眼から布までの距離は三十糎,胸から十五糎位を離し,兩手の開きは十五糎位にし,左右平均に動かす。大體要領が判つたならば,針目の大小,縫ひ目の曲直等に注意して,次第に上手に速(はや)

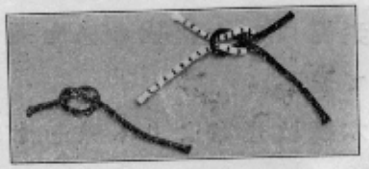
くするやうに心掛ける。

3, **用布**　一米,又は八十糎位の晒木綿を用ひ,針目は凡そ五粍にする。初めは晒木綿で練習し,次いで三河木綿・紅絹等を使つて,種々の材料を容易に縫ふ準備をする。

## 第二　糸の結び方

1, **細結**　糸の兩端を取つて,下圖のやうに結び合はせる仕方である。これは袷・綿入等の袖口・八つ口・袖附等の留をする時,及び袱などの中途で糸を繼ぐに用ひられる。

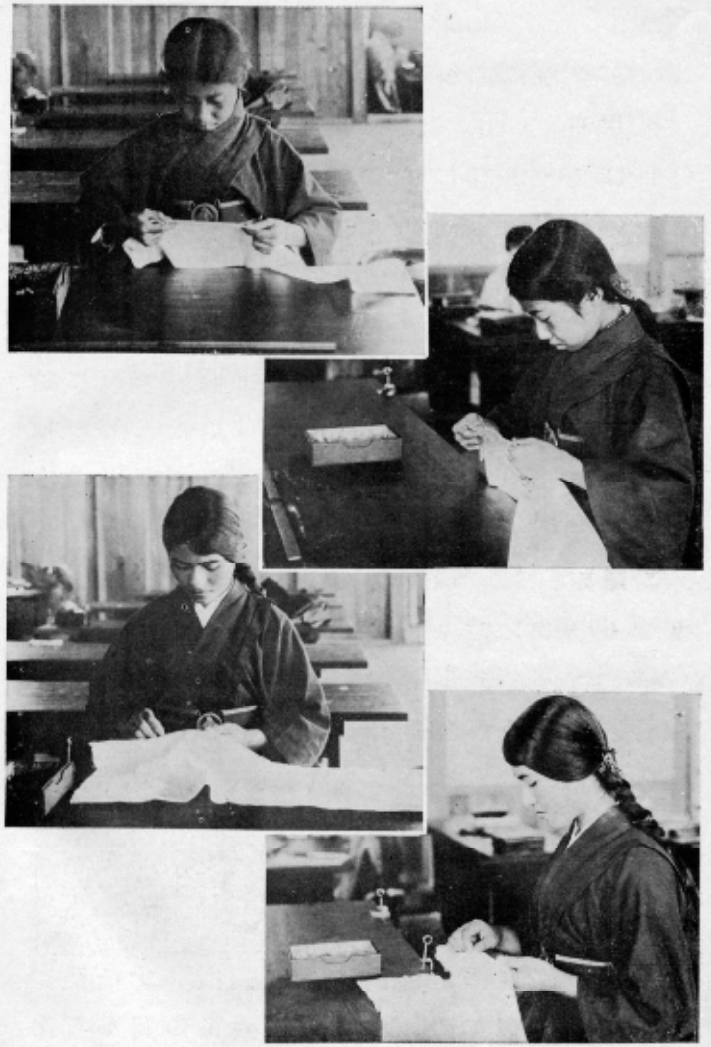
2, **留結**　糸の端を食指の先に巻いて,拇指の腹で,その糸を撚り乍ら結ぶ仕方である。結ぶと玉になるから玉結ともいふ。縫ひ初めに使ふ。



留結の圖　　細結の圖

3, **機結**　糸の兩端を取り,右を下に,左を上に重ねて,左の食指の上におき,右の糸を廻して,左の糸の下から兩

機結の圖



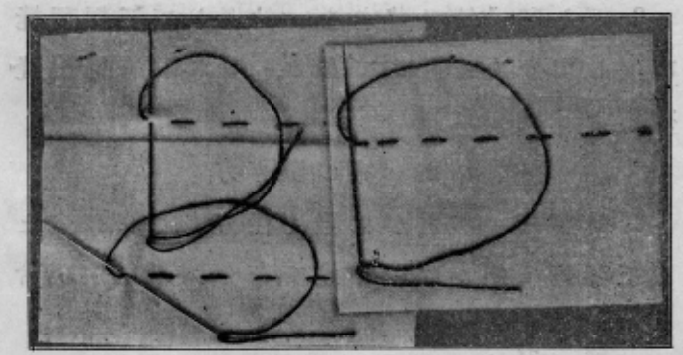
運針及び縫ひ方の姿勢

端の糸の間を通して,右端の糸を輪の中に入れる。そしてその先を左の拇指で押へ,右を引いて締める結び方で,躾などの中途で糸を繋ぐ時に用ひられる。

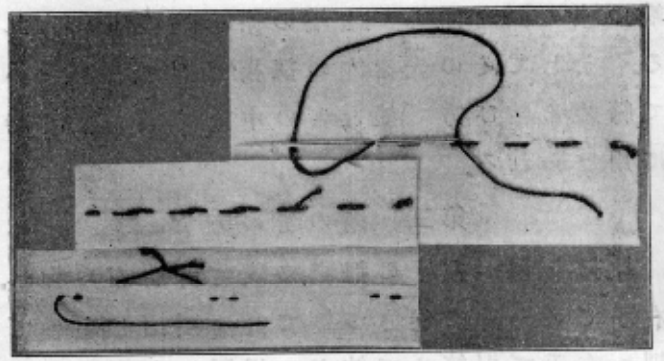
### 第三　糸の留め方

**1, 打ち留**　左手の拇指の腹で針を布に押へ,右手で糸を針に巻きつけて針を引出し,左手で押へ右手で引締めて結ぶ。場所によつては一針縫ひ返してからこの留め方をする。抄(すく)ひ留,返し留をする場所以外に使はれる。

**2, 抄ひ留**　縫ひ終りで,縦か横又は斜に布を極く僅か抄つた後,打ち留のやうに縫糸を針に



抄ひ留の図(斜・縦)　　打ち留の図



結び繼の圖　　返し留の圖　　抄ひ留の圖(裏)

からんで,針を抜き出して縫ひ返しおく仕方をいふ。

衣服の要所,例へば單衣の袖口·袖附·衿先·身八つ口などには皆この留め方が用ひられる。

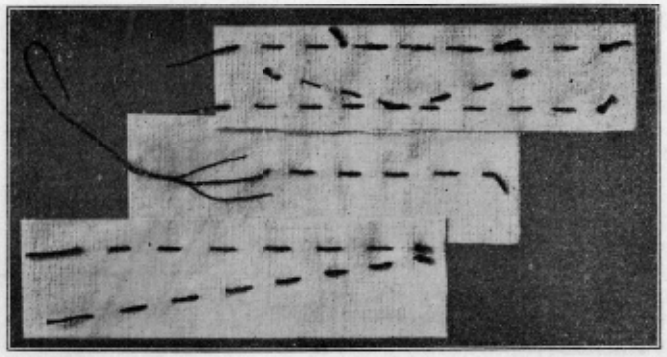
3, **返し留**　縫ひ終りを一針返して三糎程縫ひ戻して留める仕方である。これは脊縫·脇縫·衽附などの裾に用ひられる。

## 第四　糸の繼ぎ方

1, **結び繼**　機結びに繼ぐ仕方で,これは主として耳絎や躾かけの中途で,糸を繼ぎ足す場合に用ひられる。

2, **重ね繼**　縫ひ合せの中途で,糸の無くなつ





直線縫·斜線縫の圖　　撚り繼の圖　　重ね繼の圖

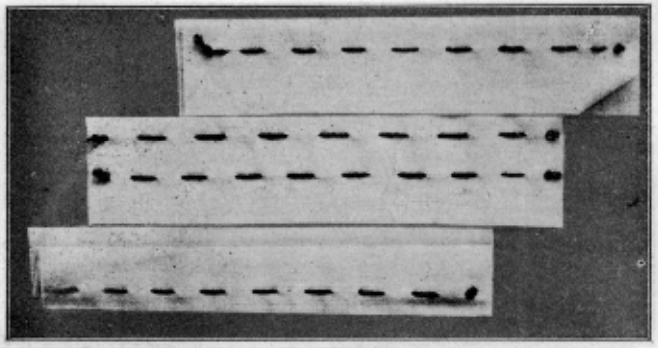
た時,新しい糸の端を留結びとし,六糎位戻つた處から,前の縫糸に割り込んで,縫ひ重ねる仕方で,縫ひ終りや,縫ひ初めの糸を縫ひ代へ寄せて一目割りにすることもある。

脊縫·脇縫·衽附·衿附等の中途で糸の終つた時に用ひられる。

3, **撚り繼**　繼がうとする糸の端を二つに割り,割つた糸の一方に元の糸を四糎程撚り合せ,更に他の一方に撚り合せて用ひる。主として絹布の縫ひ合せや絎け方に用ひられる。

## 第五　縫ひ方

1, **直線縫**　布目に對して眞直ぐに縫ふ場所



摘み縫の圖　二重縫の圖　合せ縫の圖

に使ふ縫ひ方で,衣類の大部分は,この方法によつて出來上る。

2, **斜線縫**　斜に縫ふ仕方で,着物の衽附·衿附·袖附·羽織の襠附等に用ひられる。

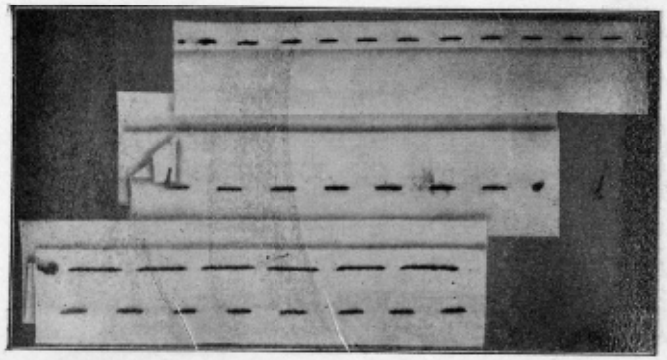
3, **合せ縫**　布を中表に二枚合せて縫ふ仕方で,直線縫と同じやうに廣く應用される。

4, **二重縫**　合せ縫の後,縫ひ目の開かぬやうに本縫にならつて,端の方を縫ひ合せる仕方で本裁單衣の脊縫等はこの縫ひ方による。

5, **摘み縫**　布を切らずに摘んで縫ふ仕方で,四つ身の衽,大巾物の脊縫等に用ひられる。

6, **三つ折り縫**　布の端を二度折つて裏折り





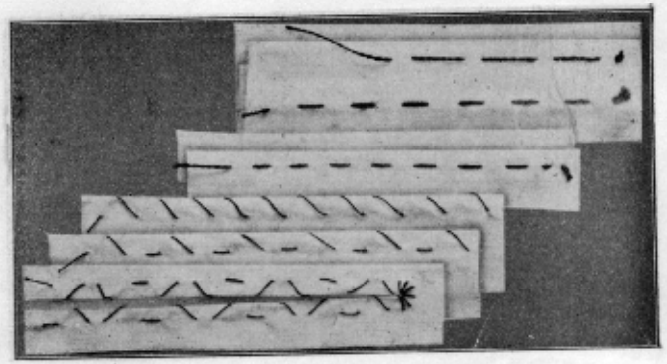
伏せ縫の圖　袋縫の圖　三つ折縫の圖

代の端を普通に縫ふ仕方で,風呂敷の端のやうな處を縫ふに用ひられる。

7, **袋縫**　初めに中表に布を合せて五耗の縫ひ代に縫ひ,淺くきせをかけて引返し,更に普通の縫ひ代で,裏を見て縫ふ仕方で,單衣物の袖下,絹布單衣の脊縫,小裁·中裁物單衣の脊縫等に應用される。

8, **伏せ縫**　一方の布の端を三耗位控へて縫ひ合せ,縫ひ込みの狹い方へ折つて,裏には一糎位の針目を出して縫ひ込みの端を伏せておく仕方で,布の耳等に用ひられる。

9, **折り伏せ縫**　布の一方を五耗位控へて縫



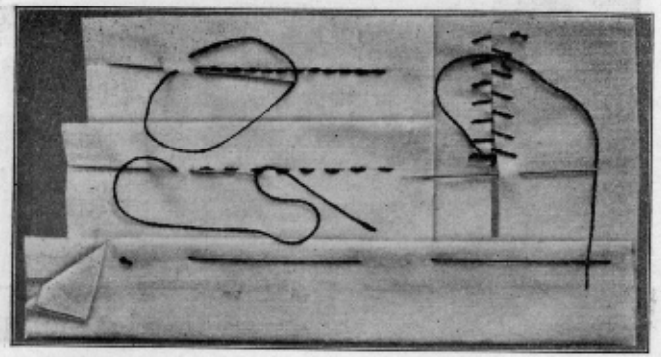
かゞり縫の圖　　重ね縫の圖　　折り伏せ縫の圖

ひ合せ,縫ひ込みの少ない方へ折りをつけ,その長い分を折つて,その上を伏せ縫と同じやうにしておく縫ひ方で,布の裁ち目の時にはこの仕方が用ひられる。

**10,重ね縫**　裁ち目のまゝ一糎位重ねて一行,又は二行に縫ひ合せる仕方である。紐の芯地・裏袖巾の持出し等を接ぐ場合に用ひられる。

**11,かゞり縫**　裁ち目のほつれを防ぐために裁ち端を巻き乍ら縫つてゆく仕方で,衣服の衿肩明・鈎衽・毛織物の裁ち目その他ほつれ易い場所に用ひられる。但し衿肩明の要所は一針抜にかけることが必要である。





本縫の圖　　返し縫の圖　　突合せ縫の圖

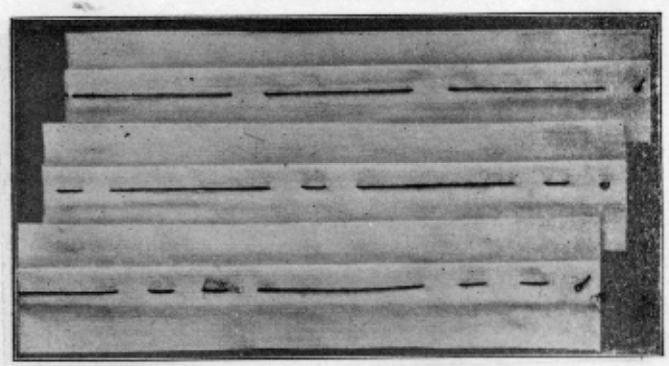
**12,突合せ縫**　裁ち目のまゝ布を双方から突合せて,四粍の深さに針を交互に布の端に引掛けて,縫ひ合せる仕方で地厚の帯芯・衿芯等の短い場合に用ひられる。

**13,返し縫**　返し縫には,本返しと半返しの二種がある。

本返しとは,縫つた針目を全部返すもので,主にミシンの代りに用ひられる。

半返しとは,縫つた針目の二分の一だけ返つたものをいひ,縫ひ目を丈夫にするために使ふもので,縫ひ目を割る時に多く用ひられる。

## 第六　躾の掛け方



三目落しの圖　二目落しの圖　一目落しの圖

すべて躾を掛けるには,懸針又は絎臺を使用する。

1, **平躾**(ひらじつけ)　三糎位の針目で表裏とも同じ針目にする。又抄ふ方の針目を少し小さくすることもある。

羽織の衿等に用ひられる。

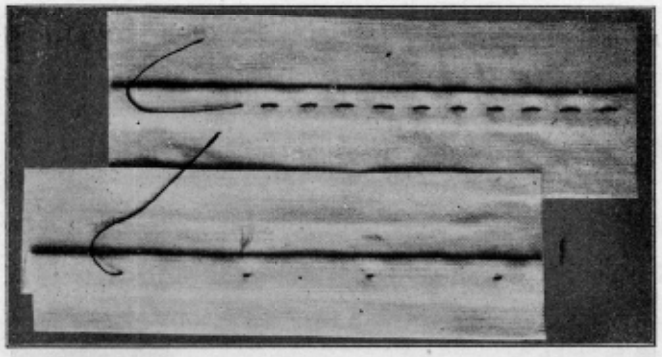
2, **一目**(ひとめ)**落し**・**二目**(ふため)**落し**・**三目**(みめ)**落し**。

小針の數による呼び方で,きせ山から凡そ五粍の處に,小針を五粍,大針を三糎位にしてする。

3, **縫**(ぬ)**ひ躾**(ぐし躾)　並縫の針目で躾を掛けることをいひ,縮緬類に用ひられる。

4, **隱**(かく)**し躾**　折りの反對にならぬやうにする





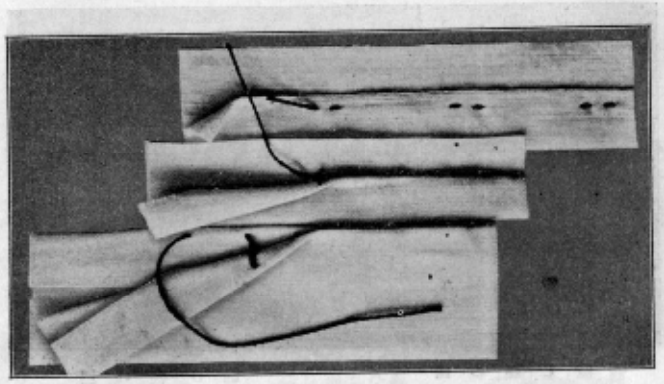
隱し躾の圖　縫ひ躾の圖

もので,仕上げて後も取り除かぬものであるから,共色の糸を用ひ表を見てする。表は極めて小さい針目にし,裏の針目は二糎位にして躾をかける。褄先(つまさき)・綿入羽織の前下り・胴接(ほ)ぎ等に使はれる。

## 第七　絎(く)け方

絎け方をするには,すべて懸針,又は絎臺を使用する。

1, **耳絎**　布の耳を絎けつける仕方で,小針に表に一つ,裏に二つづゝ出し,布と耳との間を通る針目は二糎位にし,耳から三粍位入つた處を絎けるもので,これは木綿單衣等に用ひられる,



本絎の圖　三つ折り絎の圖　耳絎の圖

絎け代の巾によつて,針目の大きさは違ふ。

2, **三つ折り絎**　布の端を二度折つて,表には極く小さく針目を出し,裏の折り山の中には,一糎五粍位の針目を通して,絎けてゆく仕方で,單衣の袖口・衿下・据絎等に使はれる。勿論針目の大きさは絎け代の巾によつて加減する。

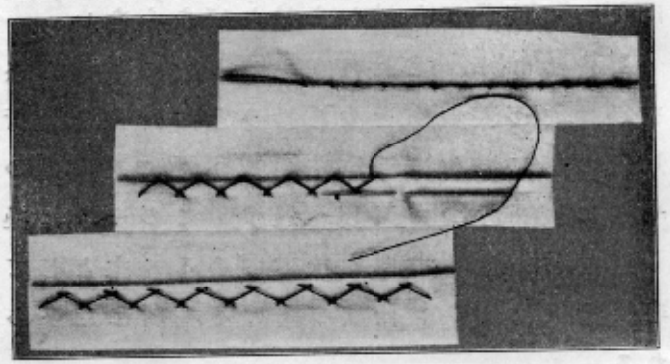
3, **本絎**　双方の布の端を折り合せ,針目を八粍位とし,折り山から二粍内を,手前と向ふとを同じ針目に針を運んで絎ける仕方である。この絎け方は,綿入の袖口・八つ口・衿下など應用の範圍が大變廣い。從つて針目などもその場所



によつて適當に加減しなければならない。

4, **まつり絎**　これは布を折り,右の端から糸を掛け,まづ表の布を少し抄ひその針先を裏折り代の端に通し,二粍位左の方へ斜に進め,前のやうに表を抄つて又裏へ通す。このやうに繰り返し乍ら進めてゆく仕方である。主として毛織物,又はミシン仕立の絎ける場所に用ひられる。

5, **千鳥掛**　布の端を折つてその左の方から糸を掛け,まづ表の布を少し抄ひ,次に五粍斜に裏折り代の端から五粍の處を抄ひ,再び前のやうに表地を抄ひ,交互にこれを繰り返して進み行く仕方である。その時斜にかゝる糸は,あまり直立にならぬ方がよい。毛織物,又は地厚物の單衣仕立等で伏せ縫か耳絎,又は三つ折り絎をしなければならない處に應用される。又地厚の物には千鳥掛の下の圖のやうに,表の地一枚にだけ針を通すのみでなく,三つ折りにした處の極く端を表まで抄つて,奥の針は表に出さぬことがある。又大變地厚なものは二つ折り



千鳥掛の圖　　まつり絎の圖

にして,どの針も二枚を通して,表には二列に針目を出すこともある。

6, **撚り絎**　布の耳をこよりを撚るやうに撚つて,右から小針にまつり絎をする仕方である。ものによると,木綿糸を芯に入れてすることがある。上仕立ての單衣の袖口・夏コートの竪衿・コートの飾り紐絎等に使はれる。

## 第八　一般的心得

### ㊀　用布の巾と丈

**巾**　並巾物……三十六糎を普通とし,地質によつて三十二糎から三十八糎位までである。



中巾物……四十五糎を普通とし,地質によつては四十一糎から五十三糎までである。

大巾物……七十五糎を普通とし,地質によつては六十糎から一米位までである。

この外に尚三巾物・四巾物等の種類がある。

**丈**　並巾物……一反は,凡そ十一米で二反を一疋といふ。地質によつては一反が十米六十糎から十一米四十糎位までである。

中巾物……反物にきつてはないが凡そ八米五十糎を一反とする。

大巾物……着尺物は凡そ五米五十糎を一反とする。

### ㊁　用布の整理

**湯通し**　糊のあまり濃い物はしみが出來易く,折り山がすれ,光澤も悪いから湯通しの必要がある。又仕立て後に寸法の縮む心配のある毛織物は,霧を吹いてアイロンをかけ,豫め縮め

ておき,着用後寸法の狂ひの來るのを防ぐ。

**地直し**　布目を正しくするために兩手で布を斜·縦·横に引張つて整理をし,耳の出入りや,釣れの澤山あるものは,その部分を手や烙鏝で充分直し,時には鋏を斜に入れて切り込む。縮緬のやうに耳の織方が違つて,澤山釣れてゐるもので,巾の充分ある物は耳の分だけを取り除いた方がよい。

㈢　裁ち方,積り方

**實物檢べ**　裁ち方をする前に,充分實物について研究しなければならない。まづ織瑕(おりきず),染斑(そめむら)の有無,その位置を檢べ,もしあつたならばなるべく之を隱れる方に廻して裁ち合はせるやうに工夫をする。

**寸法計算**　用布の總尺を計り,所要の寸法を計算し,その寸法の通り正しく計つて布を折り始める。

**裁ち方**　布を折つたならば,その寸法及びその他に誤りが無いかをたしかめ,次に布目を正しく裁ち始める。裁ち終つた物は丈を揃へないで山を八糎位ずらして中表にたたんでおくと標つけの時いやな折目がつかないでよい。



**要所のかがり**　ほつれ易い地質の物の衿肩明,その他の要所も裁つてすぐにかがつておく。

㈣　模様·縞等

縞に強弱のある物は,強部分を脊にするがよい。斜の模様物は右の肩から流れるやうに裁つた方が着用した時優美に見える。然し時には左右平等にしたり,又模様を合はせるやうにしたりすることもある。模様物で,小裁物を裁つ時には特に模様の配置·色の配合等に注意しなければならない。

㈤　仕立上げ寸法

縫ひ方が上手でも着用して身體に合はないのは見苦しいものであるから,着用者の年齢,身體の肥瘠(ひせき),長短を考へて普通仕立上げ寸法を適宜加減する必要がある。

㈥　標附け方

布は常に中表に重ね,すべて身體の上部に當る方を左にし,裾の方を右手におく。

**袖**　袖口を向ふに,袖附を手前にしておく。

**身頃**　衿肩明を手前にし,後身頃の方を上におく。

**衽**　衿下の方を手前におく。新らしい物は裁ち目を衿下にする。

**衿**　山の方を左に,裁ち目を衿附の方にして手前におく。

標附は常に仕立上げ寸法にきせの分を加へる。その多少は場所によつてほどよくする。

標附は明瞭で,正確に,しかも一糎内外の大きさにして仕立の中途で消えないやうに,又仕立上つて後に篦の少しも見えないやうにする。篦標のつけにくいものは,糸標をするか,或はチョークを使ふ。

絹布類は烙鏝を暖めて先の丸みで標附をしてもよい。又特に絹布標附用の燒篦がある。

### ㊐　縫ひ方ときせ

**縫ひ方**　標通り合せて待針を打ち,針目を正しく縫ひ,充分に糸をしごく。糸のしごき方が悪い時は,縫ひ目が縮み,布に皺が出來て仕立榮えがしない上に,亦綻び易いから注意しなければならない。



**きせ**　普通の縫ひ目には一糎かけ,袖口・八つ口・裾合せ等は特に多く三糎位かける。

### ㊑　仕上げ

縫ひ終つたならば,仕立上げ寸法を調べ,針等の粗忽の無いやうに檢査し,糸屑・塵埃を拂つた後に,地質によつては霧を吹き,壓をかけ,又は火熨斗・アイロンを使つて仕上げをする。

火熨斗は裏からかけ,表に及ぼす。總べて仕上げは成るべく簡單に出來るやうに仕立てる時から注意して,皺を作らないやうにし,又要所には,烙鏝を使つて折りをつけておく。

以上は,衣類の仕立に就いての一般の心得であるから,よくこれ等を記憶し,實際に適用するやうにしなければならない。

# 第三章　襦　袢

## 第一　本裁女物肌襦袢

用布は,晒木綿·眞岡木綿·麻·絽·綿ネル等を使ふ.

### ㊀　普通仕立上げ寸法

| | |
|---|---|
| 袖　丈 | 二四糎 |
| 袖　口 | 一九糎 |
| 袖　附 | 一九糎 |
| 袖　巾 | 半巾いつぱい |
| 身　丈 | 六五糎 |
| 身八つ口 | 一二糎 |
| 後　巾 | 二八糎 |
| 前　巾 | 二六糎 |
| 衿肩明 | 七糎五粍 |
| 衿　巾 | 五糎 |
| 馬　乗 | 一二糎 |

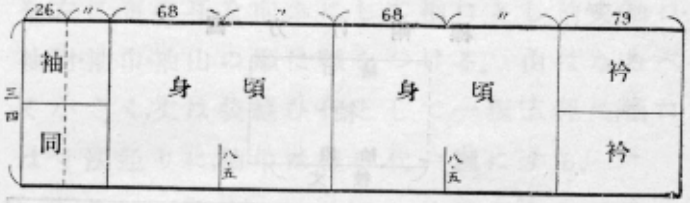


### ㊁　裁ち方と積り方

#### 本裁肌襦袢の裁ち方

用布並巾4米3糎

裁ち切り袖丈26糎. 裁ち切り身丈68糎




#### 積り方

**公式**　**袖丈×2+身丈×4+衿丈=總用布**

26 ×2+ 68 ×4+ 79 = 403

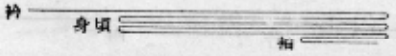
**公式**　**(總用布−袖丈×2−衿肩明及び衿先縫ひ代)÷5=身丈**

( 403 − 26 ×2− 11 )÷5= 68

**公式**　**身丈+衿肩明及び衿先縫ひ代=衿丈**

68 + 11 = 79

用布の折り方圖

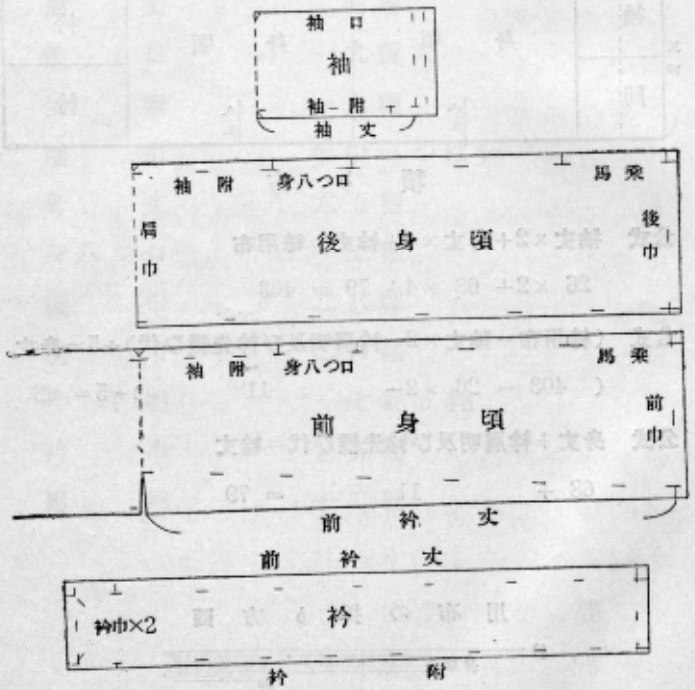


袖
1 袋縫ひ代
2 袖　丈
3 袖　口
4 袖　附
5 袖　巾
6 袖　山

身頃
1 身　丈
2 脊　縫
3 袖　附
4 身八つ口
5 馬　乗
6 後　巾
7 肩　巾
8 山
9 前　巾

衿
1 山はぎ
2 衿肩廻し
3 丈
4 巾

標附け方圖






## ㊂　標附け方

一,袖。二,身頃。三,衿。この順序に標附をする。

1, **袖**　中表に二つ折にして兩袖を重ね,袖山を左に,布の耳を向ふにして袖口とし,袖丈·袖口·袖附·袖巾·袖山の順に標をつける。山はなるべく小さく,丈は袋縫ひ代として一糎五粍に,袖口は寸法通りに,袖巾は縫ひ代一糎にする。

2, **身頃**　中表に二枚重ね衿肩明を左手におく。丈·脊縫·袖附·身八つ口·馬乗·後巾·肩巾·山の順に標をつける。但し脊·脇などは,一糎の縫ひ代とし,その他は寸法通りに標をする。
後身頃を左に開いて,前身頃に後身頃の標をうつしとり,裾に前巾の標をつけ,それから衿肩明の處まで斜に標をつける。

3, **衿**　二枚重ねて裁ち目を手前におき,山接ぎ·衿丈·衿附·衿巾の順に標をつける。

## ㊃　縫ひ方順序

一,袖。二,身頃。三,裾絎。四,衿附。五,袖附。

1, **袖**　袖下の淺縫を袖附の方の端を二糎程

残して縫ひ,折りをつけ引返して,次に兩端いつぱい標通りに縫ひ,袖口は布の耳であるからそのまゝにしておく。

2, **身頃**　脊を二重縫とし,衿肩明を右にして,手前へ折りをつける。脇縫をし,上下に抄ひ留をして,前身頃に折りをつけて,脇の縫ひ代を割り,躾をかける。次にこの縫ひ込みを裾から身八つ口まで身頃に紩けつける。地質の厚い物は,半返しにして縫ひ目を割つて紩けつける。

3. **裾紩**　裾は一糎巾の三つ折り紩けにする。馬乗下の角は三角に折つて紩ける。地質の厚い物は二つ折りにして,總て千鳥掛にする。

4, **衿附**　衿を接ぐものはまづ接いでおく。衿山を脊に當てて標を合せて待針をし,下前から上前に縫ひ廻し脊の中央で一針返す。身頃の縫ひ代は脊の處で一糎,衿肩明の處で二糎にする。衿の中を整理し,三つ衿を入れて縫ひ込みにとぢつける。

左右の衿先を留め,衿巾を折つて留から四糎先を縫ひ裏の方へ折り,縫ひ込みを衿附にとぢつける。



引返して下前から紩け初め,上前で紩け終る。

5. **袖附**　袖山と肩山とを合せ,その他の標も正しく合せておいて,袖附の附始めと終りとに抄ひ留をして,袖の方を見て縫ひつけ,折りを袖につけて引返して,八つ口及び身八つ口を紩ける。

## 第二　各種肌襦袢の裁ち方と積り方

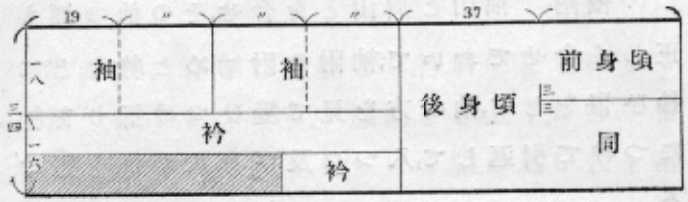
肌襦袢は,男物も子供物も,寸法に差があるだけで,仕立方に違ひはない。一つ身は一・二才用で,三つ身は三才から五・六才まで,四つ身は六・七才から十二・三才まで着られる。

**附記　半襦袢**　半襦袢には,身頃と袖と別布を使ふことが多く,寸法は着物に應じてつめるものである。そのつめ方は次のやうにする。

| | | |
|---|---|---|
| 袖 | 丈 | 一糎五粍減,單衣の下のは五粍減。 |
| 袖 | 口 | 溜袖,但し元祿袖等は着物より五粍減。 |
| 袖 | 附 | 着物より五粍減。 |
| 袖 | 巾 | 着物と同じ,又は五粍減。(以下32頁へ續く) |

## 一つ身襦袢の裁ち方積り方

用布並巾　1米50糎



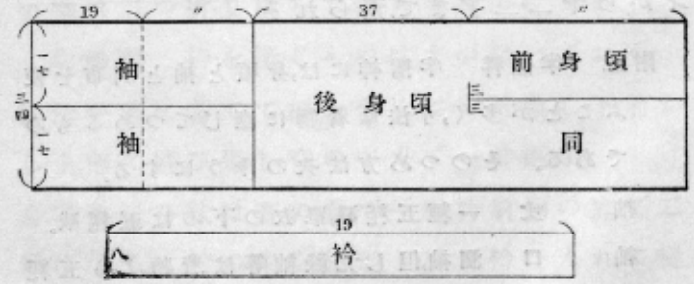

積　り　方

**公式　袖丈×4＋身丈×2＝總用布**

**（總用布－袖丈×4）÷2＝身丈**

## 一つ身襦袢別衿の裁ち方

用布並巾　1米12糎




積　り　方

**公式　袖丈×2＋身丈×2＝總用布**

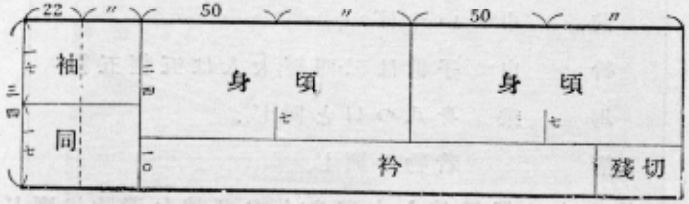
**（總用布－袖丈×2）÷2＝身丈**



衿布として別に並巾四つ割84糎の布を使ふ

## 四つ身襦袢の裁ち方

用布並巾　2米44糎

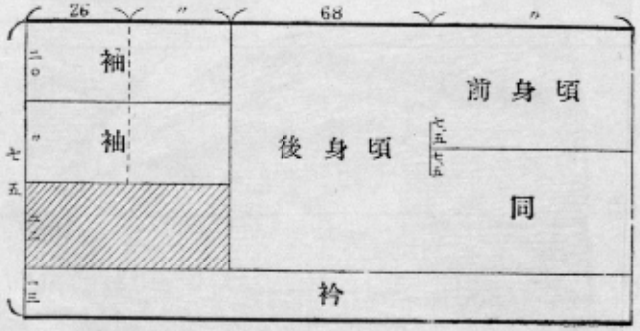



積　り　方

**公式　袖丈×2＋身丈×4＝總用布**

**（總用布－袖丈×2）÷4＝身丈**

## 本裁肌襦袢の裁ち方




積　り　方

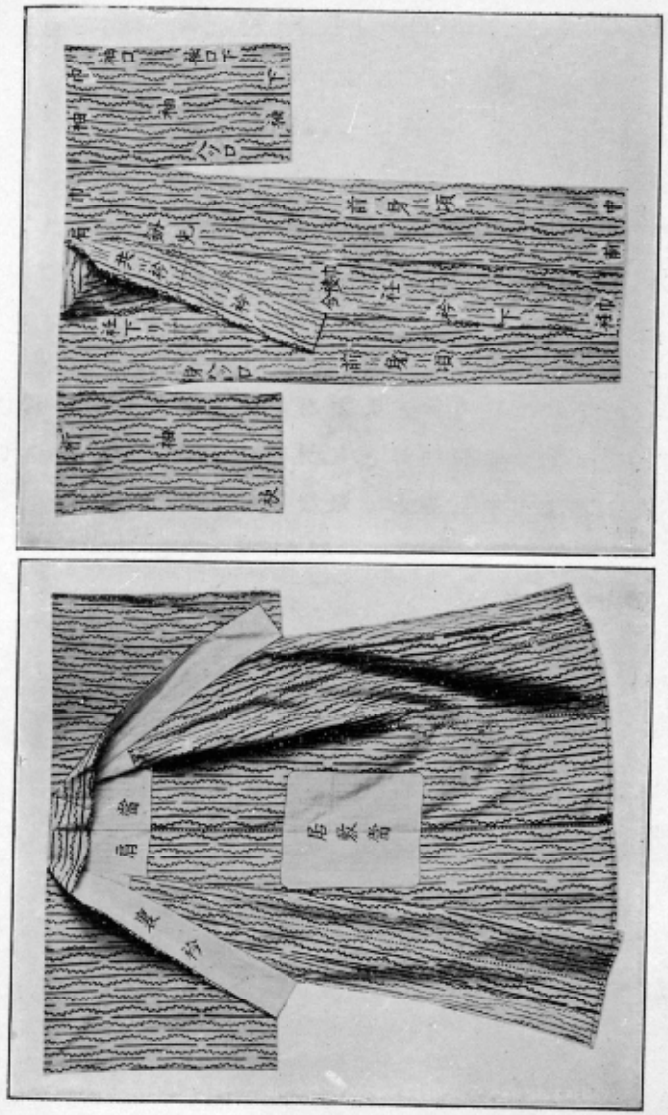
**公式　袖丈×2＋身丈×2＝總用布**

**（總用布－袖丈×2）÷2＝身丈**

大妻圖

| | |
|---|---|
| 身丈 | 七五糎位,但し大人。 |
| 身八つ口 | 子供は七·八糎,大人は十二糎位。 |
| 後巾 | 着物と同じ。 |
| 前巾 | いつぱい。 |
| 衿巾 | 子供は三·四糎,大人は五糎五粍。 |
| 馬乗 | 身八つ口と同じ。 |
| 裄 | 着物と同じ。 |

仕立方は肌襦袢と大差なく,ただ袖を着物に應じて,濶袖·筒袖·元祿袖等とし,男物は袖の長短によつて,總附又は人形附等とし最後に半衿をかける。



本裁女物單衣各部の名稱

# 第四章　本裁女物單衣

單衣物として用ひられる織物の地質は,木綿物には,木綿縞·眞岡木綿·縮·織絣·染絣·瓦斯織等の種類がある。又絹織物·毛織物等にもそれぞれ種類が多い。

## ㊀　普通仕立上げ寸法

| | | |
|---|---|---|
| 袖 | 丈 | 六〇糎 |
| 袖 | 巾 | 三二糎 |
| 袖 | 口 | 二三糎 |
| 袂 | 丸み | 二糎 |
| 袖 | 附 | 二三糎 |
| 身 | 丈 | 一米五〇糎 |
| 身八つ口 | | 一三糎 |
| 合 | 褄巾 | 一三糎五粍 |
| 後 | 巾 | 二八糎 |
| 衿 | 肩明 | 八糎五粍 |
| 前 | 巾 | 二三糎 |
| 衿 | 巾 | 一一糎五粍 |
| 衽 | 下り | 二三糎 |

| | | |
|---|---|---|
| 衿 | 下 | 七〇糎——七五糎 |
| 衽 | 巾 | 一五糎 |
| 裄 | | 六二糎 |

㊁ 裁ち方と積り方

裁ち方には棒衽裁と鈎衽裁との二種がある。棒衽裁は普通に用ひられてゐる裁ち方で,鈎衽裁は用布の短い時に適するが,これを片面物に使ふ場合は,特別に注意が要る。それは上前衽を布の表にし,布の裏を下前衽とすること等である。

棒衽裁は,裁ち切り身丈の六倍から裁ち切り衽下りの二倍を減じたものと,裁ち切り袖丈の四倍との合計が用布の全體である。

裁ち切り寸法は,仕立上げ寸法に縫ひ込みを加へたもので,袖丈六十二糎,衽下りも同じやうに衽の上の縫ひ込みを二糎として,裁ち切り衽下りを二十一糎と定める。

積り方の公式によつて身丈・衽丈等を算出し,圖のやうに輪の方を左にして折り,右に鋏を入れて,袖・身頃・衽と裁ち切り,次に衿衽を巾二糎の差



に裁ち切つて,衽布の丈を二等分し,次に衿・共衿を裁つ。衿布は實際に衿附の寸法を計つて裁ち,徒に衿先に縫ひ込みを多くしてはいけない。

鈎衽の裁ち方は,身丈の五倍から裁ち切り衽下りを減じたものと,鈎下用布と袖丈の四倍とを加へたものが總用布である。但し裁ち切り衽下りは,棒衽裁より二糎位少なくする。

鈎下用布とは,仕立上げの衿下に縫ひ代を加へたもので,普通八十五糎位である。

積り方の公式によつて,それぞれ寸法を算出し,圖のやうに折りたたんで,袖・身頃・衽・衿と裁つ。

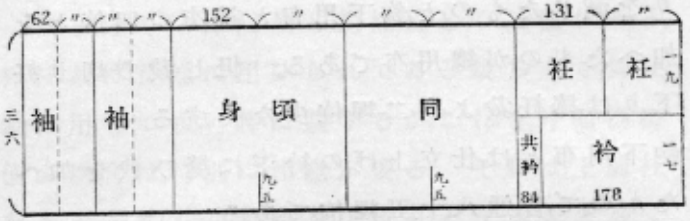
鈎の切り込みは普通四糎位にする。

外に肩當・居敷當・裏衿・三つ衿が要る。肩當は並巾で身八つ口の邊までとし,居敷當は四十糎位を普通とする。裏衿は半巾布を衿丈分,三つ衿には半巾布が二十二糎位要る。

# 本裁女物單衣棒衽の裁ち方

用布並巾　11米18糎

裁ち切り袖丈62糎　裁ち切り衽下り21糎




## 積り方

公式　袖丈×4＋身丈×6－衽下り×2＝總用布

62 ×4＋ 152 ×6－ 21 ×2＝ 1118

公式　（總布用－袖丈×4＋衽下り×2）÷6＝身丈

（ 1118 － 62 ×4＋ 21 ×2）÷6＝152

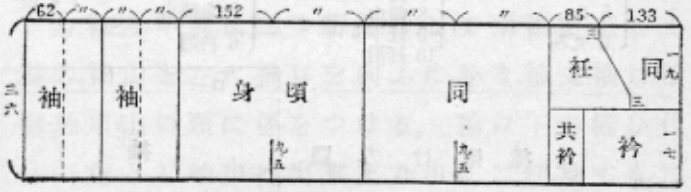
公式　（仕立上げ身丈－衿下＋衿肩明と衿先縫代）×2＝衿丈

（ 150 － 75 ＋ 14 ）×2＝178

用布の折り方圖

# 本裁女物單衣鈎衽の裁ち方

裁ち切り衽下り19糎　鈎下85糎




## 積り方

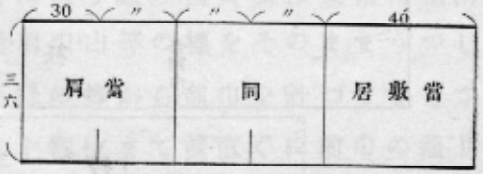
公式　袖丈×4＋身丈×5－衽下り＋鈎下＝總用布

（總用布－袖丈×4－鈎下＋衽下り）÷5＝身丈

（身丈－衿下＋袖肩明と衿先縫代）×2＝衿丈

用布の折り方圖

肩當居敷當の裁ち方




肩當の丈×4＋居敷當丈＝肩當居敷當用布

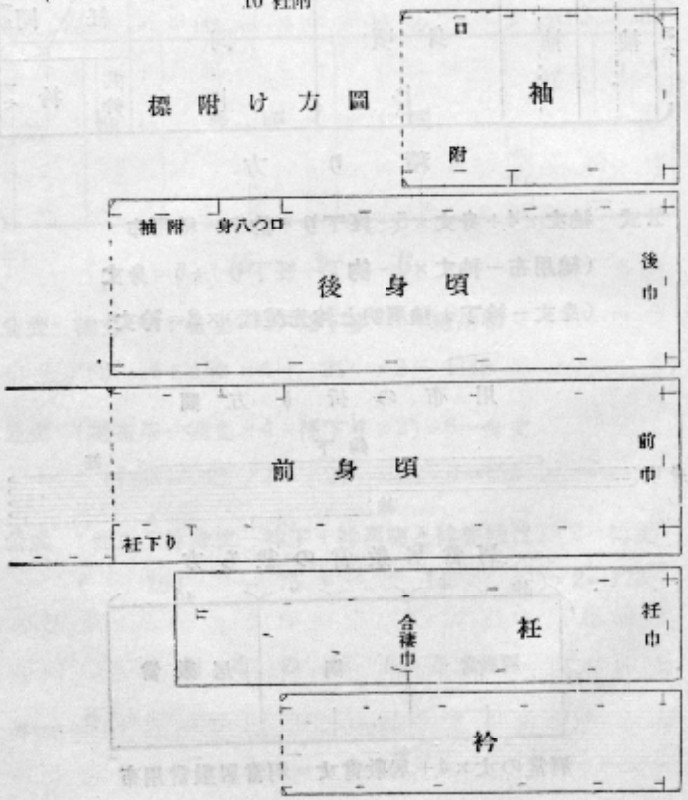
袖 1 丈 2 口 3 附 4 巾 5 山 6 丸み

身頃 1 丈 2 脊縫 3 袖付 4 身八つ口 5 後巾 6 肩巾 7 山 8 前巾 9 衽下り 10 衽附

衽 1 裾前標 2 丈 3 衿下 4 衽巾 5 合褄巾 6 衿附

衿 1 丈 2 附 3 巾 4 山

標附け方圖






## ㊁ 標附け方

一,袖。二,身頃。三,衽。四,衿の順序に標附をする。

**1, 袖** 中表に二つ折りにして兩袖を正しく重ね,袖山を左に袖口を向ふにおき,袖丈·袖口·袖附·袖巾·山の順に標をつける。袖口下の縫ひ代は一糎とし,袖巾は出來上り巾に二糎,袖丈も二糎を加へて標をつけ,最後に袂丸みの標をする。

**2, 身頃** 中表に二枚重ね,後身頃を上に衿肩明を手前の左に重ねておく。身丈·脊縫·袖附·身八つ口·後巾及び脇縫の標をつける。肩巾は,後巾より二糎廣くする。卽ち,袖巾を加へて出來上りの褄になるやうにするのである。肩巾から身八つ口の留まで,斜に尺度をあてて標をつけ,次に山標をつける。次に後巾を大きく卷いて,左の方に取り除け,前身頃に丈·裾絎·袖附·身八つ口·脇縫·肩巾·山等の標をそのままうつしとる。裾で脇縫の標から前巾を計つて標をつけ,それから二十糎位まで眞直ぐに前巾の通り標をつけ,衿肩明より裾二十糎までの間に糸を渡して

斜に標をつける。

3, **衽**　二枚中表に重ね,裾を右に,衿下を手前におき,裾絎・丈・衿下等の標をつける。衿下絎代は一糎五粍とし,衽巾は十五糎にして裾に標つけ,合褄の處で衿より一糎五粍つめ,劍先で合褄巾から尚一糎五粍つめて標をつけ,この間にも尺度を渡して標をつけ,次に衿附の標をつける。鉤衽の時は鉤下の長きものは棒衽と同樣に標附をする,もし鉤下短い時は衿下で少し斜にし附で斜の度を減ずることがある。

4, **衿**　中表にして丈を二つ折りにし,山を左に附を手前におき,裏衿も同じやうに下に重ねておき,衿附・劍先・丈・巾・山の順に標つけをする。衿附縫代は八粍としてつけ,次に衿肩明に衽下りと五粍程の弛みを加へたものを脊から計つて,劍先の標とする。又念のため衿肩明の寸法の標つけしてもよい。先に計つておいた衿附の寸法を衿先まで計つて,標をつけ,最後に巾標をつける。

## ㉔　縫ひ方順序



一,袖。二,身頃。三,衿下絎と裾絎。四,衿附・共衿掛。五,袖附。

1, **袖**　表を出して袖下を合せ,四粍位の縫ひ代で,袖下の淺縫をする。但し丸みと,巾縫ひ代の二倍を殘して縫ひ,折りをつけて裏に返す。袖口明に抄ひ留をして,標通りを袖下から縫ふ。その時丸みの間は細かく縫つて糸を釣らせ加減にし,その二粍外を細かく縫ひ縮めて小さく襞を作り,襞の動かぬやうに留めておく。袖口を袖口下のきせを通して折りをつけ,更に三つ折りにして一糎五粍の針目で,前後とも袖口明だけ絎ける。

2, **身頃**　肩當の脊縫をし,裾を右にして,手前に折りをつけ,端を二つ折りにして押へ縫をし,次に身頃の脊縫をし,衿肩明を右にして手前に折つたならば身頃の衿肩を右にして肩當を向ふに重ねて,肩當の脊と共にとぢつける。肩當・居敷當のつく間を除いた他は,耳はいつぱいに二重縫をする。肩當は兩端耳絎けに身頃につける。居敷當の下方を折つて押へ縫をし,衿下

から五糎位上つた高さの背縫の處に,居敷當の上を合せて,二糎位の針目で三方を絎けつける。脇の上部,卽ち身八つ口の處に抄ひ留をして脇縫をし,折りを前身頃につけて,脇縫の縫ひ込みは釣れぬ程度に後縫代を斜に折り,折り目を隱し躾のやうに押へておいて,耳絎けで身頃につける。衽附は衽を手前にして縫ふから一方は上部から,一方は下部から縫ひ,劍先は一針返して斜に四糎縫ひ戻しておく。きせは衽の方に折つてかけ,劍先に躾をつけ,衽の縫ひ代は耳絎にしてつける。

3, **衿下絎と裾絎**　まづ衿下を出來上り八粍の巾に,三つ折りにし,裾は出來上り一糎の三つ折りにする。衽の角の處は三角に折り,一糎五粍の針目で三つ折絎にする。

4, **衿附·共衿掛**　まづ衿の山標と脊縫とを合せ,衿附の縫ひ代は八粍とし,身頃の縫ひ代は一糎にして針を打ち,脊縫より三分の一位まで,眞直ぐにし,それより次第に縫ひ代を少なくして,衿肩明の處では三粍位の縫ひ代で自然に丸みをもたせて待針を打つ。この時衿の方を弛め加減にする。標通りに劍先の處まで平な調子に針を打ち,次に衿先まで待針をする。衿先二十糎の間は衿の方を釣り氣味に待針をし,これで全部の待針が終る。

裏衿を表衿にならつて身頃を挾み,同じ調子に待針を打つ。

衿先に抄ひ留をして,下前から表衿の方を見て縫ひ始める。

但し劍先の處の上下二糎位の間は,細かい拔針にして劍先で一針返し,衿肩廻りは細かく縫ひ,脊縫の處でも一針を返す。上前も同じやうにして,衿附が終つたならば,折りを衿の方につけ,兩衿先に留めをし,衿先七粍の處を縫つて縫ひ込みを裏衿の方にとぢつけ,衽下りと劍先の縫ひ込みも整へて,三つ衿を入れ衿巾を定め,裏衿の衿先の處を棱形のやうに作つて,裏衿は表から五粍程控へて折り,躾をかけて本絎にする。

共衿掛　共衿の巾を折つて丈を二つに折り,折り山を衿山と合せ,脊の縫目に當て,綰目を合せ

て待針を打つ。

共衿の丈はいつぱいに本衿に糸標をし,丈に五粍位のきせのかゝるやうにして待針を打ち,裏返して表衿に巾を縫ひつける。衿巾を少し弛めて躾をかけ,本衿に紲けつける。衿糸は,撚り合せの二本糸で脊·兩肩の三ケ所につける,まづ表衿の端より針を出し,裏衿附を五粍抄つて表衿の始めの針穴の横五粍の處へ出し,都合衿巾に二本衿糸が渡るやうにして糸の丈を衿巾いつぱいに切り,その端を大きく玉結びにする。

5,**袖附**　身頃袖附の肩山で,五粍の縫ひ代にし,留の處まで自然に斜に身頃を折り出す。袖山と,肩山とを合せて,待針を打つ。始めに抄ひ留をして,袖の方を見て縫ひ,山の處四糎位の間は極く細かに縫ひ,縫ひ終りに又抄ひ留をして袖附を終る。

八つ口は,袖附の四糎上まで耳紲とし,脇の縫ひ込みも前後とも袖附の凡そ四糎上まで耳紲にする。

**備考**　一,片面物で鉤衽裁にするには如何にしたらよいか。

二,並巾十一米三十糎で普通女物棒衽の裁ち方をせよ。但し袖丈は六十五糎の裁ち切りにする。



脇縫の斜折り方圖

# 第五章　本裁男物單衣

男物單衣の材料の地質は,女物單衣と大差がないから説明を省く。

又裁ち方・積り方も同じやうであるが,各部の寸法には違ひがある。

## ㊀　普通仕立上げ寸法

| | | | |
|---|---|---|---|
| 袖　丈 | 五二糎 | 後　巾 | 三〇糎 |
| 袖　口 | 二八糎 | 前　巾 | 二五糎 |
| 袖　附 | 四四糎 | 衽下り | 一九糎,二一糎 |
| 袖　巾 | 三四糎 | 衽　布 | 一五糎 |
| 袂丸み | 二糎 | 合褄巾 | 一三糎五粍 |
| 人　形 | 九糎 | 衿肩明 | 八糎五粍 |
| 身　丈 | 一米三六糎位 | 衿　巾 | 五糎五粍 |
| 揚 後 | 五二糎(肩より) | 衿　下 | 六六糎内外 |
| 揚 前 | 五六糎(肩より) | 裾 | 六六糎 |

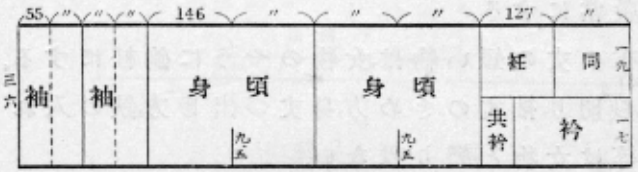
## ㊁　裁ち方と積り方

女物のやうに裁ち切り身丈の六倍から衽下りの二倍を減じたものと,袖丈の四倍を加へたものが,用布の總丈である。用布の丈の充分あ



## 本裁男物單衣棒衽の裁ち方

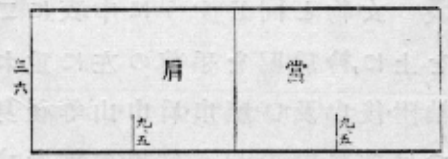
裁ち切り袖丈55糎・衽下り19糎




### 積り方

**公式　(總用布－袖丈×4＋衽下り×2)÷6＝身丈**

### 肩當の裁ち方




肩當の丈×4＝肩當用布

る物は,徒に袖丈等に縫ひ込まないで,身丈に加へて揚をする。卽ち揚の分として十糎位を加へて裁ち切り身丈にし,まだ布が殘つたならば居敷當にする。

用布の丈の短い物は,女物のやうに鉤衽にする。裁ち切り袖丈のきめ方,身丈の出し方,鋏の入れ方等は女物と變りはない。

肩當·居敷當·衿裏·三つ衿が要ることは女物單衣の通りである。以下特別のものの外はその說明を省く。

### ㊂　標附け方

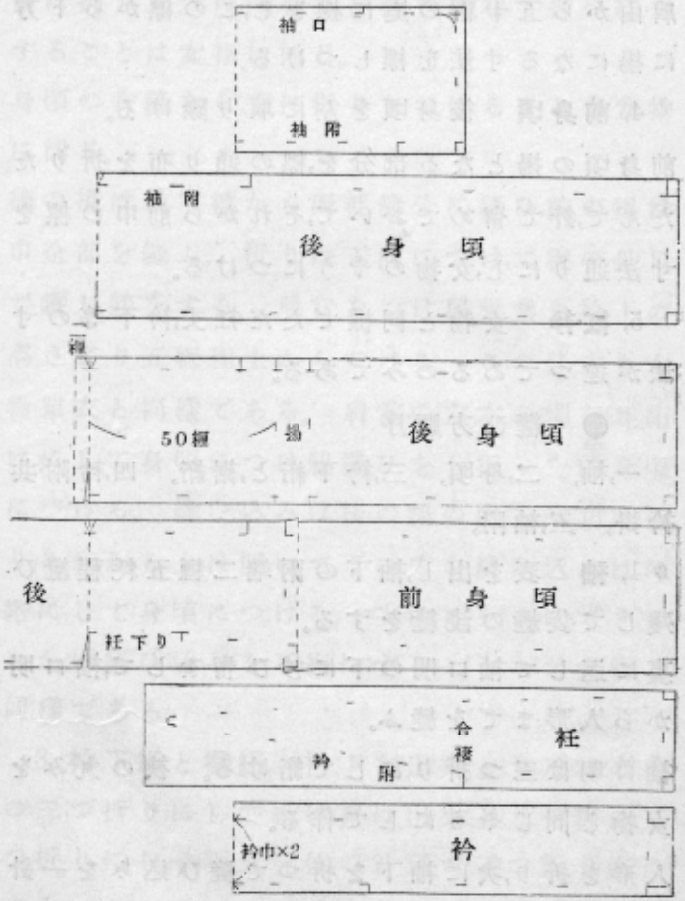
一,袖。二,後身頃。三,揚。四,前身頃。五,衽。六,衿の順に標附をする。

**1, 袖**　布の置き方と標附け方は女物に同じ。卽ち袖丈·袖口·袖附·袖巾·袖山の順に標をつける。

**2, 身頃**　女物と同じやうに中表に二枚重ね,後身頃を上に,衿肩明を手前の左に重ねておく。丈·脊縫·袖附·後巾及び脇巾·肩巾·山等後身頃全部の標をつけ,次に圖のやうに揚の標をする。揚の高さは前を五十六糎,後を五十二糎とする。



標　附　け　方　圖



3, **揚**　前身の肩山を後身の方に二糎繰越す。肩山から五十糎の處に標をし,この標から下方に揚になる寸法を標しつける。

4, **前身頃**　後身頃を左に取り除ける。

前身頃の揚となる部分を,標の通り布を折りたたんで,針で留めておいて,それから前巾の標を寸法通りにし,女物のやうにつける。

5, **衽·衿**　女物と同樣でただ衽丈,衿下等の寸法が違つてゐるのみである。

### ㊃　縫ひ方順序

一,袖。　二,身頃。　三,衿下紩と,裾紩。　四,衿附·共衿掛。　五,袖附。

1, **袖**　表を出し,袖下の兩端二糎五粍程縫ひ殘して袋縫の淺縫をする。

裏に返して袖口明の下に抄ひ留をして,袖口明から人形までを縫ふ。

袖口明は三つ折りにして紩ける。　袂の丸みを女物と同じやうにして作る。

人形を折り,次に袖下を折つて,縫ひ込みを一針留めておく。



2, **身頃**　肩當の脊縫ひをし,裾を右にして手前に折りをつけ,端を二つ折りにして押へ縫をすることは女物に同じ。

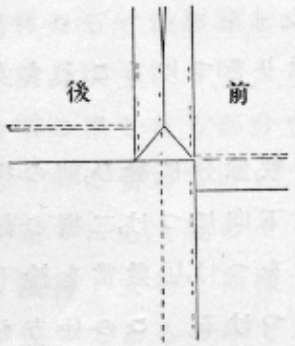
身頃の脊縫をし,脊に折りをつけることも女物に同じ。

後の揚は後巾標から四粍餘分に縫ひ,前の揚は巾全部を縫ふ。　折りは下向につけ,二糎の針目で隱し躾をする。　肩當をつけ,居敷當を衿下の高さより五糎程上からつける。　この仕方も女物單衣と同樣である。　肩當の左右の端を耳紩けにして身頃につけ,脇縫ひをし,折りを前身頃につける。　縫ひ込みは後の揚の處を三角に折り,それから上は開いて,下の方の縫ひ込みは耳紩にして身頃につける。　次に衽をつけてきせをかけ,縫ひ込みを耳紩にすることなど女物と同樣である。

3, **衿下紩と裾紩**　衿下を出來上り八粍の巾の三つ折りにして紩け,裾は出來上り一糎の三つ折りにし,一糎五粍位の針目で三つ折り紩にする。

**4, 衿附·共衿掛**　衿山標を脊縫に合せて待針

内揚の圖




衿先の折り方圖

を打ち,身頃と表衿とを合せて待針を打つて,釣合をみる。

次に裏衿を當て身頃を挟んで,同じ釣合に針を打ち,衿先に抄ひ留をして,下前の衿先から上前の衿先まで縫ひ,折りをつける。

兩衿先に留をして七糎位先を巾標まで裏衿を釣り加減に縫ひ,圖のやうに折つて縫ひ込みをとぢつけ,更に衿先を留め,その糸で本絎をする。共衿のかけ方は女物に同じ。

**5, 袖附**　身頃及び袖の山標を合せ,身頃を六糎位の縫ひ代に袖附まで斜に折り,袖附の待針



を打つ。この時身頃の袖附は斜であるから,のばしたり袖を弛めたりしないやうに注意する。袖附の留をし,その糸で袖を縫ひつけ,袖の方に折りをつける。

# 第六章　綿布の繕ひ方

繕ひ方とは接ぎ方・繼ぎ方等のことで,衣類に損所が出來た時に繕つたり,又布の不足の場合に,之を補ふためにする方法である。

木綿物でも針は必ず絹針を用ひ,糸も極く細く地質と同じ色の物を用ふ。

㊀　片返し

接ぎ合せやうとする二枚の布の縞目・布目を合せて躾でとぢる。

縫ひ代一糎位に小針に縫つて,きせを極く少しかけて縫ひ込みを一方へ折り,隱し躾をし,烙鏝をかけて仕上げる。

㊁　割り接ぎ

接ぎ合せやうとする二枚の布を揃へ,縞目・布目を正しく合せて躾でとぢる。

縫ひ代一糎位に小針に縫ひ,縫ひ目を割つて兩端に隱し躾をし烙鏝をかけて仕上げる。

**注意**　一,　絹糸を用ひてもよい。

二,　メリンス等の仕方もこの接ぎ方によ

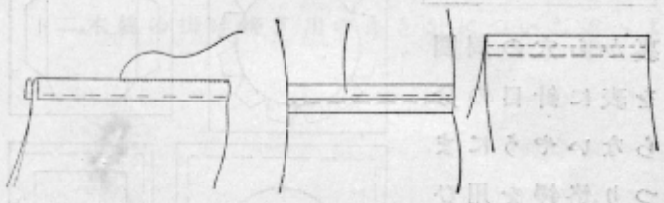


る。但し縫ひ目の處に一糎巾の絹布をあてて,その上を縫ひ合せる。

㊂　掛け接ぎ

縫ひ代七粍位を裏の方へ折り,表を中にして二枚の布の縞目布目をよく合せ,躾でとぢる。

掛け接ぎの圖　　割り接ぎの圖




一方を懸針にかけ,羽二重糸,又は絹糸の割り糸を用ひ,横糸一二本づゝを抄つてまとつてゆく。

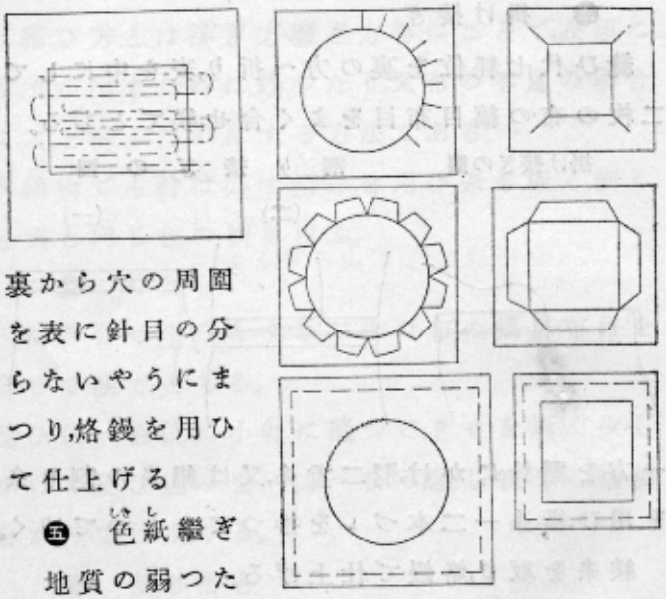
躾糸を取り,烙鏝で仕上げる。

㊃　穴繼ぎ

燒穴・鉤裂等の出來た時の繼ぎ方で,まづ損所を圓形,或は方形に切り去り,方形には四角に圓形には周圍に切り込みを入れ,格好よく裏へ返して,その穴よりも周圍一糎位大きい共切をあて,縞目・布目をよく合せて周圍に躾をかけ,表か

ら損所を丁寧に折つて繕をかける。

色紙繼ぎの圖　　穴繼ぎの圖



裏から穴の周圍を表に針目の分らないやうにまつり,格鍼を用ひて仕上げる

㊄ 色紙繼ぎ

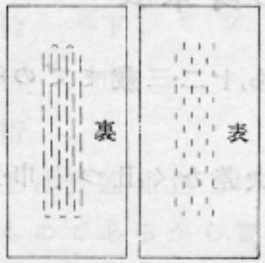
地質の弱つた處へ,その部分より少し大きい共布か,又は他の布を當ててその廻りをとぢつける。損じ方の多少を見計つて共色の繼ぎ糸で,當て切の端よりも一針先から圖のやうに繼ぐ仕方である。

㊅ 刺し繼ぎ

刺し繼ぎは地質の少し弱つた處を解し糸か,



刺し繼ぎの圖




又は共色の細い糸で布目にならつて刺し繼ぐ方法である。

備考　一,接ぎ方をするにはどんな點に注意すればよいか。

二,木綿の掛け接ぎ用の糸と針について述べよ。

# 第七章　四つ身單衣

四つ身單衣は六·七歳から,十二·三歳までの子供の着用する衣服である。

材料の地質は本裁單衣と大差なく,且つ中巾·大巾の物も多く用ひられる。

㊀普通仕立上げ寸法

| | | |
|---|---|---|
| 袖丈 | 長袖 | 五五糎——六一糎 |
| | 元禄袖 | 三四糎 |
| | 筒袖 | 二六糎 |
| 袖口 | | 一八糎 |
| 袖附 | | 一九糎 |
| 袖巾 | | 三〇糎 |
| 身丈 | 一米 | 一四糎 |
| 身八つ口 | | 一〇糎 |
| 後巾 | | 二七糎 |
| 前巾 | | いつぱい(一八糎位) |
| 衽巾 | | いつぱい(一三糎位) |
| 合褄巾 | | 衽巾より八糎つめる |
| 衿肩明 | | 六糎五糎———七糎 |



| | |
|---|---|
| 衽下り | 一五糎 |
| 衿下 | 四五糎 |
| 衿巾 | 四糎五糎 |
| 裾 | 四八糎 |

以上は普通仕立上げ寸法で,中位のものを示したものであるから,實際には着用する子供の年齢·發育の狀態によつて,丈·巾等を適當に加減しなければならない。

㊁裁ち方と積り方

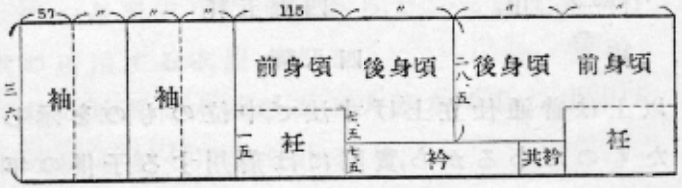
四つ身の裁ち方は,普通第一圖のやうに袖丈の四倍と身丈の四倍とが用布の總丈である。圖のやうに袖は並巾で裁ち,身頃は身丈の四倍を使つて裁つ。そして後身頃から衿をとり,前身頃からは衽をとる。衽は摘み衽にするか,或は逆(さか)衽裁にする。その外前衿裁·車裁·大巾裁等種類が多い。

四つ身の裁ち方は幾種もあり,それぞれ長所があつて,どれも捨てがたい處があるけれども(一)の裁ち方は,最も普通なものであるから,(一)の裁ち方を基とし,他は應用と見てもよい。

## 四つ身の裁ち方

### 四つ身の裁ち方一(摘み衽裁)

用布並布　6米88糎




積り方

**公式　袖丈×4+身丈×4=總用布**

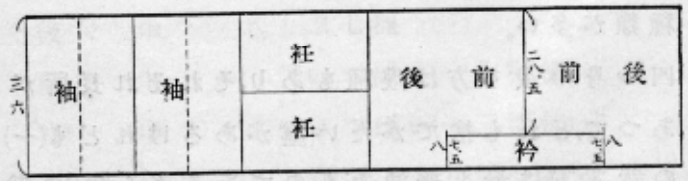
**(總用布−袖丈×4)÷4=身丈**

### 四つ身の裁ち方二(逆衽裁)

積り方

**公式　袖丈×4+身丈×4=總用布**

### 四つ身の裁ち方三(前衿裁)




積り方

**公式　袖丈×4+身丈×5−衽下り=總用布**



裁ち方圖も中位の寸法を用ひてあるから,着用者によつて裁ち切り寸法を變ることは勿論である。

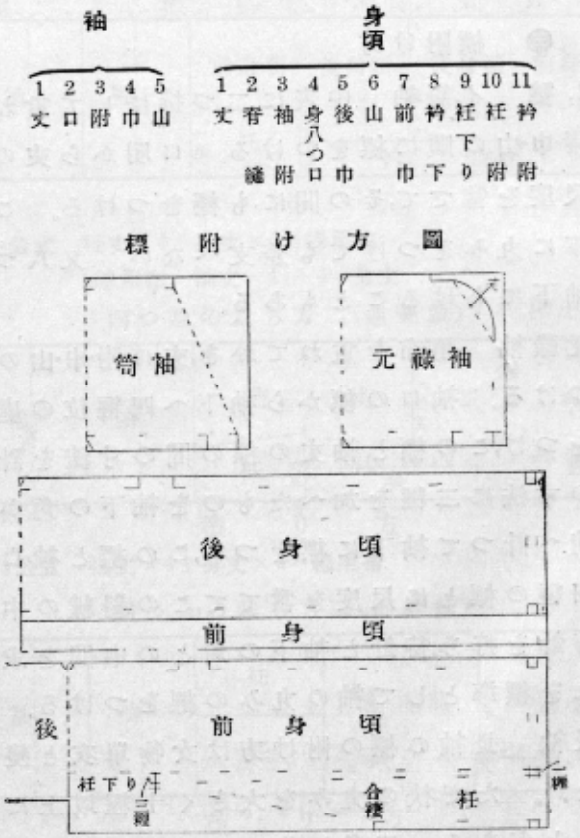
### ㊁　標附け方

1, **袖**　イ,筒袖　中表に二つ折にして重ね,丈・口・附・巾・山の順に標をつける。口明から丈の標に尺度を當てて,その間にも標をつける。この袖下に丸みをつけても差支へない。又八つ口を袖下にあけることもある。

ロ,元禄袖　用布を重ねておき,丈・口・附・巾・山の標をつける。袖口の標から袖下へ四糎位の處に標をつけ,この標と袖丈の標の間の寸法を計り,その寸法に二糎を加へたものを袖下の角から手前へ計つて袖下に標をつけ,この標と袖口下の四糎の標とに尺度を當てて,この斜線の中央に待針を打ち,待針と袖下の角との中間を求め,これを標準として袖の丸みの標をつける。

ハ,長袖　長袖の標の附け方は女物單衣と變りがない。ただ袂の丸みを大きく十糎以上にすることがある。又角に作つてもよい。

2, **身頃**　後身頃は丈・巾・袖附・身八つ口・山等の標附け方は,すべて本裁女物單衣と同じやうに






し,身巾はいつぱいにしておく。

後身頃の標をつけ終つたならば,大きく巻いて左に取り除け,前身頃及び衽の標をする。即ち前身頃は衿肩明から,眞直ぐに前巾標をつける。次に衽の標をつける。それにはまづ衽下りと衿下の標をつけ,衽附の標は,裾で前巾の標から一糎,衽下りの處で三糎,合褄では衽巾より八粍ほどつめ,以上の三點に標をつけ,この標に渡つて衽附の標をする。次に劍先から衿下の標まで斜に尺度を渡し,劍先から八糎下で衿附に八粍程の丸みをもたせて衿附の標をする。

3, **衿**　標附け方,本裁單衣に同じ。

但し衿巾は充分でないから,裏衿を接ぎ合せておいて標附をする。

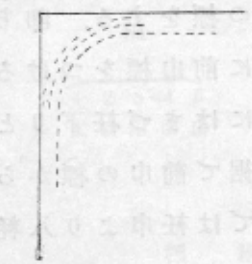
## ㊃　縫ひ方順序

一,袖。　二,身頃。　三,肩揚。　四,腰揚。　五,紐附。

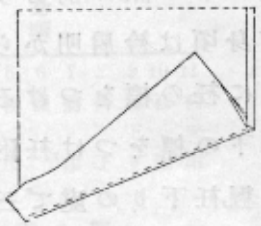
1, **袖**　イ,筒袖　表を出して巾縫ひ代の二倍以上を附の方で殘して淺縫ひをし,裏返して丈の標を合せ,袖口明の標から巾の標までを斜に縫ひ,內袖の方に折りをつけ,內袖に絎けつける。

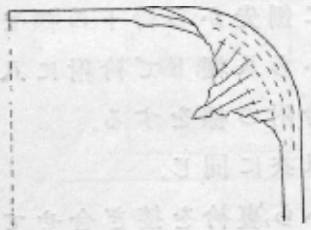
次に袖口を三つ折りにして絎ける。

元祿袖丸みの縮め方圖



筒袖の圖





ロ,元祿袖　袖下の淺縫ひをする。但しこの淺縫ひは丸みと巾縫ひ代の二倍を縫ひ殘す。折りをつけて裏に返し,袖口明に抄ひ留をして,袖口下から袖下までを縫ふ。但し丸みの前後は一針返し,その丸みの間は,細かに糸を釣らせ加減にする。

縫ひ目にきせをかけ,丸みを作る。丸みの作り方は縫ひ目から四粍離して丸みの間より兩方とも少しひろく一通り縫ひ,又その縫ひ目から四粍づゝ離して縫ひ,その糸をひき締めて縫ひ



込みを平等に縮め,倘兜みのある部分を圖のやうに襞をとつて,この襞のくづれないやうに襞山を返し針で留めておき,袖口を三つ折りにして絎ける。

ハ,長袖　本裁單衣に同じ。

2,**身頃**　脊は袋縫にする。但し肩當の下と居敷當の下及び裾絎とは袋縫にしない,卽ち淺縫を省くのである。

脇縫ひを普通にし,衽附は身頃を手前に見て標通り待針を打つて衽を摘み縫ひにする。その他本裁單衣と同樣に衿をつけ,三つ衿を入れて絎け衿に仕上げる。

3,**肩揚**　肩巾の中央を山にして,裄の寸法になるやうに摘み,二本糸で二目づゝ表に出して揚をする。揚は凡そ袖附の邊で終る。前は少しづゝ摘み方を少なくし,終りて中央の三分の二位にする。揚の多い物は五粍程山を外にしてする。

4,**腰揚**　着丈の六割を上から計り,それを山にして,揚の分を摘んで二目づゝ表に出してす

る。但し揚の多少,着丈の長短によつて加減する必要がある。

5,**紐附**　紐を作り,肩より三十糎位の處,即ち紐の上の端が身八つ口の中に入るやうに注意して紐をつける。

**備考**　一,元祿袖の丸みの作り方と縫ひ方を述べよ。

二,四つ身單衣の前身頃の標附け方を問ふ。

**注意**　一,紐丈は七十五……八十糎(巾は四つ割位)



# 第八章　四つ身袷

㊀　普通仕立上げ寸法

四つ身單衣と變りはない。但し裾の衽を五糎位にし,袖口の衽は二糎位にする,時としては毛抜き合せにする。

㊁　裁ち方と積り方

表布の裁ち方,積り方は四つ身單衣に同じ。裏は通し裏のものと,裾廻し附のものとがある。裾廻しの丈は身丈の凡そ三分の一位とし,その用布の總丈は,並巾一米八十糎から二米十糎位が普通である。

公式のやうに表總用布から裾廻し總尺を減じ,その殘りに衽の八倍と接ぎ代の四倍とを加へたものが,胴裏の總丈である。

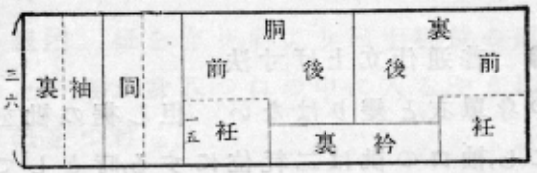
尚裾の切れた時の用意として,全體に二十糎位縫ひ込みを加へておく。

㊂　標附け方

1,**袖**　表袖は筒袖·元祿袖·長袖等みな單衣に同じ。

## 四つ身胴裏の裁ち方

用布並巾

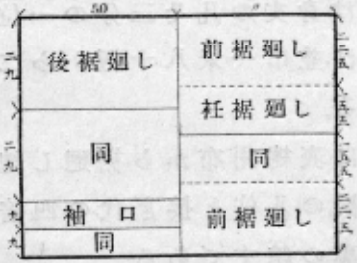



### 積り方

**公式　表總用布－裾廻し總丈＋袖×8＋接ぎ代×4＝胴裏總丈**

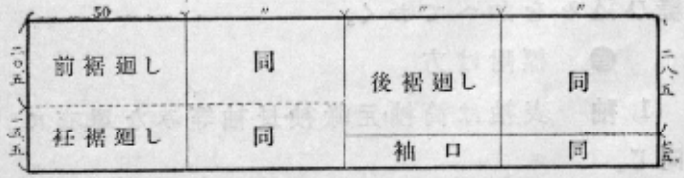
### 裾廻しの裁ち方

用布大巾　1米



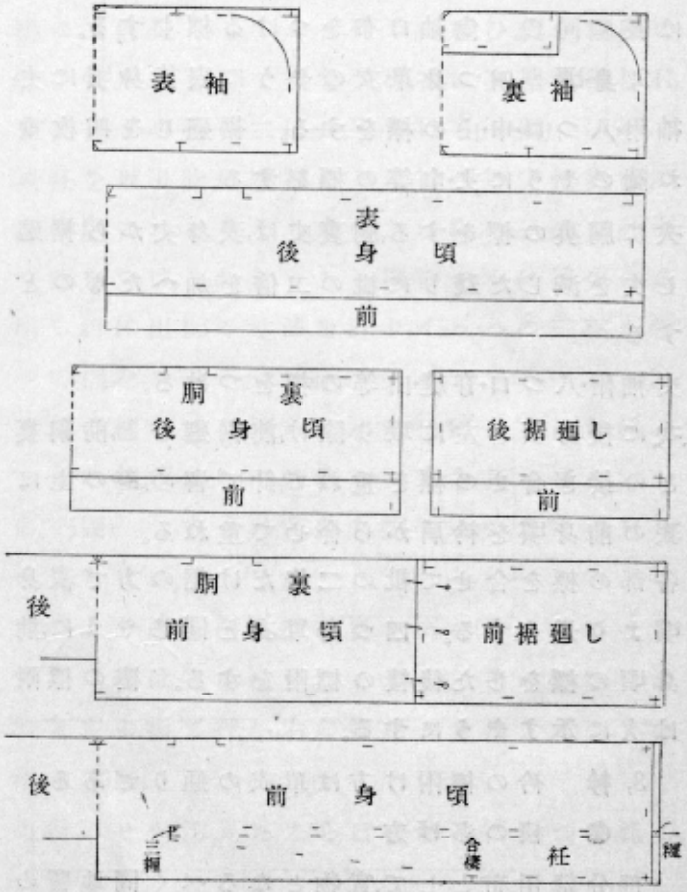

### 裾廻しの裁ち方

用布並巾　1米48糎






## 標附け方圖



裏袖は表標附寸法より丈を二粍,口明を二粍,巾も同じく二粍つめる。八つ口は三粍つめ,袖附は表に同じ。尚袖口布をつける標もする。

2, **身頃**　四つ身單衣のやうに,表後身頃に丈・袖附・八つ口・巾・山の標をする。裾廻しを四枚重ね,圖のやうに丈・巾等の標をする。

次に胴裏の標をする,胴裏丈は,表身丈から裾廻し丈を減じた殘りに袖の二倍を加へたものとする。

丈・袖附・八つ口・脊縫・山等の標をつける。

次に後身頃を左に取り除け,前裾廻しと,前胴裏との接ぎ合せの標を重ねて,針で留め,その上に表の前身頃を衿肩から合せて重ねる。

各部の標を合せて袖の二倍だけ裾の方で表身頃より長くする。四つ身單衣と同じやうに,前身頃の標をした後,褄の標附をする。褄の標附は次に示すやうにする。

3, **衿**　衿の標附け方は單衣の通りである。

㊂　褄のあげ方

部分縫用布として,實物となるべく同地質のものを並巾で二枚用意する。まづ一方を衿下,一方を裾とみなして二枚重ね,裏衽の方を裾で袖の二倍長くしておき,衿下の縫ひ代一糎,裾の縫ひ代八粍として標をつけ,次に裏裾の縫ひ代を表裾より袖の二倍長くつける。(一圖)

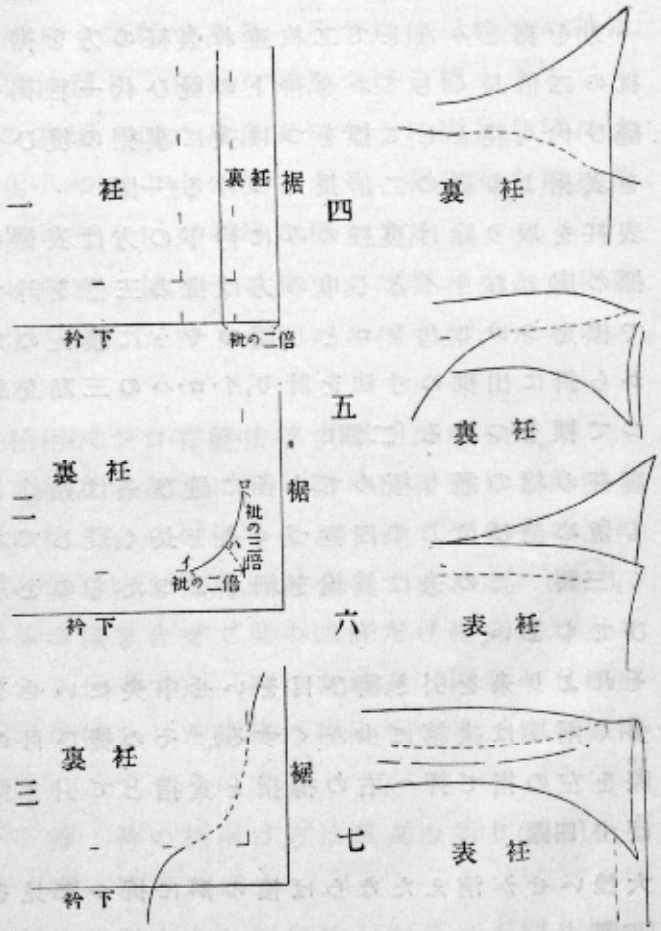
表衽を取り除け,裏衽のみに衿下の方は表裾の標の處これをイとし,巾の方は袖の三倍を計つて標をつけ,これをロとし圖のやうに褄先の角から斜に出袖の寸法を計り,イ・ロ・ハの三點を通つて標をつける。(二圖)

裏衽の標の通り極めて小針に縫ひ,糸は始終とも留め結びにして四糎づゝ糸を長く殘しておく。(三圖)　この糸は眞綿を細くよつたものを用ひてもよい。

それより糸を引き,縫ひ目をいせ(中央にいせを多く兩端は次第に少なくする)。その縫ひ目の際を左の指で押へ,右の拇指と食指とで引き伸ばす。(四圖)

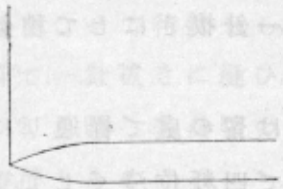
大體いせが消えたならば褄の形に折つて見る。(五圖)

## 褄の標附とあげ方






**褄の出來上り**



表袖と裏袖と重ねて形を整へ,表裏を合せて待針を打ち,一針毎に表裏に注意して褄縫ひをする。(六圖)

褄先に二耗,その他に四耗のきせをかけ,きせ山より五耗離れた處に隠し躾をかける。又褄先にはきせのくづれないやうに表から躾糸を通して撚つておくもよい。裏を出して褄先の縫ひ終りから二耗離れた處を一針返して衿下を縫ふ。(七圖) このやうにして左右の褄のあげ方を練習をする。

### ❺ 縫ひ方順序

一,袖。二,身頃。三,袖附。四,衿附。

1, **袖**(長袖) 裏袖に袖口布をかける。まづ裏を向ふに,袖口布を手前にしてその奥の方を標通り待針を打つて縫ひつけ,袖口の方に折り返し,丈にも折りをつける。

袖口先で,袖の方を四耗程弛くして,袖口布の縦横に躾をかけてその横の方を紳けつけ,袖口先にも躾をかけておく。

次に表地を手前に,裏地を向ふにして,裏を少し張り加減にして,袖口明を一針抜きにして稍針目をあらく縫ひ合せる。

縫ひ代の表は眞直ぐに,裏は留の處で標通りにし,その留から二糎位の間で四粍位淺くして,裾形に縫ひ出す。

袖口を合せたなら,表に折りをつけて表返す。

袖口布を凡そ二粍位出し,又は毛抜合せにして,襠をかけ,袖口の四つ留をする。

**四つ留の仕方**　例へば右袖を留めるには,表を出したまゝ右手に山をおく。

右内袖山の裏から針を出して袖山に抜き出し,表内袖のきせ山を縦に抄つて針を抜き出し,外表袖を縦に抄つて針を抜き出し,外裏袖を縦に抄ひ,内袖の裏に返つて,端を結び合せて,そのまゝその糸で,袖口下を縫ふ。

袖口布の丈までは半返しにし,それから下は丸みの處は細かく縫ひ,八つ口より手前十二三糎の處まで四つ縫ひにし,それから先は別々に縫ひ,次に丸みを作り,きせをかけて表に返す。それより八つ口の處のみを裏返して八つ口の表裏を合せて待針をし,懸針にかけて七粍位の針目で,一針抜きに縫ひ,表に返して襠をかける。



2, **身頃**　表身頃の脊及び脇を縫つて縫ひ代に折りをつける。

脇は前身頃に折りつけ更に縫ひ込みを後身頃の方に斜に開いてとぢつける。

それから衽を摘み縫にする。こゝまでは單衣の通りである。

裏身頃の胴接ぎの標を合せて縫ひ,折りを胴裏の方へつけ,隠し襠をかける。次に脊縫・脇縫・衽の摘み縫をし,折りをつけることは表身頃の通りである。但し脊縫の折りは表と反對にする

次に表と裏との丈を比べて,裾合せをし,きせを四粍かけ,裾をあげる。脊・脇・衽の縫とぢをし身八つ口の處に四つ留をして,身八つ口を縫つて襠をかけ,衿下を縫ふ。

3, **袖附**　表身頃の縫ひ代を留の際から斜に折り出し,その山標と袖山の標とを合せ,袖の表裏で身頃を挟んで留をする

**袖附留** 表袖から針を出し,卽ち表袖·表身頃·裏袖と針を出し,次に裏身頃を縱に抄つて,裏袖·表身頃·表袖へ返つて,初めの糸と結び合せてその糸で縫ふ。この留は前後にする。

袖附は初め終りの少しの間は,半返しにして,あとは細かく縫ひ,折りを表袖につけて躾をかける。裏は身頃を折らずに,留の際から縫ひ,身頃の方に折りをつけて躾をかける。次に衽先の殘しておいた處や衿附の表裏をとぢ合せる。

4, **衿附** 表裏の衿を接ぎ合せて,裏衿の方に折り返して隱し躾をかけたものを,四つ身單衣のやうに衿附をして絎衿に仕上げ,共衿を普通にかける。

裾とぢは表裾の折り目から五粍上つた處に後巾は裏に三つ,表はその外に,その間にも針目を出してする。前巾は裏に二つ,表は後と同じくその間にも針目を出してする。

**備考** 一,褄のあげ方を問ふ。

二,並巾物で四つ身袷の通し裏の積り方はいかにするか。



# 第九章 三つ身袷

## ㊀ 普通仕立上げ寸法

| | | |
|---|---|---|
| 袖丈 | 長袖 | 五〇糎——五三糎 |
| | 元祿袖 | 二八糎 |
| | 筒袖 | 二四糎 |
| 袖口 | | 一四糎 |
| 袖附 | | 一五糎 |
| 袖巾 | | 二五糎 |
| 身丈 | | 一米內外 |
| 身八つ口 | | 一〇糎 |
| 後巾 | | いつぱい |
| 前巾 | | いつぱい |
| 衽下り | | 一一糎 |
| 衽巾 | | いつぱい |
| 合褄巾 | | 衽巾より八粍つめる |
| 衿肩明 | | 五糎 |
| 衿巾 | | 四糎 |
| 衿下 | | 三〇糎 |
| 袖口袱 | | 二粍 |

## 裾　袵　　六粍

### ㊁　裁ち方と積り方

袖丈の四倍と身丈の三倍とを加へたものが用布の全體である。普通五米より五米七十糎位とし,一反で二枚裁つことが出來る。

圖の如くまづ袖丈の四倍を切り,その一方の耳より衿布をとり,次に身頃を三枚に折り,輪の一方を向ふより,他の一方を手前より布巾の半ばまで切り込み,次に中の布を半巾に裁ち切る。次に身頃を二枚合せて衿肩をあけ,衽を裁ち離す。片身頃は裏になる。三つ身の裁ち方はこれが最も普通なものであるが,兩面物でないと工合が悪い。

胴裏の裁ち方は積り方のやうにし表に準じて裁つ。裾廻しの裁ち方は圖に示すものと尚外に袖口布が要る。

三つ身は,一つ身に比べると總用布は大體同じで,又出來上りの大きさも一つ身と大差がない。けれども肩巾が少し廣く出來ることゝ脊縫のあるため體裁のよいことが長所である。



## 三つ身の裁ち方

用布並巾　5米8糎

### 積り方

**公式**　**袖丈**×4＋**身丈**×3＝**總用布**

(**總用布**－**袖丈**×4)÷3－**身丈**

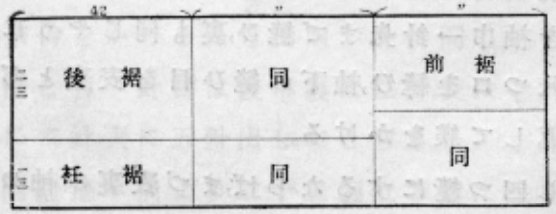
### 裏の積り方

**公式**　**表總用布**＋**袵**×6＝**裏總用布**(**通し裏**)

**表總用布**－**裾廻し總丈**＋**袵**×6＋**接ぎ代**

＝**胴裏總用布**(**裾廻し附**)

### 裾廻しの裁ち方



㊂ 標附け方

1, 袖　本裁ち袷・四つ身袷等に準じて標をつける。

2, 身頃　身巾が狭いから,どこも縫ひ代をいつぱいに標をつける。

3, 衽　衽巾の形が細い時は劍先より十糎乃至十五糎下つた處に約一糎のふくらみをつける。

4, 衿　衿巾が狭いから,裏衿をつけてから標をする。

㊃ 縫ひ方順序

一,袖。 二,身頃。 三,裾合せ。 四,縦とぢ。 五,袖附。 六,衿附・共衿。 七,裾とぢ。 八,附紐・揚。

1, **袖**　筒袖,裏袖に袖口布をかける。次に表裏の袖口を合せ,山標の左右約二糎の間,袖口布を張り目に縫ひ,袖口元を堅く留め,その糸で表袖を袖巾一針先まで縫ひ,裏も同じやうにし次に八つ口を縫ひ,袖下の縫ひ目を表裏とぢ合せ,引返して躾をかける。

もし四つ縫にするならば,まづ表裏の袖口を合せて縫ひ,きせをかけて表に返し,縫ひ目を合せて,四つ留をし,この糸で袖下を一針抜きに四つ縫とし,巾標の五糎位手前より標の一針先まで,表裏別々に縫ひ,表を出して躾をかけ,袖の八つ口を縫ひ,次に袖下の縫ひ込みの端をあらく裏にとぢつける。



2, **身頃**　表裏の背・脇を縫ひ衽をつける。

3, **裾合せ**　まづ丈比べをし,次に裾合せをし,褄を作り隠し躾をかけ,表に返して衽を定め表裏一束に躾をかける。

4, **縦とぢ・身八つ口**　背及び脇をとぢ,脇縫の上部に四つ留をし,身八つ口を袖附標まで縫ひ,躾をかける。

5, **袖附**　四つ身袷に同じ。

6, **衿附・共衿**　衽の縦とぢをし,衿下を縫ひ,表裏の衿附の標より四糎外をとぢ合せ,衿附・衿衲をし,共衿をかけることは四つ身に同じ。

7, **裾とぢ**　針目は後巾裏に三針,表に七針,前巾裏に二針,表に五針出してとぢる。

8, **附紐・揚**　肩より二十三糎位の處に紐をつけ,肩揚・腰揚を着用者によつて適當にする。

# 第十章　本裁女物袷

## ㊀　普通仕立上げ寸法

| | | | |
|---|---|---|---|
| 袖丈 | 六〇糎 | 衽巾 | 一五糎 |
| 袖口 | 二三糎 | 合褄巾 | 一三糎五粍 |
| 袖附 | 二三糎 | 衿肩明 | 八糎五粍 |
| 袖巾 | 三二糎 | 衿巾 | 一一糎五粍 |
| 身丈 | 一米五〇糎 | 衿下 | 五〇糎,七五糎 |
| 身八つ口 | 一三糎 | 袵 | 六二糎 |
| 後巾 | 二八糎 | 裾縫 | 六粍 |
| 前巾 | 二三糎 | 袖口縫 | 二粍 |
| 衽下り | 二三糎 | | |

## ㊁　裁ち方と積り方

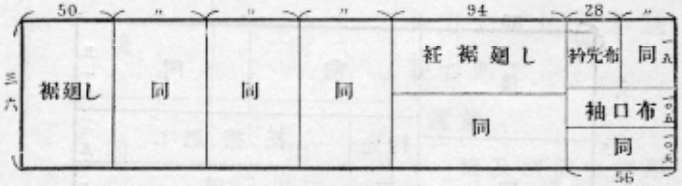
表用布の裁ち方は,本裁女物單衣に同じであるからここには省く。

裏用布は,通し裏のものもあるが,多くは裾廻し布と,胴裏布と別品を用ふ。裾廻し用布は,凡そ三米五十糎を用ひ,裾廻し丈は,凡そ身丈の三分の一位。衽裾廻し丈は,衽丈の凡そ三分の二位。衿先布は片方の衿丈の四分の一位にする。



### 裾廻しの裁ち方

用布並巾　3米50糎



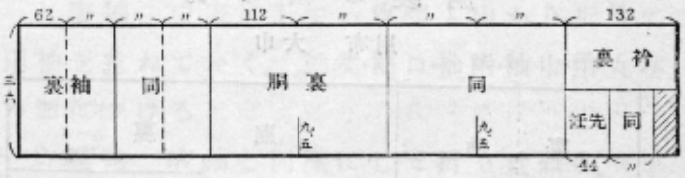

積り方

公式　裾廻し丈×4＋衽裾廻し丈＋袖口布＝廻裾し總用布

50　×4＋　94　＋　56　＝　350

### 胴裏の裁ち方

用布　並巾




積り方

公式　表身丈－裾廻し丈＋縫ひ代＋袱×2＝胴裏丈

152　－　50　＋　8.5　＋.6×2＝　112

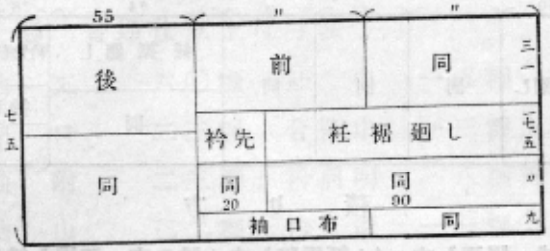
(表衿丈－衿先×2)＋接ぎ代×2＝裏衿丈

(　178　－　28　×2)＋　5　×2＝　132

袖丈×4＋胴裏丈×4＋裏衿丈＝胴裏總用布

## 裾廻しの裁ち方

用布大巾　1米65種

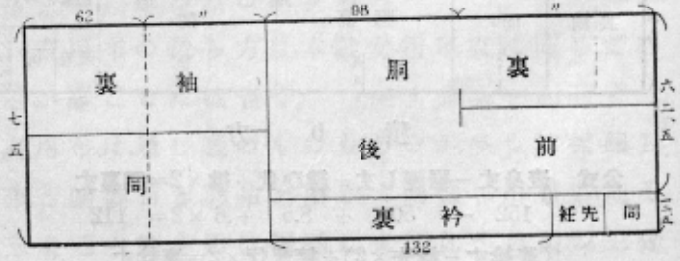



### 積り方

**公式　總用布÷3－裾廻し丈**

## 胴裏の裁ち方

用布　大巾

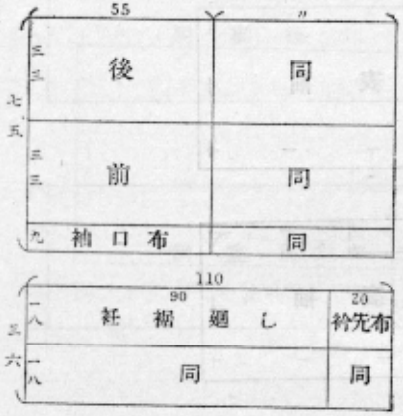



### 積り方

**公式　袖丈×2＋胴裏丈×2－胴裏總用布**



**裾廻しの裁ち方**　凡て裏は表にならつて裁つもので積り方公式に示す通りである。




**注意**

後及び前の裾廻しと,袖口布とに大巾を用ひ,衽裾廻しと衿先に並巾を使つて裁つてもよい。

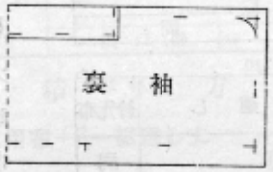
### ㊁　標附け方

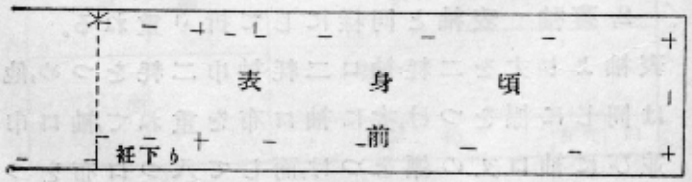
**1, 表袖**　中表にして一枚づゝ山から折つて兩袖を重ねておく。袖丈·袖口·袖附·袖巾·山·丸みの順につける。

**2, 裏袖**　表袖と同樣にして折り重ねる。表袖より丈を二粍·袖口二粍·袖巾二粍をつめ,他は同じに標をつけ,次に袖口布を重ねて,袖口巾並びに袖口丈の標をつけ,而して八つ口布をつける場合は,袖口布と同じやうにする。

**3, 表身頃**　本裁女物單衣に同じ。

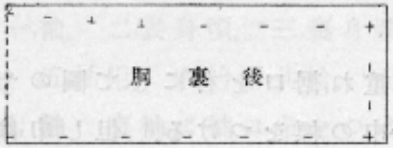
## 標附け方圖

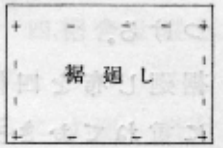


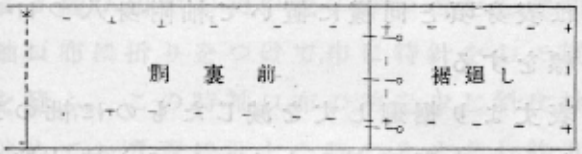


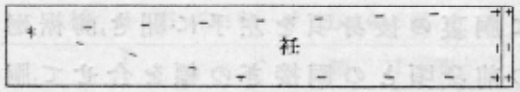


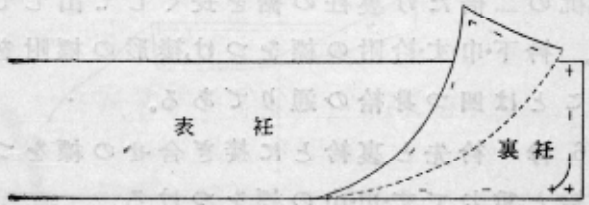

## 標附け方圖





**4, 胴裏と裾廻し**　凡て表身頃に準じて標をつける。

裾廻し布を四枚重ね,裾口を右にして圖のやうに重ねておき丈·巾の標をつける。但し巾は表より二粍つめる。

胴裏は表身頃と同樣に置いて,袖附·身八つ口·巾山の標をする。

丈は表丈より裾廻し丈を減じたものに,袵の二倍を加へて,尙胴接ぎのきせとして,心持寸法を增して標をつける。

次に胴裏の後身頃を左手に開き,前裾廻しと胴裏の前身頃との胴接ぎの標を合せて,胴裏と裾廻しとを假につないで前身頃の標附をする。

**5, 衽**　衽先と裾廻しとを接ぎ合せ,二枚を中表に重ねる。そしてその上に表衽を二枚重ねて,袵の二倍だけ裏衽の裾を長くして出しておく。衿下·巾·丈·衿附の標をつけ,褄形の標附をすることは四つ身袷の通りである。

**6, 衿**　衿先と裏衿とに接ぎ合せの標をつけ,表衿と重ねて丈·巾·山の標をつける。

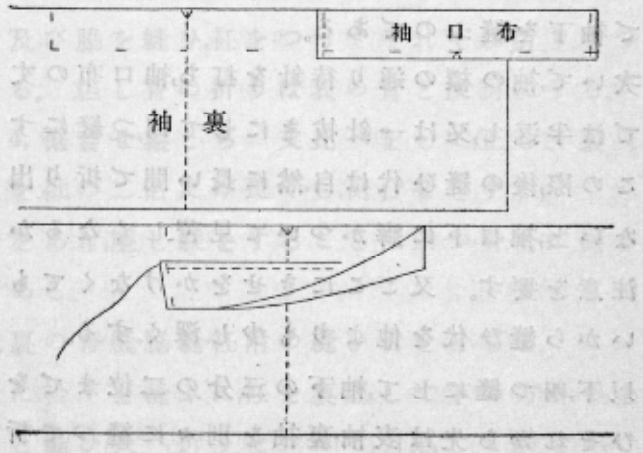


## ㊃　縫ひ方順序

一,袖。二,表身頃。三,裏身頃。四,裾合せ·縦とぢ。五,袖附。六,衿附·共衿。七,裾とぢ。

**1, 袖**　裏袖に袖口布をつけるには,廻し掛けとて,袖口布の丈標を裏袖の標に合せ,まづ丈標より縫ひ始めて角の處で抄ひ留をし,標通りに袖口布に折りをつけて,巾に待針をして縦の方を縫ふ。この時袖口布の角を少し斜に抄つて弛めておき,表に返した時のきせとし,終りは又始めのやうにして,丈標を合せて縫ふ。

袖口布の掛け方の圖



兩角を四角に折つて,袖口布へ折りをつけて,引返して躾をかける。但し四つ身袷のやうにしてもよい。

次に表袖と裏袖の袖口明の標を合せて,待針を打つ,その時裏袖の方を少し張り加減にする。

縫ひ代は表は眞直ぐに,裏は留の處で標通りに,留より二糎位の間で縫ひ代を凡そ四粍程淺くして棲形に縫ひ出す。

きせを三粍かけて表布の方へ折り,袖口の四つ留をする。四つ留の仕方は四つ身袷と同じである。留をしたならば中で結び合してその糸で袖下を縫ふのである。

次いで,袖の標の通り待針を打ち,袖口布の丈までは半返し,又は一針拔きにして四つ縫にする。この際,後の縫ひ代は自然に長い間で折り出さないと,袖口下に癖がついて見苦しくなるから注意を要す。又ここにきせをかけなくてもよいから縫ひ代を他よりも少し深くする。

以下,四つ縫にして,袖下の三分の二位までを縫ひ,それから先は表袖・裏袖を別々に縫つて折り



をつけ,丸みを作つて表に返し.更に八つ口の處のみを裏返して八つ口を合せて縫ふ。その際袖下の處は裏を稍張り加減にする。引返して躾をかける。

**2, 表身頃**　背と脇を縫ひ,折りをつける。脇の後の縫ひ込みを自然に開いて折り,躾で押へておく。

衽をつけて折りをつけることは,單衣に同じである。

**3, 裏身頃**　まづ胴接ぎをして,折りは胴裏に向けて隱し躾をする。

背及び脇を縫ひ,衽をつけてそれぞれ折りをつける。但し脊の折りは表の背と反對にする。

**4, 裾合せ・縦とぢ**　丈比べをして,正しく裏身頃を袵の二倍だけ長くし,裾合せをする。

棲をあげ,隱し躾をすることは四つ身袷に同じである。

表裏の脊縫・脇縫・衽附の縫ひ目をとぢる。

次に衿下を縫ふに,衽を裏返して下の方から,上へと縫ひ,表へ折りをつけて,引返して躾をかけ

大妻圖

る。次に脇縫の上部を留めて身八つ口を縫つて躾をかける。

5, **袖附**　四つ身袷と同じにして袖をつける。まづ山標を合せて待針を打ち,留をする。袖附は留め方も四つ身袷に同じである。

表の縫ひ代は肩山が五糎の縫ひ代となるやうに折り出して針を打ち,三枚附にして袖に折りをつけ,裏は標通り二枚附にして折りは身頃へ返す。

6, **衿附·共衿**　身頃の表裏の衿附の標を合せて五糎先を假とぢをし,裏衿に衿先布を接ぎ合せて,裏衿の方へ折りをつける。

本裁女物單衣のやうに衿をつける。共衿のかけ方も同じである。

7, **裾とぢ**　表裾の折り目から五糎程上つた處に(衽を除いて)前巾の裏に三針,後巾の裏に四針出し,表はその外に尚その間にも針目を出して裾とぢをする。



# 第十一章　本裁男物袷

## ㊀　普通仕立上げ寸法

| | | | |
|---|---|---|---|
| 袖　丈 | 五二糎 | 衽下り | 一九糎 |
| 袖　口 | 二八糎 | 衽　巾 | 一五糎 |
| 袖　附 | 四四糎 | 合褄巾 | 一三糎五糎 |
| 袖　巾 | 三四糎 | 衿肩明 | 八糎五糎 |
| 人　形 | 九糎 | 衿　巾 | 五糎五糎 |
| 身　丈 | 一米三六糎内外 | 衿　下 | 六六糎内外 |
| 後　巾 | 三〇糎 | 衩 | 六六糎 |
| 前　巾 | 二五糎 | 裾　袵 | 四糎位 |

## ㊁　裁ち方と積り方

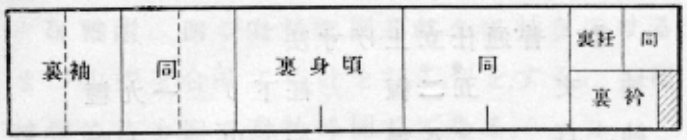
裏用布の裁ち方は本裁男物單衣に同じである。しかし居敷當をとる必要はない。

裏用布の裁ち方と積り方は,裾廻し附のものは本裁女物袷に同じで,ただ寸法の違ひがあるばかりである。しかし男物袷は通し裏のものが普通である。

裏は凡て表に準じて裁つものであつて,後身頃·前身頃·衽とも丈をそれぞれ袵の二倍づゝ長く

## 男物裏布棒衽の裁ち方

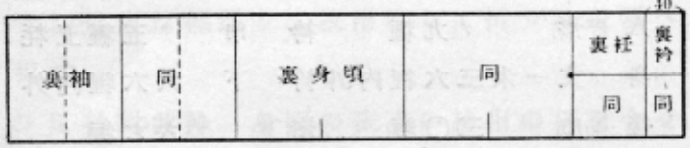
用布　並巾




### 積　り　方

公式　袖丈×4＋身丈×6－衽下り×2＋裄×12＝裏總用布

（裏總用布－袖丈×4＋衽下り×2）÷6＝身丈



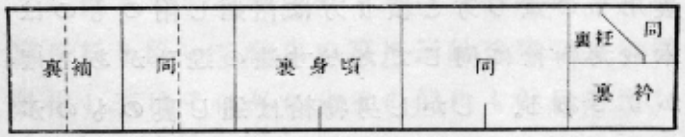

### 積　り　方

公式　袖丈×4＋身丈×5－衽下り＋裏衿＋裄×10＝裏總用布

（裏總用布－袖丈×4＋衽下り－裏衿）÷5＝身丈

## 男物裏布鉤衽の裁ち方

用布　並巾




### 積　り　方

公式　袖丈×4＋身丈×5＋鉤下－衽下り＋裄×10＝裏總用布

（裏總用布－袖丈×4＋衽下－鉤下）÷5＝身丈



しておくことは公式に示す通りであるが,總尺の充分あるものは身丈を長く裁つて,肩に揚をしておけば,裾の切れた時に切り取るのに都合がよい。

この外にまた黒八丈・瓦斯八・洋八・本五日市・瓦斯五日市等の袖口布が要る。

### ㊂　標附け方

1, **表袖**　中表にして,一枚づゝ山から折つて,兩袖を重ねておく。

袖丈・袖口・袖附・袖巾・山・丸みの順に標をつける。

2, **裏袖**　表袖と同じやうにして折り重ねる。表袖より袖丈二粍・袖口二粍・袖巾は袖下のみ二粍つめ,他は表袖と同じに標をつける。

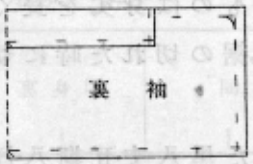
次に袖口布を重ねて,袖口布掛の標をする。

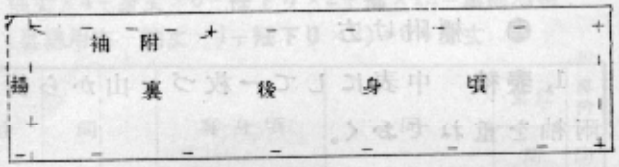
袖口布の地質の厚いものは,その丈を縫ひ代だけずらして外袖の方を長くしておく。

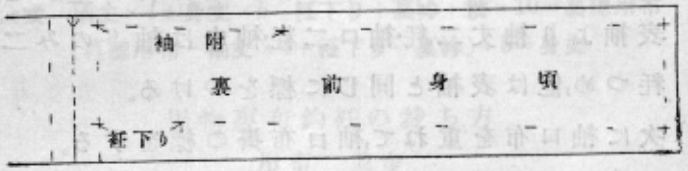
3, **表身頃**　本裁男物單衣に同じく,揚の標附等も單衣物と變りがない。

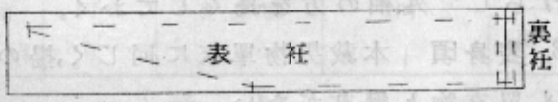
4, **裏身頃**　すべて表身頃に準じて標を附ける,巾のつめ方は女物に同じ。

## 標附け方圖






通し裏の物は,身丈を表より袵の二倍だけ長くし,肩に標をつけて殘りは揚にする。そこから計つて袖附及び衽下りの標をつける。

裾廻し附の物は,胴裏及び裾廻し布を本裁女物袷と同じやうに扱ふ。

5, **衽·衿**　衽は女物袷に,衿は男物單衣と同じである。

### ㊃　縫ひ方順序

一,袖。二,表身頃。三,裏身頃。四,裾合せ·縦とぢ及び衽附。五,袖附。六,衿附·共衿。七,裾とぢ。

1, **袖**　裏袖に袖口布をかけるには,女物袷のやうに廻し掛にする。

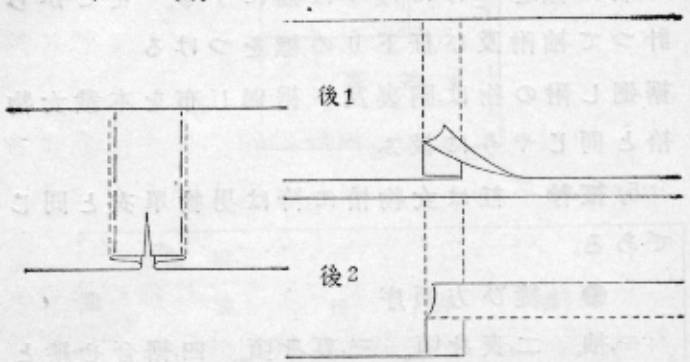
表裏袖の袖口の標を合せ,山に待針を打ち,裏袖の方を少し張り加減にして待針を打つ。

縫ひ代は表は,眞直ぐに,裏は留の處で標通りに,留から二糎位の間で縫ひ代を凡そ四粍程淺くして,棱形に縫ひ出す。表に返して袖口袵を整へる。

袖口の四つ留をして,人形の五糎位手前まで四つ縫ひにし,それより先は表裏別々に縫つて開

裏揚の仕方の圖

（二　圖）　（一　圖）




き躾をかけ,丸みを作つて返す。

2, **表身頃**　背縫·揚·脇縫·衽附等をして,折りをつけ,揚の仕末をすることは男物單衣と同じである。

3, **裏身頃**　揚は肩山を衿肩明まで標通り摘み縫にして,一圖のやうに後に折つて隱し躾をかけ,衽附の標より八粍程外を折つて躾をかけておく。揚の多いものは二圖のやうに縫ひ目を割つて隱し躾をかける。

次に背縫及び脇縫をして,折りをつけ,脇の縫ひ代を開いて躾をかける。



4, **裾合せ**　丈比べをして,正しく裏身頃を袵の二倍だけ長くして裾合せをし,褄をあげ女物袷のやうに裾の整理をし,縦とぢをして,次に衿下を縫ふ。

5, **袖附**　山を合せ袖附の四つ留をし,表は身頃を折つて袖をつけ,裏は身頃と袖とを合せて,女物袷のやうに袖附をする。

6, **衿附·共衿**　女物袷のやうに,衿附の標の五粍外をとぢ合せて,表裏の衿で身頃を挟んで衿附をする。

衿先を縫ひ留をして綰け,共衿をかけることは男物單衣に同じである。

7, **裾とぢ**　女物袷のやうにする。しかし,針目は前巾の裏に四針,後巾に五針を出し,表はそこと,尚その間にも針目を出してする。

男物は身巾が一帶に廣いから女物より一針多くするのである。

**備考**　一,本裁男物袷と女物と異る所を述べよ。

二,表及び裏の揚の仕方を說明せよ。

# 第十二章　本裁女物綿入

## ㊀ 普通仕立上げ寸法

袖口袧　四糎
裾　袧　七糎——一糎

その他は本裁女物袷に同じ。

## ㊁ 裁ち方と積り方

表用布の裁ち方は,本裁女物單衣に同じで胴裏用布と裾廻し布の裁ち方は,本裁女物袷に同じである。

## ㊂ 標附け方

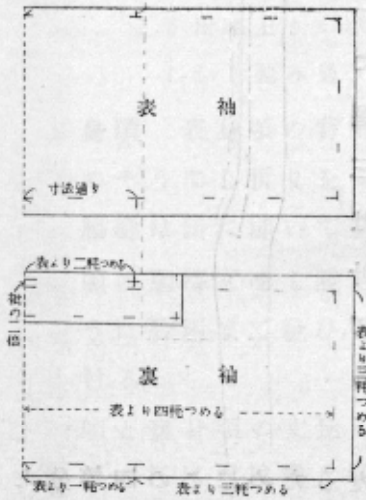
1, **袖**　表袖の標附け方は本裁女物袷の通りで,裏袖の標附け方も大體同じであるが,袖口の方で,表よりも袧の二倍だけ縫ひ代を廣くし,袖巾は附より下で少しつめなければならない。袖口明,は表より二糎つめ,袖附は一糎,八つ口では丈を三糎つめる。

尤もこれは地質によつて寸法を變へなければならないことは勿論である。

2, **身頃**　表・裏とも袷に同じ。



袖の標附け方圖




但し後巾も前巾も表より二糎つめる。

3, **衽・衿**　袷に同じ。

## ㊃ 縫ひ方順序

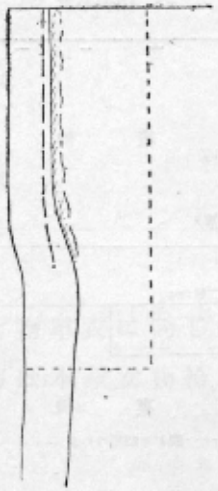
一,袖。二,袖口含み綿。三,身頃。四,袖附。五,綿入。六,衽け方留め方。七,繰とぢ・裾とぢ。

1, **袖**　裏袖に袖口布をかけ,表袖・裏袖を別々に縫つて丸みを作り,表裏の八つ口を合せて縫ひ,平烙鏝を當て,裏に含み綿をして引返し,きせをかけて躾をする。

2, **袖口含み綿**　まづ輕く袧山に折りをつけ,四糎位の巾の綿と二糎巾の綿を各一枚を重ね,二つに折つて,折り山が布の折り山に正しく,しつくり入るやうにする。袖口布を袧山から折つて綿の上に被せて針目を出す處を定める。

針目は袖口の留めに一つ,それより二糎上に一つ,袖口山より四糎下に一つ出し,尙この間を圖のやうに四等分して三針を出す。針目の數はこのやうに片方に六針とし,これは出來上つて後も袖口布に出てゐるものである。

袖口含み綿の圖



實際はよく綿を含めたるために,この四等分した間にも綿だけを抄ふ針を四針使ふ。

**注意**　一,この針數は二十三糎の袖口明に適當したものであるから,袖口明の寸法によつて針數は適宜に變へなければならない。卽ち裏に出てゐる針目の間は常に五糎位とする。

二,すべて綿と布との釣合は心持,綿が弛むやうにする。しかしあまり弛み過ぎてもいけない。



三,糸のひき加減も極く大切なことで,やはり弛くしておく。釣れるとその糸の通り出來上りがびりびり縮んで見苦しい。しかし弛み過ぎるとしまらなくなる。

3, **身頃**　表身頃の背縫・脇縫・衽附・衿附まで單衣物のやうにし折りをつけ,要所には躾をかける。脇縫は斜に開いて躾で押へておく。

裏身頃の胴接ぎをし隱し躾をかけ,表身頃と同じやうに衿附まで縫ひ,折りをつけ要所には躾をかける。

表身頃と裏身頃の丈比べをして裾合せをし,裾を揚げて衽にだけ隱し躾をし他は平躾をする。身八つ口を袷のやうに留めて兩方とも縫ひ,含み綿をする。

4, **袖附**　袖附の留め方や,附け方は袷の通りであるからこゝでは說明を省く。

5, **綿の入れ方**　次に綿を入れる。表裏とも裏返して脇縫の處から折つて前身頃を中に入れる,つまり表後身頃が上に,裏後身頃が下にその中間に左右の表裏の前身頃が入つたわけで

ある。袖も無理のないやうに表裏を重ねる。まづ眞綿を釣れないやうに引いて,その上に綿をのべる。この時肩から上に袖附寸法位出し,裾の方は七糎位長くしておく。

尙兩脇にも綿巾の都合のよいやうにのべておき,袵綿を二枚位重ね,裾の總巾より少し長い綿を二つ折りにして作る。(綿巾は出袵の六倍)

袵綿を袵山に入れて身頃から,つゞいてゐる綿を被せ,袖の方は,袖口留の一糎位下から横に切り目を入れて,八つ口の處まで切り,含み綿のある身八つ口の處は綿を切り取つて袖口より下の綿は前身頃の分とし,上の綿は袖口の含み綿とすれすれに巾を切つておき,肩山と兩脇は,表身頃と裏身頃との間に程よく折り込む。

その上に眞綿を引いて,兩手を肩の方から,表裏の間に入れて,兩脇の裾を綿と布を共に持つて肩から引返す。而して前身頃の裏が上に出るやうに置き,袖前身頃に綿を入れて,衿下は二糎巾を廣く入れる。

片身頃づゝこのやうにして兩方共綿を入れる。



**6, 綿け方** 裾によく綿を含め,假とぢをして衽の中とぢをし,次に褄先を五糎程縫ひ,綿をよく含め,裏衽の衿下に含み綿をする。この場合は衿先の處に一針,その上下に一針づゝ針目を出して綿を押へる。

衿の裏表を合せて中とぢをし,衿先の留をして衿先を縫ひ,衿の綿を平にして表衿に含めて,衿巾の寸法に折り,裏衿は表衿巾より五粍控へて折つて合せ,襞をかけて衿下綴と衿綴とをする。

次に袖口を綴ける。まづ表袖の袖口を裏返して裏の端まで,身頃からつゞいてゐる綿を平に直し,もし長い場合は餘分の綿を切り,その上に表袖口を被せて,よく山を合せ,寸法通りに袵を出して袖口の留をする。

**留め方** 表の內袖の縫ひ込みの間から,きせ山より心持內方へ針を出し,次に表の外袖の同じ位置の處へ針を入れて,外の裏袖へ通し,それから內袖の裏を縦に抄つて,その縦に抄つただけ離して,今通した反對に裏の外袖から,表の外袖,表の內袖と糸がねぢれないやうに通して始

めの糸としつかり結び合せて撚り,その糸で絎ける。

袧を定めて躾をかけ袖口下八糎位の處を懸針にかけて留より二糎位の間は,少し表を釣加減にして丸みをつけ,それより上は平な調子にして,表のきせ山から二糎奥を五糎位の針目で絎ける。

**7, 縦とぢと袧とぢ** 出來上つた外側から裏を見て,表と裏の縫ひ目をよく合せ,縫ひ目の間から針を入れて,下になつてゐる表の縫ひ込みを抄ひ,その針を又裏の縫ひ目の間に出して,脊縫も脇縫も縦とぢをする,衽は中からとぢる。縦とぢの糸は表地と同色を用ゐる。裾とぢは女物袷と同様であるが,袧に綿が入つてゐるからその綿が袧の中へ充分入るやうに針の尖でつゝき出し,綿は指先で揉み等してよく綿を殺してとぢる。

この時とぢ糸が釣れると袧が見苦しくなるから糸の釣れぬやうにしなければならない。



# 第十三章 本裁男物綿入

## ㊀ 普通仕上げ寸法

本裁男物單衣に同じ。但し袖口袧は四糎,裾袧は五糎から八糎位にする。

## ㊁ 裁ち方と積り方

表の裁ち方は男物單衣に同じく,裏の裁ち方は男物袷に同じである。

## ㊂ 標附け方

**1, 袖** 裏袖の袖口下縫ひ込みは,女物綿入と同じく二糎の縫ひ代とし,袖口明は表より二糎つめ,袖口袧は四糎出るやうに標をつける。その他はすべて男物袷に同じ。

**注意** すべて男女を問はず,裏袖の巾の狭いものは,袖巾に持出し布をつけて布巾を補ふ。但し重ね接ぎにして袖口布の下にする。

**2, 身頃・衽・その他** すべて男物袷に同じ,ただ裾袧の寸法を多くすることが違ふだけである。

## ㊃ 縫ひ方順序

一,袖。 二,身頃。 三,衿附。 四,袖附。 五,裾合せ。

六,綿入。七,縦とぢ·裾とぢ。八,衿け上げ。九,共衿掛。

1, **袖**　まづ,袷のやうに袖口布を裏袖にかけ,次に表裏共標の通り單衣の如く,別々に人形まで縫ひ,引返して襞をかける。

2, **身頃**　表身頃を單衣の如く,背·揚·脇を縫ひ,衽をつけて折りをつけ襞をかける。裏身頃は通し裏のものは男物袷のやうに肩山で揚をし,襞をかける。

裾廻し附の物は胴接ぎの處で縫ひ込んでおき,その他表身頃と同じく背·脇·衽附をし折りをつけ,襞をかける。

3, **衿附**　女物綿入のやうに衿附をし,襞をかける。

4, **袖附**　女物綿入に大體同じであるが,袖附の留め方が違ふ。即ち次のやうにし,而してその糸で袖附をする。

**袖附の留め方**　裏側から袖で身頃を挟み,内袖より前身頃·後身頃·外袖と針を通して抜き出し,それより少し離して,もとの内袖に戻して始めの糸と結ぶ。



5, **裾合せ**　表裏の丈比べを女物綿入のやうにし,褄を揚げ,衽にのみ隠し襞をし,裾のきせ山に襞をかける。

6, **綿入**　女物綿入のやうに注意して袖口の含め綿をする。但し針目は女物より一針多くする。両脇から疊んで,表身頃を出し,後を上に左右の袖を開き裏身頃を程よく疊んでおき,全體に眞綿を引く。綿は中央で重ね表より巾を少し廣く出して縦に廣げ,丈は肩山から凡そ二十糎出し,下は裄より十糎位長くする。綿の繊ぎ目を平にして厚さを加減し人形の重なる所は綿をうすくして次に裾に裄綿を入れて裾を整へ,その上に眞綿を引き,裏身頃をその上に引きのべ,まづ一方の前身頃及び袖に眞綿を引いて表返す。

足らない處は補ひ,衿下の綿を平にし衽巾に合せて折る。褄先を整へて眞綿を引き,表身頃を返し,背·脇·袖附の縫ひ目を引き合す。

次に同じく他方の前身頃及び袖に眞綿を引き,

綿を入れ,又眞綿を引いて表に返し,全體の縫ひ目の引き合せを充分にする。

7, **縦とぢ裾とぢ**　縦とぢは女物綿入に同じく,裾とぢは男物袷に同じ。

8, **綴け上げ**　袖口綴及び衿下綴は女物綿入のやうにする。

次に表裏の衿附をとぢ合せ,衿先を縫ひ巾を折つて留め,衿綴けをする。

9, **共衿掛**　共衿を男物單衣の如く普通にかける。



# 第十四章　一つ身綿入

## ㊀　普通仕立上げ寸法

| | | |
|---|---|---|
| 袖 | 丈　濶 | 袖二五糎——五〇糎 |
| | 元祿 | 袖二五糎 |
| | 筒 | 袖二三糎 |
| 袖口 | | 一三糎 |
| 袖附 | | 一三糎——一五糎 |
| 袖巾 | | 一八糎——二四糎 |
| 身丈 | | 七五糎——八七糎 |
| 身八つ口 | | 一〇糎 |
| 後巾 | | いつぱい |
| 前巾 | | いつぱい |
| 衽下り | | 一〇糎 |
| 衽巾 | | いつぱい　(一三糎位) |
| 合褄巾 | | 衽巾より五粍つめる |
| 衿肩明 | | 三糎——四糎 |
| 衿巾 | | 三糎五粍 |
| 衿下 | | 一八糎——二三糎 |
| 袖口祕 | | 五粁 |

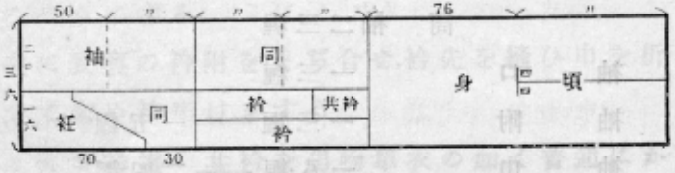
裾　　袵　　一糎

## ㊁　裁ち方と積り方

### 一つ身濶袖鈎衽の裁ち方(兩面物)

用布並巾　3米52糎

一圖　　裁ち切り袖丈50糎　衽下り6糎

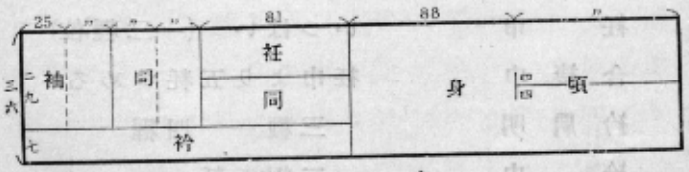



積　り　方

公式　袖丈×4＋身丈×2＝總用布
（總用布－袖丈×4）÷2＝身丈

### 一つ身筒袖の裁ち方

二圖　　裁ち切り袖丈25糎　衽下り7糎



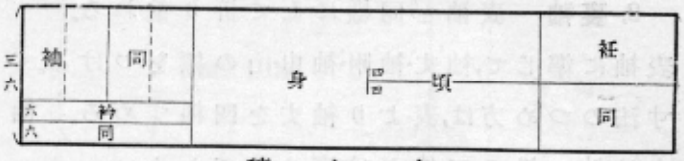

積　り　方

公式　袖丈×4＋身丈×3－衽下り＝總用布
（總用布－袖丈×4＋衽下り）÷3＝身丈



### 一つ身筒袖別衽の裁ち方

三圖




積　り　方

公式　袖丈×4＋身丈×3－衽下り＝總用布
（總用布－袖丈×4＋衽下り）÷3＝身丈

一つ身は一·二歳の子供の着物で,大·中·小があるけれども,概して並巾一反で凡そ三枚を裁ち得るものである。

その裁ち方には棒衽裁·鈎衽裁等がある。

一圖は兩面物で裁つに適し,二圖·三圖は棒衽裁であるから,片面物にも用ひられる。又どの袖の裁ち方にも用ひられる。

積り方はそれぞれ公式に示す通りである。

裏の裁ち方は通し裏の物は,身丈と衽丈を表布より袵の二倍だけ長く要る。

## ㊂　標附け方

1, **表袖**(濶袖)　中表にして一枚づゝ山から折つて兩袖を重ねておき,袖丈·袖附·袖巾·山の順に

寸法の通り標をつける。

2, **裏袖**　表袖と同様にして折り重ねる。表袖に準じて,袖丈·袖附·袖巾·山の標をつける。寸法のつめ方は,表より袖丈を四粍つめる。袖巾は袖口袱の二倍だけ廣くしておく。

**注意**　元祿袖·筒袖の標附け方は四つ身の章で述べた通りであつて,ただ綿入であるから裏袖の寸法のつめ方を加減すればよい。

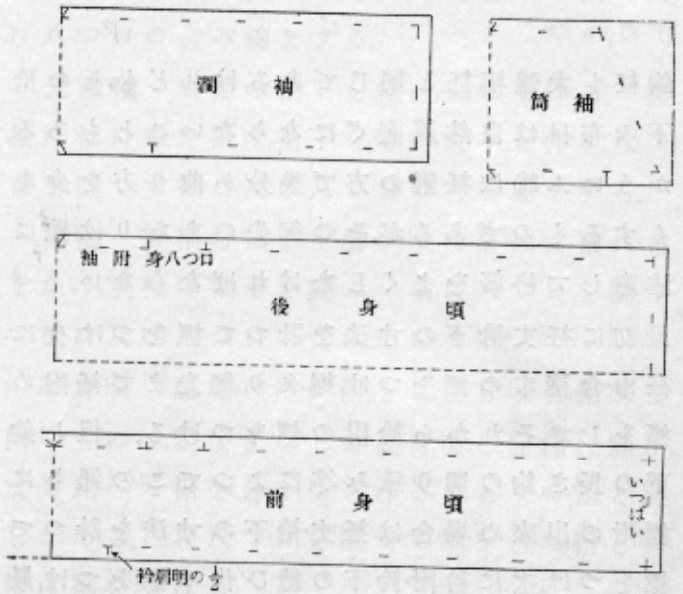
3, **身頃**　後身頃の標附け方は背縫がないだけで他は四つ身と變りがない。

前身頃は裾に前巾をいつぱいに標をつけ,衽下りの處で裁ち目から衿肩明の二分の一につけ,裾の標まで斜に衽附の標をつける。大きく仕立てる時は裾から上迄眞直にする。裏身頃は丈を表より袱の二倍長く,巾は三粍つめる。

4, **衽**　棒衽は本裁袷のやうに表衽と裏衽を重ねておく。一つ身は衿下が短かいので,劍先の細くなる心配があるから,衿附の標は劍先から凡そ十糎位の處で,八粍程の丸みをつけて格好をよくすると共に胸の包まるやうにする。



## 標附け方圖



合褄巾は五粍をつめる。外は普通に標附けをする。

鉤衽も大體棒衽と同じであるけれども,その衿下の布目は自然眞直ぐにならないこともある。かういふ時は衽附の方で幾分か曲り方を少なくするものであるが,その劍先のあたりは殊に注意して格好をよくしなければならない。

最初に衽丈・衿下の寸法を計つて標をつけ,次に衽巾・合褄巾の標をつけ,裾より劍先まで衽附の標をして,それから衿附の標をつける。但し鉤下の長さ,鉤の切り込み等によつてこの通りに標附の出來ぬ場合は衽丈・衿下の寸法を計つて標をつけ,次に衿附・衿下の縫ひ代の標をつけ,最後に衽附の標をつけるなど適宜に工夫をする。

5,**衿**　四つ身袷と變りがない。

㉓　縫ひ方順序

一,袖。二,身頃。三,綿入。四,繰け上げ。五,附け紐。六,背守り縫。

一,**袖**　イ,**闊袖**　表袖の袖下を縫ふ。裏袖に袖口布のつくものならば最初につける。



次に袖下を縫ひ,次いで八つ口を縫つて袖口及び八つ口の含み綿をする。

ロ,**元祿袖**　表袖の袖下を縫ひ,丸みを作る。裏袖に袖口布を掛け,袖下を縫ひ,丸みを作り,八つ口を縫つて袖口及び八つ口の含み綿をする。

ハ,**筒袖**　表袖の袖下を縫ひ,次に裏袖に袖口布をかけ,裏袖の袖下を縫ふ。次に八つ口を縫つて袖口及び八つ口の含み綿をする。

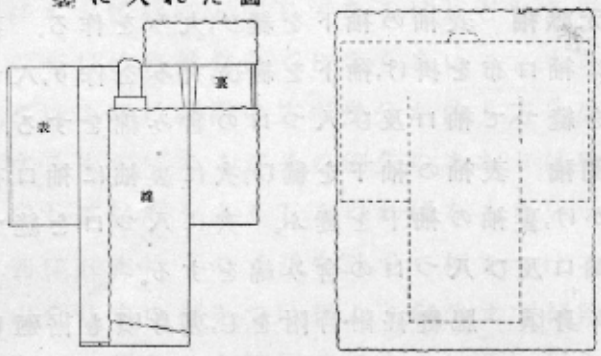
2,**身頃**　脇縫・衽附・衿附をし,裏身頃も裾廻し附のものは,胴接ぎをして表身頃と同樣に縫ひ,丈を比べて裾を合せ,褄を作ることなど袷と同じである。身八つ口を縫つて綿を含め,袷と同樣に袖をつける。

3,**綿入**　綿の入れ方の順序は大體女物綿入に同じである,表の後身頃及び後袖に圖のやうに入れ,袖口・八つ口及び裾の綿の整理をして引返し,前裏身頃の裏を出して綿を入れ,前表身頃を被せる。右身から入れ,次に左を入れる。

裾綿は三枚位を程よく重ね,裾の總巾より四糎位長く切つて二つ折りにする。この袱綿を弛

## 綿入れ方の圖

(一)後の表身頃の裏に入れた圖　(二)片身頃に入れた圖



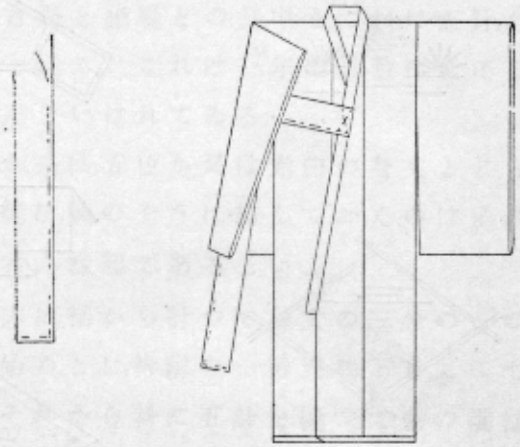

く袖山に入れてから續いてゐる綿を折り返して被せる。眞綿を引くには引釣れたり,むらの出來たりしないやうによく注意して引くことが大切である。

**4, 繕け上げ**　まづ裾の假とぢをし,次いで衽附とぢ・衿下假とぢ・衿繕・袖口繕をする。裾とぢの針數は裏の後巾に五針,前巾に二針,表はその外に尚その間にも針目を出してする。但し針數は巾の廣狹によつて定めるものである。

**5, 附け紐**　紐を附けるには男兒は,繕け目を下にし,女兒は繕け目を上に向けて縫ひつけ,飾



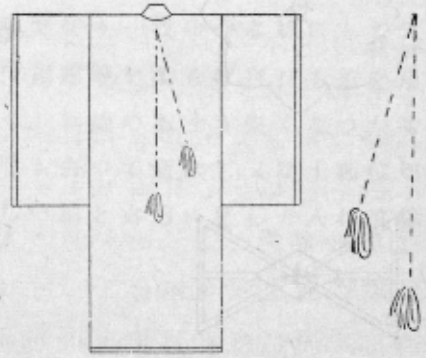
紐の躾の圖　男兒附け紐の圖



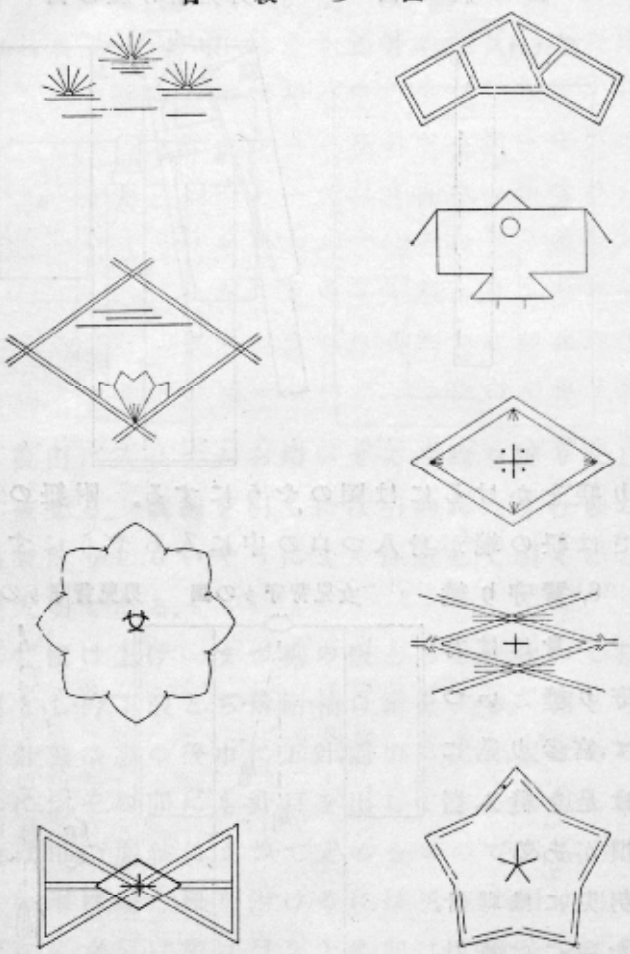
り躾をかけるには圖のやうにする。附紐の高さは紐の端が身八つ口の中に入るやうにする。

**6, 背守り縫**　女兒背守りの圖　男兒背守りの圖

一つ身には背守り縫といつて,宮參り着には是を縫ふ習慣がある。男兒には雌針,女兒には雄針



背紋の圖





を縫ふものである。背守りの縫ひ方は背の眞中に七針,背筋と脇縫との眞中まで斜に五針,合計十二針を縫ふ。これは一年の月數になぞらへたものだといはれてゐる。

これを縫ふ糸は,五色か又は赤白の身丈よりも長い糸で縫ひ,圖のやうに結んでおくのは子供の長命を希ふ緣起であるといふ。

その縫ひ方は裾から計つて身丈の三分の一の處を縫ひ始めとし,衿附の一糎五粍下までに七針を縫ひ,それから斜に五針を縫つて糸の端は圖のやうに結んでおく。但し略して背紋を縫ふこともある。

**附記**　古綿は前身頃胸の邊で綿の合せ目より袖にかけて手で切り,一枚の平な綿にして入れる。又袖口·裾綿等を柔らげ,目打ち綿を用ひ,眞綿を引く。裾綿のあまり堅くなつたものは芯綿を取り去つて新にし,又は十糎位切り取つて新しい綿を古綿に足して入れ,眞綿を引く。

# 第十五章　女物袷長襦袢

## ㊀　普通仕立上げ寸法

| | | |
|---|---|---|
| 袖 | 丈 | 着物より一糎つめる |
| 袖 | 口 | 涸袖 |
| 袖 | 附 | 着物より一糎つめる |
| 袖 | 巾 | 着物より四粍つめる |
| 身 | 丈 | 着丈 |
| 後 | 巾 | 着物と同寸 |
| 前 | 巾 | 着物より四糎廣く |
| 身八つ口 | | 後一二糎・前一六糎 |
| 衿肩明 | | 着物より四粍つめる |
| 衿 | 巾 | 廣衿一一糎五粍 |
| | | 綿衿上五糎五粍・下七糎五粍 |
| 前の弛み | | 四糎 |
| 裾 | | 着物より四粍つめる又は同じ |

## ㊁　裁ち方と積り方

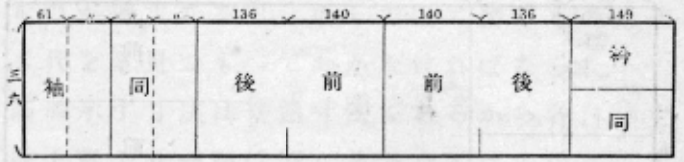
袖丈の四倍と身丈の四倍と，衿衿用布を加へたものが總用布である。

衿用布は着物と違つて，前身頃の下からつくも



### 長襦袢の裁ち方

用布　並巾




積り方

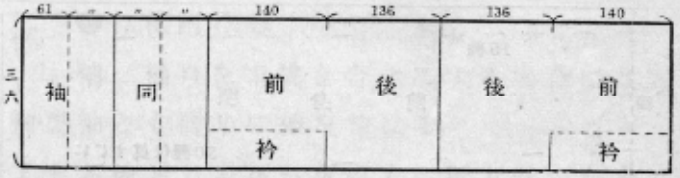
**公式**　**袖丈×4＋後丈×5＋前の弛み×2＋衿肩明及び衿上下の縫ひ代＋前の弛み＝總用布**

**{總用布－(袖丈×4＋前の弛み×2＋衿肩明＋上下の縫ひ代＋前の弛み)}÷5＝後身丈**

**後丈＋前の弛み＝前丈**

### 摘み衿長襦袢の裁ち方

用布　並巾



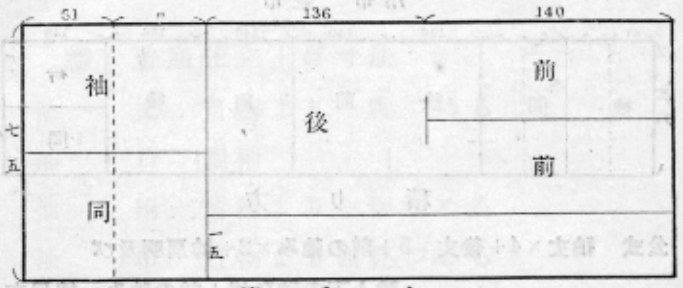

積り方

**公式**　**袖丈×4＋後丈×4＋前の弛み×2＝總用布**

**(總用布－袖丈×4－前の弛み×2)÷4＝後丈**

## 長襦袢の裁ち方

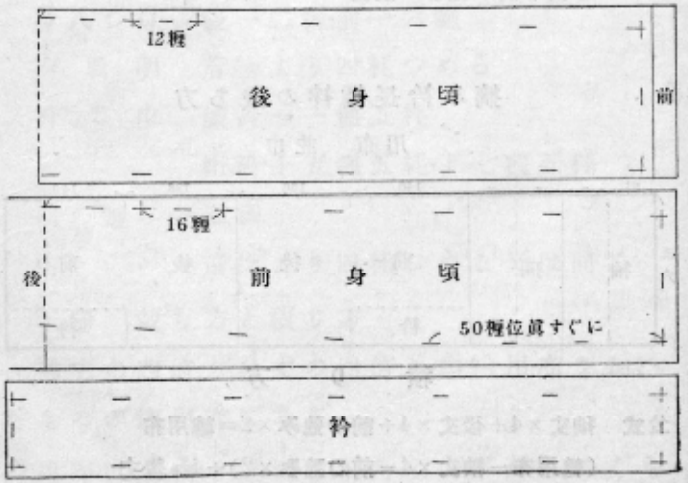
用布　大巾




### 積り方

**公式　袖丈×2＋後丈×2＋前の弛み＝總用布**
**{總用布－(袖丈×2＋前の弛み)}÷2＝後丈**

### 標附け方圖






のであるから,身丈に衿先縫ひ代・衿肩明・前の弛み等を加へたものが片方分で,それを二倍したものが總丈である。而して,山で接ぐものは接ぎ代をも見つもつておかなければならない。

圖に示す寸法は普通寸法であるから,各自袖丈は上着より一糎位短く裁ち,身丈は着用者の着丈によつて定める。けれども,用布の都合によつては長く裁ち,内揚をしておいてもよい。

廣巾物で裁つ場合はつまみ衿にしてもよく,又は後巾を肩巾に足りる程にして殘りを衿にする。衿丈は足りないから中央に足し布を用ふ。

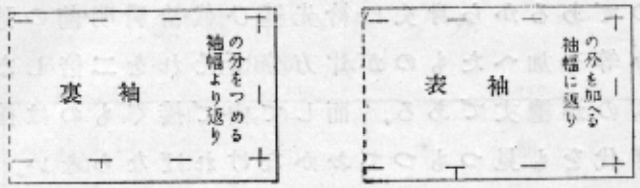
裾廻し丈は普通着物よりは少なく二十五糎位とし,胴裏の裁ち方は,着物と同じである。

袖裏は表に準じて胴裏より上等品を用ふ。

### ㊂　標附け方

1. **袖**　袖口を毛抜き合せにする場合には,表袖・裏袖とも同じに標をつける。

又,大名袖とて,表布が裏の方に折り返つたものがある,これは表袖巾の縫ひ代をいつぱいにしておき,その中から仕立上げの袖巾を計つて裏




へ返る分とし,裏袖は表袖の返りの分を袖巾から減じて,その殘りを裏袖巾として標をつける。縫ひ込は八つ口の方へ入れておき,袖丈·袖附·山の標をつける。

2. **後身頃**　中表にして二枚合せ,肩から折つて前身頃を下に,後身頃を上に,前身頃より裾を四糎出しておき,身丈·袖附·身八つ口·後巾·肩巾·山·等の標をつける。

3, **前身頃**　後身頃を左に取り除け,前身頃を出し,身八つ口の標を四糎下げてつける。前巾の標の附け方は寸法通り裾から五十糎ほど眞直ぐに,上は衿肩明の處から糸を引張り,肩から十二糎の處に丸みを持せつつ斜に衿附の標をする。

4, **裏身頃**　表身頃より袵の二倍だけ長くするばかりで,その他は表身頃と同樣に標をつける,



5, **裾廻し**　着物の裾廻しと變りがない。もし横布を附けるならば脊から二つに折り,背の縫ひ代を定め,次に後巾を計り,脇の縫ひ代を取り,次に標附け方圖に示すやうに前巾の標附をする。又横布をそのまゝ縫ひ目なしに使つてもよい。

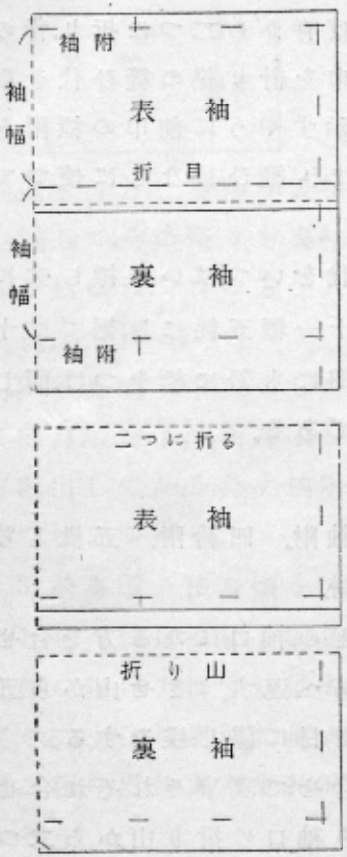
6, **衿**　衿附の縫ひ代をいつぱいに標し,次に衿巾を衿肩明の間は十一糎五粍にし,裾では十五糎の巾にしてその間にも斜に標をつけ,而して二つ折りにするのである。

### ㉓　縫ひ方順序

一,袖。二,身頃。三,袖附。四,衿附。五,袵とぢ。六,前の弛み。七,半衿掛。

1, **袖**　表袖と裏袖との袖口になる方を合せて縫ひ,折りは裏袖の方へ返す。きせ山から五糎の處に二糎五粍の針目に隱し躾をする。次に袖下の縫ひ代を合せて表·裏それぞれ合せて待針を打ち,それより袖口の折り山から二つに折つて表裏を合せて待針を打ち直す。この時一方の袖のみ出來上らぬやうに,折り方に注

袖の縫ひ方の圖




意する。袖下の四つ縫を八つ口の十糎位手前までし,八つ口の方は表裏別々に縫ふ。そして一旦表に返して袖口の方を整へ,更に八つ口の處のみを裏返して,表袖裏袖の袖巾の標を合せて八つ口を縫ひ,表に返して躾をかける。

2, **身頃**　表は脊・脇を縫ひ,折りをつけ,裏は胴も裾廻しも背・脇を縫ひ,胴接ぎをし裾廻しの方に折りをつけ,隱し躾をして表裏の裾合せをする。袵を整へ,假とぢをし,縫ひ目をとぢ,身八つ口の留を女物袷のやうにし前後の身八つ口を縫ふ。



3, **袖附**　袖附及び留め方は女物袷に同じ。

4, **衿附**　前身頃の表裏をよく合せて縫ひ目の際を躾糸で假縫ひをし,衿及び身頃の標を合せて待針をし,三枚一度に縫つて衿をつけ,衿先を縫ひ,折りをつけ三つ衿を入れて衿を綴ける。

5, **裾とぢ**　裾とぢは後身頃に五針,前身頃に四針を出す。

6, **前の弛み**　前の弛みは身八つ口で四糎長くなつてゐるから,その分だけ身八つ口下で摘み,表身頃に針目を出してとぢておく。

7, **半衿**　半衿に芯を入れ,裏衿をつけて掛へ,本衿に綴けつける。

**備考**　一,前の弛みは何のためにつけるか。

二,縮緬並巾物で女物袷長襦袢を裁つに袖・裾廻しとも無雙にする時は各部の寸法はどうしたらよいか。又用布の總丈を求めよ。但し普通寸法とす。

**附記**　男物袷長襦袢

男物袷長襦袢の裁ち方,積り方,及び縫ひ方等は大體は女物袷長襦袢に同じであるから,次

にその違ふ點のみを掲げる。

一,男物袷長襦袢は,無雙卽ち引返しとして裾を毛抜合せに縫ふことが多い。袖も大抵無雙にする。

二,女物襦袢と違つて前に弛みをつけない。

三,袖附は,長着よりも一糎以上少なくして人形を痩へ,男物袷のやうに袖附をする。

四,衿附は,女物と同じく,衿巾は,上下とも五糎三糎にして新けつけ,半衿は普通長着の共衿のやうに新けつける。



# 第十六章　女　袴

女袴の材料の地質は,綾木綿・メリンス・セル・カシミヤ・紬・琥珀織・精好織等,種々あるけれども,主として,毛織物が多く用ひられる。

裁ち方は,布巾の廣さにより,又大・中・小等によつて種類が多い。特に紐下の丈は,着用者の年齢及び體格又好みによつて長短のあるものであるから,各自適當な寸法を用ひる。裁ち切りの丈としては,裾新と紐附の縫ひ代を少なくとも,十糎はみつもつて,裁たなければならない。

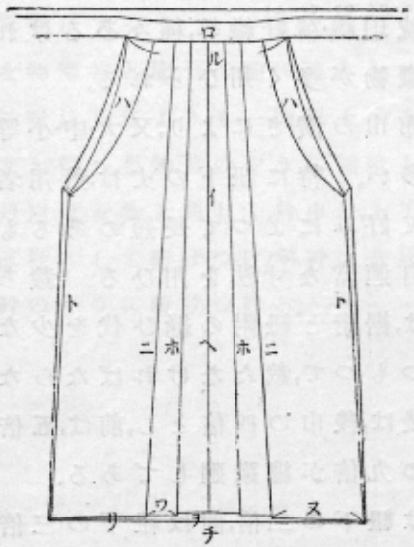
蹴廻しは,後は,後巾の四倍とし,前は,五倍とす。卽ち後巾の九倍が總蹴廻しである。

紐丈は後は紐下の二倍,前は紐下の三倍とす。着用者によつて,種々應用工夫することが肝要である。

大妻圖

## 女袴各部の名稱

前

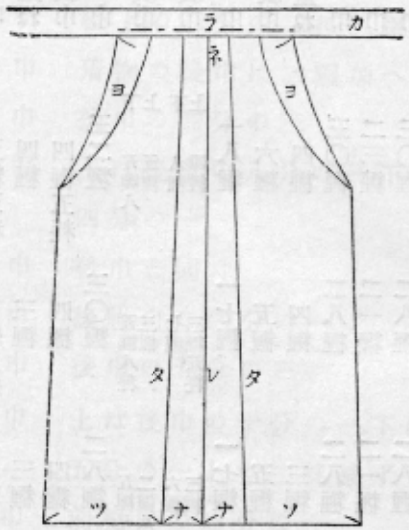



ワ 前寄襞巾
ヲ 切り上げ
ル 前腰巾
ヌ 前脇巾
リ 前巾
チ 蹴廻し
ト 相引
ヘ 三の襞
ホ 二の襞
ニ 一つ襞
ハ 前笹襞
ロ 前紐
イ 紐下



## 女袴各部の名稱

後




ラ 飾り糸
ナ 後寄襞巾
ネ 後腰巾
ツ 後脇巾
ソ 後巾
レ 二の襞
タ 一の襞
ヨ 後笹襞
カ 後紐

## ㊀ 女袴仕立上げ寸法普通仕立

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 前紐丈 | 三米〇〇〇 | 三米〇〇〇 | 二米八五糎 | 二米六五糎 | 二米三〇糎 |
| 前紐巾 | 三糎五糎 | 三糎五糎 | 三糎 | 三糎 | 三糎 |
| 後紐丈 | 一米九〇糎 | 一米八〇糎 | 一米七〇糎 | 一米五〇糎 | 一米三〇糎 |
| 後紐巾 | 五糎五糎 | 五糎五糎 | 五糎 | 四糎五糎 | 四糎五糎 |
| 前の重ね | 四糎 | 三糎 | 三糎 | 三糎 | 二糎五糎 |
| 前笹襞巾 | 四糎五糎 | 四糎 | 四糎 | 三糎五糎 | 三糎五糎 |
| 前腰巾 | 三二糎 | 三〇糎 | 二八糎 | 二六糎五糎 | 二五糎 |
| 前寄襞巾 | 下 五糎八糎 三糎 / 上 | 五糎八糎 三糎 | 五糎五糎 二糎八糎 | 四糎五糎 二糎五糎 | 四糎五糎 二糎三糎 |
| 後寄襞巾 | 上下 八糎 四糎 | 七糎 三糎五糎 | 六糎 三糎 | 六糎 三糎 | 五糎 二糎五糎 |
| 前脇巾 | 一八糎 | 一七糎 | 一七糎 | 一四糎 | 一二糎 |
| 後笹襞巾 | 六糎 | 五糎 | 五糎 | 四糎 | 四糎 |
| 後の重ね | 四糎 | 四糎 | 三糎 | 三糎 | 三糎 |
| 後腰巾 | 三〇糎 | 二八糎 | 二八糎 | 二五糎 | 二三糎 |
| 後脇巾 | 二三糎 | 二一糎 | 二一糎 | 一七糎 | 一六糎 |
| 後巾 | 三〇糎 | 二八糎 | 二八糎 | 二三糎 | 二一糎 |
| 相引 | 六二糎 | 五六糎 | 五〇糎 | 四六糎 | 四〇糎 |
| 紐下 | 八七糎 | 七八糎 | 七六糎 | 六二糎 | 五三糎 |
| | 大人 | 十四・五才 | 十二・三才 | 八・九才 | 五・六才 |

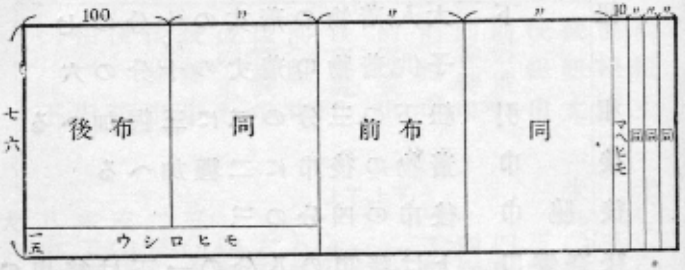


## ㊁ 女袴仕立上げ寸法の割り出し方

紐下　大人,着物の着丈の十分の七
　　子供,着物の着丈の十分の六
相引　紐下の三分の二に三糎加へる
後巾　着物の後巾に二糎加へる
後脇巾　後巾の四分の三
後寄襞巾　上は後巾の八分の一,下は後巾の四分の一
後腰巾　後巾と同寸
後笹襞巾　後脇巾の四分の一
前脇巾　後巾の五分の三
前寄襞巾　上は後巾の十分の一,下は後巾の五分の一より二糎減ず
前笹襞巾　前脇巾の四分の一
前腰巾　後巾より二糎廣く或は同寸
後紐巾　後巾の五分の一弱
前紐巾　後巾八分の一位
後紐丈　胴廻りの約二倍半
前紐丈　胴廻りの約四倍

## ㊂ 裁ち方と積り方

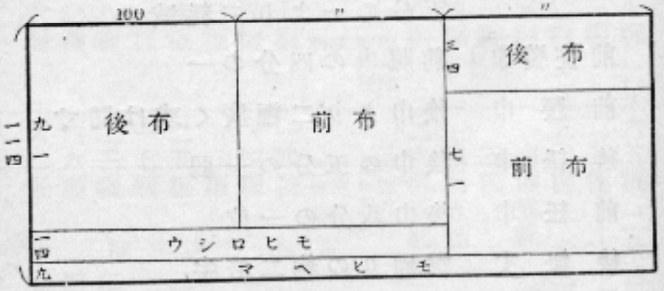
## 大人女袴の裁ち方(大巾)




積り方

**公式　後布丈×4＋前紐巾×4＝總用布**

## 大人女袴の裁ち方(三巾)

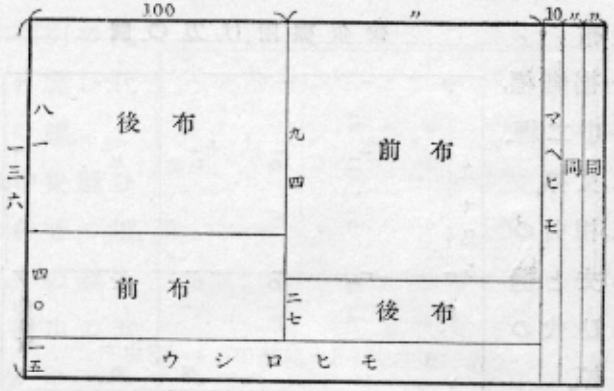



積り方

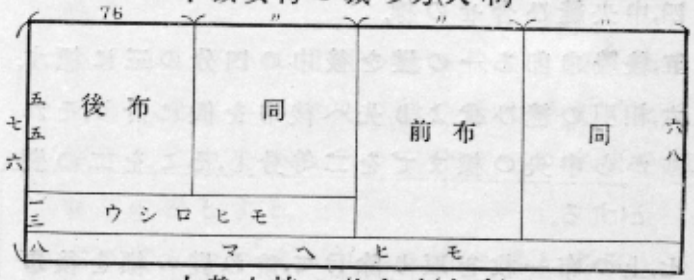
**公式　後布×3＝總用布**



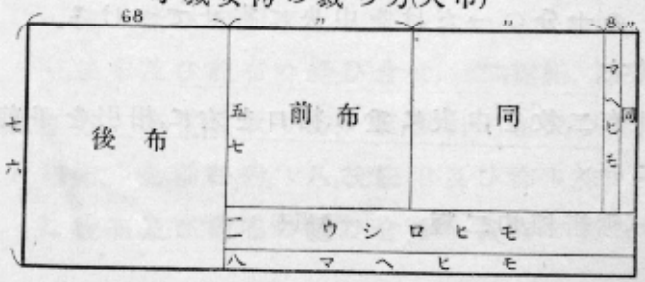
## 大人女袴の裁ち方(四巾)




## 中裁女袴の裁ち方(大巾)



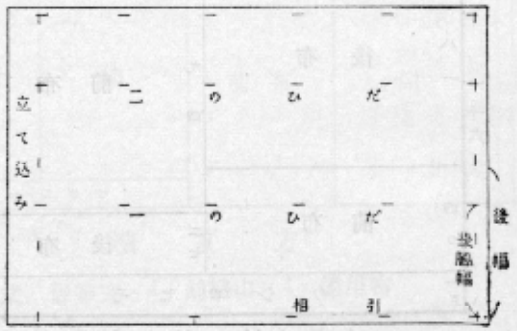

## 小裁女袴の裁ち方(大巾)



## ㊃　標附け方

**後布**

後布標附け方の圖




一,裾絎標,巾二糎。
二,丈標。
三,相引の丈と縫ひ代の標。
四,中央縫ひ合せの標。
五,後脇巾卽ち一の襞を後巾の四分の三に標す。
六,相引の縫ひ代より先へ後巾を假に計り,それから中央の標までを二等分し,そこを二の襞とする。
七,上の布一枚を取り除けて,重ね襞の標を後巾の十分の一だけを中央に寄せてつける。

**前布**

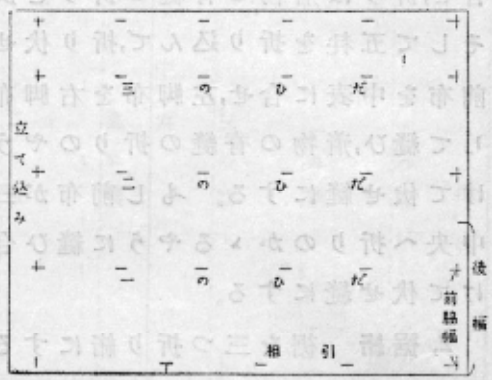
前布二枚を中表に重ね.裾口を右に,相引を手前におく。

一,裾絎標,巾二糎。



二,丈標。
三,相引の丈と縫ひ代の標。
四,中央縫ひ合せの標。
五,一の襞を後巾の五分の三に標す。

前布標附け方の圖




六,後と同じやうに相引の縫ひ代より假に後巾を計り,それから中央の縫ひ合せ標までを三等分して,中央からその三分の一の寸法の處を三の襞とする。
七,三の襞と一の襞の中央を二の襞とする。

## ㊄　縫ひ方順序

一,後布及び前布の縫ひ合せ。二,裾絎。三,襞取り方。四,筐襞取り方。五,相引·門留(かんねさどめ)及び壓。六,紐絎。七,前紐附。八,後紐附及び飾り糸。

**1, 後布及び前布の縫ひ合せ**　後布の表を中

にして合せ,左脚になる布を五粍程出して縫ひ合せ,折りは着物の脊縫の折りと反對につける。そして五粍を折り込んで,折り伏せ縫にする。

前布を中表に合せ,左脚布を右脚布より五粍出して縫ひ,着物の脊縫の折りのやうに折りをつけて伏せ縫にする。もし前布が三布の場合は,中央へ折りのかゝるやうに縫ひ合せ,折りをつけて伏せ縫にする。

2,**裾絎**　裾を三つ折り絎にする。もし裾廻し布をつけるならば,裾廻し布と裾とを縫ひ合せ,折りは裾廻し布の方へつけて隱し躾をかけ,表布を五粍程折り返して裾廻し布の端を表に絎けつける,

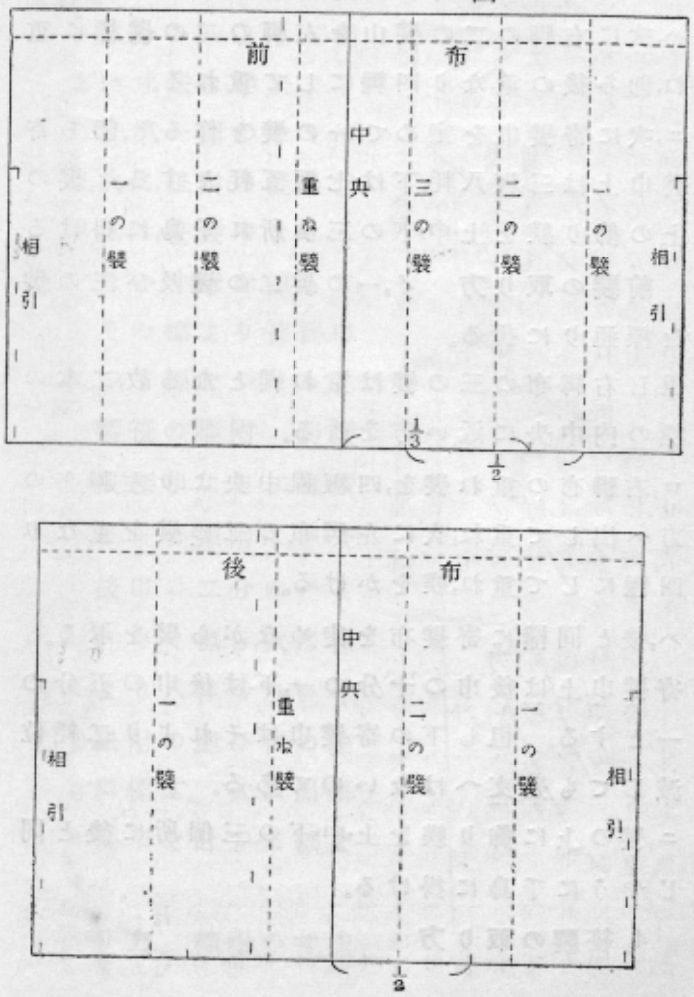
3,**襞取り方**

**後襞の取り方**　イ,まづ後布左右とも標通りに,一の襞及び二の襞の折りをつける。左脚の方は,二本の標の内中央に近い方を折る。これを重ね襞といふ。

ロ,中央の縫ひ目の上に左脚の二の襞標を合せる。即ち重ね襞は中央より,四糎程右脚の方へ



襞取りの圖



寄せて重ねるわけである。

ハ,次に右脚の二の襞山を左脚の二の襞標に重ね,即ち後の重なり四糎にして重ねる。

ニ,次に寄襞巾を定めて,一の襞を作る。即ち寄襞巾上は三糎八粍,下は七糎五粍とする。襞の上の飾り紐を上·中·下の三個所に千鳥に掛ける。

**前襞の取り方**　イ,一の襞二の襞及び三の襞を標通りに折る。

但し右脚布の三の襞は重ね襞となる故,二本の標の内中央に近い方を折る。

ロ,右脚布の重ね襞を,四糎程中央より左脚布の方へ出して重ね,次に左脚布の三の襞を重なり四糎にして重ね,紐をかける。

ハ,後と同様に寄襞布を定めながら襞を取る。寄襞巾上は後巾の十分の一,下は後巾の五分の一とする。但し下の寄襞巾はそれより二粍位減じても差支へはないのである。

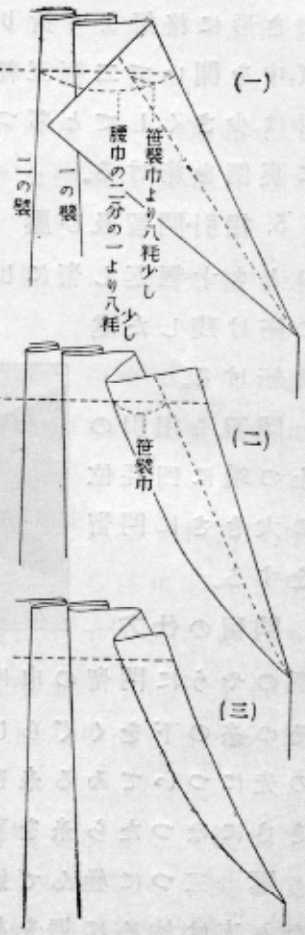
ニ,襞の上に飾り紐を上·中·下の三個所に後と同じやうに千鳥に掛ける。

**4, 笹襞の取り方**



**後笹襞の標附**　後腰巾の二分の一より八粍少ない寸法を,中央より標して,第一圖のやうに折り,次に,紐附の縫ひ代の線上に,笹襞巾より八粍少ない寸法を標して,次にその標より笹襞巾を計つて標をつける。

後笹襞取り方の圖



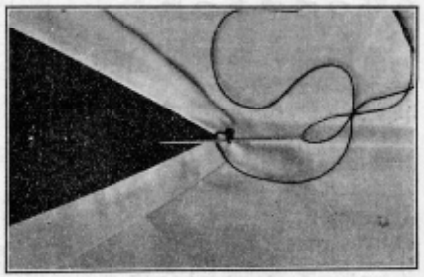

**前襞笹の標附**　前腰巾は後腰巾より二糎廣いため,笹襞標附は,中央より後巾の二分の一より二粍多く標し,次に笹襞巾より八粍少ない寸法を紐附の縫ひ代の線の上に標す。次に出來上り襞巾を計つて標をつける。

**作り方**　標附の寸法

で,相引留の際まで少し丸みを持たせ,笹の葉の如き形に格好よく折りをつけ,形が整つたならば,中を開いて二糎五粍の針目にし,外へ出る針目は,少さくしてとぢつけ,下方は稍小針にし次に裏側を紩ける。

5,**相引·閂留及び壓**　相引を縫ひ合せ,始め終りとも十糎返し留にし,折りは前布につけ,裾紩の紩け殘した處を紩ける。

閂留の圖



**閂留**　相引の上の端に四粍位の大きさに閂留をする。

**閂留の仕方**　圖のやうに閂留の巾に糸を二·三本渡して,針をその糸の下をくぐらし,一つづゝねぢつては,針の先についてゐる糸を掛けて,恰度四粍位の大きさになつたら糸を裏で留める。

**壓**　三つに疊んで適當の壓をおく。そのたたみ方は,始めに裾を相引の留より四糎上まで,



持つて來て二つに折る。次に裾山より更に四糎上卽ち,相引の留より八糎上の處から上部を裾の上に重ねて,二つに折るのである。

6,**紐紩**　紐を接ぐものはなるべく,着用して接ぎ目の目立たないやうな位置で接ぎ目をつくる。

接ぎ方は半返し,又は掛け接ぎにし,割烙鍛をあてる。

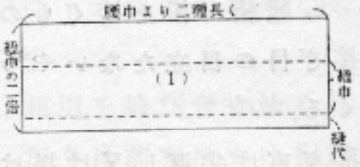
紐芯を裁つには,後紐も前紐も紐巾の二倍に裁ち,もし接ぐものは,突き合せ接ぎ,又は重ね縫にする。

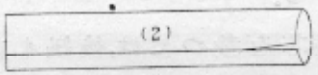
芯の用意が出來たならば紐丈を二つに折り,中央に糸標をつけ,紐の一方の裁ち目に芯布を揃へて,芯布を心持弛め加減にして入れ,紐の端を縫ひ,紩け代を折り,次に出來上り巾に,紐を折つて鏡をかけ,本紩にする。但し中央三十七·八糎殘して紩ける。

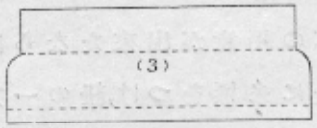
7,**前紐附**　前紐の紩け殘した處へ美濃紙を紐巾の二倍に折つてとぢつけ,前紐の中央と前腰巾の中央とを合せ,よく釣合を見て待針を打

ち,半返し縫にする。この時三の襞より端まで六粍程紐附を上げてつけ,紐の厚さを一様にするために小切を入れて,平にして紺ける。

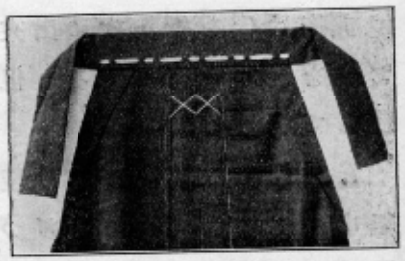
腰板裁ち方の圖




飾り糸の圖



**8, 後紐附及飾り糸**

**後紐附**　腰板紙を,巾は後紐巾の二倍,丈は腰巾より三糎位長く裁ち,第一圖のやうに,縫ひ代一糎にして,通し篦をつけ,次に紐巾を計つて,通し篦をして,第二圖のやうに折り目をつけて,兩端を一糎位丸く裁ち落し,內側の方を少し丈短かく,第三圖のやうな形に裁ち切る。

後紐の中央と厚紙の中央とを合せて,後紐にとぢつけ,飾り糸を通す。



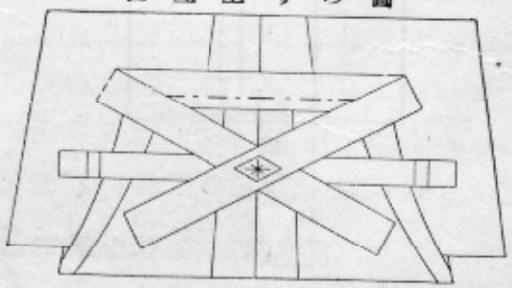
**飾り糸**　飾り糸は,太白(たはく)の捻り糸の左捻り,右捻り二本を下の角より一糎上つた處に圖のやうに,雄針·雌針に通す。

後紐の中央と腰紙の中央とを合せ,衽襞の弛まぬやうに,注意して待針を打ち,腰板縫ひ代の折り角より五粍上をあらく,半返しにして縫つけ,縫ひ込みをとぢつけて,後紐の紺け殘した處を紺ける。

## ❼ 仕上げ

出來上つたならば,火熨斗をかけ壓をおいた時のやうに,三つ折りにたたみ,紐を仕立上り圖

仕立上りの圖



のやうに組み合せて,飾りとぢをし,前紐の兩端には,半紙を二糎巾に裁ち切つて巻きつける。

**注意**

一,中裁小裁の袴は紐下を長く仕立てておき,着用者の寸法によつて揚をする。卽ち相引を長く仕立てておいて,揚をして普通寸法の相引とし,筬襞等には變りがない。

二,女袴には後三つ襞の外に大紋腰(だいもんごし)とて,後襞を一つに作るものもある。

**備考**　一,三巾物のカシミヤで大人女袴を裁つに,後丈一米五糎の裁ち切りとすれば總用布何程を要するか。

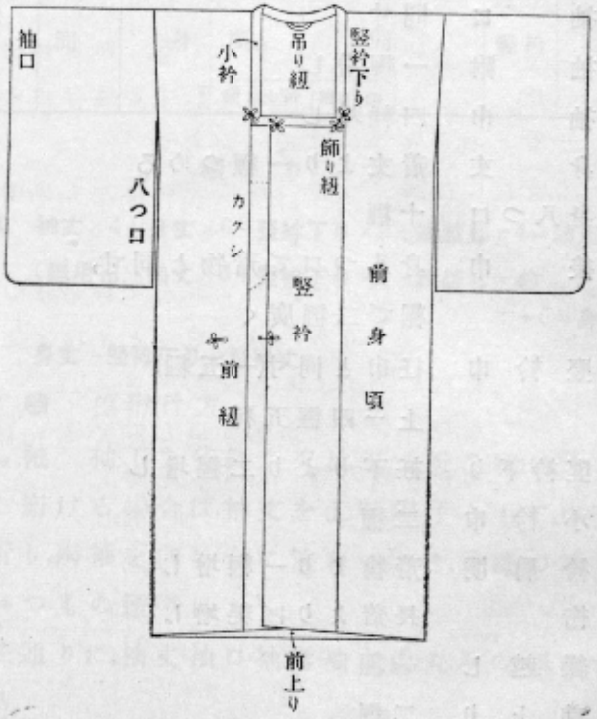
二,女袴各部の寸法割り出し方を述べよ。

三,女袴後前の襞の取り方を問ふ。



# 第十七章　女物單衣合羽

## 各部の名稱



## ㊀　普通仕立上げ寸法

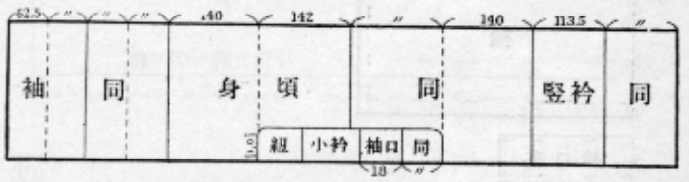
長着の寸法を標準として次のやうに增減する。

| | |
|---|---|
| 袖　丈 | 五粍增し |
| 袖　口 | 同寸 |
| 袖　附 | 一糎增し |
| 袖　巾 | 四粍增し |
| 身　丈 | 着丈より一糎つめる |
| 身八つ口 | 十糎 |
| 後　巾 | 身八つ口で着物と同寸, 裾で二糎廣く |
| 竪衿巾 | 衽巾と同寸(一五糎) 上一四糎五粍 |
| 竪衿下り | 衽下りより二糎增し |
| 小衿巾 | 二糎 |
| 衿肩明 | 着物より一糎增し |
| 袵 | 長着より四粍增し |
| 繰越し | 一糎 |
| 前上り | 二糎 |
| ポケツト下り | 竪衿下りより十糎下 |
| ポケツト口明 | 一四糎 |



# 本裁單衣合羽の裁ち方

用布並巾　10米41糎




## 積り方

**公式**　**袖丈**×4+**身丈**×6−**竪衿下り**×2+**繰越し**×4=**總用布**

(**總用布**−**袖丈**×4+**竪衿下り**×2−**繰越し**×4)

+6=**身丈**

**身丈**−**竪衿下り**=**竪衿丈**

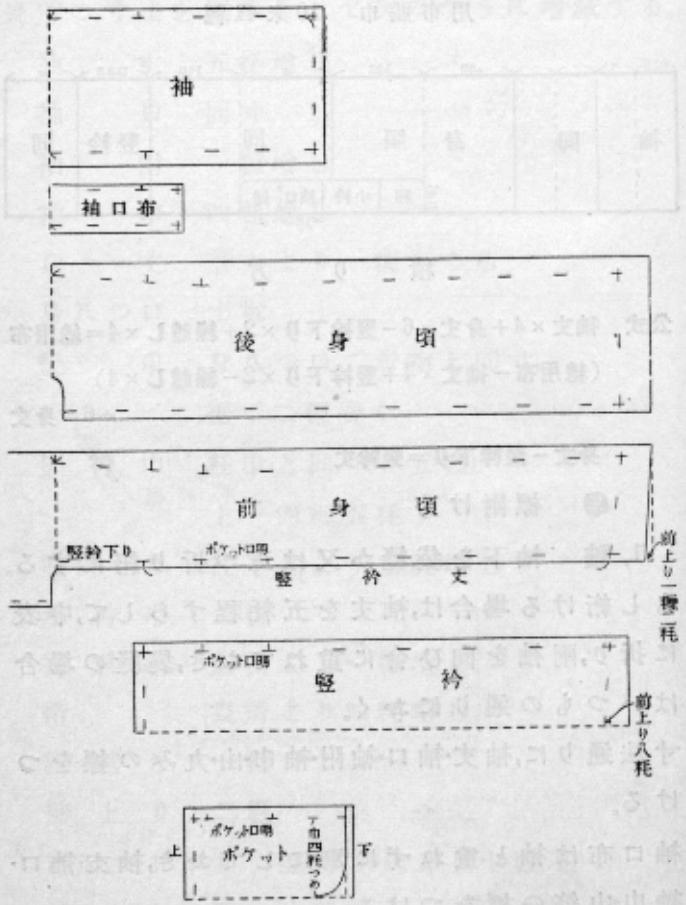
## ㊁　標附け方

**1, 袖**　袖下を袋縫か又は三つ折り袵にする。もし袵ける場合は,袖丈を五粍程ずらして,中表に折り,兩袖を向ひ合に重ねておき,袋縫の場合はいつもの通りにおく。

寸法通りに,袖丈・袖口・袖附・袖巾・山・丸みの標をつける。

袖口布は袖と重ねずに別にしておき,袖丈・袖口・袖巾・山等の標をつける。

## 標附け方圖






## 小衿の標附け方圖

2, **身頃**　着物の標附け方のやうに後身頃を上に,衿肩明を左手前にして重ねておく。

丈·脊縫·袖附·身八つ口等の標をつけ,次に巾の標は身八つ口の處で後巾と同寸に,それから裾まで自然に二糎程身巾を廣げて斜に標をつけ,次いで肩巾·裾絎の標をつける。

次に後身頃を左に取り除けて,前身頃の標附にうつる。

袖附·身八つ口·巾の標をうつし取つて裾に一糎二糎の前上りの標を斜につける。

小衿附と竪衿附の縫ひ代を一糎に標をつけ,次いで竪衿下り·ポケツト口明をもつける。

3, **竪衿**　巾を中表の二つ折りにして二枚重ねる。

丈·巾·ポケツトの口明の標をつけ,裾には八糎の前上りの標をつける。

4, **小衿**　巾を出來上り小衿巾の四倍に正しく裁ち切り,丈は竪衿巾に竪衿下りと衿肩廻りと繰越しと衿先縫ひ代とを加へて二倍したものとする。



小衿布の縫ひつける方を一糎に折り(小衿縫附一圖),次に小衿巾の二倍に折つて(二圖)更にそれを中央から二つ折りにして,出來上りの小衿巾にたたむ。(三圖)

次に丈を二つに折つて(四圖)山·丈·額緣の標をつける。

額緣の標は中央に假に標をつけ,それより兩方へ小衿巾を計つて斜に標す。下の方に標をつけにくい時は左右別々につけるがよい。

5, **ポケツト**　長さ三十糎とし,巾は竪衿巾に縫ひ代を加へたものを裁ち切りとし,輪を手前に上部を左におく。

上部の縫ひ代は八糎につけ,次にポケツト下りの標をつけ,その標よりポケツト口明の標をつける。

巾は竪衿出來上りより四糎を減じた寸法に標をつける。

ポケツトの下の縫ひ代を八糎としておくか或は丸みをつける。

## ㊫　縫ひ方順序

一,袖。 二,身頃。 三,小衿。

1, **袖** 袖口布の下を伏せ縫にし,表袖と袖口布との袖口明を縫ひ合せ,袖口の留をし,袖下の袋縫の時は淺縫をして次に袖口留の下から,袖を縫ふ。この際袖口布の丈までは四つ縫にし,縫ひ代は自然に折り,袖口布の奥を紩けつける。

2, **身頃** 本裁單衣のやうに脊を二重縫にして肩當布をつけ,次に竪衿をつける。

竪衿は脇縫をしない前につけるから前身頃の裾紩け代を,三つ折りにして假りに鉸で押へておき,竪衿で前身頃を挟んで,丈標や,合標を合せて,一針拔きか,又は抄ひ針にして竪衿をつける。次に下前は,裾からポケツトの口明までを上前のやうに縫ひ,ポケツト口明は縫ひ殘しておいて,口から上は竪衿の表と身頃と二枚を縫ひ,ポケツトをつける。

竪衿の下は,丈標より四粍先を縫つて裏の方へ折り,縫ひ込みを竪衿附の縫ひ目にとぢつけ,引返して折りを正し,下前竪衿の裏を紩けつける。竪衿上の縫ひ代は表裏とも竪衿下りの標から



三角に內へ折り込んでおく。

次に脇縫をして縫ひ代を紩けつけ,裾紩をする。

3, **小衿** 縫ひ代を折つて,圖の山の標の角を合せて留をする。留の仕方はまづ,竪衿下りの角から針を出し,小衿の額緣を極く小さく布織糸一二本とも思はれる位を抄つて針をもとの穴の直ぐそばへ出して裏で結んで切る。

額緣の處は中から縫ふことは困難であるから,二糎程の間は掛け接ぎの仕方のやうに,接ぎ縫にする。

全體に待針を打ち,衿肩の丸みの處は羽織衿附と反對に小衿の方を釣加減にし,待針が終つたならば下前竪衿先から縫ひ初め,地質によつて一針拔きか又は半返しに縫ふ。

折りを小衿の方へつけて吊紐をつけ,小衿の裏を紩けつける。

袖附の始め終りに抄ひ留をして袖附をし,次いで身八つ口を紩ける。

### ㊄ 飾り紐の附け方

上前左小衿角に玉附の飾紐を下にしてつけ,

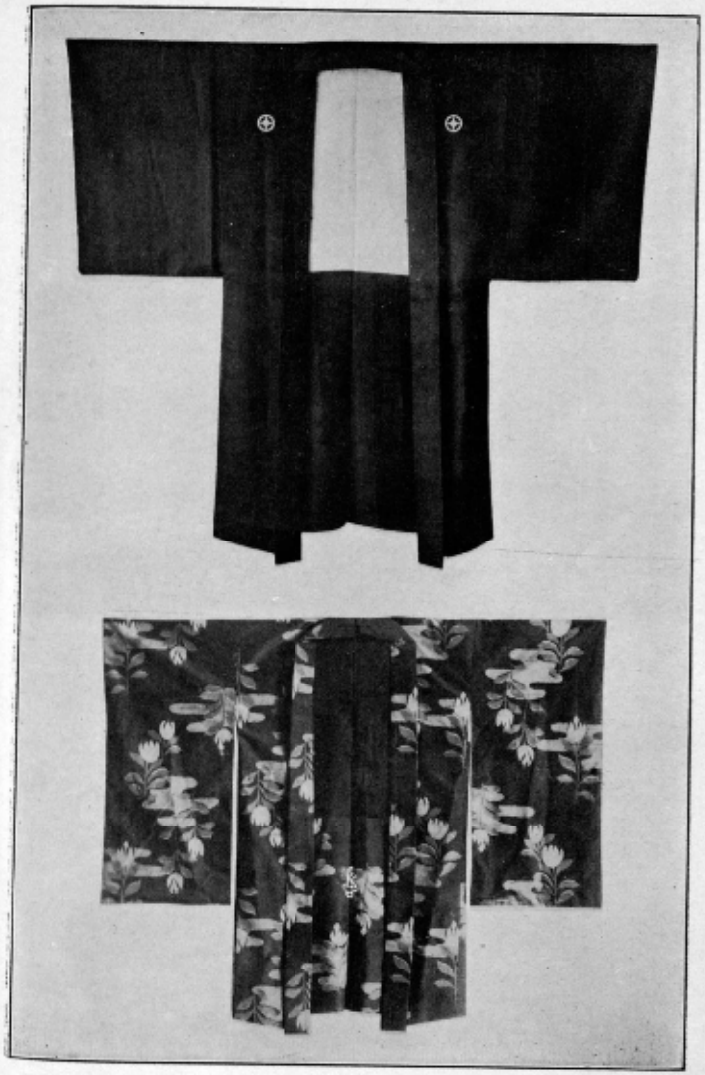
額緣を中心としそのまはりは表に見えないやうに紩けつける。

下前も上前と同じやうにする。

內側は下前竪衿角に玉ばかりついた紐をつけ,上前小衿裏に向ひ合せて,これをかける輪をつける。腰は上前竪衿丈の二分の一よりも四糎上つた處に玉附の飾紐をつけ,下前身頃に,之と同じ高さの竪衿附から四糎離れた處に輪の紐をつける。

裏紐は下前の竪衿端と上前脇の縫ひ込みとに腰紐よりもまた四糎上つた處に,巾二糎·丈三十糎程の紩け紐をつける。

**備考**　一,本裁合羽の普通仕立上げ寸法を問ふ。
二,小衿の標附け方と縫ひ方を說明せよ。



男物袷羽織（上）　女物袷羽織（下）

# 第十八章　本裁女物袷羽織

## ㊀　普通仕立上げ寸法

| | | |
|---|---|---|
| 袖 | 丈 | 着物と同寸 |
| 袖 | 口 | 着物と同寸 |
| 袖 | 附 | 一糎又は五粍増し |
| 袖 | 巾 | 着物と同寸 |
| 身 | 丈 | 着丈の四分の三に四糎を加へる<br>普通一米内外 |
| 身八つ口 | | 一〇糎 |
| 後 | 巾 | 着物と同寸 |
| 前 | 巾 | 一八糎五粍(いつぱい) |
| 衿 | 巾 | 六糎五粍 |
| 襠 | 巾 | 上二糎<br>下六糎五粍——七糎 |
| 衿肩明 | | 七粍増し |
| 前下り | | 三糎五粍 |
| 乳下り | | 背より四四糎内外 |
| 裄 | | 着物と同寸 |
| 繰越し | | 一糎以上 |

## ㊁　裁ち方と積り方

### 表の裁ち方

表總布から袖丈の四倍と衿布とを取り,その殘りを身頃にする。

衿布とは,衿肩明と前下りと肩の繰越しの二倍と衿先縫ひ代との合計凡そ二十三糎を出來上り身丈に加へて,それを二倍したものである。

身頃は,前後の差として十五糎前身頃を長く裁つか,又は前下りの仕立に要する分と繰越しの二倍を長く裁ち,而して胴裏を前後同じ長さに裁つてもよい。前身頃は巾十糎五粍を裁ち切つて袖口布・襠布・乳布等とする。袖口布としては五十五糎のもの二枚,乳布としては一糎五粍のもの二枚をとり,殘りを二等分して左右の襠布とする。

### 裏の裁ち方

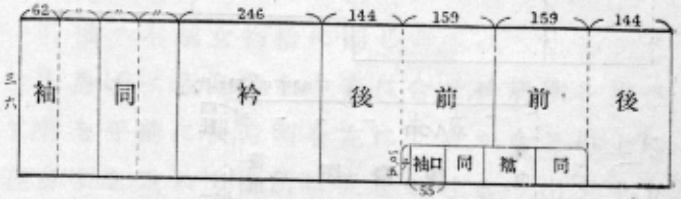
出來上り身丈の二倍から表裁ち切り後身丈を減じ,その殘りに胴接ぎの縫ひ代を加へて四倍してこれを胴裏とし,それに袖用布を加へたものが裏の總用布である。



## 女物羽織表の裁ち方

表用布　並巾　11米

出來上り身丈1米・裁ち切り袖丈62糎




### 積り方

**公式**　{總用布－(袖丈×4＋衿用布＋前後の差×2)}÷4＝後丈

後丈＋前後の差＝前丈

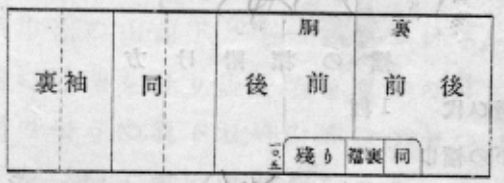
(身丈＋23糎)×2＝衿用布

{1100－(62×4＋246＋15×2)}÷4＝144……後丈

144＋15＝159……前丈

**公式**　(出來上り身丈＋衿肩明＋前下り＋衿先縫ひ代＋繰越し×2)×2＝衿丈

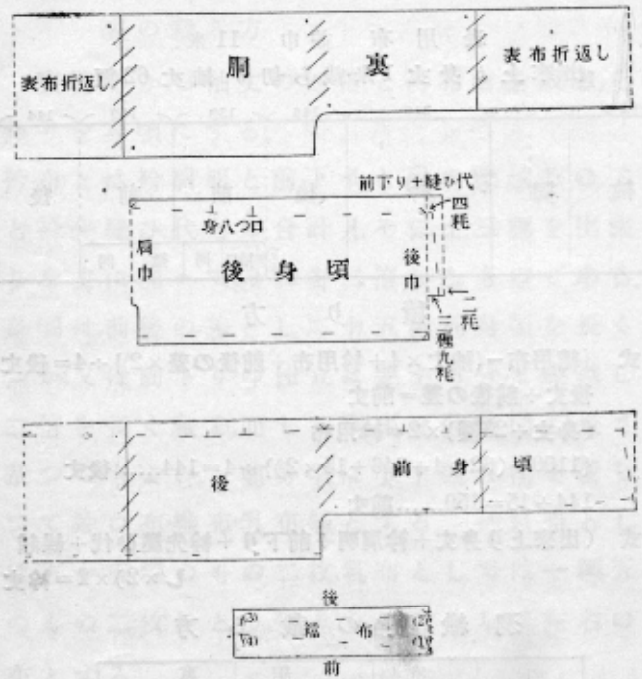
## 羽織裏の裁ち方




### 積り方

**公式**　袖丈×4＋(出來上り身丈×2－後丈＋胴接ぎ代)×4＝裏總用布

標　附　け　方　圖




襠の標附け方

(1)　縫ひ代　1種

(2)　下の襠巾

(3)　(下の襠巾－上襠巾)÷3＋後襠の縫ひ代＝後上部縫ひ代

(4)　上の襠巾



胴裏の前身頃から表と同じやうに巾十糎五糎を裁ち切つて裏襠にする。

㈡　標附け方

1, **袖**　本裁女物袷に同じ。

2, **身頃**　表身頃を中表に合せ,衿肩明を揃へて,背を手前に,後身頃を左にしておき,その上に裏身頃を重ねて要所に躾をかける。出來上り身丈に三つ衿の縫ひ代を加へて身丈を計り,表身頃を折り返し,胴接ぎの標をする。前丈は前下り及びその縫ひ代と肩の繰越しの二倍とを後身丈に加へた寸法を計り,後身頃と同じやうに折り返して同じく胴接ぎの標をつける。

次に繰越しをつけて前身頃の上に後身頃を折り重ねて,二圖のやうにおき,背縫・後巾・袖附・身八つ口・肩巾・裾の山・前下り等の標をつける。

次に襠の寸法を計り後身頃を取りのけて,前身頃に圖のやうに,乳下り;衿附等の標をつける。

前下りを三種五糎に出來上るやうにするには襠附の處で後身丈より四糎長く標をつけ,衿附の方で,前下りに同じく四糎を加へてつけ,その

間に圖のやうに斜に標をすると三糎五粍の前下りとなる。

3, **襠**　表裏共中表に重ね,表襠を下に裏襠を上にのせておく,襠上の縫ひ代をつけ次に丈を計り,表襠を折り返して胴接ぎの標をつけ,待針を打つか又は木綿糸でとぢておく。

(1)の標,まづ据に前襠附の縫ひ代を一糎につけ,据に山標をつける。

(2)の標,下の襠巾の標をする。

(3)の標,下の襠巾より上の襠巾を減じ,その残りの三分の一に後襠附の縫ひ代を加へて標す。

(4)の標,上の襠巾の標をつける。

(1)と(4),(2)と(3)の標の間にそれぞれ斜に標をつけ,而して三分の一の斜の方を後襠附とし,三分の二の斜の方を前襠附にする。

4, **衿**　表を下にしておき,出來上り衿巾の二倍に衿附の縫ひ代と紲け代として二糎を加へて,イ・ロまでの巾として折り,更にロより二糎を控へて一圖のやうに折る。

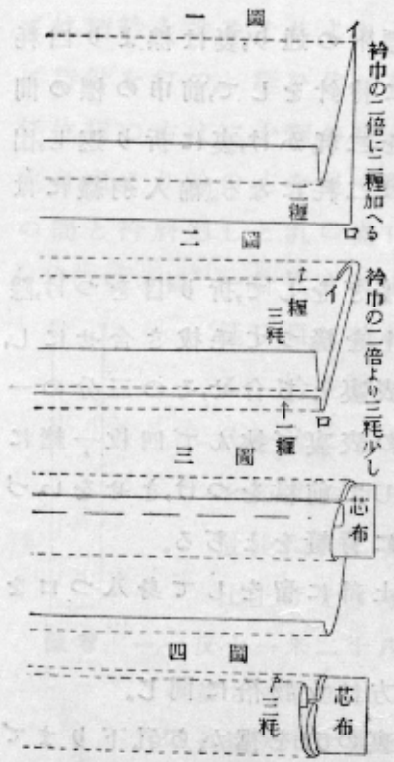
イより一糎三粍に折つて縫ひ代とし,ロより一



糎を折つて紲け代とする。(二圖)殘りは衿巾の二倍より三粍狹いものとなる。次に衿巾を縫ひ代の方から計つて折り,開いて芯布を入れ,表に針目の出ぬ樣にあらく芯布をとぢつける。出來上り表は寸法通りに,裏,卽ち紲けつける方は表より三粍巾が狹くなつてゐる。衿附をする時は兩方とも一糎の縫ひ代としてつけるのである。

最後に丈の標をつけ,處々に合標をつける。

衿の折り方圖




● 縫ひ方順序

一,袖。　二,身頃。　三,前下り　四,襠附。　五,袖附。　六,衿附。

1, **袖**　本裁女物袷と同じてある.

2, **身頃**　後前の胴接ぎをして,折りは胴裏の方へ返し,二糎の針目で隠し躾をし,次に背縫をする。

3, **前下り**　表は標附の通り,裏は標より四粍内を縫ひ込むやうに待針をして,前巾の標の間だけを縫ふ。きせを二粍かけ,裏に折り返し,出來上つての見返りは二粍になる.(綿入羽織には隠し躾をする)

4, **襠附**　襠の胴接ぎをして,折り目をつけ,隠し躾をする。襠の上を縫つて毛抜き合せにし,襠巾の中央を躾て表裏とぢ合せ,その三分の一の斜の方を後身頃の表裏て挟んで四枚一緒に縫ふ。同じやうにして前襠をつけ,きせをいづれも身頃にかけ,次に背縫をとぢる。

5, **袖附**　襠附の上部に留をして身八つ口を縫ひ,袖附をする。

袖附の留及び附け方は女物袷に同じ。

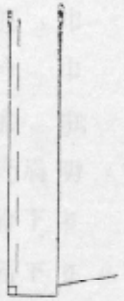
6, **衿附**　前巾は裏の方を裾から乳下りまで心持弛め加減にして前身頃衿附の處を躾糸で



あらく縫ふ。

乳を二つ作つて背より四十四糎の處に左右揃へてつける。衿の山と背縫とを合せ,裏身頃に衿の表を合せて衿肩で衿を充分弛め,乳下りまでは稍衿を弛め,それより下は裾まで平な調子に待針を打つ。縫ひ代は衿は一糎に身頃は七粍位,裾の方は二十糎の處から一糎斜にする。左身頃より衿の方を見て縫ひ始め,裾の十糎位の間と衿肩廻しと乳の處は半返し縫にし,他は一針抜きにして全體衿をつける。

衿の躾の圖



縫ひ目に烙鏝をかけ,きせをかける。衿先は一糎先きを縫ひ,縫ひ代を衿にとぢつけ表に返して衿を納めつける。

最後に衿の圖のやうに躾をかけ仕上げをする。

**備考**　一,一反十一米二十八糎で女物袷羽織の表の裁ち方をせよ。

但し袖丈七十糎とし他は全部普通寸法にし裁ち切り後身丈の計算を求む。

二、前下りの標附け方と縫ひ方を問ふ。

三、衿の折り方を問ふ。

四、襠巾、六糎五粍として襠の標附け方の復習をせよ。



# 第十九章　本裁男物袷羽織

## ㊀　普通仕立上げ寸法

| | |
|---|---|
| 袖　丈 | 着物と同寸 |
| 袖　口 | 着物と同寸 |
| 袖　附 | 總附にする。 |
| 袖　巾 | 着物と同寸 |
| 身　丈 | 着丈の四分の三に四糎を加へる　普通一米五糎内外 |
| 後　巾 | 着物と同寸 |
| 前　巾 | 一九糎 |
| 衿　巾 | 七糎五粍 |
| 襠　巾 | 七糎五粍 |
| 衿肩明 | 着物より一糎増し |
| 前下り | 三糎五粍 |
| 乳下り | 脊より四五糎内外 |
| 裄 | 着物と同寸 |
| 繰越し | 五粍 |

## ㊁　裁ち方と積り方

裁ち方と積り方は女物に大體同じであるが、

袖丈が短かく,又肩の繰越しが女物より一般に少ないから,衿丈を積る時注意して積らなければならない。

裏布もその割合で少なくなるわけであるが,あまり胴裏の短かいのは格好が悪いから,乳下りより少し下まではつける方がよい。

㊂　標附け方

1, **袖**　標附け方圖に示したやうに,袖附の標は別につけないで袖丈いつぱいにしておく。その他は女物と變りがない。

2, **身頃**　表布と,裏布とを重ねておくことは女物の通りである。

標をつけるにも,寸法が女物と變つて居るだけで大差はない。尙女物のやうに身八つ口が明いてゐないから,身八つ口の標附の必要がない。

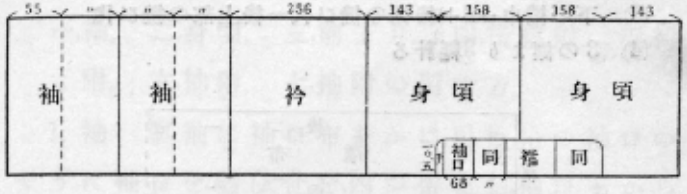
3, **襠**　これも女物に大體同じであるが,男物は上の襠巾は袖附の處で後身頃と,前身頃とが突き合せになつてゐて,襠巾が自然に消えるやうになる。

然し,襠附にきせがかゝるので標附の時は,上の



## 男袷羽織の裁ち方

### 表用布　並巾 10 米 78 種



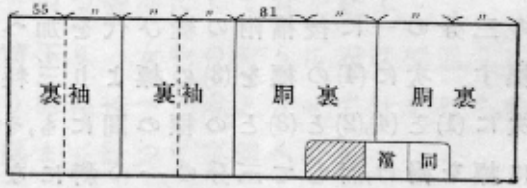

### 積り方

**公式**　{總用布－(袖丈×4＋衿用布＋前後の差×2)}÷4＝後丈

後丈＋前後の差＝前丈

(出來上り身丈＋衿肩明＋前下り＋衿先縫ひ代＋繰越し×2)×2＝衿用布

## 羽織裏の裁ち方

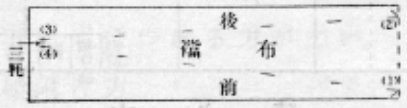



### 積り方

**公式**　袖丈×4＋(出來上り身丈×2－後丈＋胴接ぎ代)×4＝胴裏用布

## 襠の標附け方圖

(1) 縫ひ代　1糎
(2) 下の襠巾
(3) 下の襠巾÷3＋後裾の縫ひ代＝後上部の縫ひ代
(4) 3の標より3耗計る




襠巾を三耗にして標をつける。
標をつけるにはまづ表裏にそれぞれ女物の場合のやうに重ねておき,襠丈を計り,胴接ぎの標をして圖のやうにおく。

(1)の標を前襠附の縫ひ代として一糎に標をつけ,(2)の標を襠巾を計つて標し,(3)の標は下の襠巾の三分の一に後襠附の縫ひ代を加へた寸法を標す。次に(4)の標を(3)の標より三耗に標つけ,次に(1)と(4),(2)と(3)との標の間にも,それぞれ斜に標を附け,而して三分の一の斜になつた方を後襠附とし,三分の二斜になつた方を前襠附にする。
衿の折り方は本裁女物袷羽織の章で述べた通りである。特に合標をつけることを忘れてはならない。



### ㊄ 縫ひ方の順序

一,袖。二,身頃。三,前下り。四,後襠附。五,衿附。六,袖附。七,袖附の留め方。

**1, 袖**　裏袖に袖口布をかけ,男物袷の袖口のやうに袖口を縫ひ合せ,四つ留をし,袖口下から袖下の巾の中途までを縫ひ,半分程縫ひ殘しておき,袖の丸みを作つておく。

**2, 身頃**　後前の胴接ぎをして裏へ折り,隱し鞝をかける。
後の胴接ぎをよく合せて背縫に針を打ち,衿肩の裁ち目を表裏四枚揃へて針を打ち,表を見て,標通り四つ縫ひにして背を縫ふ。

**3, 前下り**　女物のやうに表は標通りに,裏は標より四耗控へた處と合せて針を打ち,前巾の標の處まで縫つて裏側へ折る。

**4, 後襠附**　襠の上部を丈の標から表も裏も縫ひ込みを內側へ折り,毛抜き合せにして標をよく揃へて待針を打ち,襠の中央を假鞝で押へ,

まづ後襠を後身頃の間に挟んで裾の處に針を打ち,更に,袖附の標とをよく合せて針を打ち,その間にも二·三箇所に針を打つて,一針抜きに縫ひ,平烙鏝を縫ひ目に當てゝ表側へ折り,表に返して更にきせを正す。かうして左右の襠をつける。

5, **衿附**　衿附は,繊袍附,又は袋附といひ,一度につけて,裏で絎けなくてもよい。

まづ衿肩廻しから前身頃の衿先まで,表と裏の裁ち目をよく揃へ,衿附の廻りを七粍の深さに假とぢをしておく。

左右の乳をつくつて乳下りに縫ひつける。

次いで身頃の衿附の標と衿縫ひ代とを合せて針を打ち,全體に待針が打てたら,まづ上前の衿先から順に身頃を衿の中に疊み込むやうにして衿で身頃を包み,合標を合せて針を打ち直す。

衿附の調子は女物袷羽織に同じ。

全體を打ち直したならば懸針にかけ,上前の衿先から縫ひ始め,全體は一針抜きにして,糸がつれぬやうにし,乳の處と衿先十糎位とは返し針



に縫ひ,衿肩の處で一針返して留める。それより衿肩明の間は衿の裏を離して表と身頃のみを縫ひ,下前の方も上前と同じやうにして衿をつける。地質の薄いものは衿肩明で裏を離して,表と身頃のみを縫はないでつづけて胸の邊まで縫ひ,乳下りの二十糎位上をあけておき,ここから引返してもよい。

左右の衿附が出來たならば,縫ひ目に平烙鏝を當て,表衿卽ち芯の入つてゐる方に三粍のきせをかけて折りをつけ,次に左右の衿先を縫ふ。

卽ち衿附の終りから一糎先の處を縫ひ,縫ひ込みを折つて少し引上げるやうにして表衿附にとぢつける。

これが左右出來たならば,衿肩明の開いてゐる處から,なるべく皺の出來ないやうにして,前身頃を引出して衿を表に返し,衿先を正して三つ衿の處を細かく絎け,衿に躾をかける。

6, **袖附**　袖附は前襠をつけない前に表も裏もつけるのである。

まづ,表袖を普通につける。この際附始めと附

終り,即ち襠の際の處を前袖附,後袖附共,四粍づゝ縫ひ殘す,裏袖附は折りが表と反對になるやうに縫ひ,折りをつける。そして前袖附の方は附始めから八糎だけ縫つたら,二十三糎ほどあけておき,そこから又後袖附の終りまでを縫ふ,この際袖附の始めと,終りとを四粍づゝ縫ひ殘すことは表袖附の通りである。

**7,袖附の留め方**　兩方の袖をつけたら留をする。まづ袖附の襠の際を持ち,表の後袖附の處へ表の前袖附を中表にして重ね,次に裏の後袖附の處に裏の前袖附を中表に重ね合せると,表前袖附·表後袖附·裏後袖附·裏前袖附といふ順に重なる。これを二本の絲を持つて留めるのである。留め方は今重ねた順序の通り,表前袖附の處を手前にし,次のやうに針を通す。「表身頃·表袖·表袖·表身頃·裏袖·裏身頃·裏身頃·裏袖」この順序にして身頃は襠の極く際を,袖は二粍の弛みをとつて,折り山の際を留める。これを八つ留といふ。かうして堅く結び,針についてゐる一本の絲を殘し,殘り三本の絲を撚り合せ,殘した一本の絲で袖下の殘りを縫ふ。この時,裏袖の縫ひ込みを三角に折り,折り合のよくなるやうにする。



前襠は前身頃で挟んで四つ縫にしてつける。縫ひ終つたらば裏の前袖附の殘りを紩けて仕上げをする。

**備考**　一,本裁男物袷羽織の襠の附け方を述べよ。
二,本裁男物袷羽織の衿の附け方を述べよ。
三,本裁男物袷羽織の袖附の留め方を問ふ。

# 第二十章　一つ身袖無し綿入羽織

一・二才用の羽織として,普通は袖無し綿入羽織を多く用ひる。次に述べるのは最も一般に用ひられてゐるものであるけれども,仕立上りの寫眞にいろいろの形があるやうに種々工夫して愛らしいものを作るがよい。

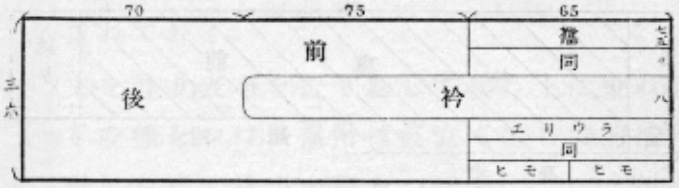
## ㊀普通仕上げ寸法

| | |
|---|---|
| 身　丈 | 五五糎 |
| 身　巾 | いつぱい |
| 衿肩明 | 四糎 |
| 脇　明 | 二三糎 |
| 襠　巾 | 上三糎五粍<br>下五糎五粍 |
| 衿　巾 | 四糎 |
| 紐　丈 | 二三糎 |
| 紐　巾 | 一糎二粍 |
| 紐　附 | 二〇糎 |
| 前下り | なし<br>或は　五粍 |

## ㊁裁ち方と積り方

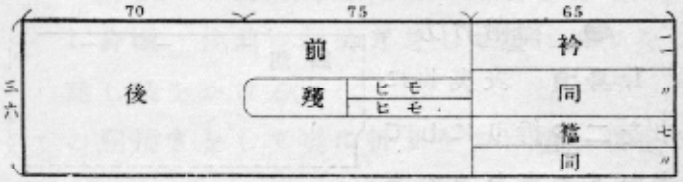


### 一つ身袖無し羽織の裁ち方　(一)




積　り　方

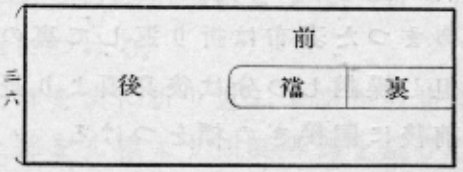
**公式　{用布－(前後の差＋襠丈)}÷2＝後身丈**




積　り・方

**公式　{用布－(前後の差÷衿丈)}÷2＝後身丈**

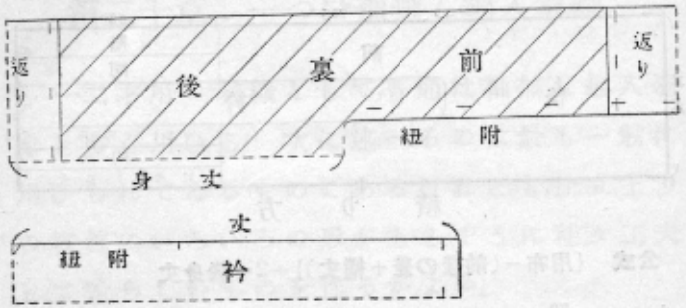
### 裏の裁ち方




積　り　方

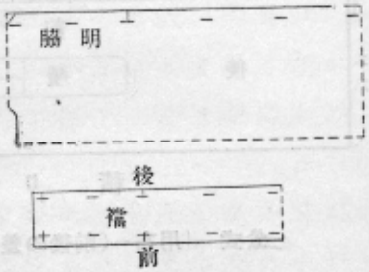
**公式　出來上り身丈×4－表裁ち切り身丈×2＋(前後の差×縫ひ代)×2＝裏總用布**

標　附　け　方　圖




㊂　標附け方

1, **身頃**　表裏共に巾を二つ折りにして表を下に,裏をその上に重ね,動かないやうに處々を針で留めるか,又は肩の處を躾で表裏をとぢておく。身丈を計り,あまつた表布は折り返して裏の上に重ねる。但し繰越しの分は後身頃より長くしておく。前後に胴接ぎの標をつける。




後身頃を肩から折つて前身頃の上に重ね,圖のやうにし,脇明・身巾の標をつける。後身頃を左の方に開いて,前巾・紐附の標をつける。



2, **襠**　表裏別々に中表に合せ,表襠の上に裏を重ねておく。

襠丈を計り,表布を折り返して裏の上に重ね,胴接ぎの標をつけ,後襠附は眞直ぐにして,前襠附で斜に曲げて襠巾の標をつける。

㊃　縫ひ方順序

一,身頃。二,綿入。三,衿附。四,肩揚・背守り。

1, **身頃**　後前の胴接ぎをして裏に折りをつけ,隱し躾をかける。

襠の胴接ぎをして裏に折りをつけ,隱し躾をかける。

後身頃及び前身頃に襠をつける。この際,標附け方の處で說明したやうに,眞直ぐの方を後襠附とし,斜の方を前襠附とする。折りはどちらも身頃につける。

襠の上部を裏に折り返して裏から留をする。

襠の上部を丈標より四粍外側を縫ひ,含み綿をする。

次に脇明を表は標より四粍外を,裏は標より四粍內を合せて縫ふ。この際留より三糎位の間

で自然に斜に縫ふ。折りは裏につけ隠し躾をする。そして表に返すと出來上りの巾には變りがなくて留の處で襦形のやうになる。

2, **綿入**　裏返して後身頃を外に前身頃を中にして襠巾の中央より正しく折り,表布の裏を出して廣げる。

眞綿をよく延して全體に釣れないやうに引く。そして小袖綿を三枚位の厚さに入れる。肩や裾は十糎位づゝ兩脇は前巾だけ長く綿を切る。裾は一枚芯を入れて折り返し,その上に眞綿を引いて衿肩の處から中へ手を入れて引返す。前身頃も後身頃と同じやうにして左右とも綿を入れて表に返す。次によく綿を含め,裾の假とぢをし,次いで衿附の裏の巾を少し弛め加減にしてとぢる。

紐は巾四糎,長さ二十三糎位の布の中に綿を入れて二本新け上げ,肩から二十糎下つた處の裏身頃に縫ひつける。

3, **衿附**　前身頃の裏に衿の表を合せる。そして,まづ背から衿肩廻し及び紐附までは衿を



弛め加減にし,それから下は,平な調子に待針を打つて,裾の方五糎位を半返しに,他は全體一針抜にして縫ふ。縫目に平烙鏝をかけ,身頃に三糎,衿に四糎のきせをかけて折り,次に衿先の標より五糎先を縫つて,衿の表に折り返し,留をして綿を入れ,表に返して新け上げる。紐附の少し上まで衿の中央に飾り躾をかけ,兩方の前襠附を縦とぢする。

4, **肩揚・脊守り**　肩巾の眞中を山にして,二糎の深さに,山から十七糎位卽ち脇明の凡そ三分の二位の處まで肩揚をする。

前の方は下へ行くほど次第に淺く揚をする。

適宜に背守りか,又は背紋を縫ふ。

**注意**　前下りをつける時は,別に前下りを縫はないで胴接ぎの處で前下りの分を斜に標をつけて縫ふ。この仕方は表が澤山返るものは出來ない。

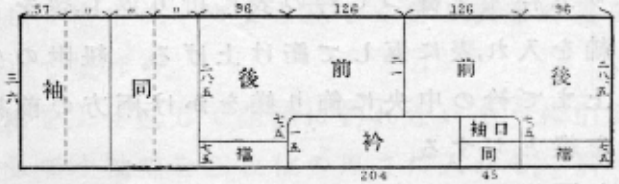
**備考**　一,並巾一米十糎の布で一つ身袖無し羽織の裁ち方をせよ。

二,一つ身袖無し羽織の裁ち方一圖と二圖とを比較してその長所短所をあげよ。

# 第二十一章　中小裁羽織被布の裁ち方

## 四つ身羽織の裁ち方（長袖）

用布並巾 6 米 72 糎．前後の差 30 糎



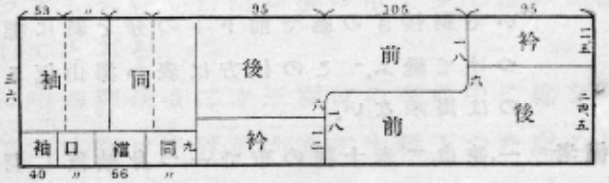

### 積り方

**公式**　**（袖丈＋後丈）×4＋前後の差×2＝總用布**
**｛總用布－（袖丈×4＋前後の差×2）｝÷4＝後丈**

## 三つ身羽織の裁ち方（長袖）

但し兩面物

用布並巾 5 米 7 糎．前後の差 10 糎




### 積り方

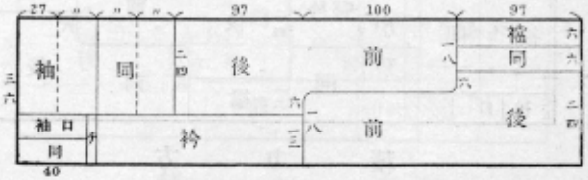
**公式**　**袖丈×4＋後丈×3＋前後の差＝總用布**
**｛總用布－（袖丈×4＋前後の差）｝÷3＝後丈**



## 三つ身羽織の裁ち方（筒袖）

但し兩面物

用布並巾 3 米 99 糎．前後の差 3 糎

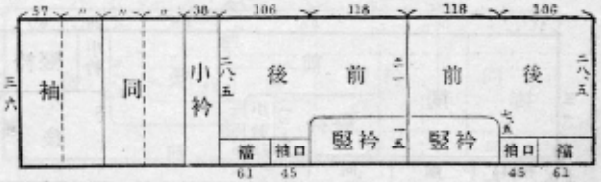



### 積り方

**公式**　**袖丈×4＋後丈×3＋前後の差＝總用布**
**｛總用布－（袖丈×4＋前後の差）｝÷3＝後丈**

## 四つ身被布の裁ち方

用布並巾 7 米 10 糎．前後の差 12 糎

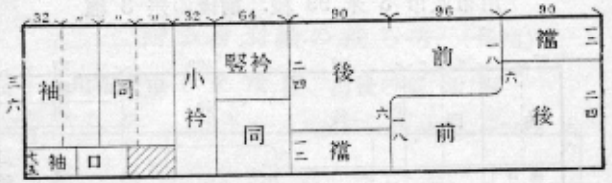



### 積り方

**公式**　**袖丈×4＋後丈×4＋小衿丈×前後の差×2＝總用布**
**｛總用布－（袖丈×4＋小衿丈＋前後の差×2）｝÷4＝後丈**

## 三つ身被布の裁ち方（元禄袖）

用布並巾 5 米. 前後の差 6 糎



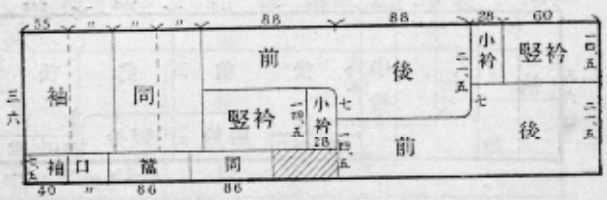

積　り　方

公式　袖丈×4＋小衿丈＋竪衿丈＋後丈×3＋前後の差＝總用布
{總用布－(袖丈×4＋小衿丈＋竪衿丈＋前後の差)}÷3＝後丈

## 三つ身被布の裁ち方（長袖）

但し片面物

用布並巾 4 米 84 糎. 前後の差なし



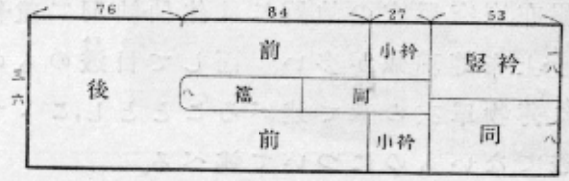

積　り　方

公式　袖丈×4＋後丈×3＝總用布
(總用布－袖丈×4)÷3＝後丈



## 一つ身袖無し被布の裁ち方

用布並巾 2 米 40 糎. 前後の差 8 糎

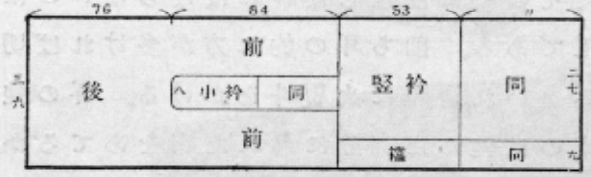



積　り　方

公式　後丈×2＋前後の差＋小衿丈＋竪衿丈＝總用布
{總用布－(小衿丈＋竪衿丈＋前後の差)}2＝後丈

## 一つ身袖無し被布の裁ち方

用布並巾 2 米 66 糎. 前後の差 8 糎




積　り　方

公式　後丈×2＋前後の差＋竪衿丈×2＝總用布
{總用布－(竪衿丈×2＋前後の差)}÷2＝後丈

# 第二十二章　絹布，麻布單衣

絹布，麻布單衣の地質には銘仙・紬・羽二重・縮緬・帷子（かたびら）・上布等種類が多い，而して目透（めすき）のものは特に薄物單衣の章で述べることとし，こゝでは目透でないものについて述べる。

## ㊀　普通仕立上げ寸法

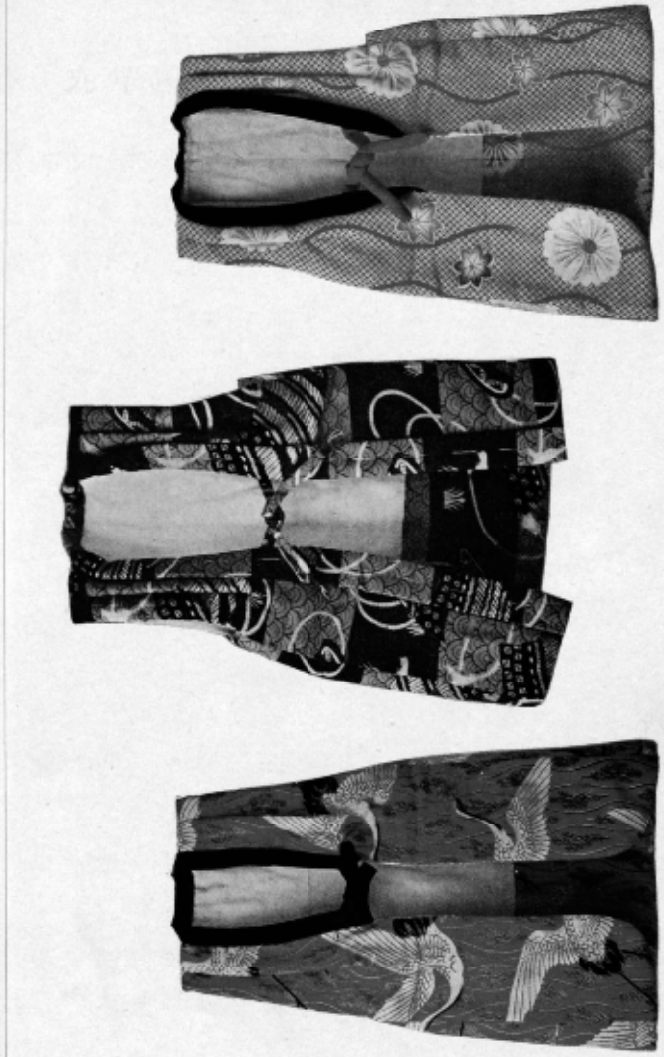
すべて寸法は地質が異つても大して變るものでなく，本裁女物・本裁男物・中小裁物それぞれ所定の寸法に仕上げる。

## ㊁　裁ち方と積り方

絹布單衣の裁ち方と積り方も綿布に同じ。ただその特に注意しなければならないのは地直してある。卽ち耳の釣れ方が多ければ切り込みをいれ，全體に火熨斗をかける。耳の弛んだものは，弛んだ部分に濡れた布をあてるか，又は霧を吹いて，布を縮ませて後火熨斗をかける。

## ㊂　標附け方

筵臺の上に必ず布又は紙を敷いて標を附ける。又一體に地薄であるから筵の用ひ方に特



一つ身袖無し綿入羽織

に注意を要す。絹布標附け用の筆又はチョークを用ひる。

㈣　縫ひ方

縫ひ方の順序には變りはない。次に仕方の違ふ點について述べる。

1, 總體に綿布より針目を細かく三糎位とし, 縫ひ目に烙鏝をかける。

2, 脇縫は本縫の外七糎位の處を今一條縫ひ, 縫ひ込みを裾まで開く。脇・衽・袖及び八つ口の縫ひ込みを折り絎にする。

3, 衽の褄先は額緣とするか,又は綿布と同じにしてもよい。額緣の仕方については,薄物單衣にくわしく述べる。

4, 肩當は裁ち目を巾五糎位の三つ折絎とし, 巾は袖附の縫ひ込みに絎けつける。

5, 袖口に袖口布を用ふるものは,袖口を毛抜合せとし,袖口元に四つ留をし袖口下を表裏別々に縫ひ,縫ひ代を割つてとぢつけ後,袖口布の奥を絎けつける。袖口を三つ折絎とする時は, 木綿物よりは細く折つて細かく絎ける。但し

四つ折にして絎けてもよく,又撚り絎にしてもよい。

6, 仕上げ。白の新モス又は金巾を被ひ,その上より火熨斗又はアイロンをかける。



# 第二十三章　毛織物單衣

## ㊀　普通仕立上げ寸法

毛織物單衣の普通仕立上げ寸法は,本裁,中小裁共木綿物と變りがない。

## ㊁　裁ち方と積り方

すべて毛織物は濕氣にあへば多少縮むものであるから,裁つ前にまづ布地の兩端を合せて縫ひ,輪にして數時間水又は溫湯に浸しておき後ひき上げて日光の强くない處にかけて,時々上下を換へて乾し,少し濕氣のある內に取り入れてアイロンをかけ,その伸縮を平らにして後裁ち切る。但しセル・メリンス等の如き地薄物は,この限りではない。

用布は大巾物であるから後に述べる大巾物各種裁ち方のやうに裁ち方及び積り方をする。尙裁ち方は工夫するがよい。

## ㊂　標附け方

標附をするには,なるべくチヨークを用ひ糸標をする。これは角篦等を强く使へば地質を

いためるからである。

1, 袖　外袖を一糎程長くして二つに折り兩袖を重ねて標をつける。

2, 身頃,衽,衿等木綿單衣物に同じ。

㉙　縫ひ方

一,袖。二,背縫。三,肩當,揚,居敷當。四,脇縫。五,衿下紩及び裾紩。六,衿附。七,袖附。八,仕上げ。

**1, 袖**　標の通り袖を縫つて內袖の方に折り返し,袖口をまつり紩にし,袖下と袖口下とは千鳥掛にする。

**2, 背縫**　半返しに縫ひ烙鏝をかけて縫ひ目を千鳥掛にする,居敷當と肩當の下も千鳥掛にして置くがよい。

**3, 肩當,揚,居敷當**　絹布,麻布單衣のやうに,肩當,居敷當をとぢつけ,男物は前後とも內揚をして隱し躾をかけ,背縫の處,揚の縫ひ込み,居敷當の兩側を千鳥掛か又はまつり紩にする。但し略して普通より丁寧に紩けてもよい。

**4, 脇縫**　脇縫は細かく半返しに縫ひ,縫ひ目を開いて烙鏝をかけ縫ひ込みの兩端に千鳥掛をする。衽をつけて縫ひ込みは千鳥掛にする。



**5, 衿下紩及び裾紩**　棲先を額緣とし,衿下及び裾紩の三つ折をまつり紩にする。

**6, 衿附·共衿**　木綿物に同じ。

**7, 袖附**　袖附は細かく半返しにし,縫ひ目を開いて烙鏝をかけ,袖の縫ひ込み及び八つ口,身八つ口に千鳥掛をする。

**8, 仕上げ**　仕立上つたら裏から霧を吹きアイロンをかける。

**注意**　一,共衿は衿布に縫ひつけて同時に衿附をする。

二,縫ひ目を割るには開いて少し濕氣を與へて烙鏝をかける,その他の折り目もこのやうにする。

**備考**　一,毛織物の仕立てについて特に絹布と違ふ點を述べよ。

# 第二十四章　絹布・毛織物の縫ひ方

絹布・毛織物の縫ひ方も綿布と同じ様に接ぎ方,繼ぎ方を含むものであつて,その方法は綿布と多少違ふので次に述べることにした。

## 第一　絹布の縫ひ方

### ㊀　接ぎ方

接ぎ方には片返し・割り接ぎ・掛け接ぎ・織り接ぎ・寄せ接ぎ等の種類がある。

接ぎ方には,ほつし絲か又は共色の菅絲を用ひ,時には生絲を使ふこともあり,又,縫絲をつかつて差支へないものもある。

針は掛け接ぎ用の細いもの,即ちメリケンの十二番位が適當である。

**1, 片返し**　綿布の場合と同じやうに,よく布目・縞目を合せ,躾で二枚の布を押へておいて縫ふ。その針目はなるべく細かい方がよい。

**2, 割り接ぎ**　綿布の場合に同じ。

その仕方は縫ひ目を割り,姫糊か,續飯(そくいひ)の淡くしたものを針尖につけて,裏から接ぎ目に引いて,



表裏に烙鏝をかける。

**3, 掛け接ぎ**　縫ひ方は綿布の場合に同じで,その仕上げ方は綿布の割り接ぎに同じである。即ち,縫ひ目を割つて姫糊か,續飯(そくいひ)の淡くしたものを,裏から接ぎ目にひいて,表裏に烙鏝をかけるのである。

縮緬類は特別であつて,同じ掛け接ぎと云つても,その方法が少し違ふ。まづ布目や縞目に注意して,接ぎ代を折り,次に西の内か,又は厚美濃類を縦に二糎の巾に裁ち切つて,之を接ぎ代の折り目の間に挟んで躾をかける。

兩方の折り山を正しく合せて躾をかけて,經(たて)絲凡そ二本おき位に緯(よこ)絲一本を抄つて,五本ごとに一針づゝスカラ掛けにして,全體出來上つたら,紙を取り捨て,割り接ぎのやうにして仕上げるのである。

**4, 織り接ぎ**　裏にも接ぎ目のあらはれないやうに接ぐ仕方であつて,まづ一方の布の端を十糎位ほつしておいて,兩方の縞目や布目をよく合せて一糎位重ねて躾をかけ,ほつした絲を

一本づゝ針に通して,他方の布の綻絲を抄つて,布目の通り二糎位刺していつて,絲を引き締め,よく接ぎ目を合せる。これが全體すんだら絲や布の餘りを切り捨て,烙鏝をかけて仕上げる。

5, **寄せ接ぎ**　この接ぎ方は,一般に使ふことはないけれども,縮緬類の衿肩明の裂けた場合とか,大人物を子供物に直す時等に施す方法である。その仕方は,先づ接ぎ目のほつれは,綺麗に切り取つておいて,布目と縞目によく注意して,裁ち目を突き合せ,双方にも裏から一糎程の深さに布目を刺して,接ぎ合せ烙鏝をかけて仕上げる。

## ㊁ 繼ぎ方

繼ぎ方には,色紙繼ぎ・刺し繼ぎ・穴繼ぎ等の種類がある。繼ぐには,ほつし糸か,又は共色の絲を使ひ,針は繼ぎ針を用ふ。

1, **色紙繼ぎ**　綿布の場合と大體同じであるが,針目は二目落しか,三目落しにして,極く細かくすること等が綿布の仕方と違つて居る。

2, **刺し繼ぎ**　これは綿布と同じである。地が弱つても色紙繼ぎにする程のこともない時には布をあてないで,色紙繼ぎと同じ要領で刺しておく。



3, **穴繼ぎ**　損所を圓形か方形に切り去り,圓形ならばまはりに,方形ならば四角に切り込みを入れ,裏へ縫ひ代を折り返して烙鏝をかける,共布を裏に當て,よく布目や縞目を合せて,鞍で押へて置いて細かくまつりつける。全部まつりつけたら繼ぎ布の廻りにも切り込みを入れて,縫ひ目に濕りをおいて裏から丁寧に烙鏝をかけて仕上げる。

## 第二　毛織物の繕ひ方

こゝでは主として毛織物中の地厚の物について述べる。メリンスのやうな地の薄い物は,綿布か絹布のやうにする。糸・針の注意は,絹布の場合に同じである。しかし解糸は使はない。

1, **突き合せ接ぎ**　地厚の毛織物の繼ぎ方は全部この方法である。その仕方は,まづ接ぐ布の兩端を平に切り揃へ,毛並・縞目等に注意してよく裁ち目を突き合せ,兩方とも二糎位の深さ

に布目の中を抄つて,接ぎ目の處のみ表に出して細かに刺す。

烙鏝をかけ刷毛で毛並を整へて仕上げる。

2, **色紙繼ぎ**　これもなるべく針目の表に出ない樣に布地の間を抄つてする。

3, **穴繼ぎ**　先づ繼ぐべき穴と布を四角とか,圓形とか,それぞれよく合ふやうに裁ち,裁ち目を合せてよくはめこんで動かかぬやうに假で押へ,次に突き合せ接ぎと同じ仕方でつぐ。



# 第二十五章　子　供　帶

## ㊀　普通仕立上げ寸法

女兒の帶は,巾一九糎位,丈二米四十七糎位のものを普通とす。

その巾の廣くなるとともに,丈も長くなり,巾二十三糎位に,丈三米八十糎位の物もある。

## ㊁　布の整理

何を仕立てるにも,最初に布の整理をすることが肝要であるけれども,帶を仕立てるには,特に布をよく整理しなければならない。耳の鉤れて居るものは烙鏝でのばし,全體に火熨斗をかけて疊み目の折りや皺をよくのばして布を平にする。

## ㊂　標附け方

帶地の巾を中表に二つ折りにして正しく置き,つり合をよく調べる。

端から五糎位入つた處に假絎をかけ,次に巾の標附をする。

標附は輕く通し篦でするか,又はチヨークの端

を尖らせて輕く通し標にする。

仕立上げ寸法にきせとして三粍を加へたるものを巾の標とし,次に丈も,布目を通して正しく標をつける。

### ㊃ 縫ひ方順序

絎臺にかけて小針に一針ぬき,又は地質の軟かい時は抄ひ針で縫ふ。中央を帶巾だけ殘して全體を縫ひ,兩端は半返し縫ひにする。

躾を全部取り去つて,丈に四粍,巾に二粍のきせをかけ,尙眞中の縫ひ殘した處にも折りをつけておく。

**芯拵(こしら)へ** 芯を拵へるには,まづ芯地の耳を眞直ぐに裁ち落し,次に仕立上げ帶巾から二粍減じた寸法に,他の一方を裁ち切り,丈は凡そ帶丈四十糎につき,五粍の割合に,芯の丈を長くしておく。

**芯の入れ方** まづ帶地を長くのばし,その上に芯地を正しくおき,下の帶地ばかりを靜かに引きのばす時は,その帶地に對する適當の弛みができるから,待針をして,芯丈を裁ち切り,縫ひ



目の方にとぢつける。

芯をおこして眞綿を引き,芯地をもとの位置に返し,その上にも亦眞綿を引く。

火熨斗でその眞綿を芯地につけ,帶地の輪の方に引糸を三十糎おき位につけ,角を先に少し返しておき,次にゆるく帶を卷いて,芯のねじれないやうにして表に返す。

子供帶仕立上りの圖

表返したならば,正しく全部に躾をかけ,それから中央の縫ひ殘しておいた部分を細かく,本絎けにする。

仕立上つたならば火熨斗をかけ,二·三時間壓をしておき,圖のやうに六つ折りの屛風だゝみにしてとぢ,飾り糸をかける。飾り糸は普通は紅白二筋の糸でするが,祝儀用には,五色の色ですることもある。

# 第二十六章　腹合せ帶

## ㊀　普通仕立上げ寸法

巾　二八——三二糎

丈　三八〇——四一五糎

帶巾は時の流行によつて廣狹があり,又用ふる人の體格によつても廣狹を考へる必要がある。卽ち丈の高い人は廣く,丈の低い人は狹くすると格好がよいものである。

腹合せ帶は別名を晝夜帶とも云つて,普通兩側異つた帶地を合せて仕立てるものである。

## ㊁　布の整理

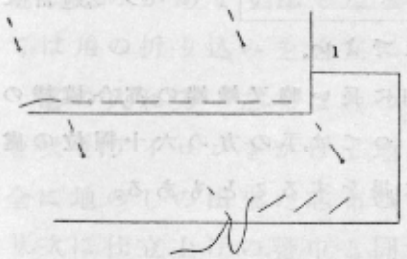
どんな織方の帶でも仕立にかゝる前には必ず布の整理をすることが大切である。

まづ布の耳を合せ,織出しと織出しとを揃へて見て長短があつたならばその差をよく調べて,幾度も布目の正しく揃ふまで充分に直す。そして織耳が釣れて居て,手で直らないものは,火熨斗か又は烙鏝で伸ばし,帶地の中央よりも,織耳の少し弛む加減にする。



もし織耳の釣れ方の甚だしい場合には,布の端に切り込みを入れて後烙鏝で伸ばす,兩耳を伸ばしたならば,帶地全體に火熨斗をかけて丁寧に布の地のしをする。

假縫のかけ方圖




こうして片側を直した上で,兩側を合せて見て同じ調子によく揃ふまで直すのである。

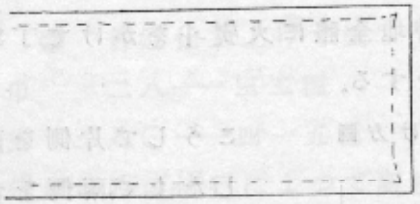
## ㊂　標附け方

布の整理が完全に出來たならば帶側の表を中にして二枚合せ,釣合を見て,中央に四十糎をき位に待針を打つ。帶の兩側の釣合をよく檢べたならば次に縫ひ代の邊を見計らつて,圖のやうに絹糸で假とぢをする。

帶巾は仕立上げ寸法に四糎を加へ,模樣の加減を見計つて巾の標をつけ,丈の標をもする。四角は更に二糎づゝ丈巾を廣く標をつけて出來上りのきせを多くする。

標は輕く通し篦を用ふ。

帶の角の縫ひ方圖



**注意**

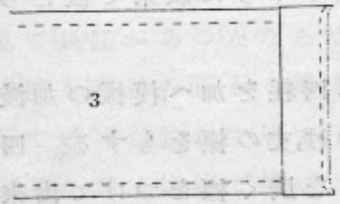
一,繰出しは全部出さないで模樣の加減を見計つて,適當に縫ひ込んでよい。

二,片側特別に長い時又縫端の都合,模樣の如何によつては,手の方の六十糎位の處に,適當に揚をすることもある。

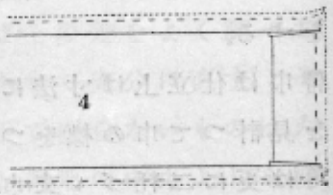
### ⑮ 縫ひ方

兩端三十糎の間を細かく半返し縫にし,他は一針拔きか又は抄ひ針にして,一方の中央を帶巾だけ殘して全體縫ふ。兩端は半返し縫とす。

折り方圖（一）




折り方圖（二）




布の角はただ,眞直ぐに縫つたのでは鈍つて直



角に引立たぬから,圖に示したやうに二粍程突き出して縫ふ。

**折りのつけ方**　まづ端に四粍のきせをかけて折り,縫ひ目にとぢつけ,次に竪に二粍のきせをかけて折り,角を整へてよくとぢつける。縫ひ込みがあまり厚くなるやうなら,物によつては角の折り込みを適宜に切り落してもよい。

**芯の入れ方**　芯布は裁つ前に全體に平に霧を吹き,アイロンをかけて地のしをしておく,完全に地のしの出來た芯布の一方の耳を裁ち切り,次に仕立上げの帶巾と同寸法に他の一方を裁ち切る。

丈は凡そ帶丈四十糎について五粍の弛みを加へておく。芯は概して地質の薄い方に含め,しかも表に含めるものである。故に折りをつける時もそのつもりで附けなければならない。

帶の縫ひ込みの折返つた方を上にして長く伸しておき,その上に裁ち切つた芯を載せて,一方の端に芯を待針でとぢつけておき,他方の端から帶地のみを引いて靜かに離し,芯の弛みを定

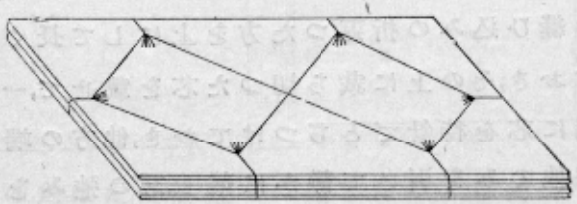
めて,二十糎おき位に待針を打ち芯を平等に弛めておく。

次に待針を縫ひ目の方に移して,芯を縫ひ込みにとぢつける,その針目の大きさは上を二糎位下を一糎以内にする。芯の一方をとぢつけたならば,芯を向ふに起して,帶側に眞綿を引き,次に再び芯を帶側の上において,他の一方を捻れぬやうにとぢつけ,その上に眞綿をひいて,四方に引絲をつけ,角を先に返して置き,次に縫ひ殘した處から表に返す。

よく引合せをして四方に襞をかけ,前に縫ひ殘してをいた處を細かく絎ける。帶の兩端は端より五粍程離れた處に襞をかけ,又全體にも襞をかける。

**仕上げ**　火熨斗を掛け,壓を置く。

袋合せ帶仕立上りの圖





**飾りとぢ**　六つ折りの屏風疊み又は二つに折り後三つ折りにして,紅白の糸を二重にし,帶巾の中央に兩端から各々四糎の深さにとぢ,次に丈の兩端から各々四糎づゝ取り,その殘りを四等分して仕立上り圖のやうにとぢをし,都合六個所とぢ,終つたならば,糸を菱形にかけておく。

**注意**　一,地薄のため二枚芯を使ふ場合は,一枚を帶巾に裁ち,他の一枚を帶巾よりも縫ひ込みだけ狹く裁ち,二枚を合せて一枚芯と同じやうに入れる。

二,絹,紗等の薄物には二枚芯を用ふ,この場合の二枚芯は二枚を帶巾に裁ち切り,縫ひ込みを芯の間に挟んでとぢつけるのである。出來上つて表に返す時は兩面いづれから見ても縫ひ込みのすけて見えることはない。

三,帶側兩方の釣合は地質によつて違ふ。例へば縮緬と繻子とを合せる場合は縮緬の伸び加減を見計らつて,縮緬の方を少し張り目にする。

又絞り類は絞りの妙味を損じない程度に火熨斗をかけて相當の帯巾に伸ばし，物によつては極くうすい新モス，又はガーゼで裏打ちをすることもある。

**備考**　一，腹合せ帯の縫ひ方順序を述べよ。

二，羽二重と博多との合せ方について注意すべきことを述べよ。

三，繻子と鹿の子絞りとの合せ方について注意すべきことを問ふ。

四，帯芯の地直しの仕方を問ふ。

**附記**

名古屋帯

近來名古屋帯，輕裝帯，又は文化帯等といつて，帯の片側のみで，丸帯のやうに仕立てゝ締めることが流行してゐる，而して用布の總丈は四米内外である。

㊀　普通仕立上げ寸法

狹い部分

丈　二米内外(胴の二廻りで五〇糎位)

巾　一五糎位

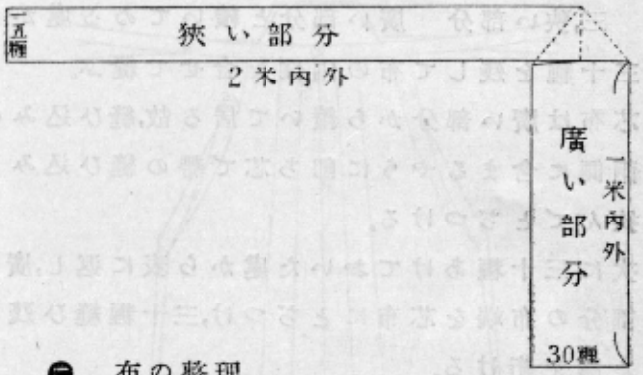


廣い部分

丈　一米内外(後で結ぶことの出來る長さ)

巾　三〇糎位

仕立上りの圖




㊁　布の整理

腹合せ帯のやうに布の整理を充分にする。その方法は腹合せ帯に同じ。

㊂　縫ひ方順序

一，廣い部分。　二，ポケット。　三，狹い部分。

一，廣い部分　まづ廣い部分を縫ひ，短い布の方に折りをつけ，芯を入れて表に返す，若し表側の長さが不足ならば布の端に別布を足してもよい。

二,ポケツト　ポケツトは狭い部分につける,まづ三十糎のポケツト布の左右を縫ひ合せ,端から八十糎の處を中心にポケツト布を帶側の兩方に縫ひつける。

三,狭い部分　廣い部分と續いてゐる處から,三十糎を殘して布の兩側を合せて縫ふ。

芯布は廣い部分から續いて居る故,縫ひ込みの兩側に含まるやうに卽ち芯で帶の縫ひ込みを挟んでとぢつける。

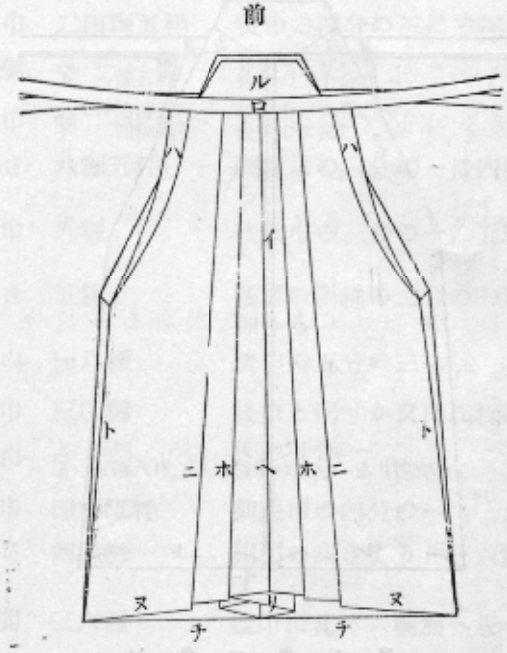
次に三十糎あけておいた處から表に返し,廣い部分の布端を芯布にとぢつけ,三十糎縫ひ殘した處を紳ける。

角の縫ひ方,折り方,紐のかけ方等すべて,腹合せ帶に同じである。



# 第二十七章　男　袴

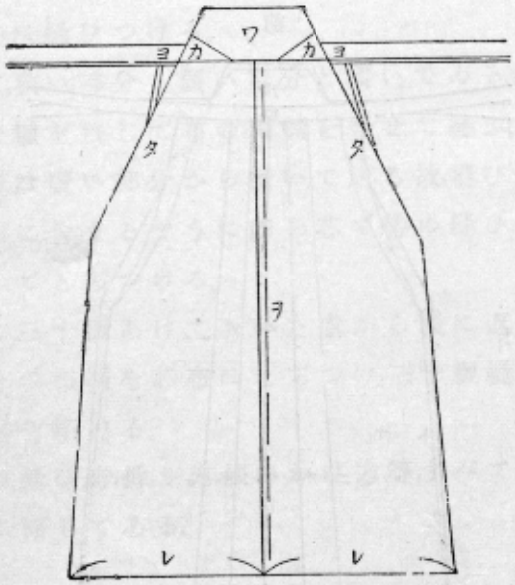
## 男袴各部の名稱




ル　裏腰
ヌ　前脇巾
リ　切り上げ
チ　蹴廻し
ト　相引
ヘ　三の髮
ホ　二の髮
ニ　一の髮
ハ　笹前
ロ　紐
イ　紐下

## 男袴各部の名稱

後




ヲ　ワ　カ　ヨ　タ　レ

後　腰　附　後　投　後

襞　板　菱　紐　げ　巾

## ㊀ 普通仕立上げ寸法と寸法の割出し方



| | | |
|---|---|---|
| 紐　下 | 八七糎 | 着丈の十分の六に四糎加へる |
| 相　引 | 六〇糎 | 紐下の三分の二に二糎加へる |
| 後　巾 | 三〇糎 | 着物の後巾に同じ |
| 後腰巾 | 二四糎五粍 | 後巾の四分の三に二糎加へる |
| 後重ね襞 | 上　三　糎<br>下　一糎五粍 | 後巾の十分の一<br>後巾の二十分の一 |
| 腰板巾 | 上　一六糎三粍<br>下　二四糎五粍 | 後腰巾の六分の四<br>後腰巾に同じ |
| 腰板高さ | 八糎五粍 | 腰板巾の三分の一に四粍加へる |
| 附菱巾 | 九糎 | 後腰巾の三分の一に五糎位加へる |
| 附菱高さ | 五糎 | 腰板の斜線の二分の一に四粍加へる |
| 前脇巾 | 一八糎 | 後巾の五分の三 |
| 前紐附巾 | 三〇糎 | 後巾と同寸か又は二糎廣く |
| 前寄襞巾 | 上　三糎<br>下　五糎八粍 | 後巾の十分の一<br>後巾の五分一より四粍狹く |
| 笹　襞　巾 | 四糎五粍 | 前脇巾の四分の一 |
| 襠の高さ | 四八糎 | 相引の高さより凡そ六糎低くす |
| 乘　間 | 三六糎 | 後巾に凡そ六糎加へる |
| 切り上げ | 六糎 | 後巾の五分の一 |
| 後　紐 | 丈　八五糎<br>巾　三糎 | |
| 前　紐 | 丈　三米——三米七〇糎<br>巾　三糎 | |

## ㊁ 裁ち方と積り方

布の數と裁ち切り寸法

| | | | |
|---|---|---|---|
| 二 | 枚 | 後巾丈 | 一米(裾に巾の三二糎の處から切り上げを一糎つける) |
| 二 | 枚 | 後襠丈 | 九九糎(切り上げを五糎つける襠の高さは五一糎) |
| 二 | 枚 | 前脇布 | 丈一米(切り上げ三糎) |
| 二 | 枚 | 前奥布 | 丈九七糎(切り上げ三糎) |
| 一 | 枚 | 腰布丈 | 二三糎(但し二つに切つ |
| 二 | 枚 | 小襠丈 | 六一糎(襠の高さ五一糎) |
| 二 | 枚 | 後紐丈 | 八五糎 |
| | | 前紐丈 | 三米—三米七〇糎(全部の長さ) |
| 二 | 枚 | 附菱丈 | 八糎　巾一二糎 |

**鋏の入れ方**

積り方が終つたならば折り方圖のやうに折り疊み右の方が裾であるから左の方に鋏を入れて,後布·後襠布·前脇布と奥布(つづいたまま)紐·腰布·小襠を切り離す。但し二枚づつ布はつながつてゐる。

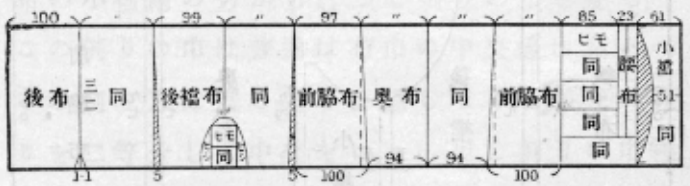
**1, 後布**　後布の裾を眞直ぐに裁ち,巾三十二糎の處から襠附の方へ一糎の切り上げを附ける。

**2, 後襠布**　後襠の裾に五糎の切り上げを附



## 本裁男袴の裁ち方

用布　並巾　9米　55糎




## 積り方

**公式**　1. **紐下＋裾絎け代＋縫ひ代＋切り上げ＝後布丈**

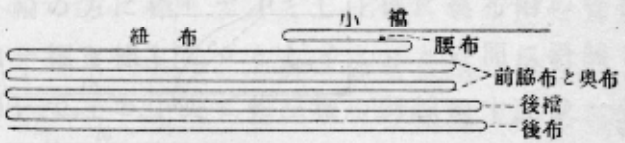
2. **{總用布－(後紐丈＋腰布＋小襠)＋裁違}÷8＝後布丈**

{ 955 －( 85 ＋ 23 ＋ 61 )＋14}÷8＝ 100

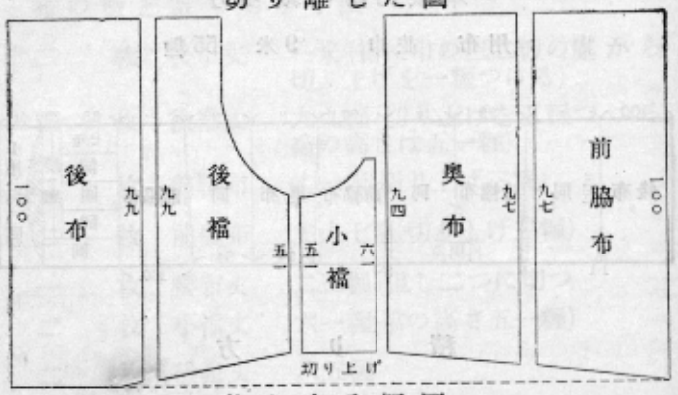
3. **後布丈×8－裁違＋後紐丈＋腰布＋小襠＝總用布**

100 ×8－ 14 ＋ 85 ＋ 23 ＋ 61＝955

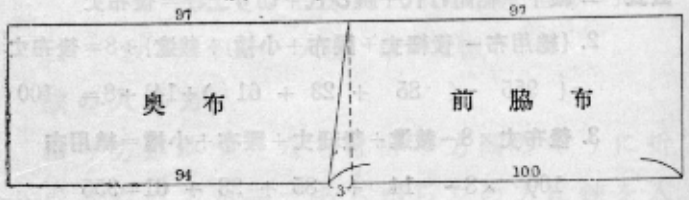
## 布の折り方圖

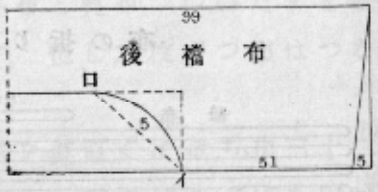


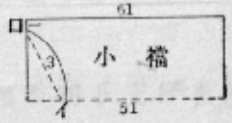
切り離した圖




裁ち方分解圖






け,そこから襠の裁ち切りの高さを標しつけ,次に乗間より小襠巾を減じた殘りの寸法を,後襠布の小襠附の方から計つて刳りの巾とする。この刳りの巾は普通は布巾の中央邊に當る。その刳り方は襠の高さを標してイとし,その殘りを二等分して中央をロとし,(但し刳りの巾標の上に)このイとロとの間に斜線を引いて,中央に五糎ほど(斜線の凡そ六分の一)の丸みをつけて刳る。その殘りからは紐と附菱とを裁つ。

3, **前脇布と奥布**　丈を二つに折つて,折り目から奥布の方へ三糎切り上げをつけると,前脇丈は一米で切り上げは三糎つき,奥布丈は九十七糎で切り上げは三糎つく。

4, **小襠**　中表にして巾を二つに折り,裾を右に輪の方を手前におき,まづ裁ち切り襠の高さを輪の方に標してイとし,上部に奥布附の縫ひ代一糎を標してロとし,イとロとの間に斜線を引いて,その中央で約三糎の(斜線の十分の一)の丸みをつけて裁ち落し,輪の方も裁つ。

5, **紐布と腰布**　つづいてゐるまま巾を五等

分して前紐一本を裁ち切り,次に腰布を取り,その残り布の巾を四等分して二本を後紐,他の二本を前紐とす。

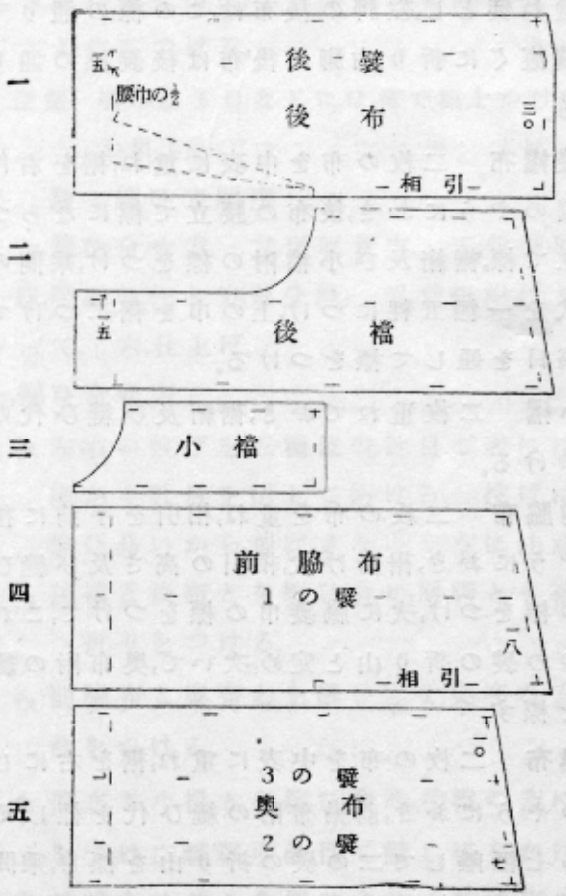
### ㊁ 標附け方

**1, 後布**　二枚の布を中表に重ね,裾を右に,相引を手前にしておき,裾絎け代を出來上り一糎になるやうに標し,次に相引の高さを標して,相引の縫ひ代を一糎につけ,次に寸法通り上下に後巾の標をつけ,後襠附縫ひ代,及び後丈の標をつける。但し後丈は紐下に切り上げと外に倘紐附の高くなる分の一糎を加へた寸法である。後丈の標の線上に,後巾の二十分の一即ち一糎五粍を後巾標より投げの方によせて標をつけ,この標から裾まで斜に標をつけて後襞の標にする。

次に後丈の標の線上に後腰の標から,投げの方へ後腰巾の二分の一を計つて標をつけ,相引の處まで斜に折つて投げとし,更に二つに折つて躾をかけ,次に上の一枚の布を取り除いて左脚の後布に,後重ね襞標をつける。即ち後丈の線



標附け方圖



上に後巾の十分の一即ち三糎を後襞標より計つて重ね襞とし,左脚の後布は,この標の通り下まで眞直ぐに折り,右脚の後布は後襞標の通りに折る。

2, **後襠布**　二枚の布を中表に重ね,裾を右にして圖のやうにおき,後布の腰立て標にならつて腰立て標,裾絎及び小襠附の標をつけ,乘間の縫ひ代を一糎五粍につけ,上の巾を裾につけて,その縞目を通して標をつける。

3, **小襠**　二枚重ねておき,裾絎及び縫ひ代の標をつける。

4, **前脇布**　二枚の布を重ね,相引を手前に後布のやうにおき,裾絎け代,相引の高さ及び縫ひ代,丈の標をつけ,次に脇襞巾の標をつけて,これを一つの襞の折り山と定め,次いで,奥布附の縫ひ代を標す。

5, **奥布**　二枚の布を中表に重ね,裾を右にして,圖のやうにおき,前脇布附の縫ひ代を標し,それから七糎離して二の襞の折り山を標し,乘間の縫ひ代を一糎五粍に標をつけ,それから十糎



計つて三の襞の折り山を標す。三の襞の深さ,即ち重ね襞の山は,この標よりも尚,五糎乘間の方へよせてつける。

**注意**　襞の折り目などには筒で標をつけず,糸標を用ふ。

## ㊫　縫ひ方順序

一,縫ひ合せ方,　二,襞取り方,　三,笹襞取り方,　四,腰板の作り方(部分縫)　五,前紐附けと腰立て,　六,仕上げ。

### 一,縫ひ合せ方

1, 左右の投げを三糎位の針目で表には極く細かく針目を出して絎ける。投げは斜で伸び易いから,伸ばさないやうに注意する。

2, 後襠と後布とを縫ひ合せ,兩脚とも襠の方へ折りをつける。

3, 前脇布と奥布とを縫ひ合せ,奥布の方へ折りをつける。

4, 奥布と小襠とを縫ひ合せ,小襠の方に折りをつけ二糎程の針目で隱し躾をかける。

5, 後襠と小襠とを縫ひ合せ,小襠の方に折り

をつけ二糎の針目で隠し襞をかける。

6, 乗間を袋縫にする。

7, 相引を縫ひ,前布の方に折りをつける。

8, 兩脚布とも,裾絎けの襞をかけて一糎五粍の針目に絎ける。この際,後布の後巾標の處に,襞を一つ取つて切り上げの形を作る。

**注意**　布の縫ひ合せには裾を揃へて縫ふ。從つて正しく裁つたものならば上も揃ふ。

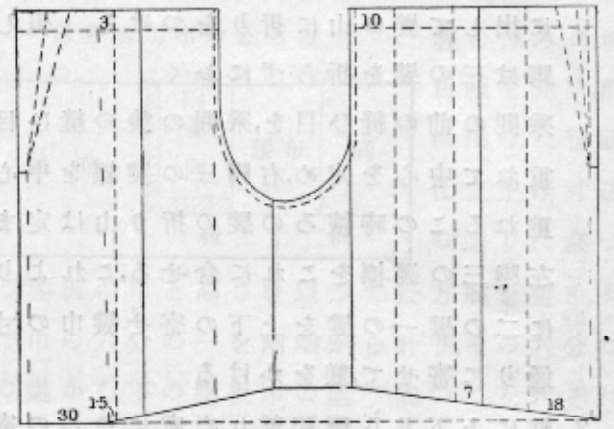
## 二,襞取り方

**1, 後襞**　乗間の處で後襠上部の縫ひ目を眞直ぐに裾まで縞目を通して,兩脚布二枚を一緒に襞で押へ,これを後の中心にする。後布の腰附を左に取り,蹴廻しを右にして,後布を出しておき,襠を右脚に折り返して中央の襞の處を折つて乗間の折りを右脚に返す。次に左脚の重ね襞を標通りに折つて中央と後布の腰巾二分の一の標と合せ,右脚は後襞の標の通り折つて左脚の後襞標の上に重ねる。即ち後重ね襞は上で三糎,裾で一糎五粍となる。その上にあら

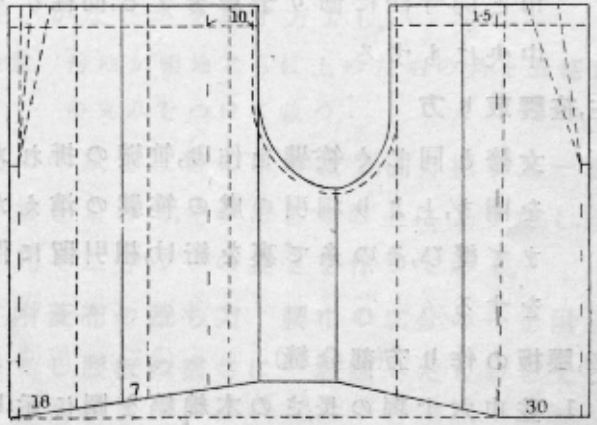


縫ひ合せ方及び襞の取り方圖

左　脚　布




右　脚　布



く襞をかける。

**2, 前襞**　襞を取つた後布を下にし,前布を上に出して襞の山に折りをつける。但し右脚は三の襞を折らずにおく。

乗間の前の縫ひ目を,乗間の後の縫ひ目に重ねて中心を定め,右脚三の襞標を中心に重ねる,この時懐ろの襞の折り山は定まる左脚三の襞標をこれに合せる,これより順に二の襞,一の襞を上下の寄せ襞巾の寸法通りに寄せて,襞をかける。

3, 襞に上下共八糎程離れた處にそこの寄襞巾と同寸法に飾り千鳥をする,同様にその中央にもする。

**三,笹襞取り方**

女袴と同じく笹襞を作り,笹襞の折れた中を開き,上より相引の處の笹襞の消えた處まで縫ひ,その糸で裏を絎け,相引留に閂留をする。

**四,腰板の作り方**(部分縫)

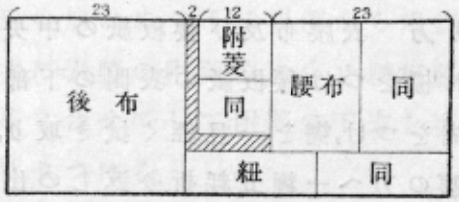
1, 並巾六十糎の長さの木綿縞を圖に示した



寸法の通りに裁つて,部分縫ひの練習をする。

**2, 腰板紙の裁ち方**　腰板紙は美濃紙二十枚程の厚みの板目紙を用ひ,前に掲げた普通仕立上げ寸法の通りに裁つ。

部分縫用布の裁ち方




まづ腰板の巾と高さを以つて長方形を畫き,次に腰巾の六分の一を兩端から計り,その六分の一の處から下の腰板巾の處へ向つて,それぞれ斜線を引き,その通りに裁ち落す。流れを計つて狂ひがないかを試す方よし。

**注意**　袴地が絹地ならば上の左右の角を五糎程の丸みをつけて裁つ。

又別に半紙を三糎の巾に裁ち,固く撚り又一糎巾の紙をもつて,そのこよりの上によりたし,腰巾の凡そ二分の一の長さを作つておく。

**3, 附菱布の裁ち方**　腰巾の二分の一を附菱の巾とし,腰板の高さに一糎加へたものを丈として裁ち切る。

**4, 裏打ちの仕方**　半紙をもんで烙鏝で伸しておき,裏腰布と附菱布の周圍に淺く,淡い糊をつけて,前の紙で裏打ちをする。

**5, 表腰の貼り方**　表腰布及び腰板紙の中央の裏にそれぞれ標をつけ,腰板紙の表側の下部に一糎の巾に糊をつけ,糊を一旦輕く拭き取り,表腰布の下を,裏の方へ一糎五粍折り返しの出來るやうにして中央をよく合せ,兩脇に布を平等に出して貼つける。

この際こよりに糊をつけ,下部の腰板からはづれない程度の處に貼りつけ,指先で表からこよりの廻りを押へて落ち着かせ,次に裏に折り返す分に糊をつけて腰板裏側へ貼りつける。兩脇の布を下方から計つて,紐巾より二粍狹く腰板の際まで切り込む。

次に腰板の上部及び兩脇を裏の方へ折り返して貼りつける。

**6, 附菱の位置**　腰板の斜のまま計つて,その二分の一に四粍加へたものを附菱の高さとし,腰巾の三分の一に五粍位加へたものを附菱の



巾として表腰に針を立てゝ標とす。附菱布の縦の方に一糎の折りをつけ,折り目を腰板脇の表に當て,先に標をつけた通り,附菱の形を作り,形の崩れぬやうに裏側から烙鏝をかけておく。次に表腰の附菱標に合せ,腰板脇と附菱とを毛抜き合せにして,附菱の下方を裏に折り返して貼りつける。

**7, 紐絎**　後紐二本共その片方の端を十二糎程殘して全部絎ける。

**8, 後紐附とその留め方**　紐の輪の方の端より二糎の處を,腰板脇の下から紐巾の高さの處に合せ,二本の撚り合せ糸を用ひて紐の裏側から針を出し,腰板の脇と紐とを一緒に抄つて糸を結び,その糸を切らずに,そのまま紐の下部腰板の角に針を下し,表返して紐巾を三角に折り,キの字に糸を掛けて留めておく。

**9, 裏腰布附け方**　裏腰布を一糎の縫ひ代にして,後布の腰立ての處へ當てゝ裏からあらく縫ひつけておく。但し部分縫であるから袴の後布の中心に二糎の襞を取つて右の方に折り

返して紐をかけ,上の端から二糎の處を,中央から左右の腰板巾の二分の一を計り,その殘りを裏の方へ斜に折つて三つ折り紺けをして投げとみなす。

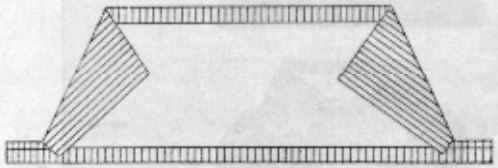
**10,腰立て方**　表腰布の下の角の縫ひ込みを紐の中に入れ,紐の紺け殘した部分を紺ける。表腰板の表を出して後布の腰立ての處へ眞直ぐに當て,左右の投げを少し張り目にして附菱を起して待針を打ち,裏返して裏腰布を見て,圖のやうに數字の順序に糸をかけて腰立てをする。但し(5)と(12)との針は腰板と附菱の上の角とに通し,(14)と(15)の針は腰板に通して表裏の腰布と,紐の上とを少し抄つて共に糸をかける。又(16)の針は一度表に抜き出して直ちに元の針穴から斜に裏に通し,腰板にだけ針目の出るやうにして,裏で(14)から(15)に渡つた糸にかけて打ち留をする。

糸は二本撚り合せて用ひ,表腰には小さく針目を出す。腰立てが終つたならば,裏腰布の上と脇を,表より二粍位控へて折り,内側の周圍に糊

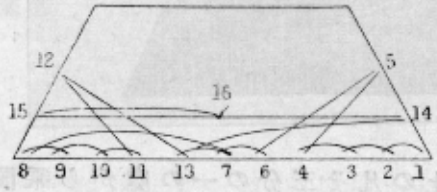


腰板の裁ち方圖

裏腰貼り方の圖



腰立て糸掛順序の圖



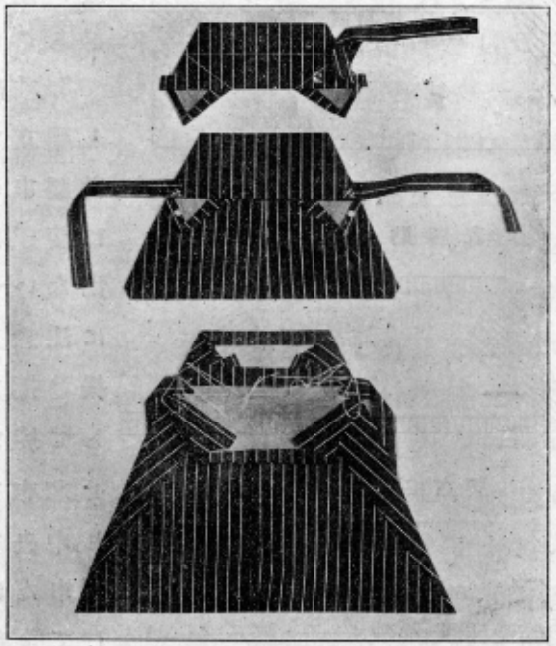

をつけて表腰に貼り合せる。

**5,前紐附と腰立て**　前腰巾の間に接ぎ目の出ないやうに注意して,掛け接ぎにして接ぎ合せ,芯布を入れ,中央を前腰巾だけ殘して全部紺け,女袴のやうに前紐附をする。

腰立ては部分縫で説明したやうに腰板を挾へて腰立てをする。

之が終つたならば引返して,絹布ならば眞綿又

部分縫の圖



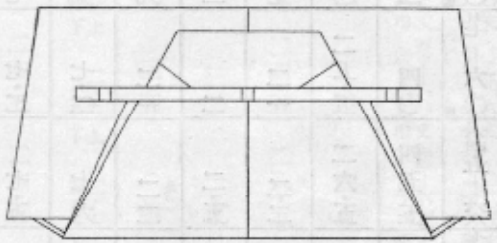
は布切で股上の凡そ三分の一の處から乘間の縫ひ代を包み,縫ひ目より外にはづれないやうにかがりつける。

6, **仕上げ**　木綿物は薄く霧を吹いて,アイロンをかけて皺を伸し,絹物は白布を被ひ,その上



から火熨斗をかけて仕上げをし,圖のやうに相引の中央より四糎程上から裾を上方に折り,その上に上部を折り重ねて三つに疊み,前後の紐を揃へて左右交互に折り重ね,右左の端と中央との三個所に紙封をする。

男袴仕立上り圖



**備考**　一,裁違十四糎の說明をせよ。
二,男袴縫立て糸掛順序を問ふ。

大妻圖

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 前紐 | 丈二三〇 巾二—二・二 | 丈二四六 巾二・二—二・六 | 丈二八五 巾二・六 | 丈三〇三 巾二・七—三 | | | | | |
| 後紐 | 丈四九—五三 巾二—二・二 | 丈五七—六〇 巾二三—二・六 | 丈六〇—六五 巾二・六 | 丈六五—七〇 巾二・六—三 | | | | | |
| 切り上げ | 三 | 四 | 四・五 | 五・三 | 紐下の凡そ百分の七 | | | | |
| 乘間 | 二二・五 | 二四・五 | 二八・五 | 三〇 | 紐下の十分の四に二糎を加へる | | | | |
| 襠の高さ | 二二 | 三〇 | 三五 | 三八 | 紐下の三分の二より八糎を減ず | | | | |
| 笹襞巾 | 三 | 三・五 | 四 | 五 | 脇巾の四分の一 | | | | |
| 前寄襞巾 | 上二 下四 | 上二・五 下五 | 上二・七 下五・三 | 上二・九 下五・三 | 上巾 後巾の十分の一 下巾 後巾の五分の一 | | | | |
| 前紐附巾 | 二一 | 二四・五 | 二六・五 | 二八・五 | 後巾と同じ、若しくは二糎増 | | | | |
| 前脇巾 | 一二・五 | 一五 | 一六 | 一七 | 後巾の五分の三 | | | | |



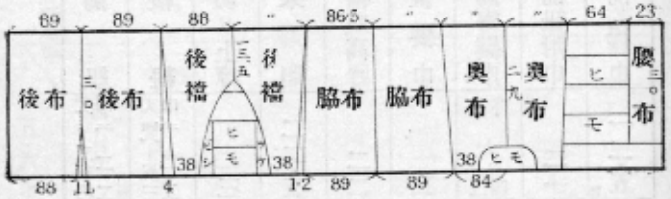
## 中裁・小裁男袴

### 普通仕立上げ寸法及び割出し方

| 各部名稱 ＼ 年齢 | 紐下 | 相引 | 後巾 | 後腰巾 | 後重ね襞 | 腰板巾 | 腰板高さ | 附菱巾 | 附菱高さ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 五・六才 | 四五—五〇 | 三二 | 二〇 | 一七 | 二 | 一九 | 六・五 | 五・七 | 三・五 |
| 八・九才 | 五七—六〇 | 四〇 | 二五・五 | 二一 | 二 | 二一 | 七・二 | 七・二 | 四 |
| 十二・三才 | 六四・五—六八 | 四五・五 | 二六・五 | 二二 | 二・五 | 二二 | 七・六 | 七・五 | 四・五 |
| 十五・六才 | 七二—七六 | 四九 | 二八・五 | 二三 | 二・五 | 二三 | 八 | 八 | 五 |
| 割り出し方 | 着丈の凡そ十分の六 | 紐下の凡そ三分二 | を加へる（着物の後巾と同じ）紐下の凡そ三分の一に四糎ばかり | 後巾の四分の三に二糎を加へる | | 下巾 腰巾と同じ 上巾 腰巾の六分の四 | る 腰巾の三分の一に七粍内外を加へ | 腰巾の三分の一に五粍を加へる | 腰板の二分の一に四粍を加へる |

## 十五·六才用男袴の裁ち方

用布並巾 7米 87種

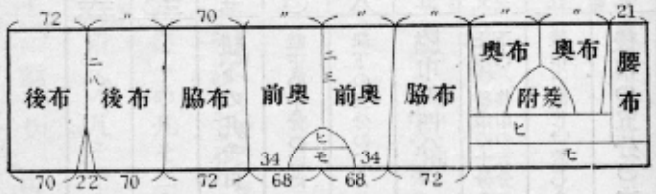



### 積り方

公式　後丈×8－裁違＋紐丈＋腰布＝總丈
{總丈－(紐丈＋腰布)裁違}÷8＝後丈

## 十二·三才用男袴の裁ち方

用布並巾 5米 85種



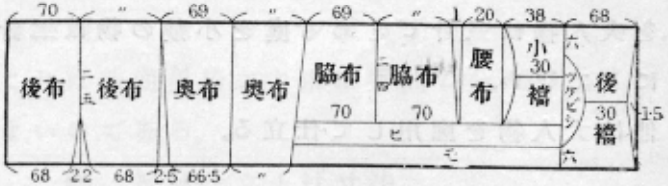

### 積り方

公式　後丈×8－裁違＋腰布＝總用布
{(總用布－腰布＋裁違)}÷8＝後丈



## 八·九才用男袴の裁ち方

用布並巾 5米 43種

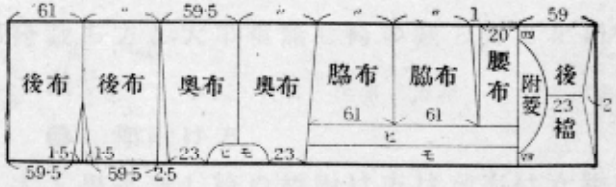



### 積り方

公式　後丈×7＋腰布＋前襠－裁違＝總用布
總用布－(腰布＋前襠)＋裁違÷7＝後丈

## 五·六才用男袴の裁ち方

用布並巾 4米 40種




### 積り方

公式　後丈×7－裁違＋腰布＝總用布
{總用布－腰布＋裁違}÷7＝後丈

中裁·小裁の袴の標附け方,縫ひ方等すべて,大體大人物と同樣で寸法に差があるだけである。腰立ての糸の掛け方も同樣でよいが,附菱の中を大人物は三針でとめる處を小裁の物は二針にしてよい。

他は大人物を應用して仕立る。



# 第二十八章　男襠無し袴

男子用袴に襠無し袴とて,兩脚が分れてゐない乘間のないものが少からず用ひられてゐる。これは普通男袴より巾は乘間の分だけ狹くてよいのである。

## ㊀ 普通仕立上げ寸法

切り上げ　後,二糎——三糎

　　前四糎

右の外は普通男袴に同じである.

## ㊁ 裁ち方と積り方

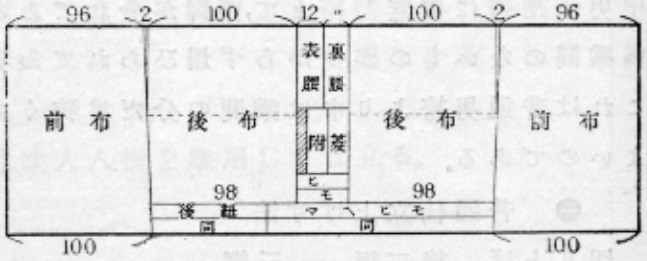
襠無し袴に用ひられる地質には,大巾物が多いのでその裁ち方を掲げたから,並巾物は普通男袴裁ち方と,大巾襠無し袴の裁ち方とを斟酌して裁つ。

## ㊂ 標附け方

大人男襠無し袴の標附け方は,前布は女物袴に同じであるから說明を省く。後布はまづ二枚中央になる處を接ぎ合せて中表に二枚重ね,裾を右に相引を手前にしておく。

## 男褌無し袴の裁ち方 (一)

用布大巾 4米 20糎

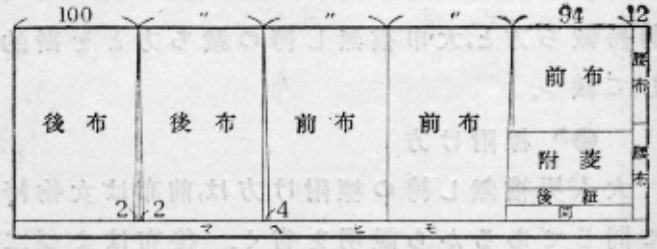



### 積り方

公式 前丈×2+後丈×2−裁違×2+腰布×2=總用布

## 男褌無し袴の裁ち方 (二)

用布大巾 5米 6糎



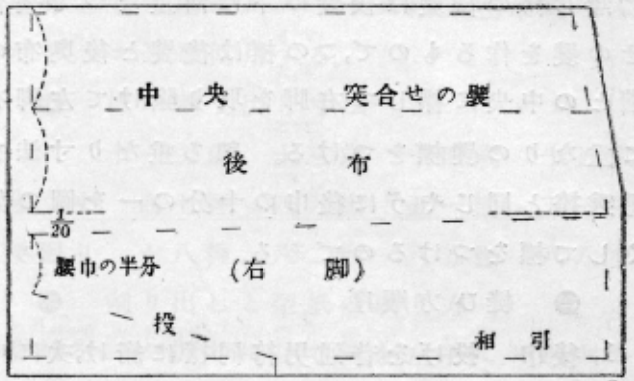

### 積り方

公式 後丈×5−切り上げ+腰布=總用布

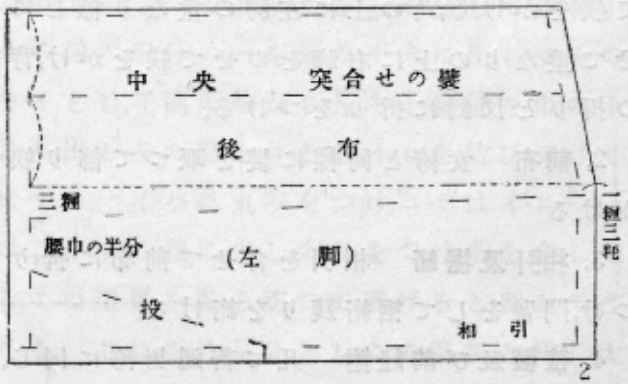


## 標附け方圖

一




二



紐裾代を二糎に標して馬乗袴と同樣に丈,巾,相引,投げの標をする。

袴無し袴の後襞は後襞の下に倘重なつて突合せの襞を作るもので,この標は後襞と後奥布の端との中央に標して右脚を取り除けて左脚布に重なりの襞標をつける。卽ち重なり寸法を馬乗袴と同じやうに後巾の十分の一を圖の如くして標をつけるのである。

㉓　縫ひ方順序

**1, 後巾**　投げを普通男袴同樣に紐け,次に中の襞,卽ち突き合せの襞標を左右から突き合せて躾をかける,その上に左脚の重なり標しに合せて重なりの上に右脚をのせて躾をかけ,背縫の折りと反對に折りをつける。

**2, 前布**　女袴と同樣に襞を取つて飾り躾をかける。

**3, 相引及裾紐**　相引を合せて前布に折りをつけ,門留をして裾紐殘りを紐ける。

**4, 笹襞及び前紐附**　凡て普通男袴に同じ。

**5, 腰立て**　普通男袴に同じ。



# 第二十九章　下穿

用布として綿ネル・メリヤス・綿天竺木綿・晒木綿・キヤラコ等を使用する。

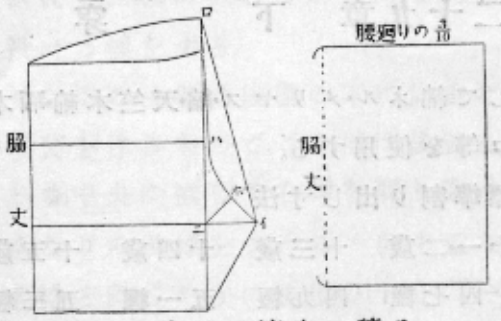
㊀　標準割り出し寸法

| | 十一・二歳 | 十三歳 | 十四歳 | 十五歳 |
|---|---|---|---|---|
| 脇丈 | 四七糎 | 四九糎 | 五一糎 | 五三糎 |
| 腰廻り | 七八糎 | 八二糎 | 八五糎 | 八八糎 |

㊁　割り出しと型紙の取り方

型紙を二つ折りにして輪を左手におき,圖のやうに脇丈を計り,次に腰廻りの十分の三の寸法で,長方形をつくり,脇丈を三等分して線を引く,その線の三分の一を圖のやうに出してその點をイとし,手前の端から凡そ七糎位を巾の上に計り出し,その點をロとし,イ・ロを結びつけて後にする。イ・ハに丸みをつけ,ニ・ホはイ・ニの三分の二とする,後に少し丸みをつけ,前を少し上げる,この型紙を裁ち切つて廣げると,圖のやうになる。これを片足分とし,この型紙と同じ大きさのものを左右二つ作る。用布の巾の廣さ

型紙の裁ち方圖




によつて、この型紙のまゝ、又は脇に縫ひ目を立てゝ裁つ。而して用布は型紙を並べて適宜に積る。

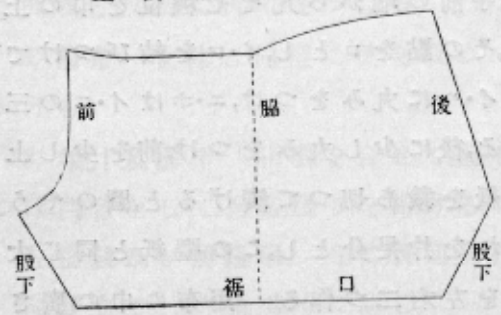
㊂　標附け方

二枚中表にして重ね、裾を三糎、上を四糎、後・前・股下等を一糎五粍に標をつける。

㊃　縫ひ方

後と前をそれぞれ標の通り合せて縫ひ、縫ひ目を割り、三つ折りのまつり紉けにする。股の前後を合せて縫ひ、前に折りをつけ、

型紙を廣げた圖






下穿仕立上りの圖

三つ折りとし、まつり紉けをする、裾口にゴムテープを入れ、標通り折つて紉けつける。腰廻りにもゴムテープを入れて紉け上げる。但し、三つ折り紉けとした處を地質によつては、裁ち目のまゝ千鳥掛にしてもよい。

**備考**　一、十六才用の標準測り出寸法はいくらにすればよいか。

二、大巾物で十四才の下穿を作るには用布は何程あればよいか

# 第三十章　寝冷え知らず(二·三才用)

## ㊀ 裁ち方

用布は表·裏とも並巾六十五糎を用ふ。

各々中表にして巾を二つに折つて二枚を重ねておく。

表裏とも同寸法に裁ち方圖に示したやうに標をつけて後,一枚づゝ裁ち切る。尙外に脇紐として巾四糎,丈四十五糎の物二本と,衿紐として巾三糎,丈四十五糎のもの一本,又は同じ丈のテープが要る。

## ㊁ 縫ひ方順序

一,襠。二,身頃。三,紐附。

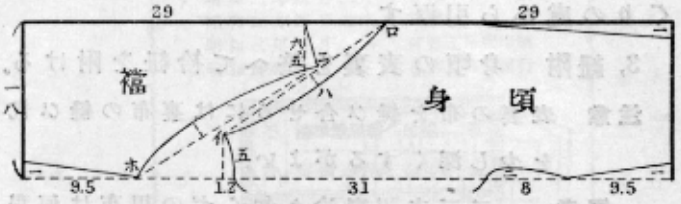
**1, 襠**　襠布表裏の裾口を縫ひ合せ,表に返して,毛抜合せに襞をかけ,襠の上部の後の方に紐をつけ,上部の後ぐりの部分を小針に縫ひ合せ,第一圖のやうな形にする。

**2, 身頃**　表裏布を中表に合せて裾口を縫ひ,毛抜合せにして襞をかけ,次に第二圖のやうに,身頃の脇で襠の脇を挟んで四つ縫にする。次



## 寝冷え知らずの裁ち方

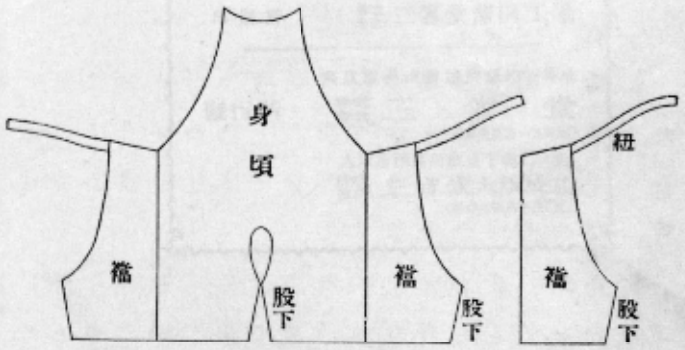
用布並巾　65糎




ハはイロの中央でその十分の一くり取る

ヘはニホの二分の一の處でその十分の一くり取る

第一圖　　第二圖



に身頃の股下で襠の股下を挟んで四つ縫にし，前ぐりの部分を半返しか，又は小針で縫ひ，両方の脇ぐりの部分を小針に上部まで縫ひ合せ，胸ぐりの處から引返す。

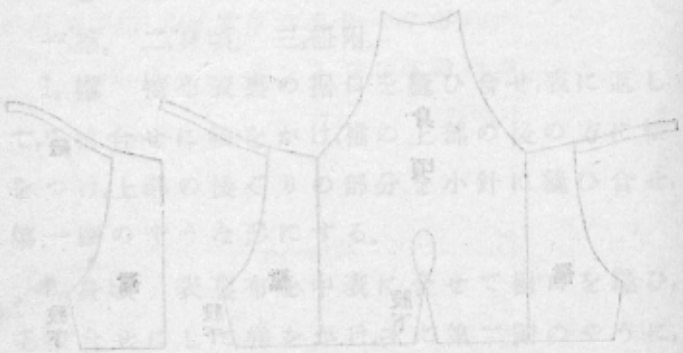
**3，紐附**　身頃の表裏を整へて衿紐を附ける。

**注意**　表裏の布を縫ひ合せるには裏布の縫ひ代を少し深くするがよい。

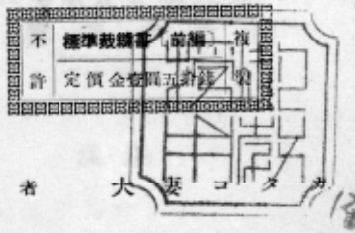
**備考**　一，二・三才用寝冷え知らずの用布は何程か。

二，二・三才用の寝冷え知らずの裁ち方をせよ。

（終り）



昭和二年四月二十六日印刷
昭和二年四月二十九日發行
昭和三年三月　一　日修正再版印刷
昭和六年五月廿　五日修正九版發行




編者　大妻コタカ

發行兼印刷者　東京市神田區通神保町一番地　株式會社三省堂　代表者　龜井貢雄

印刷所　東京市外蒲田　株式會社三省堂蒲田工場

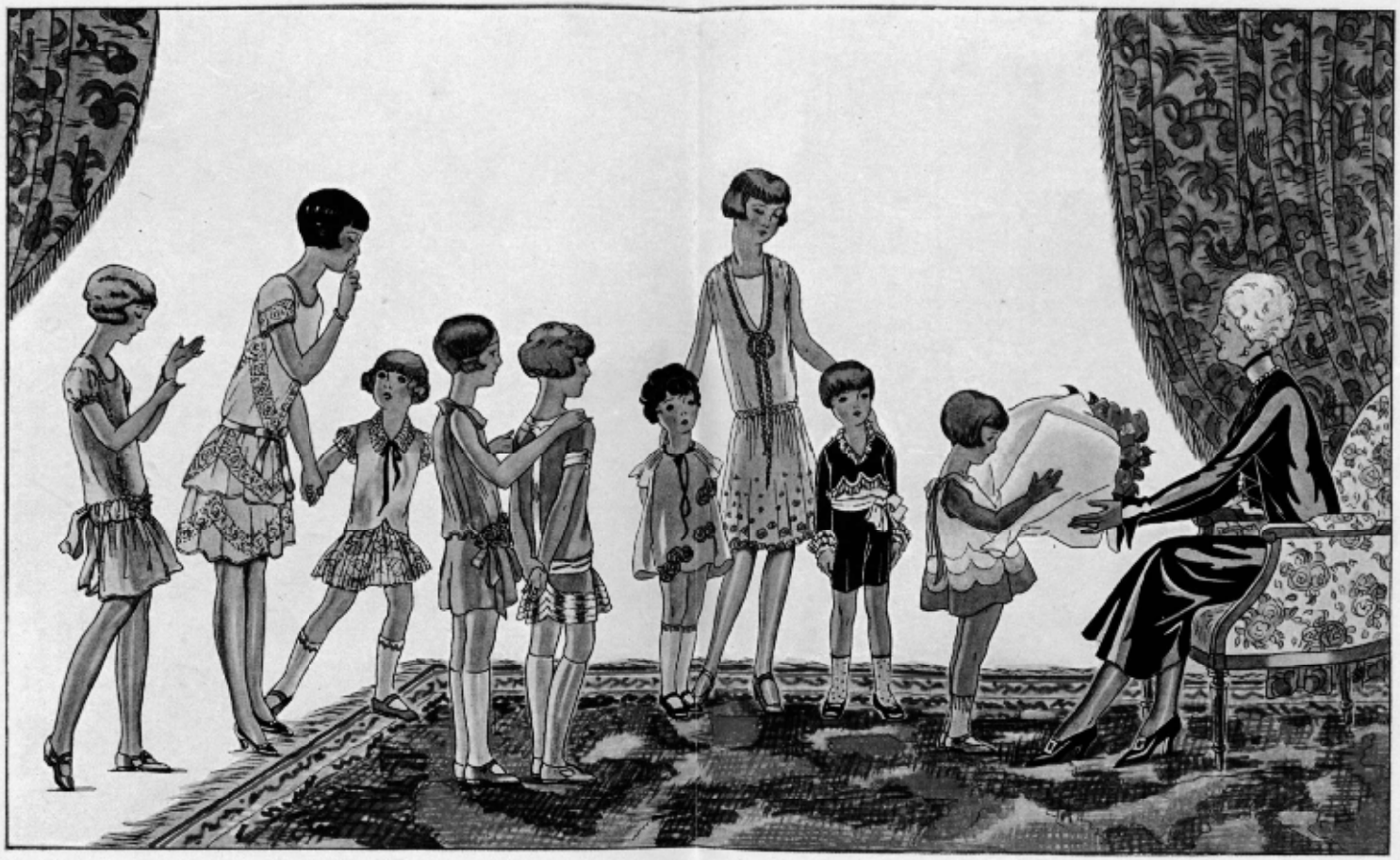
發行所　東京市神田區通神保町一番地　株式會社三省堂（振替東京三一五五五）
大阪市西區阿波座下通二ノ六　株式會社三省堂大阪支店（振替大阪八一三〇〇）

# 標準裁縫書

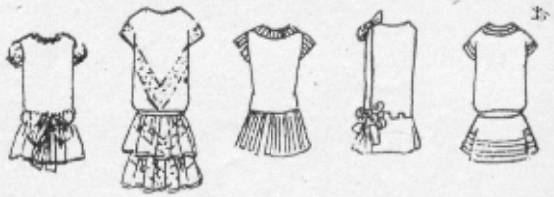
大妻技藝學校長
大妻高等女學校長
大妻コタカ著

後編

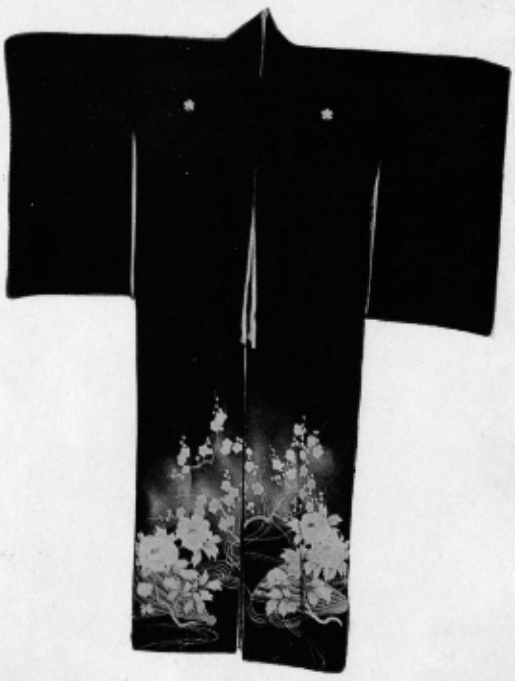
株式會社
三省堂



おばあ様に花束を捧ぐ



振袖島原模様



止袖江戸褄模様

# はしがき

一　本書は,實科高等女學校,技藝學校,實業補習學校等各種學校の裁縫教科用書,又一般家庭用裁縫書として編纂したものであります。

一　本書は前編,後編の二册からなり,前編には,普通和服,後編には主として洋服,又和服のミシン仕立のものなどを收めました。されば前編は下級用に,後編は上級用に充てるのが適當であります。

一　本書は多年の經驗と研究とを基として,種種の方法の中から最も一般的と思はれるものを採用し,徒に理論に走らず,流儀に囚れないやうにいたしました。

一　從來使用の鯨尺·曲尺がメートル法になりましたので,本書もメートル法を採用いたしました。そしてこれまでの寸法については適宜に取捨し,學習者の實習と記憶とに便利

なやうにいたしました。

一　尚表紙裏に鯨尺・メートル尺の對照表をつけ,一般の方の參考に供しました。

昭和二年三月

著者しるす

# 標準裁縫書

## 後編

目次

第一章　ミシン使用法……1
第二章　婦人シヤツ……8
第三章　割烹前掛……11
第四章　子供前掛と涎掛……15
第五章　シヤツとヅボン下……21
第六章　足袋と脚絆……40
第七章　股引と江戸腹掛……49
第八章　薄物單衣……56
第九章　男物單衣羽織……60
第十章　丸帶……69
第十一章　男帶……73
第十二章　小袖模様紋並に重ねについて……77
第十三章　比翼……87

第十四章　單衣重ね……99
第十五章　袷半コート……10
第十六章　單衣長コート……116
第十七章　夜具類……126
第十八章　大巾・中巾物各種裁ち方……139
第十九章　子供洋服について……147
第二十章　寸法取り方及び原型割出し方……156
第二十一章　子供下着類……163
第二十二章　女兒服……180
第二十三章　男女兒帽子……188
第二十四章　男兒服……198
第二十五章　男兒小學生服……213
第二十六章　運動シヤツ及びヅボン下……224
第二十七章　女學生服……232
第二十八章　男學生服……248
第二十九章　ケープ……276
第三十章　女兒外套……282



# 標準裁縫書

## 後　編

## 第一章　ミシン使用法

### ㊀　ミシン裁縫に必要な手縫

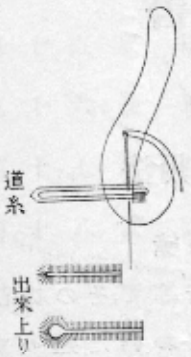
半返し・本返し・千鳥掛・まつり絎等で,その方法は前に基礎的技術の章で述べておいた通りである。

### ㊁　穴かゞり

布の動かないやうに躾で押へておき,布目の曲らないやうに注意して鑿か,又は鋏で穴をあけ,右手前の角から順次にかゞつてゆく。糸は四十番か又は三十番のカタン糸を使ふ。地質によつては穴糸,絹糸等をも用ひる。

まづ裁ち目に道糸を少し釣り加減に渡して芯にする。次に道糸の端から針を上へ半ば抜き出し,そのまゝ抜かないで,針先へ針穴についてゐる方の糸を手前から向ふへかけて針を抜き,糸を引締める。この引締め方は布と直角に引

穴かゞりの圖




かなければならない。糸の引き方と針足の揃へ方とで穴かがりは美しくも醜くもなるから注意が要る。

端の所は五針位に圓を作つてかゞり,順次終りに近づき全く終つたならば端に門留をする。丸穴も同じ要領である。

### ㊂　針と糸

針と糸との關係は極く大切なことで,布の厚薄·硬軟等でそれぞれその地質に應じて適當なものを選ばなければならない。

針は普通は二分の一番かB番を用ひ,糸はカタン糸六十番を使用する。けれども地質の薄い物には,針は零番を用ひ,糸は七十番か八十番を使用する。

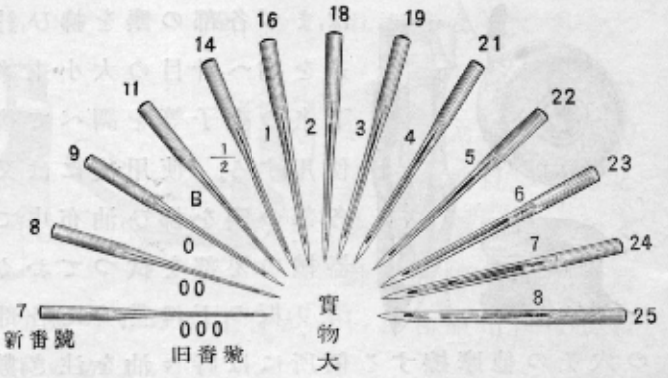
又絹布には,羽二重糸を用ふ。その時,針は0番又は00番を使用する。

### ㊃　糸の調子

上糸と下糸とが布の中心で結び合つて,上糸



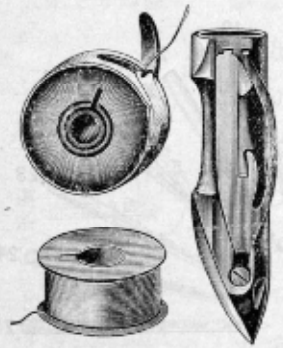
針の番號




と下糸の緊張の力がよく調和すれば,縫ひ目は表裏とも美しく整ふものである。概していへば上糸よりも下糸が少し張り加減な方がよい。下糸が弛んだり,又は上糸があまり弛んだものは見苦しいからよく螺子を加減して用ふ。

下糸には丸舟型と蛇の目型との二種あるが丸舟型は糸の捲いてある管が長いために,縫ふに從つて下糸の解ける調子が平等にゆきにくい,蛇の目型はそんな缺點がないからどんな布にでも綺麗に縫へる。

### ㊄　使用についての諸注意




ミシンを使用する前には,まづ各部の塵を拂ひ,針・糸を揃へ,針目の大小・上糸・下糸の調子等を調べて後使用する。使用後には又各部の塵を拂ひ,油布巾で器械の要部を拭つておく。滑り板の下に當つた各部の穴その他摩擦する個所には時々油を注ぎ,數十回迅速に廻轉して油を全體に行き渡らせ,外面に溢れ出たものをよく拭ひ取る。又機械を時々取りはづして,よく掃除する。

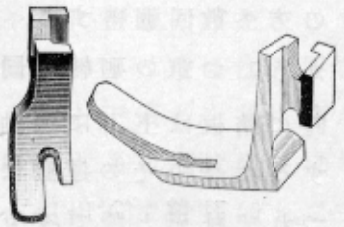
針の破損を防ぐには,抑へ金及びその他附屬具の螺子に注意して常に堅く締　,厚い繼ぎ目,又は地厚の布等は相當に太い針を使用しなければならない。

縫つてゐて中途で上糸の切れるのは大概機械に糸の掛け違ひか,又は糸の調子があまり強過ぎるなどが原因してゐることが多く,下糸の切れるのは下糸の巻き方の正しくない時,糸の通



し違ひの時,又は調節の螺子の餘り強く締められた時などである。

抑へ金



### ㊅　抑へ金

抑へ金には小型のものと長目のものとある。洋服類の如く針目を細かくする時は小型のものが工合がよいが和服用には長目のものがよい。

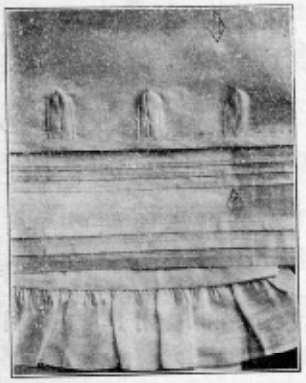
### ㊆　縫ひ方（練習と糸の仕末）

まづハヅミ車の廻轉と足の踏み工合を充分に練習する必要がある。

ミシン掛け方の姿勢

腰掛けるには,眼が針の正面に向ふ位置に正しく足を揃へて踏板に乗せ,ハヅミ車の外側にある運

ミシン練習縫



動止めの螺子をかけて,右手でハヅミ車を手前の方へ數回廻轉する。

かうして車の廻轉と同時に踏板は上下に運動するに依り,その運動につれて趾先と踵で交互に踏板を動かし,足のみの働きで,ハヅミ車を圓滑に廻轉することが出來るまで繰り返して練習し,逆廻りせぬやうに注意する。

次に針を用ひて紙に直線縫と曲線縫の練習を充分し,最後に糸をかけて縫ひ方の練習をする。

縫ふ始めには左手で上糸の端を緩く取り,右手でハヅミ車を徐々に廻すと針が下り,そして下糸を抄つて出て來る。

この時上下の糸を向ふへ引出して,針を上方へ上げておいて,縫ひ床の上に布をおき,針を縫ふ位置に下してから,押へ金を靜かに下して縫ひ方をする。



右手を向ふに左手を手前においで,右手で布を輕く向ふへ引き,左手で縫ひ目の眞直ぐになるやうに正しく布をおしやる心持ちで布を扱ふ。

縫ひ終りの時には天秤を極點まで上げて,必ず上糸と下糸とを共に摘んで糸切に當てゝ切る,縫つた糸の端は縫ひ目の中に入るものは,一方へ引出して針に通し,二・三回布の中をくゞらせてそのまゝ切る。

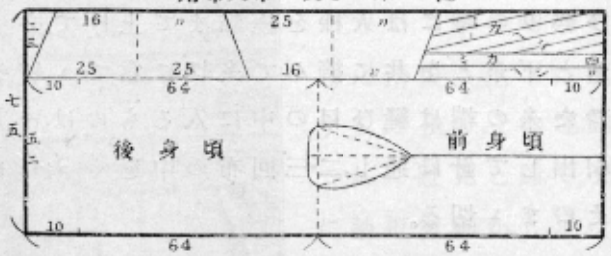
**備考**　一,穴かゞりはいかにしたら美事に出來上るか。

二,ミシンの手入の仕方を問ふ。

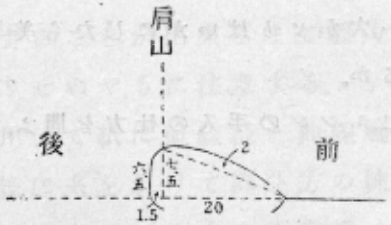
# 第二章　婦人シヤツ

## 婦人シヤツの裁ち方

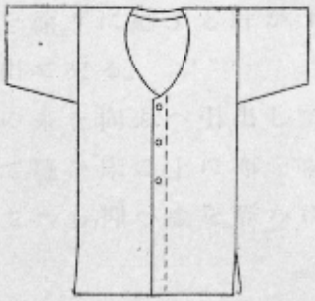
用布大巾　長さ1米28糎




胸の刳り方




婦人シヤツ仕立上りの圖





### ㊀　裁ち方

大巾用布をまづ身頃の巾五十二糎,袖巾二十三糎に切り離し,次に身頃の巾を二つ折りにし,一糎五粍の操越しをつけ,衿肩明七糎五粍,内丸み一糎五粍,前明二十糎に標し衿肩明から前明の二十糎の處まで斜に標をつけ,斜線の中央で二糎の丸みをつけて標をつけ,標通り胸刳りを裁ち切る。

袖も圖の如く標をつけて裁ち違ひとし,殘りから四糎巾の眞直ぐの見返しを二本と,斜の見返し二・三本とを取る。

### ㊁　縫ひ方順序

1, **前明**　前身頃の裁ち切つた處に表から見返しを一糎の縫ひ代で縫ひ合せ,毛抜合せにして裏へ折り返し,奥の方も四粍程中へ折り伏せて兩側にミシンをかける。

2, **胸刳り**　斜の見返しを衿肩明の表から胸刳りを伸ばさないやうに七粍位の縫ひ代で縫ひ,裏へ返して八粍の出來上りにしてミシンをかける。

**3, 袖附**　袖は縫ひ代を一糎五粍,身頃は八粍の縫ひ代にして合せミシンをかけて折りを身頃につけ,袖の縫ひ代で包み,表から飾りミシンをかける。

**4, 裾·袖の仕末**　次に裾から十糎の切り込みの處から袖口までつゞけて脇と袖下を縫ひ,後身頃の方へ折りを返して前身頃の縫ひ代で包み,ミシンをかけ,馬乗りと裾は三つ折りにして表からミシンをかける。

袖口も三つ折りにしてミシンをかける。又袖口と衿の處へ好みによつては巾の狹いレースをつけてもよい。

**5, 釦附·穴かゞり**　釦は三つ,上前見返し巾の中央に横に一糎五粍の大きさの穴をあけてかがり,釦はそれに合せて下前に三つつける。

**注意**　地質の厚い物は袖下·脇等三つ折りにした處を二つ折りにしてミシンをかけるのみでよい。



# 第三章　割烹前掛

割烹前掛

## ㊀　裁ち方

まづ身頃とすべき丈を,大巾のまゝ一米十四糎に裁ち切り,殘り布を兩袖とポケツト布と紐とにする。

二つ折りにして圖のやうに標をつけ,それぞれ裁ち切る。

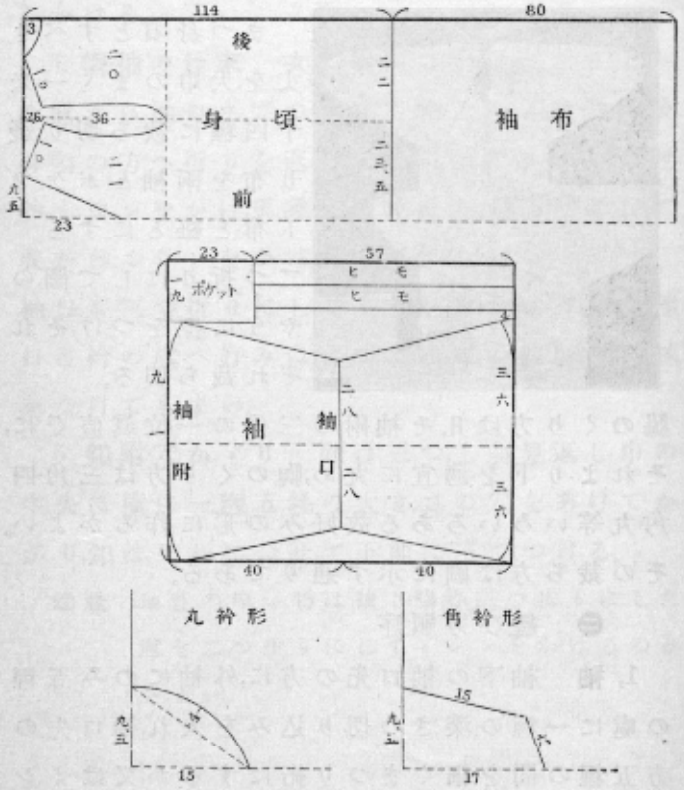
脇のくり方は凡そ袖附の三分の一位眞直ぐに,それより下を適宜に丸め,胸のくり方は三角·四角·丸等いろいろある故好みの形に作るがよい。その裁ち方は圖に示す通りである。

## ㊁　縫ひ方順序

**1, 袖**　袖下の袖口先の方に,外袖にのみ五糎の處に一糎の深さの切り込みを入れ,袖口先の方五糎の間を細くまつり絎にするか,又はミシンをかける。次に袖口先を普通のテープの通

## 割烹前掛の裁ち方

用布キャラコ巾　長さ1米94糎






る位即ち出來上り一糎五粍の巾に三つ折りにしてミシンをかけるか,又はまつり紩にする。袖下を合せて縫ひ,內袖の縫ひ代を細く切り內袖の方に折り返して外袖の縫ひ代でつゝんで,ミシンをかけるか,又はまつり紩にする。袖口に一糎巾のテープ,又はゴムテープを通し,輪にしておく。

2, **身頃**　身頃の前後の肩を合せて,半返しか又はミシン縫にし,折りは後の方に返して前布の縫ひ代でつゝみ,表からミシンをかけるか,又は裏からまつり紩にする。

3, **衿**　胸衿廻しの處に裏から斜布をつけ,表に飾りミシンをかけるか又はまつり紩にする。好みによつては細いレースをつけても差支へない。

4, **裾紩**　出來上り二糎巾の三つ折り紩にするか,又はミシンをかける。

5, **袖附**　袖の山と肩山とを合せて身頃の縫ひ代を四粍控へて待針を打ち,袖をつける。折りは身頃の方に返し,縫ひ代を袖の方で包んで

まつり絎にするか,又はミシンをかける

6, **紐附** 紐巾出來上り一糎,丈二十八糎程に四本絎ける。而して後衿肩合せの所と,それより三十五糎程下つた處につける。

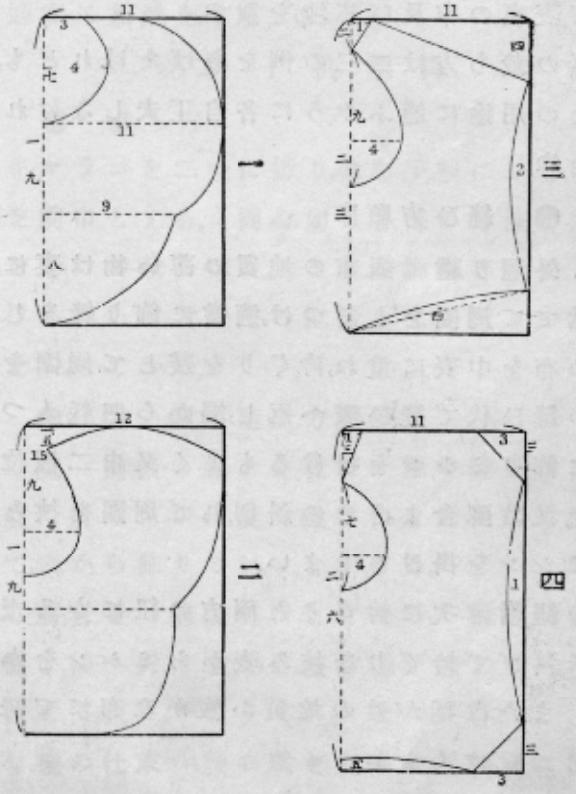
7, **ポケツト** 好みの形に作り,右袖附から八糎程下つた處で五六糎前の方につける。

誕掛と子供前掛

# 第四章　涎掛と子供前掛

## 第一　涎　掛

### 涎掛の裁ち方



涎掛を作るには,キヤラコ・ネル・タオル地・ガーゼ等の地質を使ふことが多い。

### ㊀　裁ち方

裁つには,まづ型紙を作り,次にその型紙に合せて表裏の布及び芯地を裁つ。

型紙の裁ち方は二・三の例をあげたけれども,よくその用途に適ふやうに各自工夫しなければならぬ。

### ㊁　縫ひ方順序

**1, 外廻り縫**　表布の地質の薄い物は,裏に芯を當てて周圍をとぢつけ,適當に飾り縫をし,表裏の布を中表に重ね,衿ぐりを殘して周圍を六粍の縫ひ代で縫ひ,表へ返し,端から四粍入つた處に飾りミシンを掛けるもよく,又巾二糎位の共色又は配合よき色の斜切れで周圍を挟み,飾りミシンを掛けるもよい。

**2, 紐附**　次に衿ぐりと兩方の紐になるだけのテープで衿ぐりを挟み,表からミシンをかける。または延かけの地質か軟かな布にて紐を新けつけてもよい。



又周圍にレースを用ひるならば,レースの丈は型紙の周圍を計り,これを標準とし,縫ひ縮めるにはその一倍半以上を要す。但しレースの地の厚薄,巾の廣さ,涎掛の形によつてレースの丈は適宜に加減をする。

## 第二　子供前掛

### ㊀　裁ち方

キヤラコを二つに折り,輪を手前におき,輪の方を前巾とする。圖の如く各部の寸法を計り,標をつけて裁ち切る。この際胸部等に飾りをつけるならば大體その位置を二つ折りのまゝ標をつけておく。

### ㊁　第一圖の縫ひ方順序

**1, 脇**　前後の脇を合せて一糎の縫ひ代に縫ひ,前に折りをつけ,裏の縫ひ代を五粍に折り伏せて,表から飾りミシンをかける。

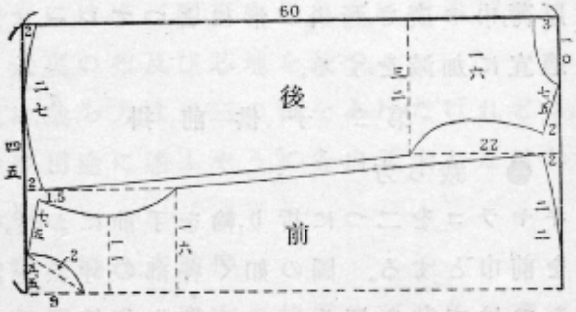
**2, 肩合せ**　前後の肩を合せて,一糎の縫ひ代で縫ひ,後へ折りをつけ,裏の縫ひ代を五粍に折り伏せて,表より飾りミシンをかける。

**3, 後の仕末**　後の縦を初めに五粍,更に二糎

## 子供前掛の裁ち方

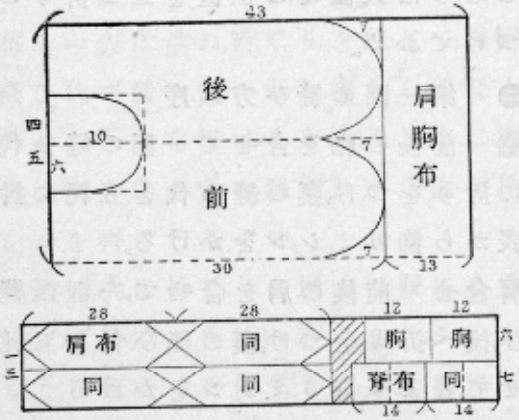
用布キヤラコ巾　60糎

(一)




用布キヤラコ布　43糎

(二)






に三つ折りにしてミシンをかける。

4, **衿廻り·脇ぐり**　衿の廻り及び脇明を斜切れで挟み表から飾りミシンをかける。

5, **釦附·穴かゞり**　後に二個の釦をつけ,穴かがりをする。

6, **飾り·ポケツト**　飾り等をつけるならば右の縫ひ方の中途の適宜の處でつける。最後にポケツトを右に一つ又は好みによつては左右に二つつける。

### ㊁　第二圖の縫ひ方順序

1, **脇ぐり**　脇ぐりに斜切れをつけるか,又は三つ折りにしてミシンをかける。

2, **身頃**　後を全部あけるならば,布の端を細く三つ折りにしてミシンをかける。もし身頃を輪にするならば,上部を脇ぐりの高さまであけて下を縫ふ。

3, **裾**　レースを後に接ぎ目を作つて,裾の周圍につけ,折りは身頃に返し,縫ひ代は斜切れで挟んで表から飾りミシンをかける。

4, **胸,肩布附**　後前の上部に縫ひ縮みをし,背

布,胸布をつけ,次いで肩布をつけてミシンをかける。

5, **釦穴かゞり・ポケツト**　後に二個の釦をつけ,穴かゞりをし,適宜にポケツトをつける。

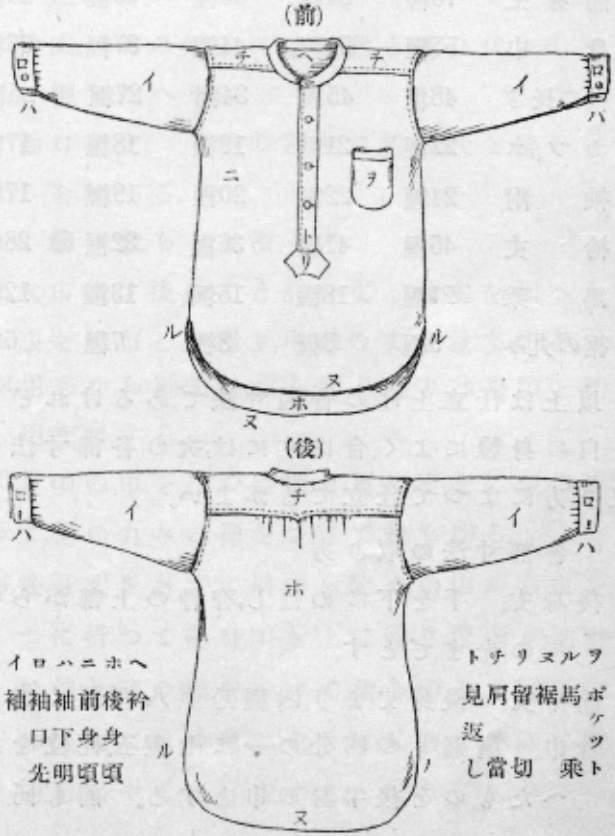
**注意**　裾の飾りは巾廣のレースを用ひ,肩布・胸布にもレースを使つてよい。



# 第五章　シヤツとヅボン下

## 第一　シヤツ

### 各部の名稱



## ㊀　普通仕立上げ寸法

| | 大人 | 十五・六才 | 十一・二才 | 七・八才 | 五・六才 |
|---|---|---|---|---|---|
| 後身丈 | 80糎 | 70糎 | 60糎 | 50糎 | 47糎 |
| 前身丈 | 73糎 | 64糎 | 55糎 | 46糎 | 44糎 |
| 身巾 | 55糎 | 51糎 | 44糎 | 37糎 | 33糎 |
| 袖の長さ | 48糎 | 45糎 | 34糎 | 27糎 | 25糎 |
| カフス | 22糎 | 21糎 | 19糎 | 18糎 | 17糎 |
| 袖附 | 24糎 | 22糎 | 20糎 | 19糎 | 17糎 |
| 衿丈 | 45糎 | 41糎 | 36糎 | 32糎 | 28糎 |
| 馬乗 | 21糎 | 18糎 | 15糎 | 13糎 | 12糎 |
| 裾の丸み | 9糎 | 8糎 | 8糎 | 7糎 | 6糎 |

以上は仕立上げの普通寸法であるけれども,各自の身體によく合はすには,次の各部寸法の取り方によつて仕立てるがよい。

各部寸法の取り方

後身丈。手を下にのばし,脊骨の上部から中指の先までとす。

前身丈。後身丈より四糎乃至八糎短くする。

身巾。胸廻りの四分の一に七糎五粍位を加へたものを後半身の巾とする。前も同じ。



袖。手を胸に取つて肱を張り,脊から肱を廻して手首の處までとする。

袖丈。袖の寸法から肩巾の二分の一を減じたもの。

衿丈。首の廻りに,重ね代と縫ひ代として四糎を加へる。

袖口布丈。手首の廻りに重ね代と縫ひ代とを加へる。

## ㊁　裁ち方と積り方

1,大巾物は後身丈と前身丈と袖丈を加へた寸法を用布と見積り,用布の丈を裁ち切る。

2,用布から袖丈を裁ち切り,殘りは身頃と附属用布にする。

3,身頃の巾を二つに折り,更に丈を二つに折つて,裾の丸みの標をつけて裁ち切る。

4,後身丈を計つて肩山を定め,肩山から丈を二つに折つて前身頃を上に置き,腮刳り・袖附・脇の刳り等の標をつけて裁ち切る。腮の刳りは後布にはつけぬやうに,又後も一緒に裁ち切らぬやうに注意する。

5,袖布を寸法通り斜に裁ち切る。

6,身頃の殘りから肩當・袖襠・袖口先布・見返し・ポケツト等をそれぞれ寸法通り標をつけ,全部の標附終つてから標の通り布を裁ち切る。

7,衿布,袖口布等に標をつけて裁つ。

**注意**　片面物は袖を裁ち違ひにすることが出來ないから普通には裁たれない。卽ち袖が少し細くなるけれども次の袖の裁ち方圖のやうに無駄切を出して裁つか,又は袖の長さの二倍を積つて裁つ。

### ㊂　縫ひ方順序

一,カフス。　二,袖。　三,裾。　四,見返しと留切。　五,肩當と衿附。　六,ポケツト。　七,袖附・脇縫。　八,閂留・穴かゞり・釦附。

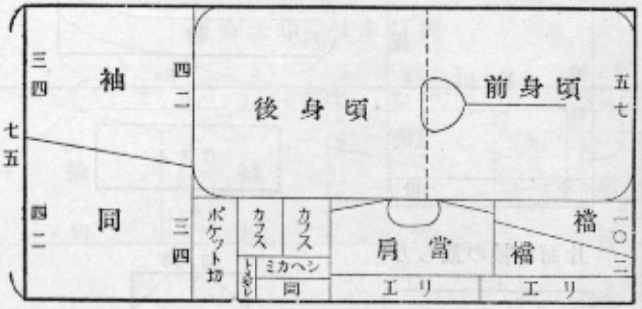
**1, カフス**　カフス切の表裏を合せ,裏の方を少し張り目にして口先の方三方を縫ひ,丸みの處は少し縫縮めをして表に引返す,但し地質の薄いものは表の方に芯を入れる。

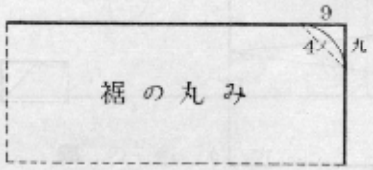
**2, 袖**　袖布と袖襠との眞直ぐな方を合せ,襠の方を巾を五粍出して,一糎の縫ひ代で繼ぎ合

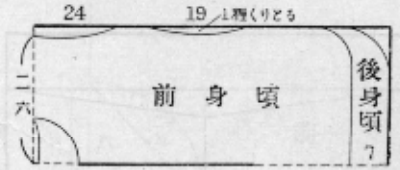


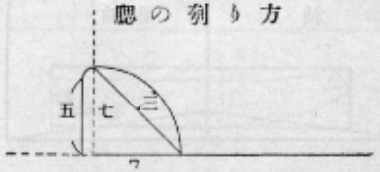
## 大人シヤツの裁ち方

用布大巾　2米10糎

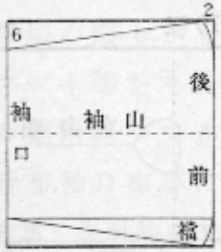


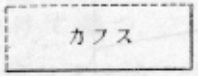



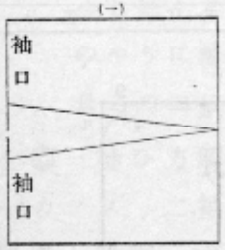
## 袖の裁ち方



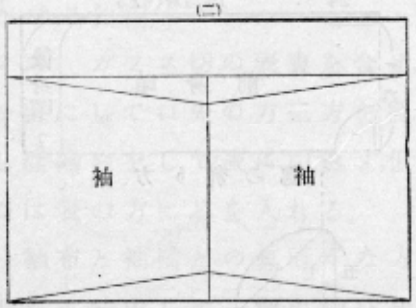



### 片面物袖の裁ち方

(一)



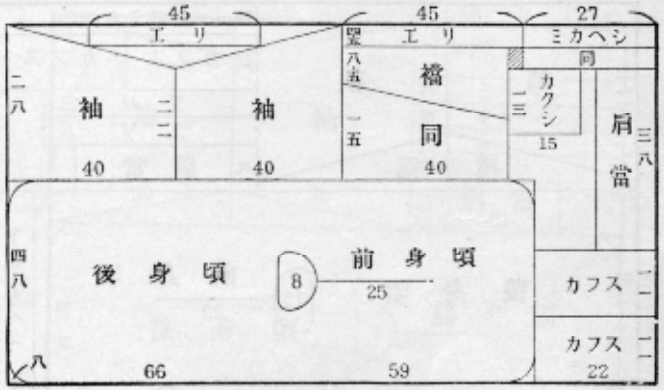
(二)



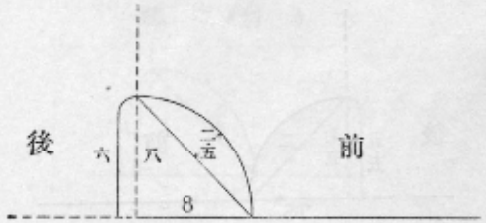


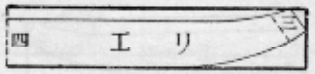

## 十三·四才用シヤツの裁ち方

用布大巾　1米47糎



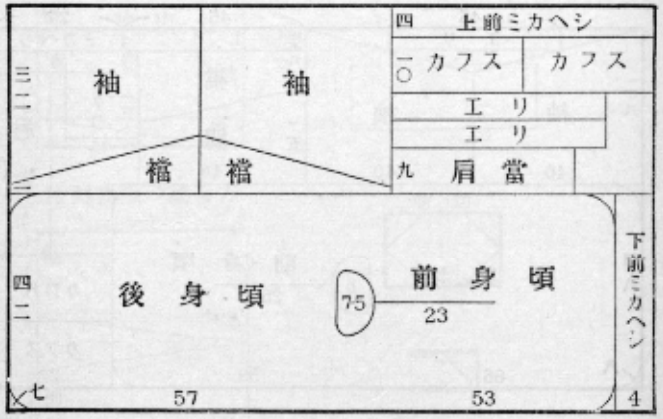

### 腰の刳り方



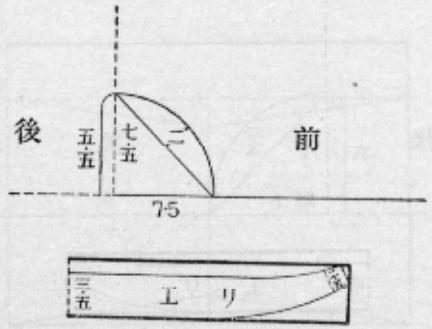



## 十才用シヤツの裁ち方

用布大巾　1米14糎



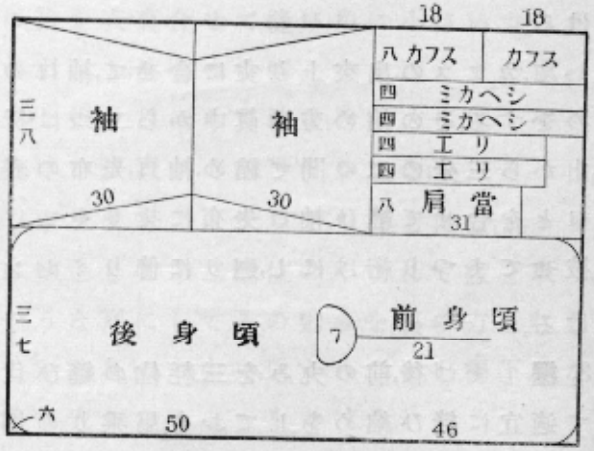

腮の割り方



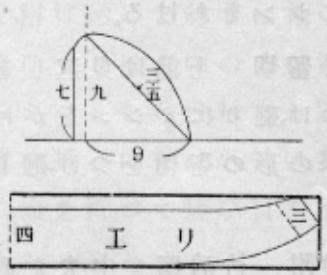



## 六·七才用シヤツの裁ち方

用布大巾　96糎




腮の割り方



せて,折りを袖につけ縫目をまつり絎するか,又は表から飾りミシンをかけ,次に袖口明の六糎を細い三つ折りにして絎けるか,又はミシンをかける。

次いで,カフスの出來上り丈に合せて,袖口の縫縮めをする,その縮め方は眞中から二つに折つて,山から三分の二の間で縮め,袖口先布の表と袖口とを合せて縫ひ,袖口先布に折りをつけ,裏を被せてまつり絎けにし,廻りに飾りミシンをかける。

3, **裾**　まづ後,前の丸みを三粍位の縫ひ代にして適宜に縫ひ縮めをしておき,馬乘りの切り込みの處から五粍の巾の三つ折りにしてまつり絎か又はミシンをかける。

4, **見返しと留切**　上前は見返しを表に,下前は裏に縫ひつけ,廻りにミシンをかけ,下方二糎と重ねて好みの形の留切をつけ,廻りにミシンをかける。

5, **肩當と衿附**　衿肩明の中央を表から二糎程つまんで肩當の巾まで表から返し針で縫ひ,



これを開いて,肩當の眞直ぐな方を後にし,斜の方を前にして身頃に當て,上下の端を折つて表からミシンをかける。

次に衿を表裏合せて縫ひ,角に小さい丸みを作つて引返し,身頃の衿附と合せ,腮ぐりの處は衿を少し張り目にして縫ひ,衿の方に返して衿裏を絎けつけ,表から飾りミシンをかける。

6, **ポケツト**　ポケツトを作るには,ポケツトの口切として巾二糎位の小切れで緣を取り,圖のやうな形にして,その廻りを裏の方五粍程折つて左前身頃の中央,肩から二十七糎下つた處に當て,表からミシンをかける。

7, **袖附·脇縫**　袖の方を五粍出して,袖山と肩山とを合せ,附け始めと終りは袖の方を少し弛めにして縫ひ,折りは身頃の方に返して端を折つて表からミシンをかけ,袖下と脇とをそれぞれ合せて縫ひ,折りは袖は外袖に,身頃は後身の方に返して,端を折つて縫ひ目をまつり絎にするか又はミシンをかける。

8, **閂留·穴かゞり·釦附**　左右の袖口明元及び

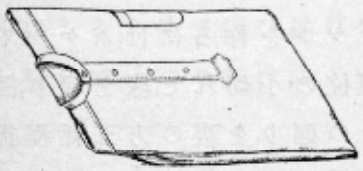
大妻圖

兩馬乘上に閂留をする。

釦穴は外袖の巾の中央で,端から一糎入つた處に一つ上前見返し巾の中央に三つ,衿に一つ,合計七ケ所に大さ一糎程の穴かゞりをする。

內袖,衿,見返し下前にそれぞれ釦をつける。

シャツの疊み方



**注意**一,フランネル等の地厚の品は袖下,脇縫等何れも四糎出して合せ置き,裏は折り曲げずに裁ち目のまま千鳥縫をする。

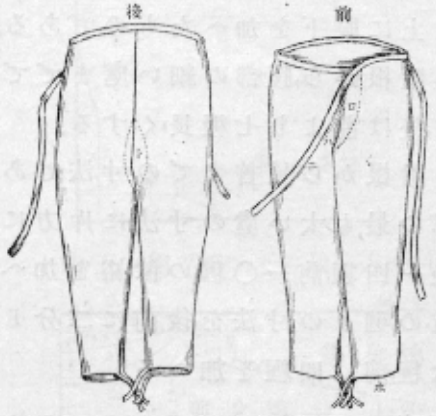
二,前割りのシャツは,衿に一つ,上前に四つ釦穴をあけ,釦もその數だけ多くつける。

釦と釦との間は凡そ八糎づゝ離すをよしとす。

仕立上つたならば少し霧を吹き,全體に烙鐵(アイロン)をかける。特に衿の附け際(きわ)にはよく注意してかけ,圖のやうに,前身頃の釦をかけ,袖を後身頃の方に折り,更に之を下方に折り返して,左右の身頃を十三糎位づゝ後身頃の方に折返し,其中から二つに折つて衿のある方を表に出して置く。



## 第二　ヅボン下




各部の名稱

イ　前身頃
ロ　見返し
ハ　持出し
ニ　紐
ホ　裾口
ヘ　後身頃
ト　居敷當

### ㊀　普通仕立上げ寸法

| | 大人 | 十五·六歳 | 十一·二歳 | 七·八歳 | 五·六歳 |
|---|---|---|---|---|---|
| 身丈 | 100糎 | 90糎 | 70糎 | 67糎 | 57糎 |
| 股上 | 28糎 | 27糎 | 26糎 | 25糎 | 24糎 |
| 股下 | 72糎 | 63糎 | 51糎 | 42糎 | 33糎 |
| 腰廻り | 90糎 | 72糎 | 69糎 | 63糎 | 57糎 |
| 胴廻り | 60糎 | 54糎 | 48糎 | 37糎 | 36糎 |
| 後巾 | 34糎 | 28糎 | 25糎 | 23糎 | 21糎 |
| 前巾 | 30糎 | 24糎 | 21糎 | 20糎 | 17糎 |
| 裾明 | 16糎 | 13糎 | 9糎 | 8糎 | 7糎 |
| 總丈 | 147糎 | 215糎 | 185糎 | 178糎 | 165糎 |

## ㊁　各部寸法の取り方

身丈　前股上に股下を加へたものである。

股上　股の附根から,腹部の細い處までであつて,後は前より七糎長くする。

股下　股の附根から足首までの寸法である。

腰廻り　腰部の最も太い處の寸法に片方につき,後一四糎,前一〇糎の餘裕を加へる。

裾口　足首の廻りの寸法を後前に二分し,後は六糎,前は四糎を加へる。

## ㊂　裁ち方

1, 出來上り股下寸法に股上寸法を加へ,尚前後の差七糎と上下の縫ひ代四糎を加へて二倍した長さに用布の丈を裁ち切る。

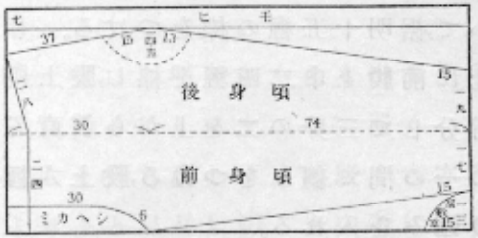
2, 巾は前巾の三二糎に後巾の三六糎を加へた寸法に裁ち,裁ち落し布は紐にする。

3, 丈を二つに折り,輪を右にし,裁ち目を左に置き更に巾を向ふへと折り,上になる布を四糎控へて折り,上の布を前身頃にし,下の布を後身頃にする。

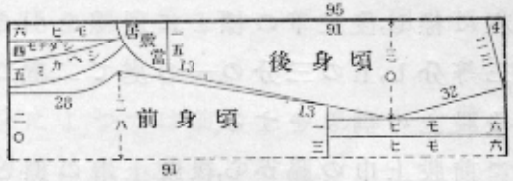
4, 股下丈.股上丈.裾口巾等の標をつけ,股下と裾



### 大人ヅボン下の裁ち方（用布大巾2米8糎）




### 十四·五才用ヅボン下の裁ち方（用布大巾1米47糎）




### 十才用ヅボン下の裁ち方（用布大布1米17糎）

### 六·七才用ヅボン下の裁ち方（用布大巾75糎）

口巾の標とに前·後それぞれ斜線を引く。

次いで,裾明十五糎の標をつける。

5, 股上に前股上巾二四糎を標し,股上の寸法を三等分して三分の二を上から眞直ぐに,下三分の一の間で刳りをつける,股上六糎の處に切り込みを入れる。

6, 後股上巾は前股上巾より四糎廣く卽ち二十八糎に標し,後股下の標とに斜線を引き,斜線を三等分し,上の三分の一の處で二糎の深さに後股上の刳りをする。

7, 次に前股上巾の脇から,後股上巾の標とに斜線を引き,これで全體の標附を終る。

右の標をつけて後,標の通りに裁ち方をする。

8, 後の居敷の形にならつて,股上十五糎,股下十三糎の居敷當を二枚裁つ。

9, 前股刳りの殘布から前刳りに合せて,巾六糎の見返しを二枚裁ち,外の殘りから持ち出し布等をとる。

### ㊃　縫ひ方順序

一,裾明。　二,見返しと持出し。　三,股上。　四,股下と裾口。　五,紐附と裾口テープ。　六,閂留·穴かがり·釦附。



**1, 裾明**　裾口の明を左右とも出來上り四糎の巾の三つ折りにしてまつつて置く。

**2, 見返しと持ち出し**　上前股上の六糎の切り込みより上と見返し切とを中表に合せて中縫をし,前身の裏の方に返し,見返しの廻りを六糎折り込んで中縫をした部分の廻りにミシンをかける。

又場合によつては前股上の見返しを股上止りまでの丈に裁ち,表につける。

次に持出し布の斜の方を中表に合せて縫ひ,引き返して表を出し,その一枚の眞直ぐな方を下前股上の切り込みの上に合せて縫ひ,縫ひ目を割り,この部分に,今一枚の持ち出し布の端を折つて合せ,廻りにミシンをかける。

それより兩前の六糎の間を中表に合せ,下前を五糎程出して合せて縫ひ上前に折り返し,端を折つてまつつて置く。

持ち出しをしないものは股上止りより五糎上

迄つき合せにまつつて置く。

**3, 股上縫**　居敷當の股上を合せて縫ひ,縫ひ目を割つてあらく,割り千鳥をし,後身の股上を中表に合せて縫ひ,縫ひ目を割りその兩端を折つてまつり,次に居敷當の廻りを折つて後身の裏の居敷の處にあて廻りをまつり縫か,又はミシンをかける。

**4, 裾口及股下**　左右裾口を一糎五粍の巾に三つ折りにしてミシンをかけ,次に內股を裾の切り込みの上から前身頃を五粍出して合せ,ミシン縫をし,後身頃の方に折りをつけ端を折つてまつつて置く。

脇に縫ひ目のあるものはまづ脇縫をしてから裾口股下縫をする,脇縫の仕方は,後身を巾五粍出して左右の脇を中央に合せて縫ひ,左脚の脇は上から二糎程下つた處に紐を通す穴四糎程あけておき,折りは前身に返して縫ひ代の端を折つてまつつて置く。

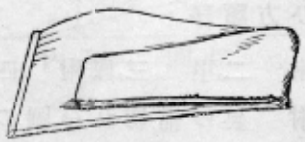
**5, 紐附と裾口のテープ**　後身前身の縫目なしの時は上前の脇の上部を五糎位切りあけ,三つ折りにしミシンをかけ紐通しをつくる。胴廻りを仕立上げ寸法の八十糎に縫ひ縮める,縫ひ縮めの場所は脇の縫ひ目から後の方へ凡そ八糎程よつた處とす。次に紐を接いで,上前に三十糎位の長さを出し,あとの殘りは全部下前にのばして縫ひつけ,裏側を新ける。次に一糎巾のテープを五十糎程の長さに二本裁ち切り,裾口の一糎五粍の巾の中を通して兩端を留めて置く。



**6, 閂留と仕上げ**　前見返しの下,紐通しの穴の下,紐附の左右,裾明の上に閂留をする。

仕上つたならば霧を吹きアイロンをかけ,內股を中にして兩脚を合せ,紐を中に疊んで入れ,中央から二つに折つて疊んで置く。

疊み方の圖



# 第六章　足袋と脚絆

## 第一　足　袋

### 仕立上りの圖

### ㊀　裁ち方

**用布の丈**　並巾布で作る時はその足袋の文數の約二倍要る。但し一文は凡そ二糎五粍である。

**表地**　木綿或はキヤラコ。

**裏地**　木綿又はネル何れも白(表が紺の時も裏は白を用ひる,但し襠裏は表と同色)

**底地**　雲斎又は石底。

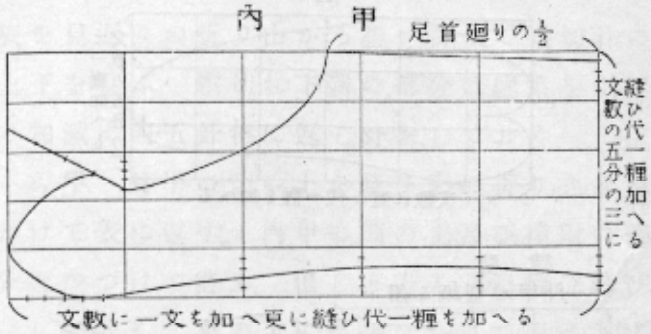
### ㊁　縫ひ方順序

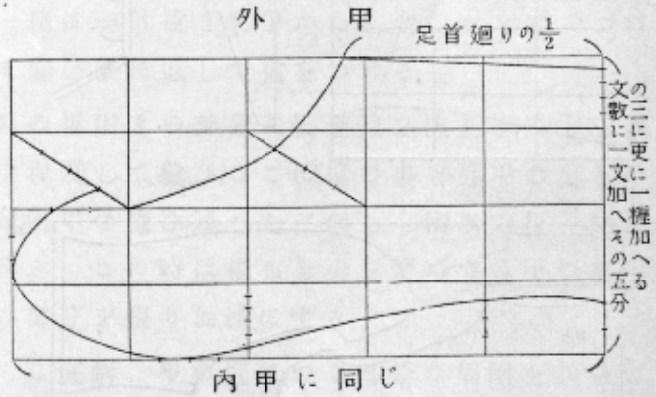
一,コハゼ附　二,甲　三,底附　四,掛糸

**1, コハゼ附**　裏の襠切れを圖のやうに點線の處で折り,裏地の表側にコハゼをつける。コ



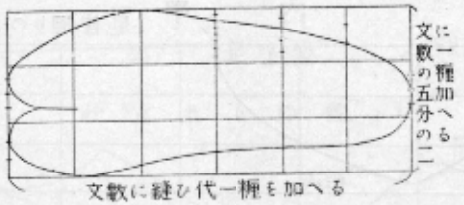
### 割出し及び型のとり方



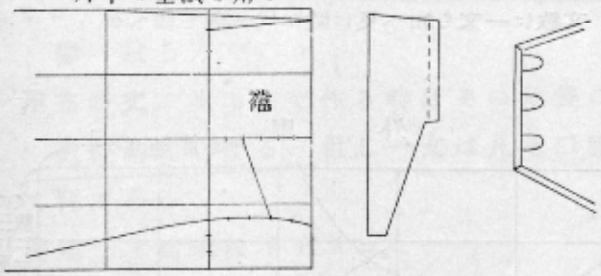
## 裁　ち　方

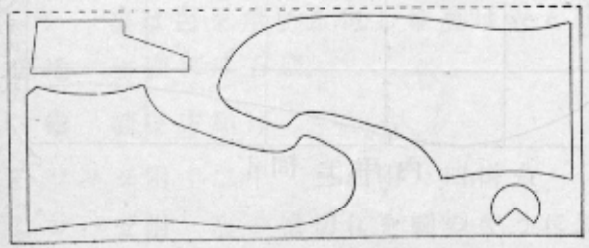
### 底




### 襠　型

外甲の型紙を用ふ





ハゼを中に表裏の襠切れを合せて,二本糸で一針抜きにコハゼのつく部分を縫ひつける。

表を見返りの折り山から裏へ折つて襠切れの上下を縫ふ。襠切れ下斜の部分は縫糸を引張り加減に四·五針毎に返し針をしておく。

**2, 甲**　外甲の筒の上を縫ひ,裏に折り,きせをかけて表に返す。内甲の筒の上及び襠附の部分をつづけて縫ふ。但し下方より三糎位縫ひ残しておく。裏の方にきせをかけて表に返す。裏表筒口を縫ひ合せた外甲で内甲を挟み,四枚一緒に一針抜きに甲から鉤型の處までつづけて縫ひ,表に返して襠をつける。

外の襠附きの部分に襠全體を挟み,下の方三糎半程残して縫ひ,ここに(襠の裏と外甲の裏との間)内甲の縫ひ残した三糎をも挟み六枚一緒に縫ふ。この時は襠布を少し弛めて外甲の襠附の部分を張り加減にする。

**3, 底附**　甲の底につく部分の周圍を縫糸で押へておく。次に底地に甲切れを合はせて,踵及び爪先きの内外の切り込みの處を一針通し

て止めておく。踵の方は稍甲布を張り目にし,爪先の方は甲布を縫ひ縮めてギヤダを取り乍ら一針抜きに甲と底とを撚り糸で縫ひ合せる。この時五·六針毎にその針で縁を巻き縫にする。

4,**掛糸**　表に返して形を整へ,足首に合せてコハゼの掛け糸をつける。掛け糸には少し太めの撚り糸を用ひる。

## 第二　脚　袢

### ㊀　裁ち方

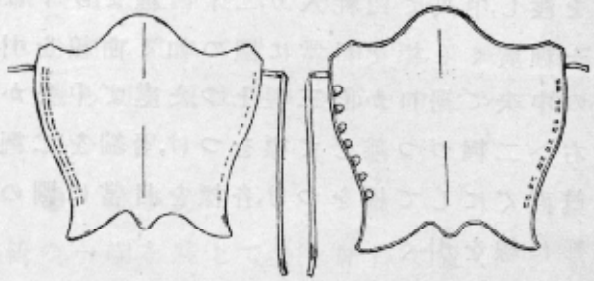
用布の地質は木綿,甲斐絹等であつて表布は並巾一米十糎,裏布は並巾七十五糎を要す。

表裏共各布を横に二つ折りにして輪の方を左におき,表の紐布だけ出して,表裏を重ねおき,紙で型を切つてその上に載せて,型の通り裁ち切る。型紙は紙の巾を用布の巾と同寸に,丈を三十六糎にして裁ち切り,始めに右の下角から,八糎五粍に標し,左の角から六糎五粍,それより又九糎を標し,その標を圖の通り眞直ぐに點線を引き,八糎五粍の點線の處で打合せの三糎から二十四糎を標し,次にその二十四糎の中央に圖

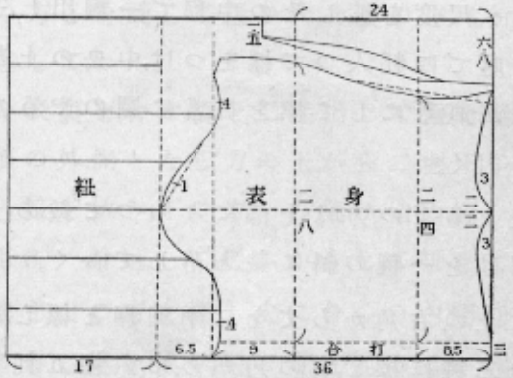


脚袢仕立上りの圖

表　　裏



裁　ち　方



の通り,眞直ぐに點線を引き,その次の線の處で打合せから二十八糎を標し,左の次の線まで眞直ぐに線を引き,二十八糎から二十四糎まで尺度を渡し,中央で四糎入り,二十四糎より下は裾を一糎廣くし,標を目當に圖の如く曲線を引く。裾の中央で裾口から三糎上つた處で中央から左右へ二糎づつ離して標をつけ,兩端を二糎だけ眞直ぐにして標をつけ,各標を目當に圖の如き形に線を引く。

左から六糎五糎の點線の處の中央の線より上の巾までを三等分し,中央の上部から三分の一の處へ尺度を渡し,その中程で一糎出し,三分の二の處で四糎入つて標をつけ,中央の上部を一糎程眞直ぐにして標を目當に圖のやうな形に線を引く。

中央より下の方は上部にならつて裁ち,上部の角だけを一糎の斜に裁ち落しておく。

襠は上の右角から丈を二十四糎と標し,そこで巾を二糎に標し,右の角から巾六糎五糎と標し,次の點線の處で七糎五糎から二糎の處へ斜に



尺度を渡し,その中央で四糎入つた處に又標をつけ,標を目當に圖の如く線を引き,右の上の角を一糎斜に切り落す。この廻りを裁ち切れば型紙は出來上つたのである。

これを前に重ねて置いた布の上に載せ,型に合せて裁ち切り,紐は殘りの布を巾七つに裁ち切つて用ひる。

### ㊁ 縫ひ方

紐の一端を殘して各々新けて置く。

襠の裏表を合せ,眞直な巾の廣い方に上から二糎下つた處へ短い紐を挾んでよく留め,斜の方と下の方とを殘して縫ひ合せ,裏の方に折つて表に返しておく。

身頃の表裏を合せ,裏を二糎出して裾を縫ひ,次に身頃の外側となる方の上から二糎下つた處に長い紐を挾み,下の方から縫ひ始め,縫ひ方は三針毎に一針返して縫ふ,かうして紐をよく留め,引續き山の方を縫ふ,次に身頃の內側卽ち,眞直ぐの方で襠を挾み,裾の方を弛めて一針拔きに縫ひ,裾の方を九糎程殘しておき,裏の方へ折

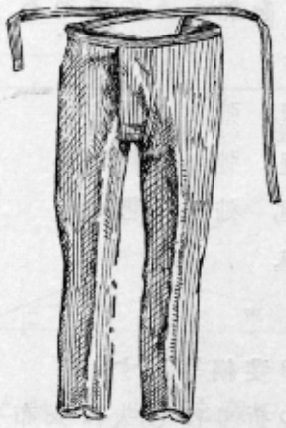
り表に返して縫ひ殘した處を縮け合せる。次に紐附と同じ位置に外側から六糎入つた處へ，紐巾の裾口から六糎上つた處から，一糎づゝ離してコハゼを七枚附け，內側の三糎內に二本の撚合糸で掛糸を附ける。



# 第七章　股引と江戸腹掛

## 第一　股　引

股引仕立上りの圖



寸法取り方圖

### ㊀　普通仕立上げ寸法

丈　九五糎。
股上　凡そ丈の三分の一。
股下　凡そ丈の三分の二。
股廻り　四七糎。
膝廻り　三四糎。
こむら廻り　三六糎。

踵廻り　三〇糎。

以上は普通仕立上げ寸法であるけれども,もし正しい寸法を得たい場合は寸法取り方圖に示したやうに各所の寸法を計り,それに次に示すやうに縫ひ代と弛みとを加へるのである。

各部弛みの入れ方

股廻り　縫ひ代三糎,　弛み二糎,
膝廻り　縫ひ代三糎,　弛み一糎,
こむら　縫ひ代三糎,　弛み一糎。
踵廻り　縫ひ代三糎,

## ㊁　裁ち方

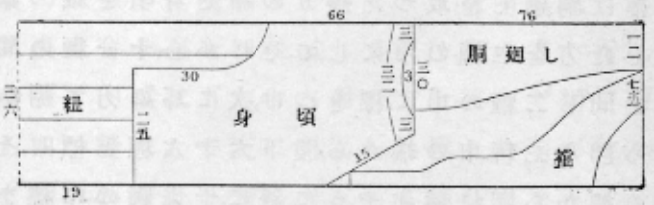
用布の地質は木綿,甲斐絹等とす。

まづ裏用布を横に二つ折りにし,次に表布も横に二つに折り,紐の分だけ輪の方をずらして裏の上にのせ,輪と反對の端即ち,表裏の重つてゐる方から,まづ胴廻しの丈を七十六糎に標し,それから身頃の股下六十六糎に標し,その標から股上を三十糎の三分の二まで眞直ぐにして中央の標に向ひ,弓狀に標をつける。以上で身頃の方だけ標通りに裁ち切るのである。

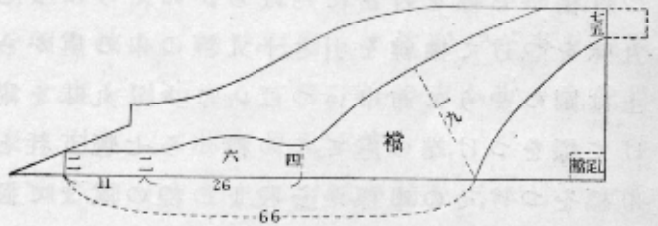


### 裁　ち　方

用布並巾　表3米82糎　裏75糎




褄の裁ち方




次に胴廻しの布を裁つにはまづ殘りの布の右の端を向側から十二糎の巾に標をつけ,それより凡そ股上の三分の二即ち,十九糎の間は同じく十二糎巾に標しておき,次に身頃を切り離して裁ち目の處を向ふ側から巾三十糎と標をつけ,前の十二糎巾の標の終りから三十糎に向ひ尺度を斜めに渡し,その中央で三糎出して標し,その標を目當に丸味をつけて標し,三十糎巾の

方の端を眞直ぐに裁ち落して後は標通りに裁ち切るのである。

襠は胴廻しを取つた殘りの布で身頃を裁ち離した方を二糎の巾にして,それから十一糎の間を同じ二糎の巾に標をつけ,次に耳の方で裾から卽ち二糎巾の端から股下六十六糎と標し,その標から圖に示すやうに斜に十九糎の巾標をつけ,裾から標を目當に角ばらかぬやうに少し丸味をつけて曲線を引き,十九糎の巾の處から上は,圖のやうに布巾いつぱいに少し丸味を附けて標をつけ,端の處で,その標から七糎五粍と巾標をつけ,その巾標から股下の標の處まで圖のやうに少し刳り加減に標をつけて,標通りに裁ち切るのである。

襠の丈の上部が少し不足であるから,裁ち落し布から圖に示すやうに襠足し布を裁つて接ぐのである。

終りに紐は布巾を五つ割りにし,丈二米位になるやうに接ぎ合せる。

## ㊁　縫ひ方



まづ襠の裾口を裏表縫ひ合せる,その時裏の方を四粍縫ひ込む,裏へ折つて表に返し,裏の方を二粍控へて兩端をとぢておき,身頃の裾口も又裏表合せ,裏を四粍出して縫ひ,裏の方へ折り,身頃で內襠股下六十六糎の方を挾んで裾口から四つ縫にして表に引返し,外襠も身頃で挾んで裾口から縫ひ表に引返して縫ひ目を正す。

胴廻しの廣い方を後に狹い方を前に,斜の方で身頃を挾んで縫ひ,胴廻しの眞直ぐな方を裏表合せ,裏を四粍出して縫ひ,裏の方へ折りをつけ,表に引返して折り目を正す。

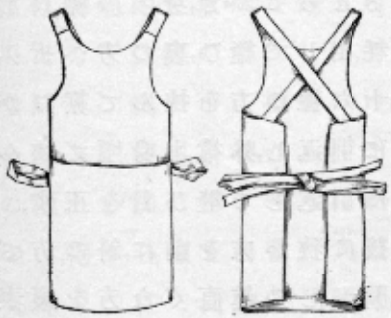
左脚の前の方を上に右脚の前を下にして十五糎程重ね,鞝でとぢておき,附け始めの方へ紐を三十糎程出して紐附をし,紐先を整へて,紐を絎ける。

終りに裾口から八糎上つた處に前巾だけ表裏一緒に,表から縫ひ鞝のやうに縫つておく。

凡て四つ縫の處は撚糸を用ふ,仕立上つたならば霧を吹き,よく疊み附けておく。

## 第二　江戸腹掛

江戸腹掛仕立上りの圖



### ㊁　縫ひ方順序

1, 紐を新ける。

2, たすきを標附の通り輪の方を摘み縫ひにして一方を新けておき, 兩端は縫はないでおく。

3, 裏布の隱し布に恰度着物の袖口布をつけるやうにして,隱しの口明の部分に表布をつけるのである。

4, 表布の肩から三十糎下つた處に十九糎のどんぶり隱しをつくる,つまり丈の一米二糎あるのを裏用布の丈の六十四糎に合せて四十糎を二つ折りの隱しが出來るのである。

5, 脇布の表裏で紐及びたすきを挟んで上から馬乘の處まで縫つて表に返す。

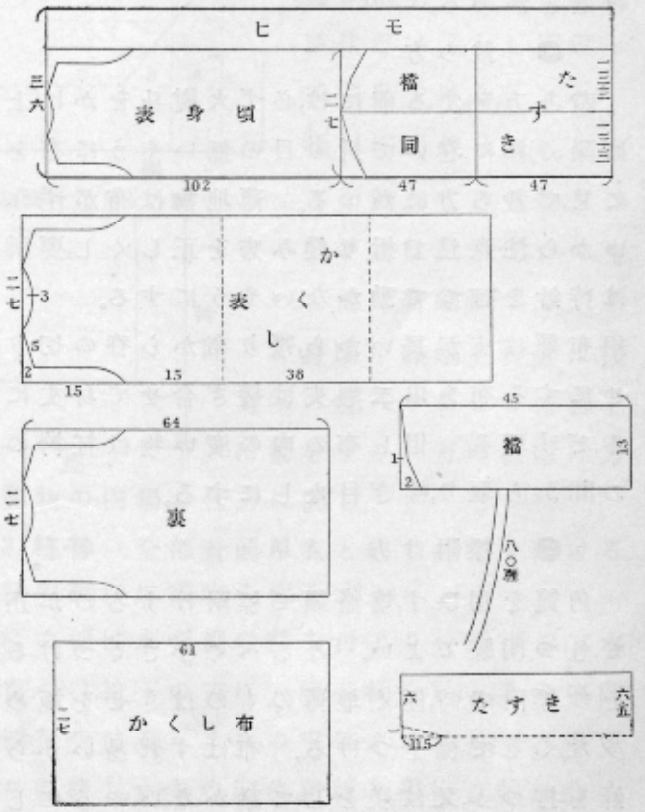
6, 前身の表と横隱しとを合せ,十五糎の口明を縫ひ,先に縫つた脇布を身頃の表と裏とで挟



んで兩方及び上の方を四つ縫にし,裾口を縫ひ殘して,そこから全部を返して新けておく。

### 江戸腹掛の裁ち方

用布並巾　1米2糎



# 第八章　薄物單衣

薄地物には紗・絽・絽錦紗・透綾・明石縮・絽縮緬・上布などがある。

## ㊀　裁ち方

裁ち方をする前には,必ず火熨斗をかけ(上布は除く)棒に巻いて折り目の無いやうに布を平にして裁ち方にかゝる。薄地物は布がずれ易いから注意して折り疊み方を正しくし,要所には待針を打つて動かないやうにする。

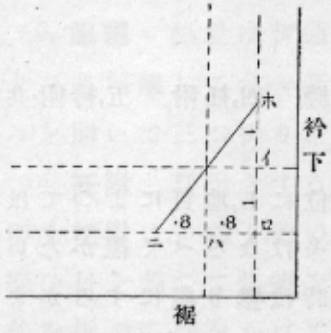
絹布類は丈が長いから,殘り布から脊の切り伏せにする布を巾二糎,丈は接ぎ合せて身丈になるだけ取る。但し布の巾の廣い物は衽・衿の巾の間から取り,接ぎ目なしにする。

## ㊁　標附け方

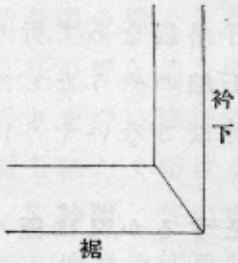
角篦を用ひず,焼烙鏝で標附けするのが正確で,且つ明瞭でよい。なるべく小さくつける。その標附の時,極く地薄のものはきせを極めて少なくして標をつける。布はずれ易いから待針を打つか,又は躾をして動かないやうにしておく。



額縁標附け方の圖




額縁仕立上りの圖




**1, 袖**　袖下を外表にして極く淺い縫ひ代で縫ひ,割つて縫ひ目を縫ひ代だけずらし,裏返して標をつける。

袖口絎け代は五粍位として,耳の釣れてゐる物,又は巾の廣い物は裁ち切つてもよい。他は普通にする。

**2, 身頃**　繰越しの分は後身頃の身八つ口より二糎下に揚をする。その標附け方は男物の內揚の仕方に同じ。

**3, 衽・衿**　全部普通單衣と同じに標を附ける。尙,衽の裾には額緣の標をする。

額緣の標はまづ裾の裁ち目より一糎づつ二本標をつけ,衿下の方に一糎五粍を計り,その中間に標をつける。イ・ロの巾をホに移し,ロ・ハの巾をニに移し,ホ・ニの間に斜線を引いて,縫ひ合せ

の標にする。

### ㊁　縫ひ方順序

一,袖。　二,脊縫。　三,脇縫。　四,衽附。　五,衿附·共衿。　六,袖附。

針目は全體細かく三粍位にし,地質によつてはもつと細かくもする。糸はなるべく繼がないやうにする。もし繼ぐ時は撚り繼にするがよく,場所によつては木綿物と同じやうに重ね繼でもよい。縫ひ目には必ず平烙鏝をあて,折り烙鏝は決して使はない。明石縮のやうな,しぼのあるものは特に注意して伸ばさないやうにしなければならない。

**1, 袖**　袖口は細い撚り絎とするか,又は極く細く三つ折り絎にする。袖口布をつける場合は男物單衣羽織のやうにする。

**2, 背縫**　耳の變つたものはそのまゝ袋縫にするか,又は裁ち切つて,袋縫にすることもあるけれども主に地薄物は肩當·居敷當を用ひないから,背縫は切り伏せといつて,共布又は同じ色の布を背の縫ひ目にあてゝ三枚一緒に縫ひ,折



りをつけて一方に絎けつける。

**3, 脇縫**　脇縫は普通に一度縫つて更に,脇縫より八粍離して今一條縫ひ,折りをつけ,縫ひ込みを開いて三つ折り絎けにする。

**4, 衽附**　衽附をする前に裾の額緣を縫ふ。即ち標附けの通り,斜の標を合せて細かく縫ひ,縫ひ目を割つて烙鏝を當て,衿下絎け代·裾絎け代を折つて躾をかけて,次に衽附をする。まづ前身頃の標より八粍多く標にそうて上まで折り,衽の標と前身頃の標とを合せて三枚を縫ひ,折りをつけ,縫ひ込みを絎けつけ,次に衿下及び裾を細かく絎ける。

**5, 衿附**　普通單衣とつけ方は變らない。しかし地薄物は肩當がつかないから,斜布で月形の物を拵へて,衿肩廻りの裏衿附けの際につけて一緒に縫ふ。表返して衿の始末をして絎け上げ,共衿をかける。

**6, 袖附**　折り附にせずに普通につける。

**備考**　一,薄物單衣を仕立てるについて注意すべき事柄を問ふ。

# 第九章　男物單衣羽織

單衣羽織は春の終りから秋にかけて,着用するもので,從つてその地質は男物に絽·紗·透綾·麻·セル等が用ひられる。(女物には絽·絽縮緬·紗·壁御召等が用ひられる)

セル等の地厚物には,甲斐絹·羽二重等を肩の滑りをよくするために肩當に用ひ,地薄物には肩當は使はない。しかし肩廻りのいたむのを避けるために,斜布を少し肩廻りだけにつける。

## ㊀　普通仕立上げ寸法

袖丈　着物と同寸
身丈　着丈の四分の三に四糎加へる,一米五糎内外
袖口　着物と同寸
袖附　總附にする
袖巾　着物と同寸
後巾　着物と同寸
前巾　いつぱい
衿巾　七糎五粍



襠巾　七糎五粍
衿肩明　着物より五粍增し
前下り　三糎五粍
乳下り　背から四五糎内外
裄　着物と同寸
繰越し　五粍
裾の折り返し　一〇糎内外

## ㊁　裁ち方と積り方

用布の丈の短い物は襠を鈎裁ちにし,充分ある物は棒襠に裁つ。單衣羽織は袷羽織と違つて,裾の折り返しを三つ折り裄にするから,身丈の出來上りに三つ山の縫ひ代と,裾の折り返しの二倍とを加へたものを後身丈の裁ち切りにする。

前丈は,後丈に倘繰越しの二倍と,前下りとを加へたものである。

襠の補ひ布は,裁ち切り袖口布丈から袖附寸法を減じ,なほ襠上裄け代(一糎)を減じそれに繰越しを加へて二倍したものである。

セル地等にて單衣羽織を裁つには大體大巾で

あるから次の圖のやうにする,即ち袖の横から衿をとる,もし袖丈の短い時は衿丈を充分とりて袖の横から殘布を出す,身頃は背縫をしないのを普通とするから前落しをその積りで裁たなければならない,そして袖の巾は裾絎けの裏にかへる處で巾を廣く要するから無理のゆかない程度に末廣に裁ち切る。

### ㊁　標附け方

**1, 袖**　中表に兩袖を別々に丈を二つ折りにして例の通りにおき,袖丈·袖口·袖巾·山·丸みの標をつけ,次いで袖口布の標をつける。

袖口布の丈を二つ折りにして,二枚重ね,裁ち目を袖口にして縫ひ代は一糎とし,袖口の標は表よりも二粍つめ,丈·巾をいつぱいに標をつける。

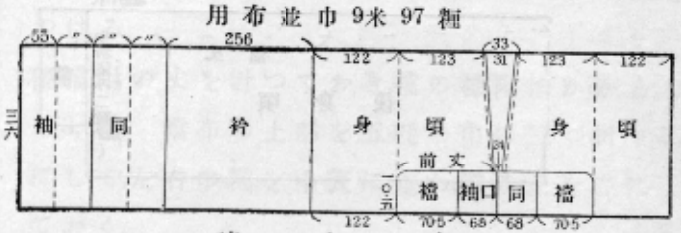
**2, 身頃**　左右の身頃を中表に二枚合せ,衿肩明と前落しの裁ち目は,特に動かないやうに,よく揃へて針を打ち,肩に假縫をかけ,正しく重ね,前身頃を下に,後身頃を上に背を左手前にして繰越しをつけておく。

身丈·背縫ひ代·袖附·肩巾·後巾の標をつけ,次に裾



## 單衣羽織の裁ち方

用布並巾 9米 97 糎

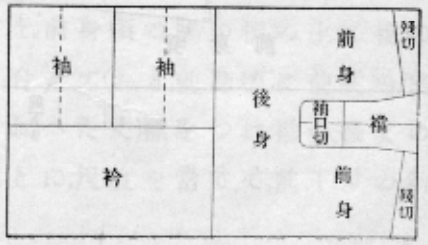



積　り　方

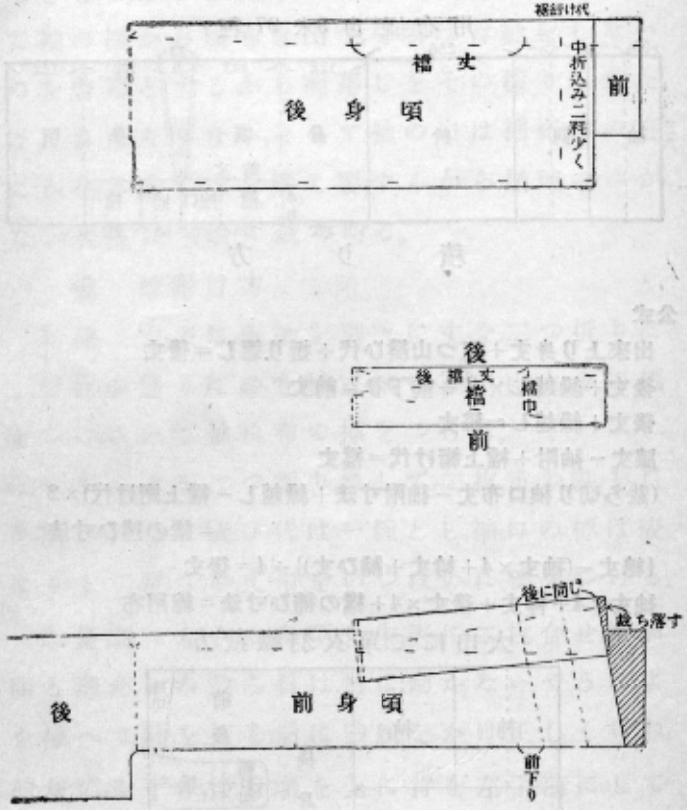
**公式**

**出來上り身丈＋三つ山縫ひ代＋折り返し＝後丈**
**後丈＋繰越し×2＋前下り＝前丈**
**後丈＋繰越し＝脇丈**
**脇丈－袖附＋襟上絎け代＝襟丈**
**(裁ち切り袖口布丈－袖附寸法＋繰越し－襟上絎け代)×2**
**＝襟の補ひ寸法**
**{總丈－(袖丈×4＋衿丈＋補ひ丈)}÷4＝後丈**
**袖丈×4＋衿丈＋後丈×4＋襟の補ひ寸法＝總用布**

### 大巾にて單衣羽織裁方



## 標附け方圖






の折り返しを計つて,その寸法の二分の一より少し(二糎位)短いものを中折り込みにして標をつける。

後襠附の丈を計つておき,襠の標附にかかる。

3, **襠**　襠布の上部を五糎の巾の三つ折り紺にして,左右の襠を中表に重ね,襠の上を左にしておく。

襠の上より後襠丈を計つて,向ふ側に丈標をつける。

次に襠布の中央を中心にして襠巾の標をつけ,襠の上は襠布の中心に標をつけ,上襠巾の三糎を後襠附の方へ寄せて後襠附の標をつけ,次いで前襠附の標をつける。

尚丈標から下の巾は,上の巾の斜線を引延して廣くなるままにしておく。

この襠を前身頃の脇の標の上に襠の前身頃附の標を合せておき,前身頃に前丈の(後丈標に前下りを加へた丈)標をつけ,襠の後丈の標と前下りの標とに,尺度を當てて,前下りの斜の標をつける。

次に裾絎け代の折り返しの標を,後身頃と同じに定めて標附け,前布と,襠布とに斜の無駄切が出るからこれを裁ち切る。

4, **衿**　袷羽織に同じ。

㊃　縫ひ方順序

一,袖。二,身頃。三,前襠附。四,衿附。五,後襠附。六,袖附。

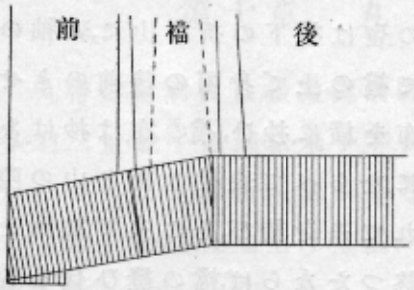
1, **袖**　袖口布の下の端を七·八粍の巾に一糎位の針目に淺く折つて押へ縫ひにし,表袖の袖口と縫ひ合せ,袷羽織と同じやうに袖口の留をして,その糸で袖下を縫ひ,袖口布の奥を折り,二糎位の針目にして,表に針目の目立たないやうに注意して絎ける。

袖下は地厚物の場合には,外袖を一糎ずらして縫ひ,内袖の方に絎けつける。地薄物又は縫ひ込みの少ない物は袖下を袋縫にする。丸みと巾縫ひ代の二倍は淺縫を省く。

2, **身頃**　背縫は普通二重縫にする(但し目立たぬやう)。耳に鋏を入れた場合,又は耳の色の異つてゐるものは袋縫にする。



裾を裏返した圖




3, **前襠附**　前襠を向ふに,身頃を手前にして襠附の標を合せ,身頃を見て襠の出來上りだけを縫ひつける。次に裾は一旦形を整へ,標を正し,糸標をつけてから開いて裾の中折込みの標までを縫ひ,きせをかけて表に返し,裾を三つ折りにして躾で押へる。

4, **衿附**　衿の折り方,芯の入れ方,衿附け方等袷羽織に同じ。地薄のものは衿の眞後で絎けないで衿肩を廻し縫ひにする。但し絹等の仕立ての場合には芯をとぢつける糸は共色の糸を用ふる。

5, **後襠附**　次に身頃を手前にして後襠と後身頃との丈の標を合せ,身頃は眞直ぐに,襠は標通りに合せて,裾絎け代の中折り込みの處まで待針を打つて縫ひ,きせをかけて表に返し,裾絎け代を前身頃にならつて折り,一糎五粍の針目

で表に目立たないやうに注意して紩ける。

**6, 袖附**　袖附の留は袖下の折り山に,表袖の裏から針を出して襠の上で身頃の後前のきせ山を突き合せて,布を横に抄ひ,(襠の布は抄はないこと)最初の針にならべて表袖の折り山の際に表から針を入れて糸を結び,その糸で袖附をする。袖をつけ終つたならば,襠の縫ひ代を脇縫ひ代に紩けつけ,更に脇縫ひ代の耳を折つて身頃に紩けつける。身頃の縫ひ代の少ない物は襠の縫ひ代を身頃に紩けつけ,次に八つ口を紩ける。

**注意**　一,セル地を以つて男物單衣羽織を縫ふには裾紩け,繰附の縫ひ込み等は全部千鳥掛とし,袖口の奥も千鳥で押へる。尚丁寧にするには,袖附の縫ひ目は半返し縫ひにして割り,その他の要所も半返し縫ひにする。

**備考**　一,單衣羽織の裁ち方に於て襠の補ひ丈は何故に必要であるかを說明せよ。
二,男物單衣羽織の襠の標附け方を問ふ。
三,男物單衣羽織の縫ひ方順序を問ふ。



# 第十章　丸帶

丸帶の材料には,綴(つゞれ)織・錦・唐織・朱珍・厚板・綸子・博多・羽二重・緞子(どんす)・鹽瀨・紹・朱子等が主なものであるが,この外にも澤山種類がある。

## ㊀ 普通仕立上げ寸法

大人物

| | | |
|---|---|---|
| 巾 | 二六糎 | 三二糎 |
| 丈 | 三米八〇糎 | 四米二〇糎 |

子供物

| | 十二・三歲用 | 十歲用 | 七歲用 |
|---|---|---|---|
| 巾 | 二六糎 | 二三糎 | 一八糎 |
| 丈 | 四米內外 | 三米五〇糎 | 二米九〇糎 |

## ㊁ 布の整理

**1, 帶地耳直し**　耳のあまり厚くないものは,腹合せ帶と同じやうに伸し,耳の糸の硬く厚くて,しかも釣れてゐるものは,その部分だけ切り取つて前のやうに伸す。

**2, 垂と手の織り出しの整理**　垂と手の織り出しは,直角になるやうに,手で充分直し,尚全體

の横の布目をも正す。この時少し濕りを與へてもよい。

**3, 地伸し**　裏から火熨斗をかけて全體の地伸しをする。

芯の地伸しは腹合せ帶に同じである。

**注意**　交織物の時は絹と綿とは熱に對して縮む度が違ふため,火力を用ひて耳を伸ばす時は不同に伸縮することがある。この時は手で伸ばす方がよい。しかし全體に裏から一樣に,地伸しをすることは差支へない。

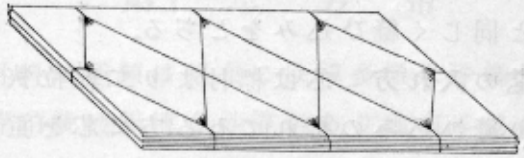
### ㊂　標附け方

一,布を二つに折り,織り出しを揃へて垂と手の假とぢをする。織り出しは普通一つだけ出す。しかし品のよい物は好みによつて二つ出し,更に,その先の無地の處を三糎位出して仕立てることもある。

文字を織り出したもの(例へば朱子等)は文字の隱れないやうに且つ文字が帶巾の中央に格好よくする。手は垂と同じやうに織り出しを普通は一つ出すが,無地の處を垂の方に



丸帶仕立上りの圖



出したならば,手も同じやうに垂と揃へて出すがよい。以上のやうにして,丈の標をする。

二,巾の中央を,腹合せ帶のやうに四十糎おき位に,待針をして縫ひ目の外に假とぢをする。

三,仕立上りの帶巾よりも,二粍廣くして巾の標を輕く通し篦にしてつける。

### ㊃　縫ひ方順序

**1, 縫ひ方**　縫ひ方は,大體腹合せ帶に同じであるが,片側に縫ひ目がないから縫ふ必要がなく,又中央より少し手の方へよつた處を,帶巾より四糎位廣く縫はずに明けて置き,左右の端は四十糎程半返し縫ひにし,外は一針抜きに極く細かく,しかも縫ひ目の縮まないやうに縫ふ。手や垂の端は横の織り糸を通して眞直ぐに半返し縫ひにする。

**2, 折のつけ方**　縫ひ目に平烙鏝を充分にか

けて,手で兩端を折り次に縦を折る。角は腹合せ帶と同じく縫ひ込みをとぢる。

3, **芯の入れ方**　芯は標付より二粍位狹く裁ち切り,縫ひ込みの折れてゐる方に芯を重ねる。芯の弛みは凡そ,四十糎について五粍位にする。帶皮のみを引張つて,芯の落ち着きを見て,待針を打ち芯の丈を切り,兩端と一方の縦の縫ひ込みとに芯をとぢつける。芯には眞綿を引く。角を先に少し返しておいて,帶を巻き,縫ひ殘した處から,表に返して,腹合せ帶と同じやうにゾベ糸で縫ひ目に躾をかけ,縫ひ殘した處を細かく絎ける。

4, **仕上げ**　四角の角に引糸をつけ,その糸を引張つて角を眞四角に出して火熨斗をかけ,壓をおき,六つ又は八つに疊んで,紅白の絹糸でとぢをし,菱に飾り糸をかける。



# 第十一章　男　帶

材料の種類は,絹布には,博多織朱珍·繻子·節糸織·琥珀·綾織·絽博多·紗等があり,綿布には,小倉·瓦斯小倉·紙布等がある。

㊀　普通仕立上げ寸法

大人物

巾　一〇糎—一一糎

丈　三米八〇糎—四米一〇糎

子供物

巾　七糎—八糎

丈　二米五〇糎—三米

㊁　布の整理

女物と同じやうに耳を伸す。横の布目が明瞭な物が多いから,布目が正しくなるやうに裏から火熨斗をかけて平にし,棒に巻いて充分に地伸しをする。

芯の地伸しも女物に同じである。

㊂　標附け方

巾を二つに折り,縫ひ代の邊を假とぢする。

但し地質によつてはこのとぢを省く。巾の標を仕立上げ寸法より一粍位廣くして,輕く通し篦でつける。次いで丈の標をもつける。
仕立直しの物は,前の折り目の出ないだけに巾丈をつめる。又輪の方の折り目も,少し何れかへずらした方がよい。

㉓　縫ひ方(縫ひ仕立)

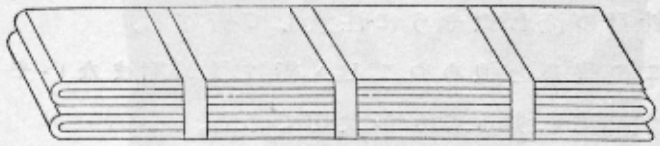
兩端十五糎位宛殘して巾標の通り半返しに縫ふ。縫ひ目に平烙鏝をかけ,手で表へ輕く折りをつけて尺度で表へ引返し,表から縫ひ目の折りを正して芯を入れる。

**1, 芯の入れ方**　芯は物によつて,一枚芯か,又は二枚芯にする。すべて巾いつぱいに入れる故,仕立上げ帶巾より二粍位狹く裁ち切り,芯の一方に厚紙をつけて,その先に紐をつけ,紐の先に錘(おもり)になるものをつけて,一方から入れて引出し,芯が正しく巾いつぱいに含まるやうに整へながら入れる。

**2, 引合と釣合**　一方で帶側と芯とを持ち,他の一方で帶だけ持つて引張つて引合をする。



男帶仕立上りの圖



それから下に置き兩手で帶側と芯との三枚を撫でて,釣合をよくならし,芯を丈いつぱいに裁ち切る。
次に兩端を縫ひ殘してある處から裏返して,半返しに縫ひ,芯をとぢつけ,表に返して殘りを細かく絎け上げる。

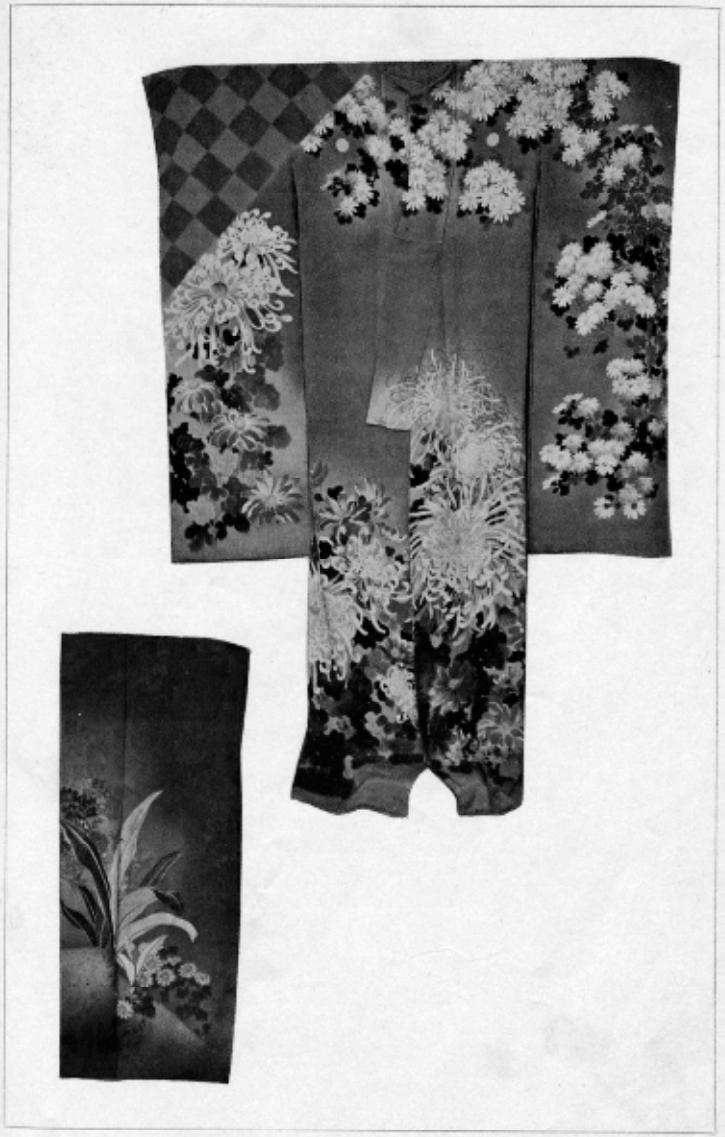
**3, 仕上げと疊み方**　兩面から火熨斗をかけて,仕上げをし,丈を二つに折つて八つに疊み,兩端を腹合せ帶のやうにとぢて壓をかけ,次に半紙か畫仙紙を六糎位の巾に切り,二本接いで,巾を三つ折りにして,二糎巾とし,圖のやうに三箇所を卷き,しつかりと締めて貼りつける。

㉔　仕立方別法(絎け仕立)

男帶は縫ひ仕立の外に,絎け仕立にすることがある。それは巾標をいつぱいにつけて,表を出して標の通り,縫ひ代を裏へ折り,芯をとぢつ

けて,端を縫ひ,メリケンの八番位の針で,細かく針目の流れぬやうに注意して絎ける。

この時糸を弛めぬことゝ,絎け目が縮まないやうに注意することが大切である。



裾模様後がかり 總 模 様

# 第十二章　小袖・模様・紋並に重ねについて

## 第一　小　袖

小袖の着物とは古は絹布の綿入に限つた稱へ方であつたが,現今は汎く男女,袷綿入にかゝわらず,表裏絹布の着物を小袖といつてゐる。

小袖の種類には,裾廻し附と,無垢とがある。

イ,裾廻し附　紋及び裾模様のつかないもの,裾廻し布には無地,型附,模様物等調和のよいものを用ひ,女物は女物袷に,男物は男物袷と大體變りがない。

ロ,紋及び裾模様のつくものには,一枚物もあり重ね物もある,又裾廻しは共布を引返しにしておくものが多い。この引返しの物を無垢といふ。紋附類は,大低無垢である。但し小紋の紋附は稀に變り色を裾廻しに使ふことがある。

小袖の材料の地質には,縮緬・羽二重・錦紗・綾織・紋織・大島・銘仙・米澤織・斜子・八丈等がある。

## 第二　模様の種類

**總模様**　全體に模様をつけ,振袖とし,紋はつけぬことが多い。

**島原模様**　裾の方は,裾模様の如く,又胸の邊にも模様をつけたもので,袖は振袖とし模様をつける。

**裾模様**　衽・前・後と次第に模様を低くつけたものである。振袖は袖にも模様をつけ止袖は袖には模様をつけぬ。

**江戸褄模様**　衽から前身頃へかけて模様をつける,その高さは,人々の好みによつて三十五糎位から七十糎位にする。

**褄模様**　衽にのみ模様をつける。

**片褄模様**　下前の裏衽にのみ模様をつける。

**裾模様**　裾にのみ模様をつける。

**熨斗目模様**　腰の部と袖とに模様をつける。

以上男女の模様物には凡て三個所,又は五個所に紋をつける。



## 第三　紋所の位置及び寸法

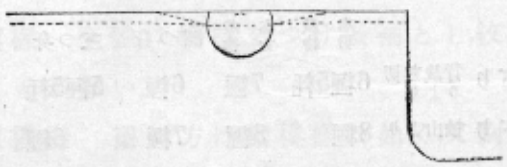
| | | 本裁男物 | 本裁女物 | 四つ身 | 三つ身 | 一つ身 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 背紋下り | 背裁ち切りより | 6糎5粍 | 7糎 | 6糎 | 5糎5粍 | 5糎 |
| 袖紋下り | 袖山より | 8糎 | 8糎 | 7糎 | 6糎 | 5糎5粍 |
| 抱紋下り | 肩山より | 15糎 | 15糎 | 13糎 | 11糎5粍 | 10糎 |

仕立上り背紋下りは,裁切より一糎强を減じたものである。背紋は背縫の中央,袖紋は袖巾の中央,又は少し袖附へ寄せる。抱紋は衿肩明を除いた前巾の中央につけるものである。

## 第四　紋の縫ひ方

背縫をする前に,紋の部分のみを表より兩身頃を揃へて出來上りの形に右身頃の上に左身頃をのせて,折り山の極く際を紋合せのくずれぬやうに躾糸で一針ぬきに押へておく。この形を整へるために烙鏝をかけることもある。次に裏に返して背縫のきせのかからぬやうに,白い部分のみをなるべく細かく一針抜きに縫ふ。縫糸は,白の絹糸,或は羽二重糸を用ふ。袷,綿入等すべて裏のつくものは,紋合せの糸を紋の上下四糎位づゝ耳の方で斜に縫ひ出してお

紋合せの圖



く。次に背縫の本縫を,普通の縫ひ方で縫ふ。紋の際まで上下二糎位の處より紋の縫ひ目に合ふやうに斜め縫ひにし,紋の際で,細かく一針返す。

但し紋の部分は,中の地色の處は,地色の糸で縫ひ,又白い處の長い紋は白い糸の上の處を一・二個所小針に縫つて糸の弛みを防ぐ。

薄地物の時は縫つた糸が表から,透けて見えぬやうに注意する。

## 第五　小袖重ね下着の寸法つめ方

| | 女物袷重ね<br>上着より | 男物袷重ね<br>上着より |
|---|---|---|
| 袖　丈 | 7粍つめる | 9粍つめる |
| 袖　口 | 少々つめる | 少々つめる |
| 袖　附 | 4粍つめる | 6粍(人形で三粍つめる) |
| 袖　巾 | 4粍つめる | 4粍つめる |



| | | |
|---|---|---|
| 身　丈 | 2粍つめる | 2粍つめる |
| 後　巾 | 2粍つめる | 2粍つめる |
| 前　巾 | 7粍つめる | 7粍つめる |
| 衿肩明 | 3粍つめる | 3粍つめる |
| 衿　丈 | 左右各1糎つめる | 1糎つめる |
| 肩　巾 | 4粍増す | 4粍増す |

衽・八つ口・衽巾・合褄巾・衿下・衿巾・衽下り等は上着と同寸法である。

以上は二枚重ねの時の寸法のつめ方である。稀には三枚重ねもある。

三枚重ねの時には,中のものを普通の寸法に仕立て,上着下着の寸法を上の割合で増減すればよい。

以上は上着・下着とも同地質のものを標準としての寸法のつめ方であつて,地質の違ふ物は,適當に加減することが大事である。即ち上着縮緬で,下着羽二重等を重ねる場合には,縮緬にもよるけれども,下着の身丈を上着より却つて長くするものである。又身丈ばかりでなく袖丈や衽等も加減することが必要である。

## 第六　裁ち方と積り方

裁ち切り寸法は,男物は男物袷に,女物は女物袷に大體同じである。

紋附,模様物を裁つには,充分注意して,紋又は模様を合せなければならぬ。されば模様の具合によつては多少寸法を斟酌しなければならないこともある。

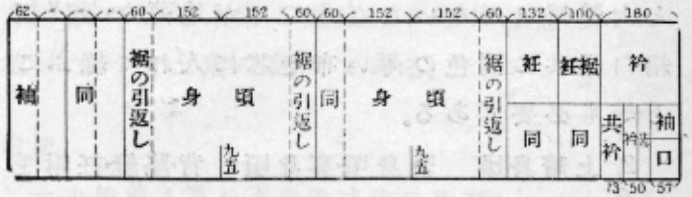
## 第七　標附け方

大體一枚物に同じであるけれども,裏は木綿物より稍少なくつめる。模様物は裁ち方ばかりでなく,標附け方の際にも充分注意して模様を合せ,模様の都合によつては寸法を多少斟酌しなければならぬこともある。且つ模様物は豫め模様を合せて糸標をつけてからする。又地質によつて重ねて標のつけにくい物は針でよくとめてし,物によつては一枚づゝする。標の附けにくい物は絹布標附用の烙鏝を温めて標をつけてもよく,又糸標をつける等のことが必要である。標附け方は,上着・下着・表裏とも,なるべく同時につゞけてする方がよい。



## 女小袖無垢一枚の裁ち方

用布並巾　15米8糎




### 積り方

**公式**

**袖丈×4＋身丈×5－袵下り＋裾の引返し×4＋袵裾＋衿丈＝總用布**

## 第八　縫ひ方順序

一,袖。二,上着身頃。三,下着。

大體一枚物に同じであるけれども,材料の取り扱ひ方に充分な注意が要る。縫ひ目には平烙鏝をかけ,きせをかけて折り目に烙鏝をかける。要所には鋏をかけ,地質によつては縫ひ鋏をかける。

**1, 袖**　裏袖に裏口布を廻しがけにし,袖口を表裏合せて縫ひ,綿を入れるには,眞綿を引き延し又は青梅綿を入れる。袖の仕立て方は木綿と大體變りがない,ただ八つ口が地薄ならば紅絹,白絹共に同色の薄い布を芯に入れて縫ふこと等も必要である。

**2, 上着身頃**　表身頃・裏身頃の背・脇縫・衽附をし,裾合せをする。凡て模様物はよく合はせることが大切である。褄を揚げ,裾には眞綿を少し引伸ばして入れ,表返して裾合せをした處から針を入れてよく綿を含めて躾をかける。
縦とぢをし,身八つ口を縫ひ,袖附・衿附・共衿掛・裾とぢをして仕上げる。

**3, 下着**　通しの物と,胴抜き　物とあつて一様にゆかないけれども,要するに着用して着崩れのせぬやう上着とよく重なることが大切である。特に男物の重ねは,女物より一層寸法を正確にして,衽・衿先等の不揃ひのないやうに注意する。表は模様の都合によつて,身巾が多少寸方通りにゆかぬ事があるから,下着も上着に



準じて仕上げるのである。
標附け方は,上着に準じ,縫ひ方も袷重ねならば上着の通りただ寸法をつめるばかりで,衽の大きさ,褄の形等上着と違はぬやうに注意し,その他はすべて上着の通りである。

**附記**

一,小袖綿入重ね下着の寸法つめ方

| | 女物綿入重ね | 男物綿入重ね |
|---|---|---|
| 袖　丈 | 1糎内外つめる | 1糎内外つめる |
| 袖　口 | 3糎つめる | 3糎つめる |
| 袖　附 | 4糎つめる | 1糎つめる |
| 袖　巾 | 4糎つめる | 4糎つめる |
| 身　丈 | 4糎つめる | 4糎つめる |
| 後　巾 | 4糎つめる | 4糎つめる |
| 前　巾 | 8糎つめる | 8糎つめる |
| 衿肩明 | 4糎つめる | 4糎つめる |
| 衿　丈 | 左右各1糎つめる | 1糎つめる |
| 肩　巾 | 4糎増す | 4糎増す |

二,綿入重ねは上着を口綿とし,下着全體に綿を入れるのが普通であつて,好みによつては上着全

體に綿を入れ下着を口綿にしてもよい。

三、綿入重ねには小袖綿を入れることもあるけれども、眞綿を入れる方がよい。袷にも眞綿を入れると、裾さばきがよいが、袷の太い物は小袖綿を芯にすることもある。

眞綿は着物の形に出來た物を入れる時は、あまり困難を感じないが、もし袋眞綿を入れる場合は、よく引き伸ばして綿の釣れぬやうに、平においてその上に火熨斗を輕く當てゝ落ちつかせて表に返す。



# 第十三章　比　翼

比翼とは一枚の着物で袖口・八つ口・裾廻し等すべての廻りを二枚重ねのやうに仕立てたものをいひ、本比翼と附比翼とがある。本比翼とは、上着を仕立てる際下着を共に縫ひつけたもので、附比翼とは、普通の着物の下に、下着廻しを附けたものである。それに袷、綿入の別がある。比翼は口綿のものが多いから本章では主として口綿本比翼を述べる。

## ㊀　裁ち方と積り方

比翼無垢表の布數と裁ち切り寸法

| 上着 | | |
|---|---|---|
| 袖 | 二枚 | 六二糎 |
| 身頃 | 二枚 | 一五二糎 |
| 衽 | 二枚 | 一三三糎 |
| 衿 | 一枚 | 一八〇糎 |
| 共衿 | 一枚 | 八〇糎 |
| 裾廻し | 四枚 | 五五糎 |
| 衽裾廻し | 二枚 | 九五糎 |

| | | |
|---|---|---|
| 衿先布 | 二枚 | 一七糎 |
| 袖口布 | 二枚 | 五七糎 |
| 下　着 | | |
| 表袖口被 | 二枚 | 五七糎 |
| 袖口布 | 二枚 | 五七糎 |
| 衿 | 一枚 | 一八〇糎 |
| 共衿 | 一枚 | 八〇糎 |
| 衿先布 | 二枚 | 一七糎 |
| 表八つ口被 | 四枚 | 四六糎 |
| 表裾 | 四枚 | 五一糎 |
| 裾廻し | 四枚 | 五五糎 |
| 表衽裾 | 二枚 | 九一糎 |
| 裏衽裾廻し | 二枚 | 九九糎 |

比翼無垢に要する布數は總計四十二枚である。このやうに布數が多いから,積り方にはよほど工夫が要る。まづ袖丈·身丈·衽丈·衿丈等の裁ち切り寸法を仕立て上げ寸法によつて定め,次に袖口布五十七糎,共衿七十糎以上,衿先布二十糎,衽裾廻し九十糎,八つ口被四十五糎位の標準で適宜に寸法を定め,これ等を總用布より減



## 比翼無垢表の裁ち方

並巾用布　22米88糎

### 積り方

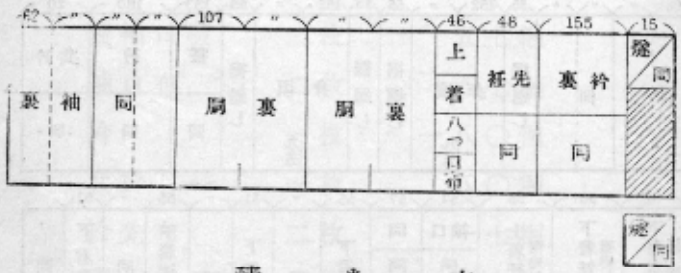
**公式**

**袖丈×4+(身丈+裾廻し)×4+衽丈+衿丈+共衿丈+下着衽裾+上下衽裾廻し×2+袖口布×2+(下着表裾+下着裾廻し)×4=總用布**

62×4+(15+55)×4+133+180+80+91+95×2+57×2+55×4+51×4=2288(糎)

## 比翼胴裏の裁ち方

並巾用布　9米40種




### 積ち方

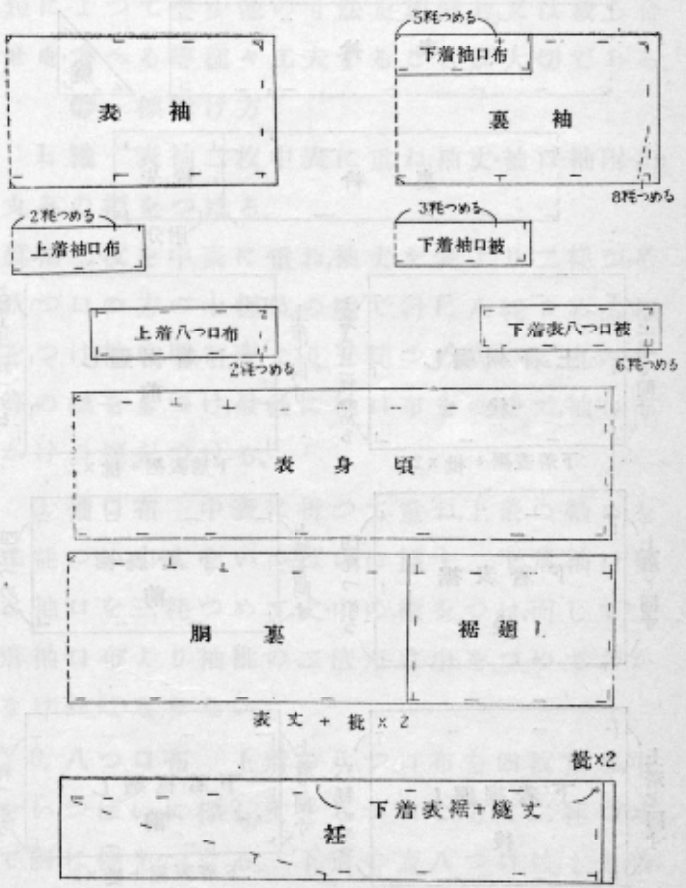
**公式**

**袖丈×4＋胴裏丈×4＋八つ口布＋衽先＋裏衿＋襠＝裏總用布**

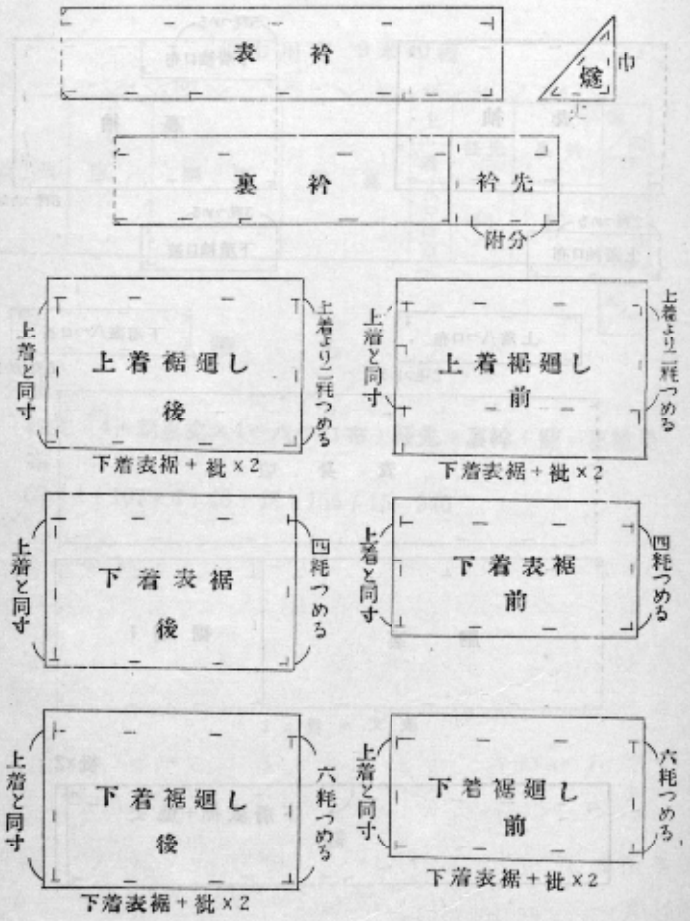
$62\times4+107\times4+46+48+155+15=940$



## 標附け方圖



標附け方圖






じて殘りを調べ,次に裾廻しの丈を定め,その長短によつて多少他の寸法を加減し,又は裁ち合せを考へる等種々工夫することが大切である。

### ㊀　標附け方

**1, 袖**　表袖二枚中表に重ね,袖丈·袖口·袖附·山·丸みの標をつける。

裏袖二枚を中表に重ね,袖丈を表より二粍つめ八つ口の方の十糎位の處で斜に八粍つめて標をつけ,袖口明を表より五粍つめ,次いで丸み·山等の標をもつけ,最後に袖口布をのせて,袖口布かけの標をつける。

**2, 袖口布**　中表に折つて重ね,上着の袖口を二粍つめ,巾·丈をいつぱいに標す。下着袖口被は袖口を三粍つめて,丈·巾の標をつけ,而して上着袖口布より袖祕の二倍だけ巾をつめておかなければならない。

**3, 八つ口布**　上着の八つ口布を四枚重ね,巾をいつぱいに標し,丈を八つ口の方で二粍つめて斜に標をつける。下着の表八つ口被も上着の八つ口の方で六粍つめる。

4, **表身頃**　例のやうに中表に重ね,後身頃及び前身頃の標をつける。

5, **燧布**　表裏の燧布を中央に重ね,丈·巾の縫ひ代をいつぱいに標をつける。

6, **胴裏と裾廻し布**　胴裏を中表におき,その上に裾廻し布(上着下着の分)八枚を揃へて重ね,表身頃より袵の二倍長くしておき,胴接ぎ·丈·燧の巾·身八つ口·巾·衽下り等の標をつける。後前ともそれぞれ重なる順序を考へて,裾の方で順に巾を少しづゝつめて標をつけることは,標附け方圖の通りである。下着の表裾は裾廻し布より,袵の二倍だけ短く標をつけ,後前とも裾の方で巾をつめておくことは前に述べた通りである。

7, **衽**　上着下着の表衽を揃へ,同じく裏衽·裾廻しを揃へ,裏の分は裾て袵の二倍長くして八枚重ねておく。八枚重ねて標をつけることが困難ならば,四枚づゝつけてもよい。丈·衿下·衽巾·合褄巾·衿附及び衽附の方に四裾の高さと燧布の丈の標をつける。



8, **衿**　裏衿二枚を中表におき,その上に衿先布を重ねて接ぎ代を標し,更にその上に上着下着の表衿をのせて,衿丈を標し,表衿を除いて裏衿を出し,衿丈標より十五糎(衿先裏衿接ぎの標より四糎位下)計つて標をつけ,衿の附け分けの標とする。尚外に合標をつける。

### ㊁　縫ひ方順序

一,袖。二,身頃。三,裾廻りの縫ひ合せ。四,裾合せ。五,衿附。六,袖附。七,共衿。

1, **袖**　裏袖に袖口布をかけ,上着及び下着の袖口を縫ひ,袖口に綿を含めて留をし,袖口布の丈までそれぞれ四つ縫ひをする。次に表袖と裏袖とを合せ,袖口下より袖下の三分の二の處まで四つ縫ひをし,それより先は表裏別々に袖下を縫ひ,次いで八つ口布及び八つ口被の袖下をも縫ひ,八つ口を合せて縫ひ,綿を少し含めて八つ口布の奥及び袖口布の奥を,それぞれ合せて縫ひ,八つ口は裏袖に袖口は袖口かけの縫ひ目にとぢつける。

**注意**　袖口布奥合せの時上着袖口布の山を少し

摘んで襞を取り,丈標を合せる。

**2, 身頃**　上着表身頃の背及び脇縫・衽附・衿附まで普通綿入の表のやうに縫ふ。胴裏と下着裾廻しとの胴接ぎの標を合せて縫ひ,折りをつけ,(隠し躾はかけぬ)背及び脇縫・衽附・衿附をする。

**3, 裾廻りの縫ひ合せ**　上着裾廻し及び下着表裾の背脇を縫ひ,前裾布の上部に燧をつける。この時燧布の斜の處を伸ばさないやうに,又横布にならぬやうに注意する。折りは燧布につけ隠し躾をし,次いで下着表裾及び上着裾廻しそれぞれ衽をつける。

**4, 裾合せ**　上着表と上着裾廻し,下着表裾と下着裾廻しとをそれぞれ裾合せをし,褄を揚げ,裾に綿を入れ,假とぢをして衿下を縫ひ,背及脇の縫ひ目をとぢる。次に上着裾廻しと下着表裾の上部を燧布の端から他方の端まで縫ひ合せ,胴接ぎの縫ひ目にとぢつけて,表より隠し躾をする。下着表裾の衽と上着衽裾とを縫ひ合せ,下着裏衽附にとぢつける。

**注意**　地質の重いものは胴接ぎを四枚一緒にする方法を用ひ,折りには表から縫ひ躾をかける。



**5, 衿附**　下着の表衿と裏衿とで下着衽を挟んで衿の附け分けの標まで縫ひ,上着の裏衿を附け分けの標までつける。それよりこの三枚の衿を重ねて,重なりの順序に針を通して,しつかりと附け分けを留め,次に上着裏衿・下着表衿・下着裏衿の三枚で裏身頃を挟んで衿附をし,折りをつけ,表衿附の縫ひ目にこの三枚の衿附の縫ひ目をとぢつける。

**注意**　一,地厚のもので衿の縫ひ代の高くなるものは,下着裏衿は裏身頃にあて,下着表衿と上着裏衿は中表にとぢ合せて三枚一度につける。この二枚の衿の縫ひ代は身頃の中に入るやうになる。この時は衿肩廻しの處は縫ひ代が深くなると,工合が悪いから注意する。

二,上着の衿巾は衿肩で八粍位つめると着用して工合がよい。

それぞれ衿先を整へ,衿巾に折つて三つ衿を入

れ絎け上げる。但し衿を絎けるのは袖附が終へてからにする。

**6, 袖附** 身八つ口を縫つて綿を含め,袖附を女物袷のやうにし,上着の八つ口布と下着の八つ口布の袖附より上の部分は裏袖附にとぢつける。

**7, 共衿** 各部とぢ殘しのないやうに全部とぢ合せたならば,共衿を普通にかける。

附比翼

下着の廻りを別々に縫ひ,これを仕立て上つた上着に絎け附けたものであつて,本比翼のやうに見せる。

縫ひ方

上着を普通の小袖に仕立て,次に下着の袖及び身頃の各部卽ち袖口,八つ口・裾廻りの上・衽・衿附等の裏を四粍ふかせて縫ひ,その山を下着の各部の縫ひ目に合せて絎けつける。衿丈も片方で六粍位つめて縫ひ,衿肩廻しの處で上着を弛めにし,裾先を揃へて附ける。

**備考** 一,衿の附け分けの標とは何か。



# 第十四章 單衣重ね

單衣重ねは禮裝に使ふもので,本重ね・半重ね・八掛附き本重ね等の種類がある。本重ねとは上着に多く裾模樣物を用ひ,下着に白一枚分を重ねて縫ひ合せたものをいふ。半重ねとは本重ねと同じやうにみせて,周圍にのみ下着を附け,胴は上着一枚にして仕立てたものである。八掛附き本重ねとは,本重ねの上着にも下着にも八掛を附けたもので,正式には上着・下着及び八掛共同じ裾模樣を附けるのであるが,上着にのみ裾模樣をつけることもある。(現今は少し)本來,袷重ね,綿入重ねのやうに普通單衣仕立ての物を二枚重ねて,その縫ひ目卽ち,背・脇・衽をとぢて着るものであるけれども現今は,着用の便宜上仕立方を工夫して,二枚縫ひ合せて仕立てるやうになつた物であるから,その地質・色合等よつては別々に仕立てて,着る時とぢつけることもある。

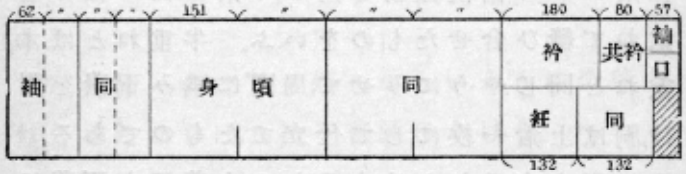
地質は,上着には絽・絽縮緬・縮緬・羽二重・麻等を用

ひ,下着には白,又は薄色の絽·絽縮緬·練·麻等を用ひる。

## 第一　單衣本重ね

### 本重ね上着の裁ち方

用布並巾11米69種




積り方

**公式**

**(總用布－袖丈**×4＋**裁ち切り衽下り**×2－**袖口布)**÷6＝**身丈**

(1169－62×4＋21×2－57)÷6＝151

㊀　普通仕立上げ寸法

上着寸法は普通上衣の通りにし,下着の巾のつめ方は普通袷の裏のつめ方位に,丈は地質の伸縮に注意することが大切である。

㊁　裁ち方と積り方

上着の裁ち方は,普通女物單衣に同じ。但し袖口布を要す。下着の裁ち方は上着に同じ。但し,衿裏を取ることもあるけれども,それは用布の丈の長い物に限る。



㊂　標附け方

上着は全部單衣物に同じ。

下着の袖は袷の裏袖の標附と同樣に八つ口の方で,袖丈を三粍つめ,他は表袖と同じに標附をする。

下着身頃の丈はその地質によつて加減をする。

衿は上着より丈を二粍つめる。

㊃　縫ひ方順序

一,袖。二,身頃。三,衿下及び裾絎。四,下着の身頃。五,とぢ及び身八つ口縫。六,袖附。七,衿附。八,共衿。

**1, 袖**　上着及び下着の袖口布の下を二つ折にして押へ縫をし,(物によつては三つ折り絎とし)上着袖に袖口布を合せて袖口を縫ひ,留をして袖口下を袖口布の丈まで四つ縫にし,下着袖に袖口布をかけて留をし,上着のやうに袖口下を縫ひ,縫ひ代を斜に表に折つて自然に上着の縫ひ代と合せて,袖口下から袖下の中途まで四つ縫にし,それより先は別々に縫つておく。

袖口布の奥を袖に絎けつけ,丸みを作り,八つ口

を合せて,縫ひ代いつぱいに奥を縫ひ,折りを標通りにつけて表返す。

2, **身頃**　上着の背及び脇縫をし,衽を附けて折りを普通につけ,脇の縫ひ代を割つておく。

3, **衿下及び裾絎**　上着の衿下及び裾絎けをする。裾の角は絹布單衣のやうに額縁を作る。下着の衿下を絎け,裾は縫ひ込みになる分を除いて,他は全部絎けておく。

4, **下着の身頃**　前後の裾絎をし袷の裏のやうに縫ひ代を中に入るやうに布を合せて,背縫及び脇縫をし,衽を附ける。

5, **縦とぢ·身八つ口**　背·脇の縦とぢをし,身八つ口を縫ふ。裾の處で縫ひ代の始末をする。

6, **袖附**　袖附の留を袷のやうにして,上着下着の袖を附け,折りを上着は袖に,下着は身頃につけて次に衽をとぢる。

7, **衿附**　まづ初めに下着の表衿と裏衿の衿先を合せて衿丈の標より五粍先の處を縫ひ,引返して衿先にきせをかけ,次に上着の裏衿を下着の表衿に合せ,三枚假にとぢつけて,上着の表



衿を上着の表衽に,下着の裏衿を下着の裏衽にあて,衿を四枚一緒に縫ひ附け,衿の中をよく仕末して三つ衿を入れ上着·下着とも衿巾を定めて絎け上げる。

上着の衿巾は肩の邊で四粍位控へる方が着て工合がよい。

8, **共衿**　上着は普通に,下着は衿附の縫ひ目から五粍離して共衿をかけ,次に衿糸をつける。

縫ひ方別法(縫ひ方順序)

1, **袖**　上着及び下着の袖口布の下を二つ折にして押へ縫をし,上着の袖に袖口布を合せて縫ひ,袖口下に四つ留をして,袖口布の丈まで四つ縫をして,袖口布の奥を袖に絎け附ける。下着の袖に袖口布をかけ,四つ縫にすることは上着に同じ。袖口布の奥を袖に絎けつけることも上着に同じ。上着·下着とも袖下を袋縫にして袖口下の處のみ四つ縫にして袷の袖裏のやうにする。丸みを作つて引返し,八つ口を別々に絎ける。

2, **身頃**　上着の背及び脇縫をして裾絎けを

する。

3, **下着の身頃**　前後の裾絎をして背・服縫をする。

4, **縦とぢ及び身八つ口**　背及び服をとぢ,身八つ口を縫ふ。

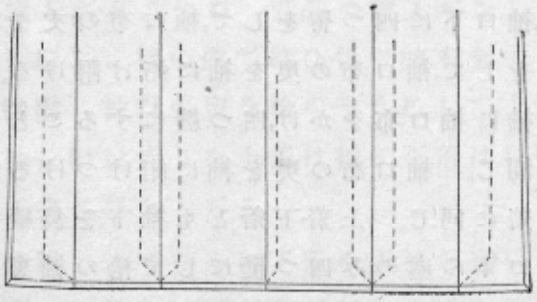
5, **袖附**　前の方法に同じ。

6, **衿下絎及び衽附**　上着・下着共に衿下を絎け,裾絎も普通にし,上下の衽附を四つ縫にする。

7, **衿附**　前の方法に同じ。

8, **共衿**　前の方法に同じ。

單衣重をすかして見た處



第二　單衣半重ね

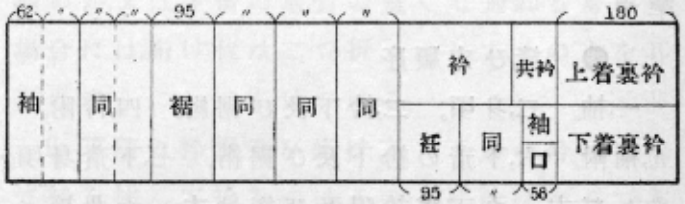
㊀　普通仕立上げ寸法

仕立上げ寸法及び地質等は本重ねに同じ。



## 半重ね下着の裁ち方

用布並巾　10米56糎




積　り　方

**公式**

**袖丈**×4+**裾丈**×4+**衽**×2+**袖口布**+**衿丈**=**總用布**

62×4+95×4+95×2+58+180=1056

㊁　裁ち方と積り方

上着の裁ち方は,普通の本裁の通りにする。但し袖口布の要ることは本重ねの通りである。半重ねの下着は名の如く,下半身並びに,袖・衿を普通につけるものであるから,その身頃は腰の處まで,即ち九十糎位の丈とし,布が充分ある時でもその高さは今少し多くする位にして,常に腰紐を締めた處に絎けつけるやうに注意して裁つ。

## ㈢　標附け方

重ねを略した部分を除く外何れも本重ねに準ず。

## ㈣　縫ひ方順序

一,袖。　二,身頃。　三,衿下及び裾続。　四,衿附。　五,袖附。　六,下着の衿下及び裾続。　七,下着身頃。　八,とぢ方。　九,下着衿附及び続け方。　十,共衿。

**1, 袖**　袖の縫ひ方は本重ねに同じ。

**2, 身頃**　上着の背及び脇縫をし,衽をつけ,折りをつけて,脇の縫ひ代を割つておく。

**3, 衿下及び裾続**　上着の衿下及び裾続等全部普通單衣の通りにする。

**4, 衿附**　上着の衿附をいつもの通りにする。

**5, 袖附**　袖附の留をして上着の袖を縫ひつけ,折りをつける。下着の袖附の標通り折つて上着の袖附の縫ひ目に続けつける。

**6, 下着衿下及び裾続**　下着の衿下及び裾続を普通本重ねのやうにする。

**7, 下着身頃**　下着の背縫及び脇縫をし,衽をつけて次頁下圖のやうなものをつくる。

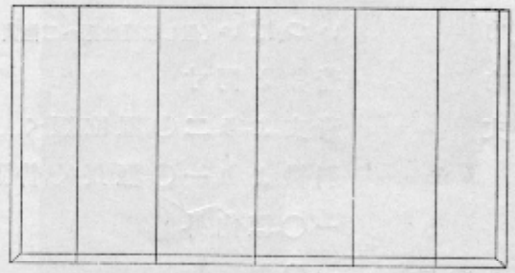


**8, とぢ方**　下着の続け代を折つて躾をかけ,調子をよく整へて続けつける。上着の地質が弱いか,又は下着の地質の重くて垂れるものの場合には,続け代は二つ折りにして,その上を耳続のやうにして続けつける。

**9, 下着の衿附及び続け方**　下着の衿及裏衿で衽を挟んで衿をつけ,その上は衿ばかりであるから,そのまゝ衿を二枚合せて縫ひ,衿先を作つてこれを上着の衿の廻りにとぢつける。衿の中を整へて,三つ衿を入れ,衿巾を定めて続け上げる。

**10,共衿**　共衿の掛け方は本重ねに同じ。

單衣半重ね下着廻りの圖

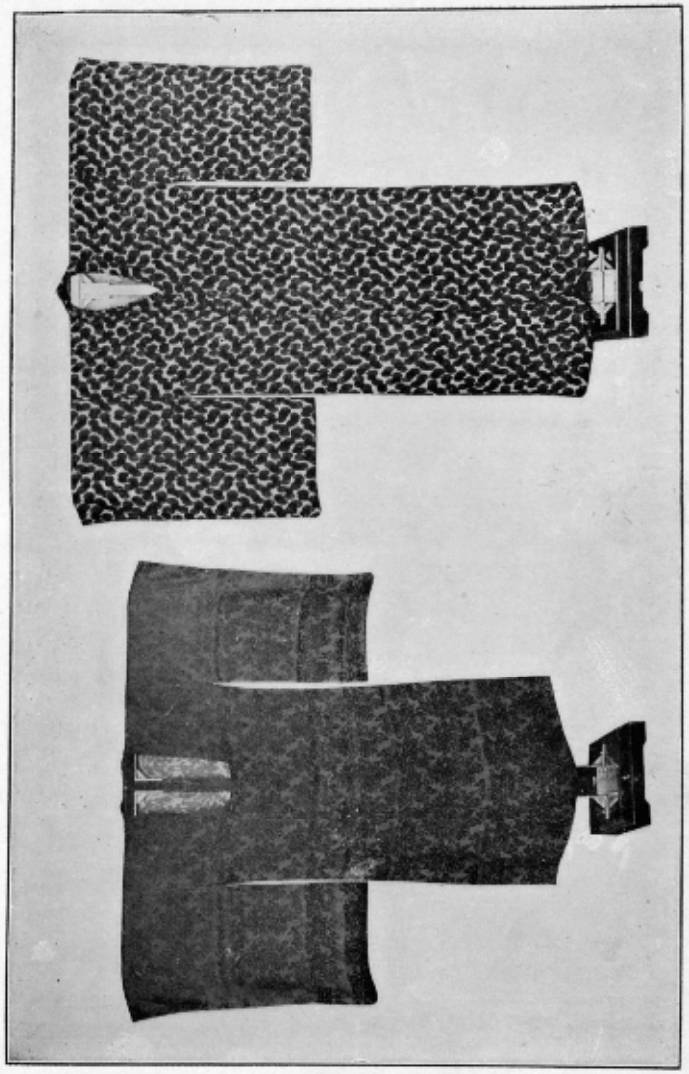


# 第十五章　袷半コート

袷半コートの地質としては,毛織物にはセル・カシミヤ・薄地ラシヤ,絹布には御召・糸織・縮緬・錦紗・羽二重・大島等が用ひられ,又ビロードも用ひらる。裏地には羽二重・甲斐絹・八つ橋などが用ひられる。

## ㊀　普通仕立上げ寸法

| | |
|---|---|
| 袖丈 | 着物と同寸 |
| 袖口 | 着物と同寸 |
| 袖附 | 一糎増し |
| 袖巾 | 四糎廣く |
| 後巾 | 着物と同寸(但し裾へ二糎廣げる) |
| 前巾 | いつぱい(但し脇縫は裾へ二糎廣げる) |
| 肩巾 | 着物と同寸 |
| 身丈 | 着丈より二〇糎位短く |
| | 羽織より一〇糎長く,普通一米一〇糎内外 |
| 身八つ口 | 一〇糎 |
| 小衿巾 | 二糎 |



袷半コート

袷長コート

繰越し　一糎
袵　着物より四粍増し
前下り　二糎
竪衿巾　衽巾と同寸
竪衿下り　衽下りと同寸
ポケット　位置　竪衿下りより一二糎下
ポケット　口明　一四糎
ポケット　深さ　一四糎

## ㊁　裁ち方と積り方

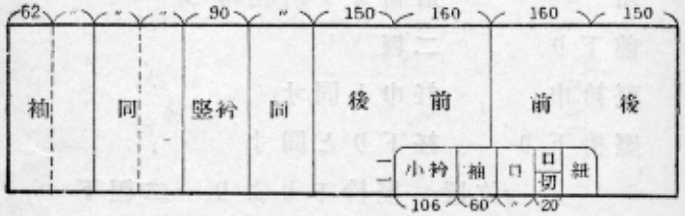
表の裁ち方は大體羽織に同じく,羽織の衿が竪衿に代つたと見てよい。しかし羽織と違つて襠が要らないから,前身頃から落した物は小衿・袖口・ポケツト口切等とし,殘りは地薄の物は飾り紐にする。

布の折り方は袖・竪衿と折り,次に殘りを前後の差をつけて更に二つに折る。

胴裏の總用布は,ポケツト布が要るから,羽織より三十糎内外長く要るのが普通である。ポケツトは見えぬものであり,且つ丈夫な布がよいから,胴裏と別のものでもよい。

## 本裁女物半コートの裁ち方

用布並巾　10米48糎




### 積り方

**公式**

**袖丈×4＋竪衿丈×2＋後身丈×4＋前後の差×2＝總用布**

**{總用布－(袖丈×4＋前後の差×2＋竪衿丈×2)}÷4＝後丈**

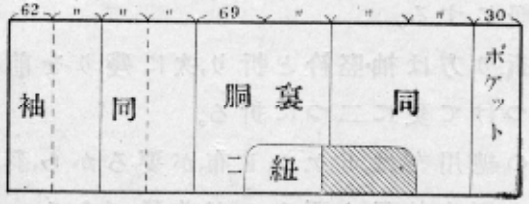
**後丈＋前後の差＝前丈**

**出來上り身丈－竪衿下り＋前下り＋上下の縫ひ代＋繰越し＋三つ衿縫ひ代＝竪衿丈**

**(衿肩明＋竪衿下り＋竪衿巾＋縫ひ代)×2＝小衿丈**

## 半コート裏の裁ち方

用布並巾　5米54糎



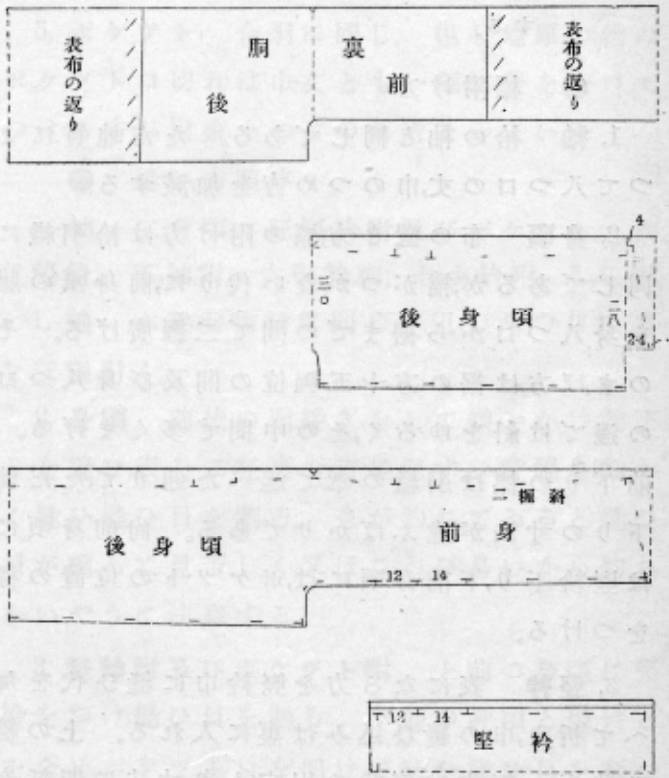

**公式**

**袖丈×4＋胴裏丈×4＋ポケット丈＝總用布**

**出來上り身丈×2－裁ち切り後丈＋接ぎ代＝胴裏丈**



## 標附け方圖



**注意**　コートの胴接ぎの高さは前後揃ふのがよい。しかし仕立直しの場合には,適宜斟酌する。

㊂　標附け方

**1, 袖**　袷の袖と同じである。ただ地質によつて八つ口の丈,巾のつめ方を加減する。

**2, 身頃**　布の置き方,標の附け方は袷羽織に同じであるが,襠がつかない代りに,前身頃の脇を身八つ口から裾までの間で二糎廣げる。そのまげ方は裾の方十五糎位の間及び身八つ口の邊では斜をゆるく,その中間で多くまげる。前下りの標は羽織の章で述べた通りで,ただ前下りの寸法が違ふばかりである。尚前身頃には竪衿下り,下前身頃には,ポケツトの位置の標をつける。

**3, 竪衿**　表になる方を竪衿巾に縫ひ代を加へて折り,巾の縫ひ込みは裏に入れる。上の縫ひ代を一糎,丈は竪衿の出來上り寸法に四粍を見返し及びきせの分として加へたもの,巾は出來上りいつぱいとし,下前にはポケツト口明の



位置及び寸法等の標をつける。

**4, 小衿**　小衿は合羽の小衿に同じ。

**5, ポケツト**　合羽に同じ。但し地厚の物のポケツト口切れは巾丈とも一糎位差をつけてつける方が出來上つての落着きがよい。

㊃　縫ひ方順序

一,袖。二,身頃。三,竪衿附及びポケツト。四,背脇綴。五,袖附。六,竪衿綴。七,小衿附。八,紐附。

**1, 袖**　本裁女物袷に同じ。但し八つ口は裏を三糎引く。

**2, 身頃**　前後の胴接ぎをして躾をかけ,前下りを縫ひ,表を二粍裏の方に返す。背脇を細かく縫ひ,縫ひ目を割る。糸が釣れてゐると縫ひ目が縮んで見苦しく,又ほころび易いから釣れないやうに注意する。

**3, 竪衿附及びポケツト附**　上前の身頃に竪衿をつけ,縫ひ目を割る。下前の身頃と竪衿とを合せ,ポケツト口を明けて縫ひ,縫ひ目を割つて口明で前身頃とポケツト布,竪衿とポケツト布とを,それぞれ合せて縫ひ,口明に留をし,ポケ

ツトの底を縫つて縫ひ目をとぢつける。

**4, 背及び脇とぢ**　背及び脇とぢをして身八つ口を縫ひ,裏の方に折りをつけ,表から躾をかける。

**5, 袖附**　袷のやうに表裏の袖をつけ,縫ひ目を割る。

**6, 竪衿綿**　竪衿の下を縫つて,芯を入れ,竪衿巾を身頃の縫ひ代にとぢつけ,裏身頃をその上に細かく綿けつける。

**7, 小衿附**　普通は角を額縁に作つてつけ,小衿附の縫ひ目を割り,落着きの工合が悪るければ,角に切り込みを入れて正しく整へ,裏竪衿上部及び裏身頃を綿けつける。

**8, 紐附**　まづ仕上げをし,巾一糎五粍,丈三十糎位の紐を二本綿け,下前竪衿の中央の裏の方に,縫ひ目を下向にして一本つけ,他の一本は上前裏脇縫の處につける。

飾り紐は,共色の打紐,又は表地の殘布を細く撚り綿にして各々好みによつて結び,合羽のやうにつける。



表地が地薄で,しかも上等ものは共布の撚り綿紐をつけるのが上品である。

**備考**　一,並巾十米六十八糎で袷半コート表の裁ち方をせよ。但し袖丈は出來上り六十五糎とし,他は全部普通とす。

二,半コート後身頃及び前身頃の標附け方を問ふ。

三,半コートの裾を廣げる理由と,その標附け方について注意すべきことを述べよ。

# 第十六章　單衣長コート

單衣長コートにはセル・アルパカ・薄羅紗等が多く使はれる。

## ㊀　普通仕立上げ寸法

單衣合羽に同じ。

## ㊁　裁ち方と積り方

並巾物の裁ち方は單衣合羽と變りがない。大巾物は,身頃にする用布をまづ總用布から裁ち切つて,つぎに袖の用布をとり,兩袖を裁ち,殘りから上前見返し・下前竪衿及び小衿・袖口布等を裁つ。

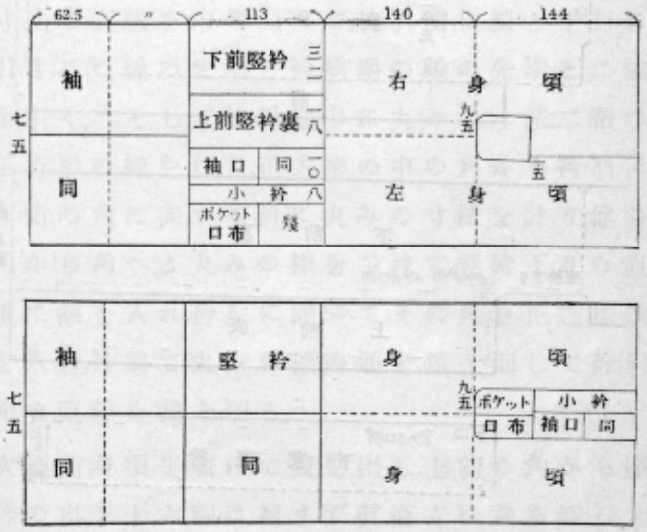
身頃の用布を中表に二つ折りにして,輪を手前に,次に丈を二つ折りにして肩を左に,肩の繰越し寸法の二倍を前後の差として前を長く,前身頃を下にして折り重ね,折り山に糸標をつけて後を取り除け,裁り刳りの標を入れる。まづ肩折り山に衿肩明の寸法九糎五粍を手前から向ふへ計つて標す。

脊縫をつける物はこの外に尚一糎を加へて直



## 長コートの裁ち方

用布大巾　5米22糎







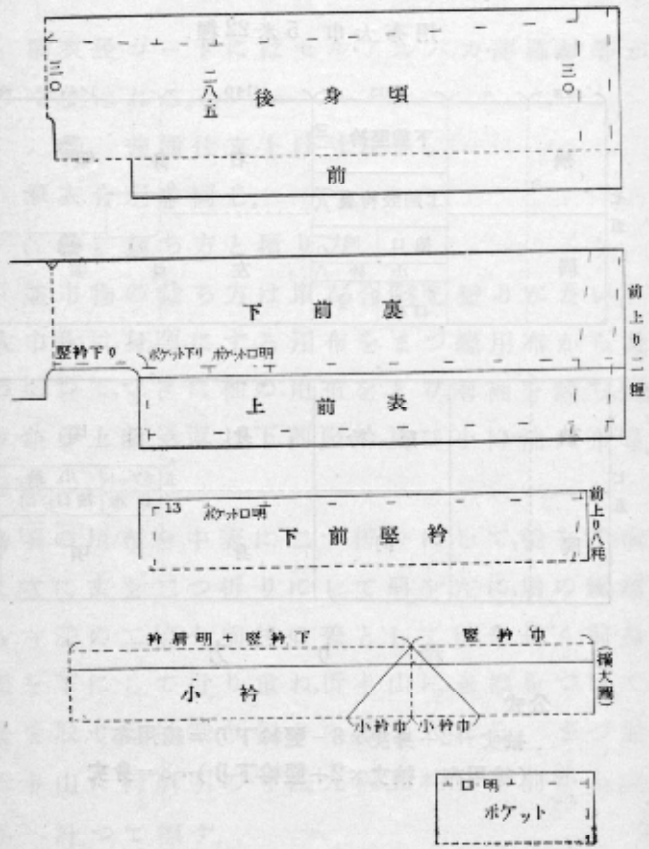
## 積り方

**公式**

**袖丈×2＋身丈×3－竪衿下り＝總用布**

**（總用布－袖丈×2＋竪衿下り）÷3＝身丈**

標附け方圖






線を引き,次に直線の起點から前褄の方へ向つて,竪衿下りの寸法に肩繰越し寸法の二倍を加へて標をつけ,この標を起點にして衿肩明と同寸法の直線を巾へ向けて,衿肩明の線と平行に引き,この線の先端と衿肩明の線の先端とに線を引く。そして衿肩廻りに丸みの寸法二糎の正方形の線を作り,正方形の中の角から衿肩折り山の角に向つて斜に丸みの寸法を計り,他の角から角へと丸みの標をつけて,竪衿下りの直線に鋏を入れ,衿肩に向つてその角を正確に鋏を入れ,衿肩で丸みの標の通り,鋏を廻して衿肩明の直線を裁ち切る。

次に前身頃を廣げて表を出し,上前の角から竪衿の巾を十六糎に褄まで眞直ぐに裁ち切る。

外に並巾布二米四十糎位の布で肩すべりとポケツトとを裁つ。

尙袖裏をつけるもよい。

### ㊂　標附け方

**1, 袖**　袖を中表にし裁ち目を袖口にして,外袖を一糎長くして二枚重ね,寸法通り,山·丈·袖口·

袖附·袖巾·丸みの標をつけ·袖口布は袖と重ねず別にして,袖に準じて,標をつける。

2, **身頃**　着物の標附のやうに,後身頃を上に,裾を右手において,山·丈·脊·袖附·身八つ口·後巾等の標をつけ,身八つ口の處から裾まで(丈の標まで)自然に二糎程身巾を廣げて斜に脇の標をつける。

次に裾折込みの巾標をする。

後身頃を左手に取り除けて,前身頃に袖附·身八つ口·脇の標をうつし取り,裾は脇から二糎の切り上げに斜に標をつけ,下前の身頃にはポケット下り十三糎,ポケット口明十五糎の標をつけ,竪衿附及び小衿附の縫ひ代を一糎につける。

3, **竪衿**　下前の竪衿の巾を二つ折りにして,上前竪衿裏とを重ね丈巾·ポケット口明の標をつけ,切り上げを上前竪衿に準じて下前竪衿にもつける。

4, **小衿**　巾を出來上り小衿巾の二倍に縫ひ代を加へたものか,又は小衿巾の四倍として置き,丈は竪衿巾·竪衿下り,衿肩廻りと衿先縫ひ代



を加へて二倍としたものに裁ち切る。巾を出來上り巾に折つて,小衿標附け方圖のやうに,山·丈·巾·額緣等の標をつける。

5, **ポケット**　丈三十糎,巾は竪衿巾の二倍に縫ひ代を加へたものとして裁ち切り,巾を二つ折りにして輪を手前に上部を左におき,上部から一糎,次に十三糎,次に十五糎と標し,巾は竪衿出來上りより三糎少なく,下の方は尙四糎つめて口より斜に標をつけて,下の縫ひ代一糎に標をつける。

## ㊁　縫ひ方順序

合羽の仕立方と大體同じである。特に並巾物は殆んど同樣で只脇·竪衿の縫ひ目等を片返しにせずに開いて置くことが違ふのみであるから,並巾物は說明を省き,次に大巾物の縫ひ方を述べることにする。

1, **袖**　袖と袖口布との縫ひ合せ方·袖口の留め方·袖下の縫ひ方又ずらして折り絎にする等單衣羽織に同じである。

2, **身頃**　脇を縫ひ,縫ひ目を割り,縫ひ込みの

耳を折つて裾絎を三つ折りにして假縫をかけ,上前に見返し布卽ち竪衿裏を縫ひ合せ,折りは毛抜合せにして裾折りの標を折り,見返しの方は表よりも一糎程自然の斜に控へ,見返しの巾を十五糎に折り定めて裾巾の端から竪衿下りの方へ向つて假縫をかけておく。

下前に下前竪衿の布を縫ひ合せ,縫ひ目を割る但しポケツトロの標の間は縫はないで明けておき,ポケツトの口を一方を前身に一方を竪衿に合せて縫ひつけ,縫ひ目を竪衿の方は毛抜合せに,身頃の方は割り,口の上部と下部を內側から縫ひ目の通り縦に一針抄つて結んで留め,袋の巾を竪衿に合せて縫ひ,袋の下の口明より下の縫ひ目を竪衿の縫ひ代にとぢつける。ポケツトの口を表から千鳥掛にとぢておく。

出來上り竪衿巾の十五糎は竪衿の附の縫ひ代の標から計つて定め,裏竪衿巾はこれに倣つて小衿附の縫ひ代の通りを眞直ぐに折り,裾を前のやうに,裏を一糎自然に斜に控へて折り,裾巾から竪衿下りへ假縫をかけておいて上前竪衿・



裾下前衿布の奥を表にまつりつける。

此の時上前も下前も,竪衿の上部を,十糎縫ひ殘しておいて小衿をつけて,まつりつける。

下前竪衿の裏は竪衿附の身頃の縫ひ代から二耗程出して巾を折り定め,前身を手前にして縫ひ代に千鳥掛でとぢつけてもよい。次に竪衿の上部から手を入れて,ポケツトの上の縫ひ代を裏竪衿に千鳥縫ひ,又はまつり縫にしてとぢつける。

3, **小衿の附け方**　小衿の折り方は合羽の章に述べた通りであるが,地厚のものは縫ひ代を少なくしてもよい。

小衿と身頃との待針の打ち方も,合羽のやうに衿肩明の丸みの處は小衿を釣らせ加減にして待針を打つ。

縫ひ方も合羽と同樣であつて,まづ身頃の裏の方から竪衿附際に針を出して小衿の額緣の角を布の織糸一本とも思はれる程に小さく横に抄つて針を身頃の裏に戻して糸を結んで撚り糸にして切る。而して角を留めて置いて竪衿

下りの縫ひ代も竪衿巾の縫ひ代も,布目を通して折り,折り山を作つて小衿との折り山を突き合せて二糎位の間上下に渡つて割り,接ぎ縫にする。

他は普通に極く細かく縫ふ。小衿の縫ひ附けは一針抜きに縫ふか又は細かく普通に縫ひ,附け終つたならば縫ひ目を割つて鎧をかけ,衿先を縫つて表に返し,小衿の裏の折り山を小衿の縫ひ目の際にあらくとぢ附けておき,次に吊り紐を脊の小衿の裏につける。

**4, 吊り紐**　肩裏布でも表布でもよく,巾二糎,長さ六糎に斜に裁ち切り,丈を四つ折りにして,穴かゞりの仕方で折り目の合せた處をかゞり乍ら輪の方を外側にして丸く曲げる,その附け方は小衿巾より上に出ないやうに兩端を脊縫から二糎位離して,半月形に身頃の縫ひ目にとぢつける。

**5, 肩當附け方**　肩當の脊を縫ひ,縫ひ目は割るか,或は折つて置き,端は細い三つ折り紺にして表に合せ,脊の通りを假鎧で押へておき,袖附



の標から八糎程離れた處も亦假鎧で押へて置き,小衿の上に小衿の縫ひ目まで折つてまつる。

**6, 袖附**　單衣物と同樣に袖を附けて縫ひ目を割り,烙鏝をかけ,肩當を附の二粍手前に折り紺ける。身八つ口の處は四粍程控へ,竪衿下身八つ口下はまつり,肩當の裾を六糎位千鳥掛にして表にとぢつける。

飾り紐の附け方は合羽の通りである。

**注意**　一,肩當のことを肩すべりともいふ。

# 第十七章 夜具類

## 第一 夜着

### ㊀ 普通仕立上げ寸法

| | | | |
|---|---|---|---|
| 袖丈 | 六二糎 | 衿下 | 七五糎 |
| 袖巾 | 三二糎 | 衿巾 | 一二糎 |
| 袖附 | 總付による | 衿肩明 | 一〇糎五粍 |
| 表身丈 | 一米五〇糎 | 燧 | 一五糎 |
| 後巾 | 三二糎 | 衽 裾衽 | 三〇糎——四〇糎 |
| | | 衽 衿衽 | 二〇糎 |
| 前巾 | 二八糎 | 衽 袖衽 | 一〇糎 |
| 衽巾 | 一七糎 | 綿の分量 | 二貫目内外 |
| 衽下り | 二二糎 | 眞綿 | 少し |

### ㊁ 裁ち方と積り方

表の裁ち方は,本裁長着と同樣にし,尙表布で燧布をとる。又片面物は棒衽裁とし,用布の丈の短い物は鈎衽裁にする。燧布は都合で衿又は衽の端で取つてもよい。

裏の裁ち方は表に準じ,衽の寸法に應じて,身丈・衽丈・衿丈等の寸法を增して裁ち,袖は袖衽の分として奥袖を取り,半巾にして用ふ。肩當布,は



並巾一米四十糎位を要し,丈を二つに折り,巾を三等分して三分の一を前に三分二を後とし,衿肩明を九糎,前の方は八糎とし,一糎の斜をつけて裁ち落す。尙衿肩には一糎の切り込みを入れておく。

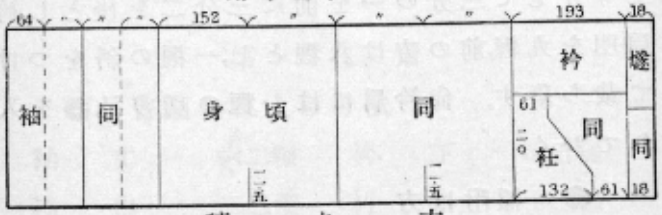
### ㊂ 標附け方

**1, 袖及び燧** 燧布に寸法通り標をつける。表袖には,丈・巾を標つけて,袖下に附の方から燧の寸法を標つけ,裏袖には,巾を標して,丈は衽の表に出る部分の巾だけ表袖より四粍つめて標し奥の方は丈を三糎つめて,衽山から斜に標す。奥袖は,裏袖丈のつめた寸法と同寸法に丈を標し,巾標をして表袖のやうに,袖下の附の方から燧の寸法を標し,裏袖の奥と奥袖の端とに,山及び合標をつける。

**2, 身頃** 表身頃には,丈標をつけ,袖丈に燧丈の寸法を加へたものを,袖附の標としてつけ,次に背縫・肩巾・後巾・衽下り・前巾等の標をつける。裏身頃は,表身丈と同寸法に丈の假標をして衽の寸法の標をし,奥袖丈に燧の寸法を加へて袖

## 夜着表の裁ち方

用布並巾　一反




積り方

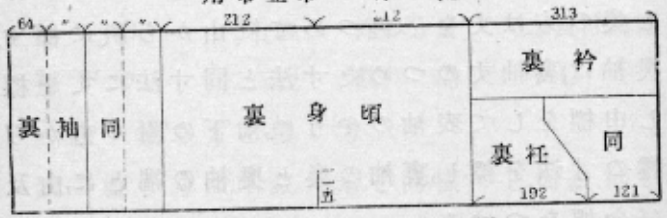
公式

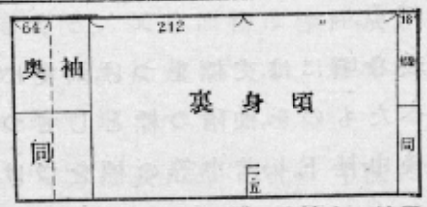
袖丈×4＋身丈×4＋縫＋衿丈＝總用布

{總用布－(袖丈×4＋衿丈＋縫)}÷4＝身丈

## 夜着裏の裁ち方

用布並巾　15米63糎



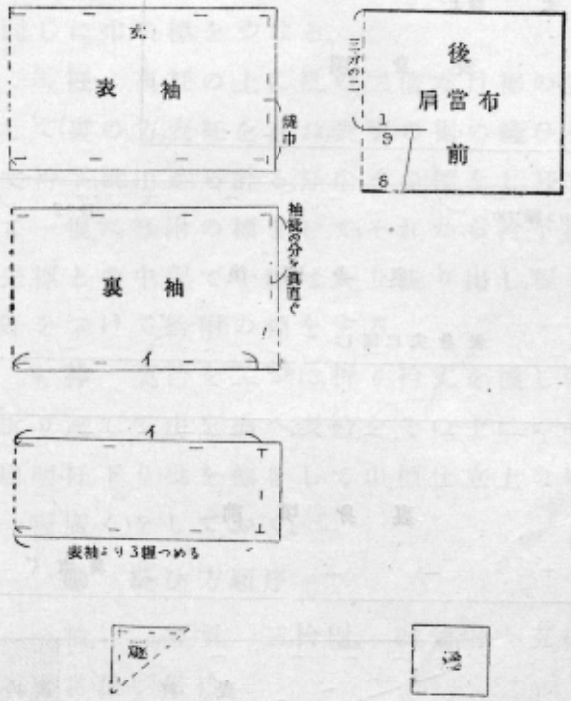

公式

裏袖丈×6＋裏身丈×4＋縫＋裏衿丈＝總用布

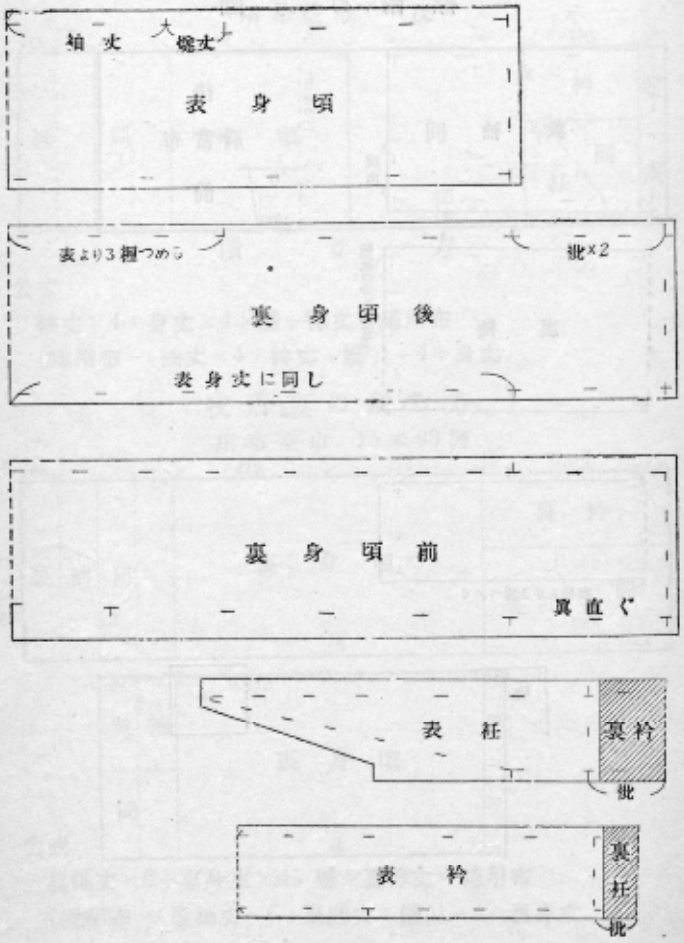
{總用布－(裏袖丈×6＋裏縫丈＋縫)}÷4＝裏身丈



## 標附け方圖



標附け方圖






附をつけ,それから背·肩巾·後巾·衽下り·前巾の標をつける。但し衽の部分には表身頃の後巾と同じに巾の標をつける。

3, **衽**　裏衽の上に衽の二倍だけ裾の方を出して(裏の方)表衽を重ね,表裏の裾の縫ひ代·衽山丈·衿下(衽山から計る)衽巾等の標をし,衽丈標まで一糎に衽附の標をして,それから衿下標と衽先標との中程で一糎ばかり張り出し,程よく格好をつけて衿附の標をする。

4, **衿**　裏衿を二つに折り,衿丈を標し,餘りを折り返して山を揃へ,表衿をその上にのせ,山·衿肩明·衽下り·衽を標をして巾標(仕立上り巾より一糎廣く)をしておく。

### ㊁　縫ひ方順序

一,袖。二,身頃。三,衿附。四,袖附。五,綿入。六,肩當及び掛衿。

1, **袖**　表裏の袖口を縫ひ合せ,表袖の方へ折り,外袖の袖下に燧を縦の布目を合せて縫ひ附け,袖の方へ折る。奥袖も同様にして燧をつけ,燧の角を留め,引續き表裏の袖下を縫ひ,内袖の

方へ折りつける。縫ひ目には全部隠し躾をかける。

2, **身頃**　表裏の背(裏を衿肩明から十二糎縫ひ,その下を丈の三分の二ばかり縫ひ残す)脇・衽を縫ひ,着物のやうに折り,表裏の裾合せをして表の方へ折り,衿下を縫つて表の方へ折る。

3, **衿附**　表裏の衿丈標を合せて縫ひ,表の方へ折り,左右とも衿の衽山を衿下の標に合せて衿をつけ,裏衿の巾は標より一糎控へて縫ひ合せる。衿先の處は,自然に格好をつけて斜に縫ひ裏の方へ折る。

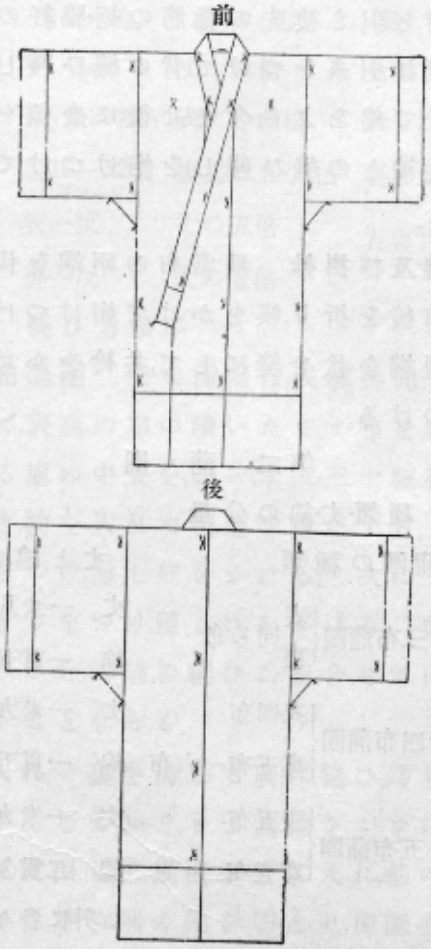
4, **袖附**　表裏の袖をつけ,表裏とも袖の方へ折る。

以上の凡ての縫ひ目に隠し躾をかける。

5, **綿入及びとぢ**　裏を出して疊んで,前身頃を下におき,後身頃及び袖に眞綿を引き,その上に綿を置く。裾には衽山より凡そ四十糎,袖口には,衽山より三十糎位長く平に延べる。厚味を加減して裾と袖口には別々に衽綿を入れる。全體に眞綿をひき,前身頃を上に出して後身頃



夜着のとぢ方の圖



同様に綿を入れる。衿下・衿先は稍厚みに綿を入れ,眞綿を引き褄先の背筋の裾・脇衽の縫ひ目にそれぞれ引糸をつけて背の縫ひ殘した處から,引返して綿をよく含ませ,後に合標を合せて裏袖と奥袖との縫ひ殘しを絎けつけて,とぢ糸をつける。

6, **肩當及び掛衿**　肩當布の兩端を伏せ縫ひにして前後を折り,鞝をかけて絎けつけて後に掛衿の兩端を伏せ縫にして,共衿をかけるやうにしてつける。

## 第二・蒲團

### ㊀ 種類・丈・綿の分量

| 蒲團の種類 | | | 丈と綿の分量 | |
|---|---|---|---|---|
| 敷蒲團 | 三布蒲團 | 表裏同じ布 | 丈 | 一米八〇糎 |
| | | | 綿 | 一貫五〇〇匁 |
| 掛蒲團 | 四布蒲團 | 表四布 | 丈 | 一米九〇糎以上 |
| | | 裏五布—六布 | 綿 | 一貫五〇〇匁 |
| | 五布蒲團 | 表五布 | 丈 | 一米九〇糎以上 |
| | | 裏五布 | 綿 | 二貫匁 |

外に各々眞綿少し



### ㊁ 裁ち方と積り方

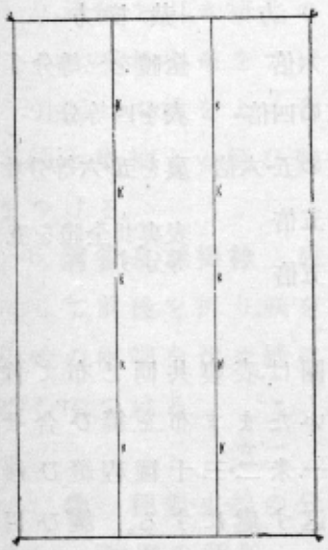
| | 用　布 | 積り方 | 裁ち方 |
|---|---|---|---|
| 三布蒲團 | 一　反 | 丈の六倍 | 全體を三等分す |
| 四布蒲團 | 表7米20糎 | 表丈の四倍 | 表を四等分 |
| | 裏10—12米（普通は一反） | 裏丈の五・六倍 | 裏を五・六等分す |
| 五布蒲團 | 表一反 | 丈の五倍 | 表裏共全體を五等分す |
| | 裏一反 | 丈の五倍 | |

### ㊂ 縫ひ方順序

1, **三布蒲團**　三布蒲團は,表裏共同じ布で作るもので,表裏の布の續いたまま布を縫ひ合せ,裏になる處の中央を,約一米二・三十糎程縫ひ殘して置き,綿を入れて引返す處にする。縫ひ目に折りをつけ,隱し鞝をかける。次に三方を縫ひ,表に折りをつけ,隱し鞝をかける。敷蒲團は綿が厚いから,四隅の縫ひ目を合せて四糎位縫つておくこともある。

2, **綿入れ**　裏を出して廣げ,縫ひ殘しておいた方を下にしておき,まづ眞綿を引き,綿は布より二十糎位出して縱横適當に入れ,綿の疊ぎ目に注意して重ね,隅の綿を切とり,周圍の綿を布

三布蒲團のとぢ方の圖



より少し長く折り返し,その上に又綿を一二枚のせて眞綿を引き,四隅及び巾二個所,丈三個所に引糸をつけ,新聞紙二枚を中央にのべ,四隅を中央へ折り曲げて,縫ひ殘した處から引返して紙を取り去り,丈及び巾をよく引合せて,あとを絎けてとぢをする。とぢは三十糎おき位に三糎の針目でする。

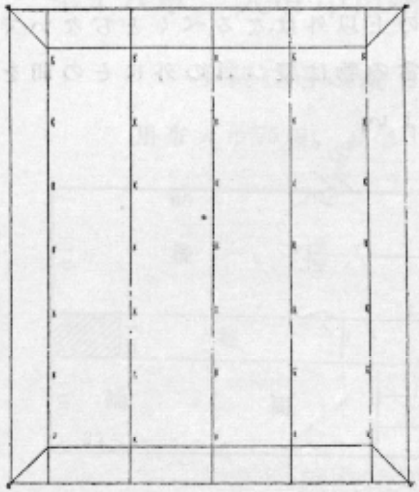
輪の方を上にして適宜に枕標をつける。

3, **四布蒲團**　四布蒲團は,鏡蒲團ともいふ。上下左右の裁の寸法を同じにするものであるから,裏布は上下とも裁の二倍づゝ長く要り,巾は裁の四倍だけ表布より廣く要る,その裁の寸法によつて裏を五布か六布にする。

表を全部接ぎ合せて折りをつけ,隱し躾をする。



四布蒲團のとぢ方の圖



裏は中央を一米程縫ひ殘し,他は全部接ぎ合せて折りをつけ,隱し躾をかける。但し中央の接ぎ目の折りは表とつづくやうにする。表裏の周圍を縫ひ合せ,裏布で額緣を作つて隱し躾をかけ,裏返して表布の方に綿を入れる。綿は角の處をよく整へ,綿を入れ終つたならば四隅に引糸をつけ,中央に紙を當てゝ四角を中央に折り曲げて,先に縫ひ殘しておいた處から引返して絎け,とぢをすること等三布蒲團に同じ。

4, **五布蒲團**　表裏ともそれぞれ縫ひ合せ,次に周圍を縫ひ,綿を入れ,四布蒲團のやうにとぢをする。四隅は角のまゝ飾り糸をつける。

**注意**　すべて,とぢ糸は縫ひ目の折りの上にかか

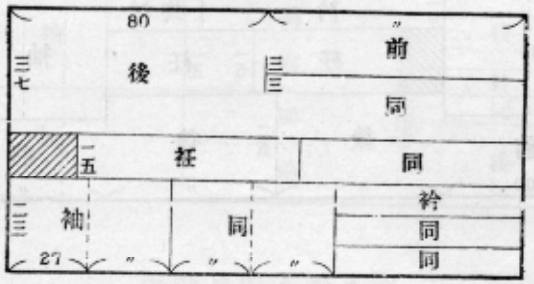
るやうにする。布の損ずる恐れがあるから,縫ひ目の上以外は,なるべくとぢないでおくが,平常の物は縫ひ目の外にその間をとおてもよい。



# 第十八章　大巾·中巾物各種裁ち方

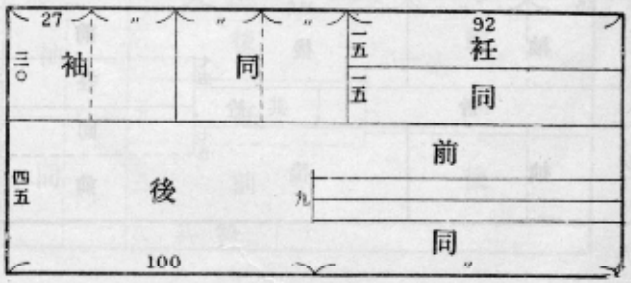
## 小裁長着の裁ち方

用布大巾(75糎), 長さ1米60糎



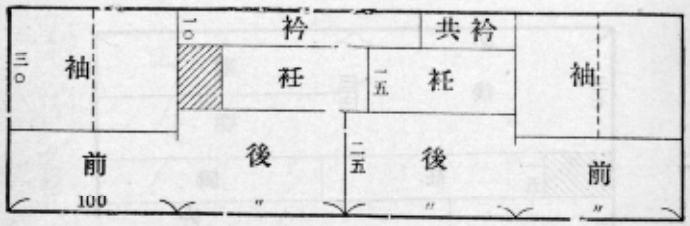

## 小裁長着の裁ち方

用布大巾(75糎), 長さ2米



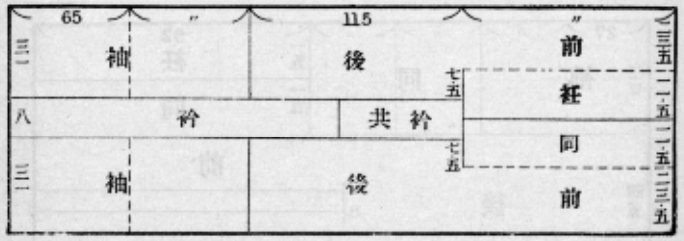
## 小裁長着の裁ち方

用布中巾(50糎)，長さ4米




## 中裁長着の裁ち方

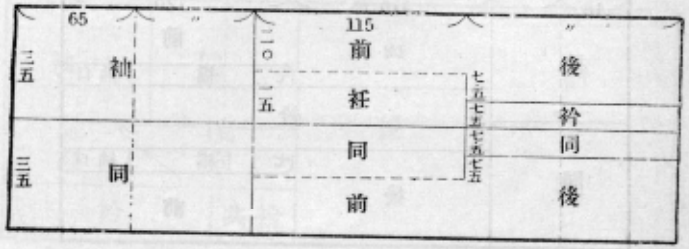
用布大巾(70糎)，長さ3米60糎





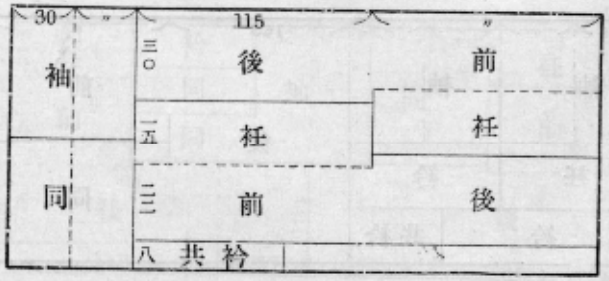

## 中裁長着の裁ち方

用布大巾(70糎)，長さ3米60糎



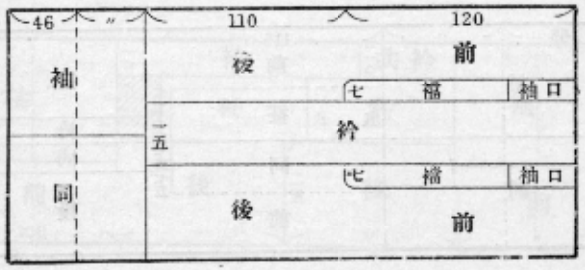

## 中裁長着の裁ち方

用布兩面物大巾(75糎)，長さ2米90糎



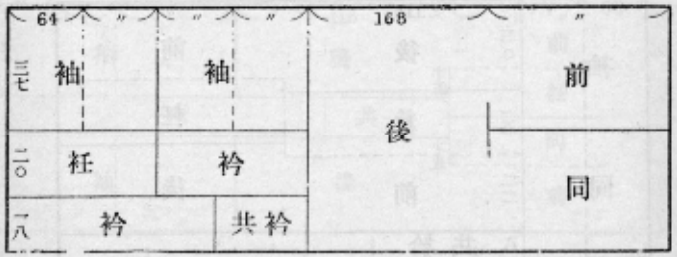
## 中裁羽織の裁ち方

用布大巾(75糎)，長さ3米22糎




## 本裁長着の裁ち方

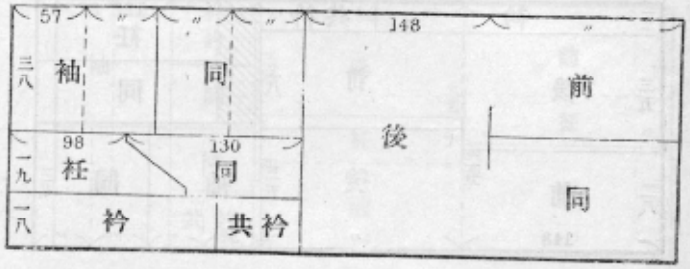
用布大巾(75糎)，長さ5米92糎





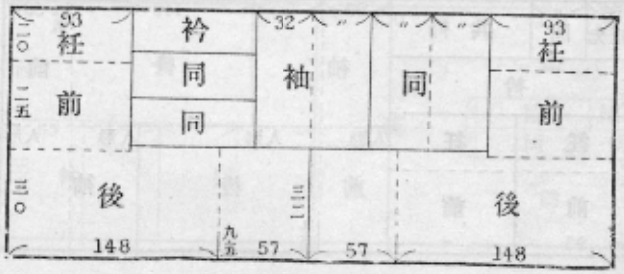

## 本裁長着の裁ち方

用布大巾(75糎)，長さ5米21糎



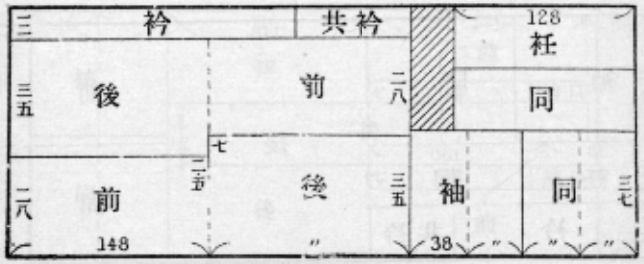

## 本裁長着の裁ち方

用布大巾(75糎)，長さ4米10糎



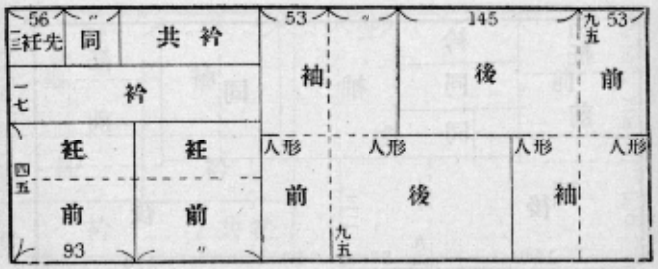
## 本裁長着の裁ち方

用布大巾(75糎)，長さ4米48糎




## 本裁長着の裁ち方

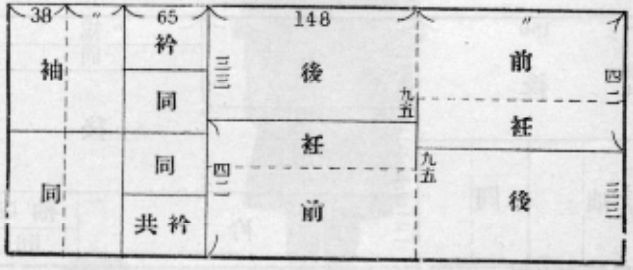
用布大巾(75糎)，長さ4米90糎





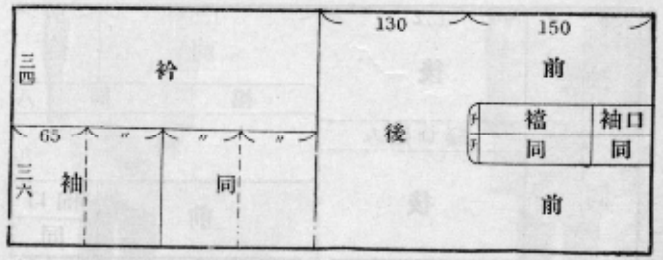

## 本裁長着の裁ち方

用布大巾(75糎)，長さ4米37糎



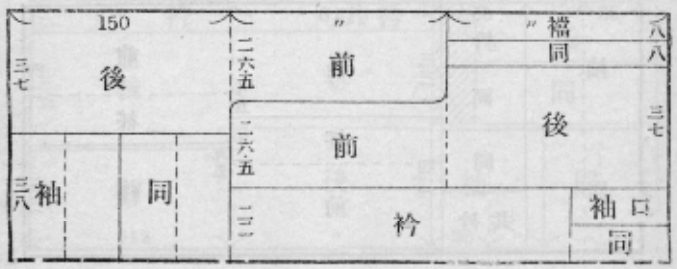

## 本裁羽織の裁ち方

用布大巾(75糎)，長さ5米40糎



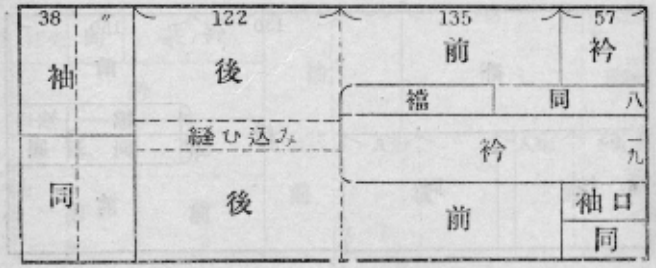
## 本裁羽織の裁ち方

用布兩面物大巾(75糎)，長さ4米50糎




## 本裁羽織の裁ち方

用布大巾(75糎)，長さ3米90糎



子供洋服着用の順序

(一) コンビネーション，(二) ウエストペティコート，(三) 上着

# 第十九章　子供洋服について

## 第一　洋服裁縫について

近來洋服を用ひることが男子はもとより婦人・子供の間にも非常に流行するやうになつた。中にも子供服は簡單輕便で,動作の活潑を主とし,又衞生的に考案されてあるものが多い。そして,その形態が種々あるために,その裁縫は非常に複雜で,困難なもののやうに一般に思はれてある。けれども,今後の女子は洋服裁縫の一通りを習得しておくことが,最も時代に適應したことで,又一定の方法さへ會得出來れば,その應用は實に廣く,且つ自由であつて,考案次第では全く獨創的なものが出來,非常に趣味の深いものである。次に洋服裁縫上心得べき二・三を掲げてみよう。

### ㊀　布の裁ち方

型紙を全部完全に裁ち揃へ,次にそれによつて布地を裁つ。用布は,まづ毛並の上下及び表裏に注意して,裁たねばならぬ。サージ等毛織

物の綾は右上りで,木綿物は左上りが普通であるが,時には反對の物もある。ラシヤ等の毛並のある地質は,逆毛にならぬやうに裁ち,又ビロード等はその反對卽ち逆毛に裁つやうにせねばならぬ。又よく裁ち合せを考へて,無駄布を出さぬやうに,且つ子供物は直線の處には縫ひ込みを多くつけておき,後日縫ひ出すのに都合よくする等に注意せねばならぬ。

### ㊁ 縫ひ方

1, 縫ひ糸は,用布と同色又は稍濃い色を用ふ。

2, 縫ひ方は,最も正確に,順序正しく仕上げる習慣をつけることが大切である。練習中に仕上げを急ぐ時は誤りが多く,且つ悪い習慣をつくることが多い。殊に毛織物を仕立てるには丁寧に鏝をかけ,常にアイロン又は火熨斗等を用意しておき,要所に充分アイロンを使つて折りをつけ,又形を整へるやうに注意する。但し毛織物は必ず裏側からアイロンをかける。もし表からかける場合は,キヤラコを二枚程のせて,その上からかけなければならぬ。

3, 下着類はなるべく,縫ひ代の部分がかさばらぬやうに始末する。

4, スナツプや釦は,全部仕上げをしてから後につける。又型の複雑なものは,一度假縫ひをして形を見た後本縫ひにかゝる等の點に注意する。

### ㊂ 色の配合

洋服の色彩は,和服と違つて一枚の洋服にあまり種々な色を用ひず,三色以上はなるべく避ける方がよい。類色配合は最も無難である。又女兒服の色合は年齢に關係なく選ばれるが藤色のみは避ける習慣がある。すべて落ち着きのある色合を選び,その配色もくすんだ色を用ひる方が日本人には似合はしい。又洋服そのものゝ色ばかりでなく,附屬品についても色の配合を注意しなければならぬ。まづ靴及靴下は黑か白を用ひる方が,經濟上からも配色上からも便利である。帽子は洋服との調和が大切であるが,夏は白麥藁製,多は黑地の帽子に,各

各洋服と調和のよい裝飾をあしらへば,どんな洋服にも使用することが出來る。又洋服の裁ち落しを利用して,六つ接ぎ帽子等を拵へて使ふのもよいものである。要するに,色彩の調和の要點は,何人の目にも感じよく,快感をあたへるやうに注意することが大事である。

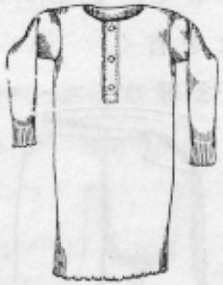
## 第二　着用の順序及び着方

西洋では嚴寒の候でも,華氏七十度を下らないやうに室内の温度を調節してあるから,四季共に殆んど同一の單衣仕立のものを用ひ,たゞ肌着に多少の差異があり,又取捨するだけである。又注意を要することは永年用ひ慣れた和服は,子供の發育上不完全な點が多いから,洋服に代へたならばといふ傾向になつて來て居る。されば,その着せ方を誤り,身體の發育を妨げるやうなことでは,洋服も甚だ無意味なものとなる。卽ちガーター(靴下吊)を用ひないで,大腿部を結束するなどは大なる誤りである。次に歐米に於ける子供服の着用の順序を述べる。



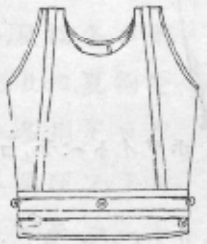
**冬**　1, 多用シヤツ,又は多用コンビネーション

多用シヤツ

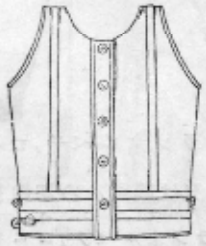


2, 上體にコーセツトウエスト

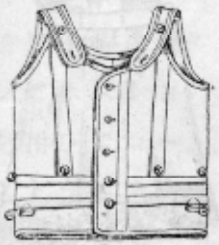
女兒用前



女兒用後



男兒用前



ガーター(靴下吊)

3, 下體に多用ドロワース
コーセツトにつける。但しコンビネーシヨンを着る時はこれを省く。

多用ドロワース

4, フランネルペティコート　5, ホワイトペティコート
（本ネル又は綿ネルの切地を用ふ）

フランネルペティコート

ホワイトペティコート

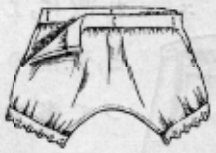
6, 上着(ドレス)
男兒は4·5を省く。そしてヅボンをはき上衣を着る。

**夏**　1, 夏用シヤツ又は夏用コンビネーシヨン。
2, コーセツトウエスト
3, ドロワース
4, ホワイトペティコート
卽ち,夏は冬下着の代りに夏物を用ひ,多用ドロワース及びフランネルペティコートを省く。
尙,酷暑の時には,コンビネーシヨンを用ひてコーセツトウエストをも省き,半靴下を用ひ等する。
この外,ブルマースはペティコートの代用として

夏用シヤツ

夏用コンビネーシヨン

夏用ドロワース



通學の時又は運動用に多く用ひられる。その用布は上着と同じものか,又は上着と同じ色であれば地質は異つてもよい。

プリンセススリップ

スリップは薄いドレスなどに重ねて着る。スリップを着る時はホワイトペティコートを省く等は隨意であるけれども,概して洋服殊に子供は裾短かに着て,上着も單純な色彩のものを用ひるから,白い刺繍切・レース等が動く時,ちらちら重つて顯はれるのは,優美高尚の感を與へる。それ故に,よい衣裳をつける時と,平常の場合と,又氣候によつて多少の取捨をする必要がある。

ブルマース

## 第三　着　丈

1, 初生兒。身長よりも二・三



十糎位長くする。

勿論氣候によつて多少の差があるけれども,六ケ月位から足首の出るやうにする。これは和服の產着に同じ。下着類も襁褓を用ひるから自然形がちがつて居る。

2, 六ケ月以上滿二才位　卽ち匍ひ始めより,よく歩くやうになるまでは,足首より六・七糎上までの長さとする。

3, 滿三才以上小學校程度迄　膝頭の邊までとする。

4, 十二才以上。女學校入學頃よりは膝頭の七・八糎位下までとし,決して膝頭を顯はさぬことである。現今の女兒及び女學生服はあまりに丈が短か過ぎる。

# 第二十章　寸法の取り方及び原型割出し方

## ㊀　寸法の取り方

寸法の取り方

腰骨の上部のくびれた處に紐を締め,これを境にして上半身と下半身とに分ける。

**1, 下胴線**(ウエストライン)　紐を締めた線をいふ。

**2, 背丈**(バック)　頸の附け根から下胴線まで,即ち紐を締めた處迄をいふ。

**3, 背總丈**(フールレングス)　頸の附け根から膝裏までの長さをいふ。これが即ち洋服の丈となるのであるから,十二・三才からは今少し長くする。

**4, 胸圍**(ブレスト)　上胴線ともいふ。胸の最も高い處の兩脇下の周圍をいふ。



**5, 裄丈**　手を自然に下げ,頸の附け根の中央から肩山を通り,手首までの長さをいふ。

**6, 脇丈**　下胴線より膝頭迄をいふ。これは下穿類を作る時入用の寸法である。

以上の寸法取り方は,子供服に限るが,婦人服の寸法の取り方は尙次の場處をも計る。

腰廻り(シート)下胴線から約二十糎下,即ち腰の最も太い處の廻りをいふ。スカート丈,下胴線から床までを計り,その寸法から二十三糎內外を減じたものが普通であるが,流行により加減することは勿論である。

## ㊁　標準寸法出し方

子供の身體は大人と違つて寸法の取り方が簡單であるから,一人々々計らなくても年齡によつて大體の見積りが出來る。但し子供の發育の程度及び實際の年齡によつて多少加減することが大切である。

**1, 背丈**　一才を二十三糎とし,一才增す毎に,一糎づゝ增す。例へば一才の時は二十三糎,二才が二十四糎,三才が二十五糎となる。これに

よつて一才から十五才までの子供の背丈を容易に知ることが出来る。

2, **背總丈**　嬰兒服は總丈七十五糎乃至八十五糎とする。これは和服の產着を長く仕立てるのと同じである。

二才より八才までは前述の背丈の二倍が背總丈となる。九才より十五才までは,背丈の二倍にし,一才を増す毎に三糎づゝ増す。卽ち左圖の如き割合になるのである。

3, **裄丈**　背總丈の四分の三とする。但し夏服・春服の場合は半袖或は七分袖を用ひることがある。

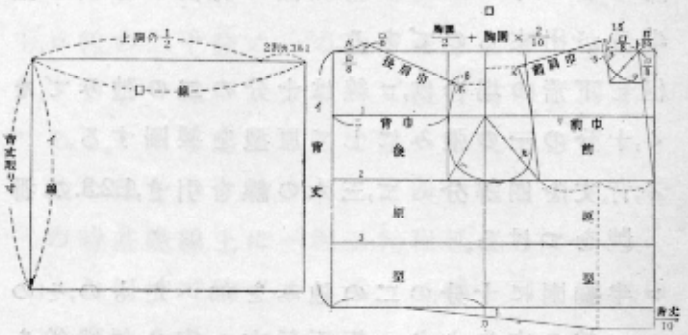
4, **上胴・下胴・腰廻り**　何れも背丈の二倍にす



る。卽ち子供服はすべて大差が無いためにこの割出し方にするのである。

## ㊂ 原型割り出し方

### 原型の取り方




### 標準寸法

| | 背丈 | 背總丈 | 胸圍 | 裄丈 |
|---|---|---|---|---|
| 一才 | 23糎 | 75糎<br>90糎 | 46糎 | 34糎 |
| 二.三才 | 24糎 | 48糎 | 48糎 | 36糎 |
| 四.五才 | 26糎 | 52糎 | 52糎 | 39糎 |
| 六.七才 | 28糎 | 56糎 | 56糎 | 42糎 |
| 八.九才 | 30糎 | 63糎 | 60糎 | 47糎 |
| 十.十一才 | 32糎 | 70糎 | 64糎 | 51糎 |
| 十二.三才 | 34糎 | 89糎 | 68糎 | 66糎 |
| 十四.五才 | 36糎 | 93糎 | 72糎 | 69糎 |

まづ圖の如く基礎線を引く。

イ線は背丈。ロ線は上胴廻りの二分の一に倘,その十分の二を弛みとして加へたものである,卽ちこのイ・ロ二つの基礎線で前後の身頃の上半身が出來るのである。

但し下着の場合は,ロ線は十分の二の弛みでなく,十分の一の弛みにして原型を製圖する。

イ,背丈を四等分して,三本の線を引き,1.2.3.の番號をつける。

ロ,半胸圍に十分の二の弛みを加へたもの,そのロ線の中央より一糎五粍左へ寄せて縦線を引き,左を後身とし,右を前身とする。

ハ,左の角からロ線の八分の一に印をつけ,更にその八分の一を上に出し,背の中心からそれをつなぎ後衿ぐりとする。

ニ,ロ線の三分の一に縫ひ代を(八粍加へ,それを第二線まで引き,背巾を定める。

ホ,ロ線と第一線の中央で背巾より右に五粍出し後背巾を引く。

ヘ,圖の如く斜線を引き,それを四等分して標をつける。



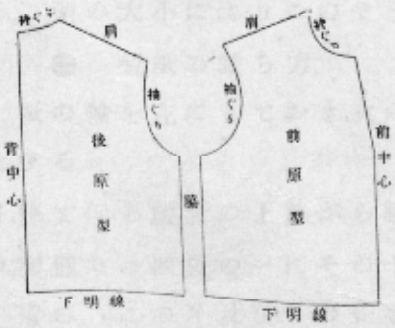
ホと,ニと,十文字の處との四ケ所を通つて格好のよい丸みをつけて線を引く,これが後の袖附となる。

ト,ロ線の二十分の一の胸ぐせをとる。

チ,トチはロ線の八分の一で,後衿肩明と同寸である。トを起點として左へも又下方へも,寸法の印をつけ,稍ゆがんだ四角線を引く。その時基礎線上に一糎三粍程延ばしておく。

リ,ニと同寸で,胸ぐせに添うて線を引き,前胸巾を定める。

原型を切り離した圖




ヌ,ロとホの中央に線をひき,後肩巾より七粍程少ない寸法をチの尖端から引き,前肩巾を定める。

ル,斜線を六等分して脇の下の處を三粍くり下げ,丸く前袖ぐ

りをつくる。

ヲ,あごぐり線である。斜線を四等分してチの線の處で三粍くり込み,前中心へと丸みをつくる。

ワ,背丈の十分の一の前下りをつける。

カ,脇の線で一糎下げ,後巾の中央へ斜線を引き,それと前下りとを結びつける。

かうして出來上つた原型が洋服裁縫の基礎となるのである。



# 第二十一章　子供服下着類

## 第一　ドロワース

ドロワースとは下穿のことである。種類はいろいろあるが,コーセツトウエストにつけて着るのを本體とする。

**用布**　冬は綿ネル・メリヤスの類を用ひ,夏はキヤラコ・縮等を用ひる。

### ㊀　積り方

脇丈に,上下の縫ひ代及び後を上げる寸法を加へたものが丈であるから,布の巾及び型紙の大きさによつて丈の二倍,又は裁ち違ひ等に積る。型の大小によりこのやうな積り方になる。

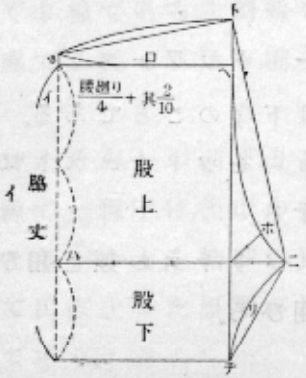
### ㊁　型紙の裁ち方

紙の輪を左にしておき,次の圖のやうに製圖をする。

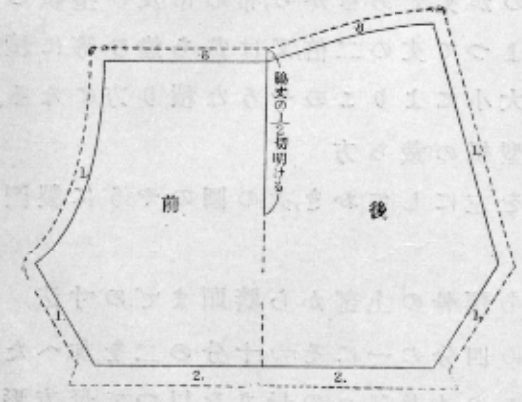
**イ**,脇丈即ち腰骨の上部から膝頭までの寸法。

**ロ**,腰廻りの四分の一にその十分の二を加へたもの。このイ及びロの長さを以つて長方形を畫く。

型紙の裁ち方




圖た い開を紙型




ハ,イの三分の一の位置に横に線を引き,股上と股下の境を定める。

ニ,ハ線の三分の一を右へ出す。

ホ,ニの三分の二の長さを,圖の如く斜に出す。

ヘ,上の角のへよりヲ・ニを通つて丸みをつけて



線を引く。

ト,股上の五分の一だけ後を上げ,イの上端よりイの上端を8粍引き延し斜線を引き,少し丸みをつける。尙ト・ニを結びつける。

チ,ニより圖の如く斜線を引き,八粍位内側をくり落す。このやうにして出來上つたならば,イ・ロ・へ・ホ・ニ・リ・チを切つて前身とする。イ・ト・ニ・リ・チを切つて後身とし,尙,脇は上より半ばまで切る。

型紙を裁つには前後の二枚ともまづ後の線通り裁ち,次に前の線通りに裁つ。型紙が裁てたならば,圖に示した通り,縫ひ代を,裾に二糎,上の帶の處に八粍,前後股上・股下には一糎づゝつける。

### ㊁　縫ひ方順序

1, 前及び後の股上を充分のばし,地質によつてここを袋縫・割り縫・伏せ縫等にする。

2, 股下も同樣に縫ひ合せる。

3, 前及び後の帶のつく處を下胴の寸法に縫ひ縮めて,後脇明に持出し及び見返しをつける。

4, 帶を出來上り巾四糎位につける。

5, 裾口を折りまげてミシンをかけ,ゴムテープを入れるか,又はレースをつける。レースをつけるならば裾の縫ひ代は一糎とし,先にレースをつけてから股下を縫ふ。

6, 釦穴を前後の帶の中心と前兩脇は縦穴,後の兩端は横穴にあけて穴かゞりをする。

## 第二　ブルマース

ブルマース仕立上りの圖

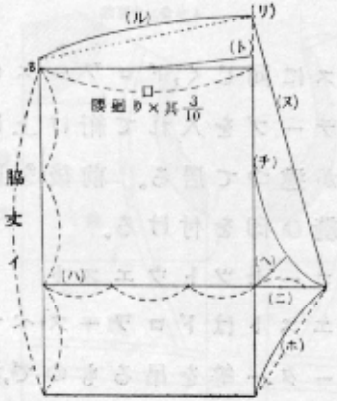
ブルマースは既に第一章で述べたやうに,上着と同色のものを用ひて作り,子供の下穿として,大層便利て,仕立て方も,着用も,簡單て且つ暖かてある。腹部にゴムテープを入れ,裾口は縫ひ縮めてレースをつける。その製圖は略ドロワースと同じてあるけれども,少し巾を廣くする。尚,場合によつて用布はキヤラコ·縮·フランネル等をも用ひる。

### ㊀　積り方

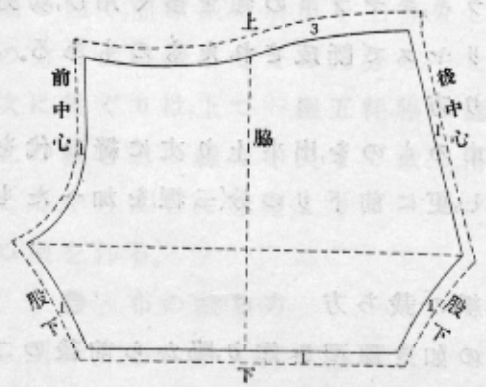


ドロワースに同じ。

### 型紙の裁ち方



型紙を開いた圖




### ㊁　裁ち方

大體ドロワースに同じて,ただ違ふのは,ドロワースはロ線を腰廻りの四分の一にその十分の二を加へたのを,ブルマースは,腰廻りの四分の一にその十分の三又は十分の四を加へるのてある。又裁ち切りの

時,縫ひ代の加へ方は,ドロワースは上を八粍としたが,ブルマースでは三糎とする。

㊁　縫ひ方

大體ドロワースに同じく,ドロワースの帶をつけた處にゴムテープを入れて紩け上げ,又脇をあけぬこと等が違つて居る。前後を區別する爲に前中心に縫ひ印を付ける。

## 第三　コーセツトウエスト

コーセツトウエストはドロワース・ペテ,コート・ヅボン及びガーター等を吊るもので,婦人服のコーセツトに相當するものである。

**用布**　カツラギ,キヤラコの類を多く用ひ,幼兒のためにメリヤスで既成されたものもある。

㊀　積り方

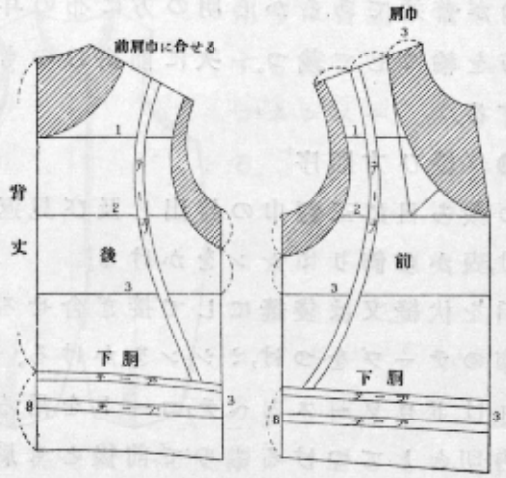
六十八糎巾のものを,出來上り丈に縫ひ代を加へて二倍し,更に前下りの分(三糎)を加へたものである。

㊁　型紙の裁ち方

まづ前章の如き原型を作り,脇から前後の二つに切り離す。



コーセツトウエスト型紙の裁ち方




圖の如く,前原型の肩巾を三等分して,あごぐりの方で二の線までその三分の一を大きく刳る。次に袖ぐりは,上で一糎五粍,脇の縫ひ目の處は,二の線と三の線の中央まで裁ち落す。

このやうにして原型よりコーセツトウエストの型を作る。

㊂　布の裁ち方

型紙を布にあて,丈は八糎長くし,前は縫ひ縮めの寸法として,三糎程型紙より前の巾を廣く

裁つ。但し男兒は前掛けとし,女兒は後掛けにするのが普通であるから明の方に布の耳を用ひ,他方を輪にして裁つ。次に前掛けのものを說明する。

### ㉕ 縫ひ方順序

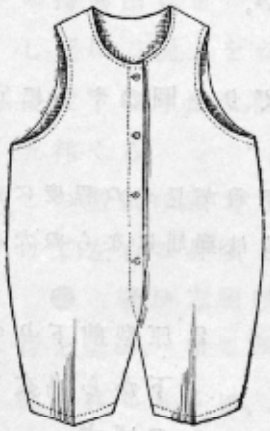
1, 前の裁ち目に三糎巾の持出し及び見返しをつけ,表から飾りミシンをかける。
2, 兩肩を伏縫又は袋縫にして接ぎ合せる。
3, 斜布のテープをつけ,ミシンをかける。
これはドロワースとペテ,コートを吊るために力切としてつけるもので,前後とも肩の中央から袖ぐりに添うて縦に下胴までつける。(第十九章コーセツトウエストの圖を參照)
4, 衿ぐり,袖ぐり及び裾の裁ち目を全部斜布で挟み,ミシンをかける。その時前の縫ひ縮めの寸法を,重なりから左右三糎程離れた處にする。

## 第四　コンビネーション

コンビネーションとは,ウエストとドロワースを續けて仕立てたもので,子供の下着として極めて便利なものである。



コンビネーション仕立上りの圖



用布は普通下着類に使用する綿フランネル・キヤラコ・ネンスーク・縮等を用ひる。

### ㊀ 積り方

大巾で背總丈の二倍半の布を要す。
コンビネーションの裁ち方にも種々ある。

1, 前後共一枚の布で續いて居るもの。(仕立上りの圖)
2, 前だけ上下續きで後は上下別布となつて居るもの。
3, 上部・下部縫ひ合せたもの。

以上の三つの何れにも得失がある。裁縫上簡便でも經濟上・作法上からよくないもの,又は經濟上からよくても裁縫の複雜なものもある。又運動上に都合がよくとも用便に不都合なものもある。さればこれを製作する

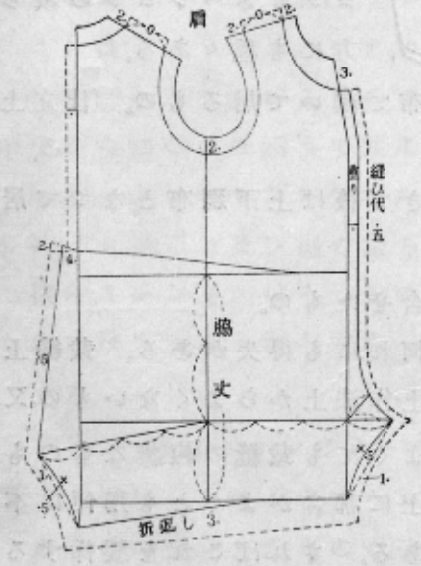
時には,何れの點よりも缺點の無いやうにと,考案しなければならない。

### ㊁ 裁ち方

1, 原型によつて,衿ぐり,袖ぐりを圖のやうに定める。

**注意** 衿ぐりは,上着から下着が見えぬ程度に裁ち落すこと,又袖ぐりは窮屈にならぬためにくり下げる。

コンビネーションの裁ち方




2, 原型前下りの下から脇丈をのばす。

3, 脇丈を三等分してドロワースの如く,股上・股下の境の線を引く。

4, 脇を中心として,前は巾の三分の一のばし,後は,股上の五分の一下げて,三分の一引きのばし,前は一糎の持ち出しをつけ,後は下胴線の處で四糎出し,更に二糎上をのばして重なりをとる。

5, 後股下の寸法は,前と同じ寸法にして中央で五糎くる。

この型紙に,裁ち方圖に記入した縫ひ代をつけて,左右の身頃を裁つ。

### ㊂ 縫ひ方順序

1, 背を縫ふ。布の厚さにより,割り縫・伏せ縫・袋縫何れでもよい。

2, 股下を縫ふ。

3, 左右の身頃を前重なりから後の重なりまでつづけて,三糎巾の見返しをつける。

4, 背縫と同じ縫ひ方にして肩を縫ひ合せる。

5, 衿ぐり・袖ぐりに細い見返しをつける。

6, 仕上げをし,穴かゞりをして釦をつける。

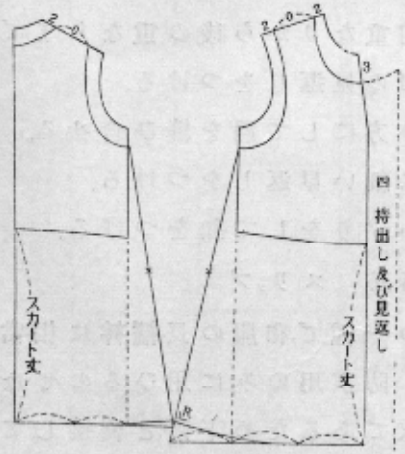
## 第五　スリップ

スリップは下着の一種で,和服の長襦袢に相當するものである。防寒用のみに用ひるのでなく,普通洋服は單衣であるため下着と密接して

スリップ仕立上りの圖

洋服の生命ともいはれる自然の線を妨げる故，その形を整へるためにスリップを用ひて裾さばきをよくする。つまりウエストとペティコートを連結したやうなもので，釦がけの手數を省き，且つ腹部を締める心配もない。

スリップ型紙の裁ち方




**用布**　夏は絹寒冷紗・麻・ボイル・キヤラコ等を用ひ，冬は毛繻子・キヤラコ・羽二重・琥珀・絹紬等すべてさらりとした地質を選ぶ。又上着の裏地で仕立てる場合もあり，又



夏季は上着からすかして見せるために配合のよい色合を選ぶこともある。

㊀　積り方

六十八糎巾で背總丈の二倍の丈を要す。外に裾飾りのレース及びボタン・スナップを必要とする。

㊁　裁ち方

，原型を基礎として，衿ぐり袖ぐりを定める。

2，背總丈を定める。卽ち前は前下りの下からスカート丈をのばし，後は背の中心から計る。

3，裾を原型巾の二分の一開き，裾巾の中央に向つて前脇丈の斜線に直角をとる，前下りをつける。

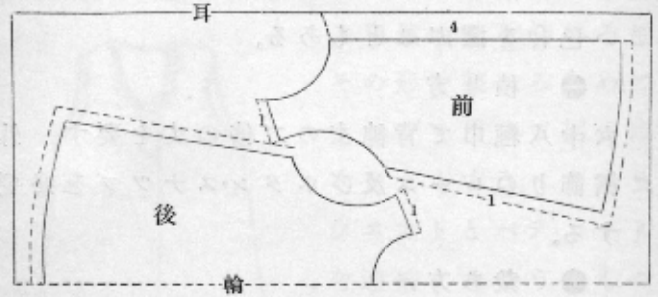
4，前脇丈と同寸に後脇丈を定めて，前と同様に巾の中央で裁ち落す。

㊂　布の裁ち方

圖に示す如く，衿ぐり袖ぐりには縫ひ代をつけない。その他は一糎づゝの縫ひ代をつけ，布を經濟に裁ち合せる。

裾のレースの巾は，豫め總丈から減じておき，レ

布の裁ち方




ースの丈は裾廻りの約一倍半を要す。（但しレースの巾により多少加減する）

**注意**　一,背總丈は上の洋服よりも二糎短かくすること。

二,袖ぐり,衿ぐりは上着より多くすること。

三,裾の開きは地質により,又流行によつて多少加減してよい。

四,明は前に限らず,後,或は肩何れでもよい。

㊂　縫ひ方順序

1, 前明の標(スカート丈の三分の一まで)から下を,右は中心線から一糎先を,左は一糎内側に入つた處を縫ひ合せる。(これが前の見返しと持ち出しになる)

2, 前明の部分は,右は縫ひ目の山から裏に折り返し,左は縫ひ合せた處から二糎先を折り山として,裏に折つて,左右各々飾りミシンをかける。(仕立上り圖參照)

3, 肩及び脇を縫ひ合せ,前に返す。

4, 袖ぐり,衿ぐりに出來上り巾,八粍位の見返しをつける。或はそこにレースをつけることもある。但し見返し布は正しい斜布を用ひなければならぬ。

5, 裾にレースをつける。

裾を端から二糎五粍の處を折り山として,一糎巾にミシンをかけ,レースを裾巾に縫ひ縮めて,裾の裁ち目と縫ひ合せ,その縫ひ代を一糎巾にミシンをかけた處へ折り込み,ミシンで押へる。

レースの縫ひ縮めの加減は,その巾により廣い物は多く,狹い物は少なく縮める。

6, 仕上げをしてスナップをつける。スナップは凸起した方を上に凹んだ方を下にして何れも三十番位のカタン糸で丈夫につける。

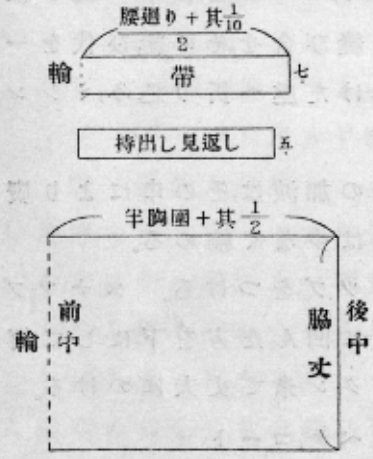
## 第六　ペティコート

ペティコート仕立上りの圖

ペティコートは女兒及び婦人の下着として缺くことの出來ないもので,多は下にフランネルペティコートを用ひその上にホワイトペティコートを用ひる。

用布は本ネル・綿ネル・毛繻子・キヤラコ・輸出羽二重等を用ひる。

ペティコートの裁ち方




❶　積り方

スカート丈の二倍に,帶布として十糎程加へる。

裾飾りには共布又は刺繍切・レース等を用ひる。

❷　裁ち方

左圖の如く,巾は輪にして半胸圍の



一倍半とし,丈は上着丈より,二糎程短く脇丈を定める。レースをつける時は,その巾だけ減ず。帶丈は腰廻りにその十分の一を加へ,それに兩端の縫ひ代及び重なりをつける。巾は七糎の裁ち切りとする。その外に後の持ち出し及び見返しを五糎巾に裁つ。

❸　縫ひ方順序

1,胸圍の一倍半の布を輪にする。その時丈の三分の一を縫ひ殘して後明とする。

2,後明に持ち出し,見返しをつける。

五糎巾の布を裏にあて,あさく縫ひ,二糎巾の緣をとり,一方を裏側に折り返してまつりつけ,他方はそのまゝ開いておく。その時切り込みの絡は,和服の衿肩明を縫ふやうにする。

3,腹部を帶丈と同じ寸法に縫ひ縮める。

4,帶を裏側からつけ,二糎五耗の巾に折り,飾りミシンをかける。

5,仕上げをし,穴かゞりをする。仕立上り圖のやうに,前と兩脇は,縱穴,後中心は下前になる方が横穴で上前の方を縱穴にする。

# 第二十二章　女　兒　服

## 第一　女兒服(其の一)

これは普通簡單服と呼ばれ,裁ち方・縫ひ方共に簡單なのが特徴である。且つ材料に少しの無駄切もなく,又積り方もわかり易く,可愛らしく輕快な服で夏服にも冬服にもよい型である。

女兒服(其の一)

**用布**　夏は朝鮮木綿・ゼツパ・ギンガム・縮・ボイル等を用ひ,冬はサージ・カシミヤ・ビロード等を用ひる。

### ㊀　積り方

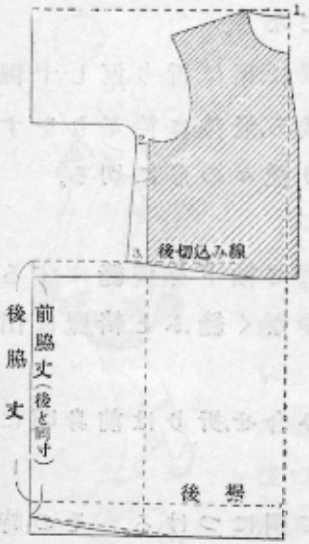
背總丈に裾の折り返し(ヘム)を十三糎程加へて,その二倍と,外にポケツト布として十五糎を要す(六十八糎巾)　但しラシヤ巾の時はその半分を要す。

### ㊁　型紙の裁ち方

次の圖の如く,前の型紙を當てて裁つ。



型紙の裁ち方




衿ぐり及び袖丈は時節により,又好みによつて加減する。

脇の切り込みの線は,後は眞直ぐに,前は原型にならつて斜に裁ち込む,從つて後裾は上の裁ち込みの差と,前下りの分だけ短くなる。裾の開きは,スリーブの如く,原型の巾の二分の一開くのであるが,布巾をいつぱいに使ふ時もある,子供服は裾巾の廣い方が運動に便利である。

又縫ひ縮めの位置は,下胴線の處に限らず,上下いづれでもよい。但し前後の切り込みの差は必ずつける。

### ㊂　布の裁ち方

布を横二つに折り,更に縦二つに前下りの差をつけて,背丈の中央の處で布の輪の方を一糎

程後の方が狹くなるやうにずらして折る。卽ち肩山の布目が少し斜になる。

袖下と脇に,縫ひ代一糎五粍,裾に折り返し十糎位,袖口に四糎位つけて裁ち,最後に衿ぐりをする。衿ぐりは好みにより種々の形に切る。

㊂　縫ひ方順序

1,脇の下の丸みをのばして袖下を袋縫にする。丸みの處は,縫ひ代を少なく縫ふと綺麗に出來る。

2,スカートの兩脇を縫ひ合せ,折りは前身頃に返す。

3,スカートを縫ひ縮めて胴につける。その時地薄の布で縫ひ代を包む。

4,袖口及び裾を,豫定の寸法に折り返して,糸を弛くまつるか,或はミシンをかける。

5,後明に出來上り一糎五粍の緣を左右つゞけて取り廻し,右身頃だけ內側に倒してまつる。

6,衿ぐりに二糎巾の斜布で見返しをつける。

7,ポケットを下胴線より四糎下に,左,右,又は右側に一つつける。



女兒服(其の二)

8,仕上げをしてスナップをつける。スナップのつけ方は凸形を上前に,凹形を下前につける。

第二　女兒服(其の二)

この型は三·四才から七·八才までに適當である。

裁ち方は第一のと大差はないが,衿ぐりから脇の下に斜に縫ひ目が出來ることゝ前後の衿ぐりに少々縫ひ縮めがあるのが違ふ。

袖口や裾の裁ち方や,緣取りは各々好みによつて,自由につけてよい。

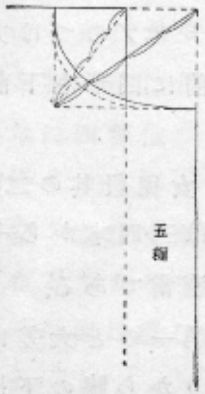
㊀　積り方

前述の女兒服に略同じ。

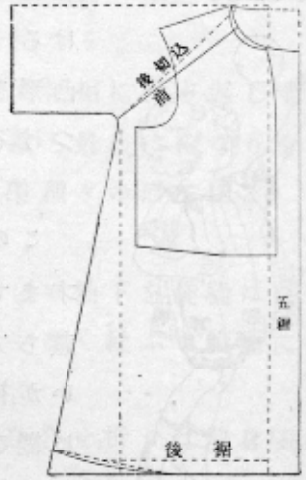
㊁　裁ち方

前の原型を當てゝ圖の如く,裾の開きは原型の二分の一開く。

衿ぐりの伸し方

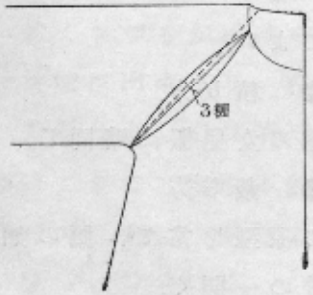



型紙の裁ち方




衿ぐりは,仕立上り圖の如く縫ひ縮めるため,中央に五糎出し,上圖の如く五糎の角に向つて斜線を引き,その四分の一だけくる。

袖附のつまみ方




袖附の斜線は後は肩から一糎離し,前は肩から二糎五粍程下り,中央で三糎程圖の如くつまむ。

## ㊁　布の裁ち方

布の裁ち方は第一と同樣である。但し袖と身頃を切り離して裁つてもよい。



## ㊂　縫ひ方順序

1,袖附を縫ひ合せ,縫ひ代は袖の方に返し,飾りミシンをかける。

2,袖下及び脇を縫ふ。地薄物は袋縫,厚物は割り縫とす。

3,後の明に,第一の女兒服と同樣に,持出し及び見返しをつける。

女兒服(其の三)1

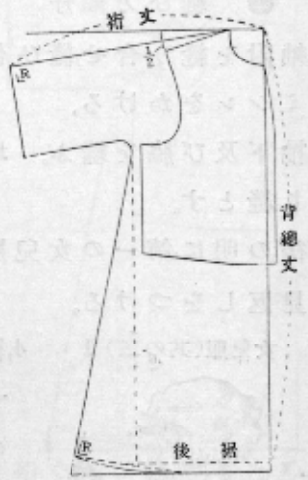
4,衿ぐりを原型の衿ぐり寸法に縫ひ縮めて,配合のよい斜布で緣をとる。

5,袖口及び裾を折り返してまつるか,又は出來上り圖の如く形をつけて裁ち,斜布で緣をとる。

第三　女兒服(其の三)

この型は三·四才より十二·三才までの子供に適す。又僅かの裝飾によつて婦人服にも應用

## (其の三) 2　身頃の裁ち方




が出來る。

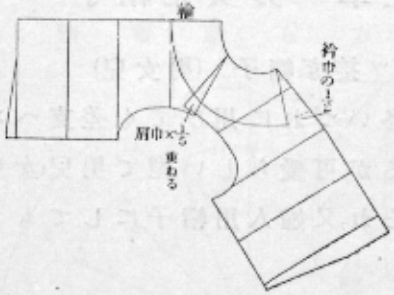
㊀　裁ち方

其の一.其の二の裁ち方と大差はない。圖の如く肩下りをつける。前原型の肩山と直線との中點と肩先を結び,それをのばして裄丈を定め,その直角の線をひいて袖口寸法を定める。その他は前に同じ。

衿の裁ち方　後原型と,前原型を,袖ぐりの方で肩巾の五分の一重ね,衿巾は第一線位までとし,



## 衿の裁ち方




前の方は五粍程廣くして中心より衿巾の二分の一開く。

㊁　縫ひ方順序

1,肩を縫ひ合せ,折りは前に返して飾りミシンをかける。

2,前中心を十五糎程切り開けて細く緣をとる。

3,袖下及び脇を縫ひ合せる。

4,衿を表裏縫ひ合せ,身頃の中心を合せ,衿の上に斜の見返し布をのせてミシンをかけ,縫ひ代を包んで身頃をまつりつける。

5,ポケツトをつけ,好みの飾りをつける。

# 第二十三章　男女兒帽子

## 第一　六ツ接ぎ帽子（男女兒）

この帽子は夏冬いづれに用ひても差支へない。平凡ではあるが可愛らしい型で男兒・女兒いづれにも用ひられ,又婦人用帽子にしてもよい型である。

**用布**　夏はビケ・リンネル・アルパカ・麻等を,冬はビロード・サージ等すべて洋服に用ひる地質で拵へる。

裏地は毛朱子・寒冷紗・ネンスーク等を用ひる。

飾りにはリボン・コード(撚り紐)等を用ひる。この型は普通頭布も,鍔も共色にするが色の調和さへよければ,鍔の裏,或は頭布等に別布を用ひてもよい。

### ㊀　積り方

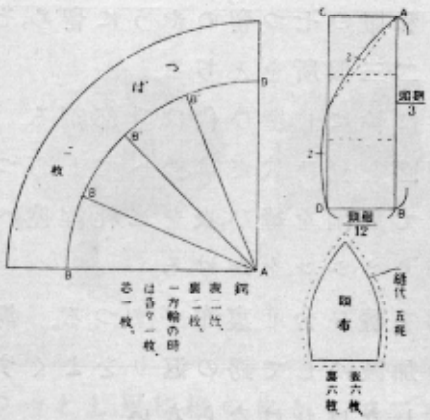
表布は六十八糎巾で丈は九十糎位,但し七才以下は五十糎位でよい。

裏布は七十五糎巾で三十糎位を要す。頭廻り普通寸法は八才を五十三糎とし,八才以下は八



糎づゝ減じ,八才以上十五才までは一糎づゝ増す。但し子供によつて例外もあるから實際を計ることは一番正確である。取寸の時は,弛みとして一糎五糎程加へなければならない。

### 頭布裁ち方




### ㊁　裁ち方

**頭布**　圖に示す如く,ABを頭廻りの三分の一とし,BDは頭廻りの十二分の一とする。

ABを三等分して各々に二糎づゝの丸みをつける。

**鍔**　頭布のABと同寸の弧を畫き,ABの三分の一を巾にする。

### ㊂　縫ひ方順序

1,表裏各々六枚づゝ接ぎ合せ,表は割り,裏は片

返しにする。その際上部の斜の處をのばさぬやうに注意する。

2,表裏の中心を和服の七つ留のやうに留め,その外,縫ひ目を二·三個所をとぢる。

3,鍔を表·裏·芯共に輪にし,縫ひ代は全部割る。

4,芯を裏鍔に,周圍を縫ひ代だけ控へてとぢつけ,中表に合せて周圍を縫ひ,表を二粍程控へて躾をかけ,飾りミシンをかける。

5,頭布の表と鍔を縫ひ合せ裏布でまつる。鍔布は裏を弛め加減にして鍔の返りをよくするやうに注意しなければならない。

6,仕上げをして各自好みの飾りをつける。

## 第二　大黒頭巾（女兒）

この帽子は四·五才から十二·三才の女兒に適する型で布も僅かで出來るから洋服の裁ち落し等用ひて作る。

**用布**　ビロード·サージ等が多く用ひられる。

### ㊀　積り方

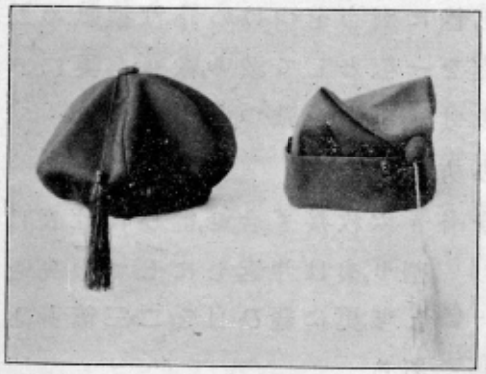
六十八糎巾で五十糎,裏布も表と同樣である。

### ㊁　裁ち方



頭廻り取寸に一糎五粍の弛みを加へる。

大黒頭巾　男兒三角帽子



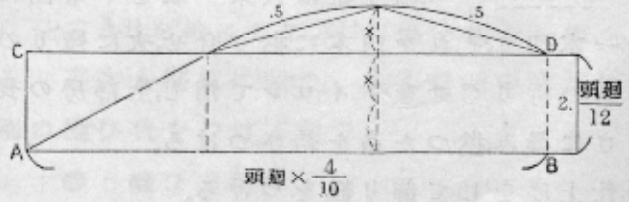
ABは頭廻りの十分の四とする。これは,深さにゆとりがあるためである。

ADは頭廻りの十二分の一とし,更に緣の巾として二糎を加へる。

ABを三等分し,BDの二分の一巾を廣げ,圖の如く五粍の丸みをつけて裁つ。

### ㊁　布の裁ち方

型紙の裁ち方



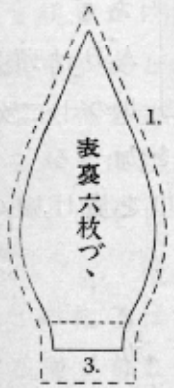

表布を裁つには周圍に一糎の縫ひ代をつけ,

緣は更に三糎出す。

裏布は周圍に一糎をつけ,緣の方は型紙通りに裁つ。但し緣に別布をつける時は型紙の二糎を出した處を一糎として裁ち,緣布を更に六糎巾で頭廻り寸法の布を裁つ。

㈡　縫ひ方順序

1,表裏の布を各々六枚接ぎ合せ,縫ひ代は表は割り,裏は片返しにして,中央をとぢ,更に縫ひ目を二·三箇所とぢる。




2,緣布を二糎巾に折りまげてまつる。

3,直徑二糎五粍位の木釦を共布で包み,頂上に縫ひつける。

4,飾り紐は穴糸一攴を一米位に一本切り,それを四本に撚り合せ,次に殘りの糸の折りぐせをアイロンで消し,全部房の長さに疊み,撚つた糸を結びつける。

5,仕上げをして飾り紐をつける。

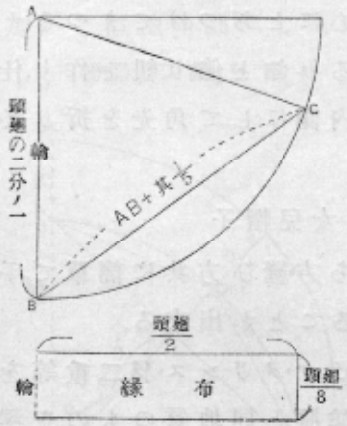
## 第三　男兒帽子



この型は四才から六·七才の子供にふさわしい型で,布の地質や色合によつていづれの時期にも用ひられる。

㈠　積り方

頭布の裁ち方　表布は巾六十八糎で丈五十糎位。裏布は表と同巾で四十糎位。




㈡　裁ち方

まづ頭廻りの二分の一の弧を畫く。B點から弧線上の頭廻りの二分の一に更に弛みとして,五分の一を加てC標をつけてAと結ぶ。布を裁つ時は一方A·Bを輪にしてA·Cに縫ひ代を一糎つける。裏布も同樣に裁つ。緣布は圖の寸法に一糎の縫ひ代をつけて裁つ。

㈢　縫ひ方順序

1,頭布を各々縫ひ合せ,縫ひ代を割つてその中

央を表裏とぢておく。

2,表緣布の中央に芯をとぢて輪にする。

3,頭布を緣布の寸法に縫ひ縮め,緣布と合せて縫ふ。

4,表に返し,縫ひ合せた縫ひ代を緣布の中に入れ,その端を芯の中心にとぢつけてまつる。

5,大黒頭布の如く,くるみ釦と飾り紐を作り,仕上げをし,縫ひ目を內側にして角先を折りまげて飾りをつける。

## 第四　女兒帽子

圖に示す帽子は,裁ち方·縫ひ方共に簡單で,手縫でも容易に仕立てることが出來る。

**用布**　夏はポプリン·ビケ·メリンス·羽二重等を用ひ,冬はサージ或は洋服と同地質のものを選ぶ。

仕立上りの圖　頭布型紙の裁ち方

㊀　積り方

六十八糎巾の布ならば頭廻りの長さに十糎加へたものとする。

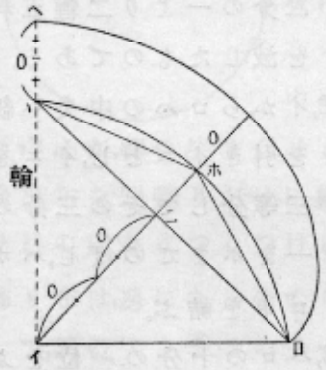


外に一糎巾のリボン一米と別に花を作る柔かい飾り布を十五糎程要する。布地は前の帽子に同じ。

㊁　型紙の裁ち方

この圓形は頭廻りの三分の二に二糎五粍を加へた直線の圓にしておく。この圓周より頭廻りを差引いた殘りをかげ襞にする。

鍔型の裁ち方




襞の數は,好みによつて十六等分でも,二十等分でも,或は三十二等分でもよい。

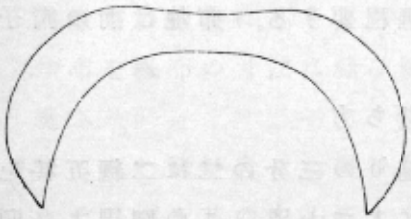
かげ襞は表襞の數によつて等分する。

上圖は十六の襞にする圖である。

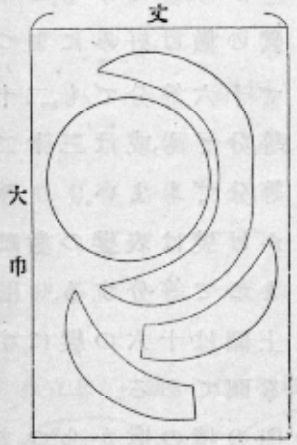
襞の疊み方　まづ表蔭の印の境の處からつまみ,又その次に次の境の方へその山を當てて順次に疊む。(圖はあとにあり)

㊂　鍔の型取り方

鍔を裁ち切つて開いた圖



裁ち方綜合圖




1,輪を左にしておき,左下角をイとしてこのイロ,イハの長さを同寸にして二線の對角線を引く。對角線の長さは頭廻りの二分の一より二糎五耗を減じたものである。

2,イからロハの中央へ線を引きイニとし,イニを三等分してその三分の一をホまでのばし,ハホ,ロホを結ぶ。

3,ハロの十分の一位をふくらみとしてハホ,ホロを丸める。

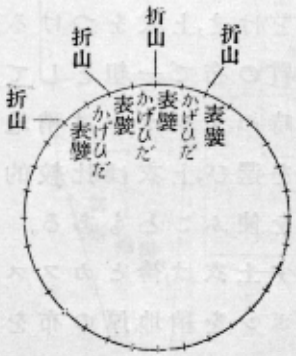
4,イニの二分の一をハより上に出して鍔巾とし,圖のやうに形を作り,尙,ヘよりヘハの四分の一位おとしておく。



## ㉕　縫ひ方順序

まづ頭布の表だけ襞をとつておき,次に鍔を作る。

襞の取り方




鍔は芯布を表鍔になる方に當てゝ三枚一緒に縫ひ,表に返して五耗の深さに飾りミシンをかけておく。次に襞を取つておいた頭布の右の脇の中心と,鍔の中心とを合せて,左頭の脇の中心が,鍔の突き合せとなるやうにして縫ひ,後裏布を頭廻りだけに縫ひ縮めて,表の鍔の縫ひ目の處へまつりつける。

飾り布は,房になる分のリボンを圖の如く輪にして,鍔の突き合せの上へのせてとぢつけておき,次に花を挿へてつける。花は各自の好みによつて梅花でもバラでもよい。

# 第二十四章　男　兒　服

男兒服も一・二才の內は女兒服と同じ型でよいが,三才位からはヅボンをはき,上衣をつける。普通上衣とヅボンを同地質の布で一組として拵へる時の,又ヅボンは稍地厚の布を選び,上衣は比較的地薄物を使ふこともある。圖に示す上衣は,衿とカフス及びヅボンを稍地厚の布を用ひてある。ジヤバラは隨意でよい。そのつけ方は第九章の女學生のセーラースタイルの中に說明してある。

男兒服仕立上りの圖

**用布**　夏は縞キヤラコ・ギンガム・ゼツバー・ピ,ケ・縮・麻など,冬はサージ・メルトンなどを用ひる。

## 男兒服（其の一）

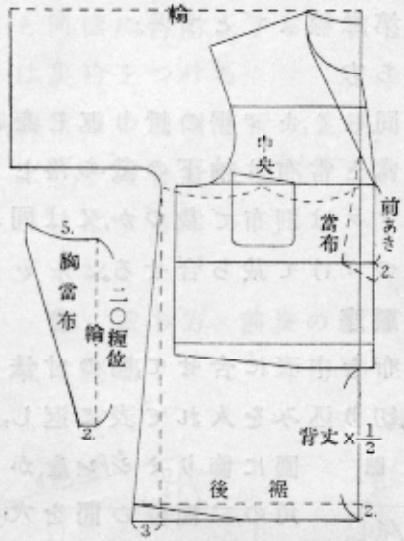
### 1, 上衣

#### ❶ 裁ち方

第四章の簡單服に略同じ。



男兒服上衣の裁ち方

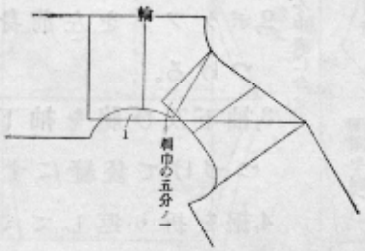



1,袖及び身巾の定め方は,簡單服と同じく,裄丈は好みにより半袖或は七分袖・長袖等隨意でよい。

2,身丈は上胴線から背丈の二分の一をのばし,後は前より二糎短くする。

3,衿ぐりは第二線まで斜に裁ち落して,更に第三線まで前明の標をつける。

衿の裁ち方




4,前明を縫ふために點線の如き形の當布をとる。衿は女兒服の丸衿と同じく,後と前の原型を肩巾の

五分の一重ね,衿明の止りから背に平行に線を引き,衿丈は第二線までとする。

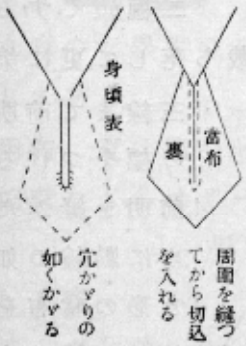
㊁　布の裁ち方

女兒簡單服と同じく,たゞ裾の折り返しを四糎位にする。胸當と當布は袖下の裁ち落しからとり,衿及びカフスは別布で裁つか,又は同地質の時は身頃につゞけて裁ち合せる。

㊂　縫ひ方順序

1,前明の處に當布を中表に合せて,明の寸法にミシンをかけ,切り込みを入れて表に返し,周圍に飾りミシンをかけ,角の二糎位の間を穴かがりのやうに丈夫にかがつておく。

當布の圖




2,ポケットを左前身頃につける。

3,袖下及び脇を袖下からつづけて袋縫にする。

4,裾を折り返してミシンをかける。



5,衿の周圍を折りまげてミシンをかけ女兒服と同樣に衿附をする。但し衿布が地薄の時は裏衿をつける

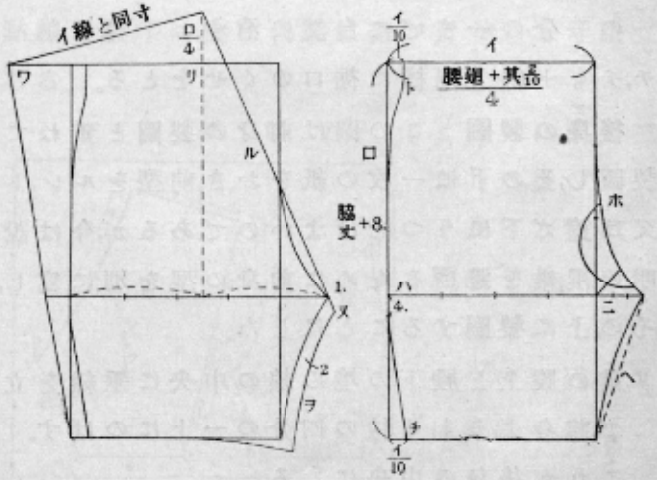
6,胸當布の周圍を折りまげ,ミシンをかけて仕上げ,一方を身頃に紉けつけ,他方をスナップがけにする。

## 2, ヅボン

㊀　裁ち方　前身の製圖

イ,線は腰廻りにその十分の二を加へたものの

半ヅボンの裁ち方



四分の一とする。

ロ,線は脇丈(ドロワース丈)に八糎を加へた寸法とする。

ハ,ロ線の三分の一より四糎上に直線を引き,股上·股下を定める。

ニ,ハ線の四分の一を横にのばす。

ホ,前股上を圖の如く畫く。

ヘ,股下に斜線を引き,中央で五粍の丸みをつける。

ト,イ線の十分の一を四糎位眞直ぐに引き,ロ線の三分の一までに自然に消す。

チ,チもト線と同樣に裾口のくせをとる。

**後身の製圖**　この圖は前身の製圖と重ねて製圖し,その下に一枚の紙をおき,前型をルレット又は筆で下にうつせばよいのであるが,今は說明の混雜を避けるために前身の型を別に寫し,その上に製圖することにした。

リ,前の股上と股下の境の線の中央に垂線を立て,前身よりもイ線の四分の一上にのばす。これが後身の中央になる。



ヌ,ニの角より一糎下げ,巾を二糎出す。

ル,ヌとリの線とをつなぎ,後股上の線をきめる。

オ,前股下と同寸に後股下をきめる。裾の線は股下の方で少し下げる。

ワ,前身の上巾と等しく後身の上巾を定め,裾のイ線の角とつなぎ後の脇の線を定める。

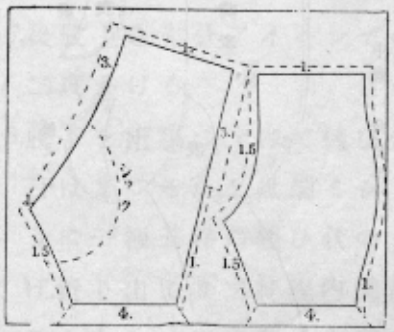
これで前後の型紙が裁てたのである。

### ㊁　布の裁ち方

圖の如く布を二枚重ねて前後の型を裁ち合せる。

點線と數字は縫ひ代又は裾の折り返し寸法である。

布の裁ち方




この外に前の三日月形,後のシック及び六糎巾の腰布を裁つ。但し腰布は毛繻子,シックは表布又は毛繻子何れでもよい。

各部分を完全に裁ち切り,切躾をかけ要所々々を正確にする。

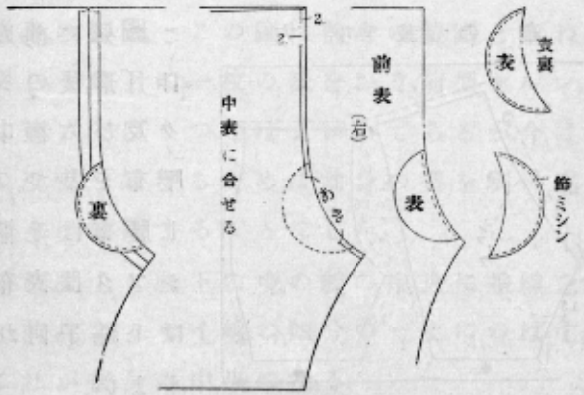
ヅボンの仕立方には色々あるが,ここには極めて簡單に出來るのを說明する。

六才以下の子供には,普通大人のヅボンのやうにすると,釦のかけはづしが面倒であるから,蛙股といつて前の下部に六糎程の穴をあけ,その內側に,三日月形の布を當てる。

㊂　縫ひ方順序

1,月形當布の表裏縫ひ合せ,表に返して飾りミシンをかけておく。

縫　ひ　方　の　圖






2,前右身に當布をつけ,左に倒す。

3,前股上の裁ち目より二糎縫つて,その下を二縫あけ,次に當布の端から一糎先まで縫ひ,前明の下を更に縫ひ合せる。上の二糎は釦穴となる。

4,前の脇明に布の伸びないやうに一糎巾位の吊布を入れて,縫ひ代を折り返してまつる。脇明の寸法は口線の三分の一より二糎下までとする。

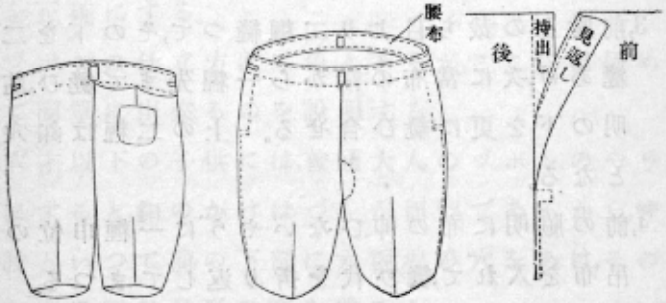
5,後脇明の持ち出しに出來上り巾二糎五粍の見返し布をつける。

6,後型の上に前型をのせて四粍の飾りミシンをかける。(圖解參照)

7,後股上を充分アイロンでのばしてミシンを二度かける。

8,股下を兩脇つゞけて縫ひ合せ,縫ひ代の裁ち目はまつるか,又は端ミシン(布のほつれぬやうに一糎五粍の縫ひ代のうち四糎程折りまげ,折り山より二粍程內側にミシンをかけること)をかけて縫ひ目を割る。

半ヅボン仕立上りの圖




9,シツクの後の中心を縫ひ合せ,後の股上の縫ひ目と合せて周圍をまつる。

10,裾の裁ち目に端ミシンをかけ,折りまげてまつる。

11,上部の裁ち目に六糎巾の腰布をつけ,四糎巾に折りまげて飾りミシンをかける。

12,後身に圖に示したやうな位置に十二糎位のポケツトをつける。

13,釦穴をこしらへる。後と前の中心は縦穴,前の兩脇のみ横穴にする。(脇巾の開かぬやうに兩脇の穴の位置に注意すること)

14,仕上げ,脇の縫ひ目と股下の縫ひ目とを合せて疊みつけアイロンをかける。



男兒服　(其の二)

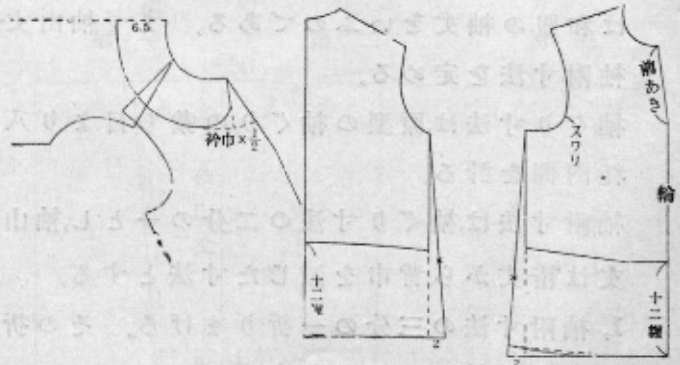
男兒服(其の二)

左圖の男兒服は三·四才から六·七才までに適する型で,ヅボンは裁ち方·縫ひ方共に前の說明と同じであるから略し,此處には上衣の製圖及び裁ち方·縫ひ方を說明する。

㊀　裁ち方

まづ胸圍に十分の二の弛みを加へて,原型を製圖して裁ち始める。

裁　ち　方



**1, 身頃**

1, 前原型の中心で十二糎丈をのばし,巾は裾で二糎開く。

2, 前の明は第二線まであける。

3, 後も背の中心で十二糎のばして裾で二糎開く。

4, 後脇丈と同寸に前脇丈を定めて巾の中央までで裁ち落す。そして前身のスワリの標を忘れぬやうにつけておく

**2, 衿**　衿の裁ち方は,女兒服と同じであるから圖解のみにとゞめておく。

**3, 袖**　洋服の袖丈は和服の袖巾をいひ,又袖巾は和服の袖丈をいふのである。まづ袖山丈・袖附寸法を定める。

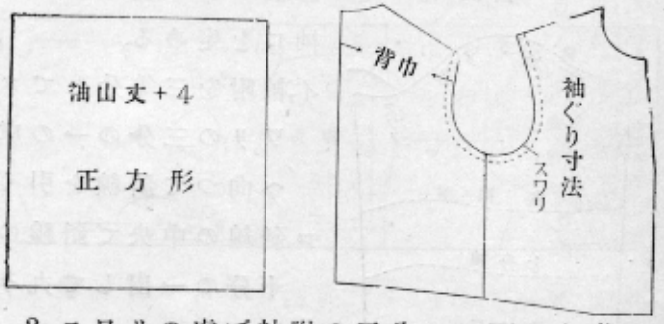
袖ぐり寸法は,原型の袖ぐりの裁ち目より八糎內側を計る。

袖附寸法は,袖ぐり寸法の二分の一とし,袖山丈は裄丈から背巾を減じた寸法とする。

1, 袖附寸法の三分の一折りまげる。その折り山が袖のスワリとなる。



袖の裁ち方

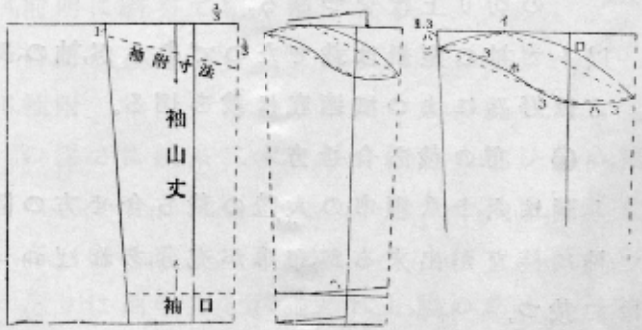



2, スワリの處で,袖附の三分の一下つた處から斜に袖附寸法を計る。

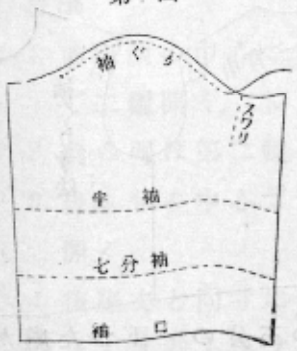
3, 袖山丈を上の裁ち目から計る。

4, 袖口寸法より十分の一小さく計つて袖附と袖口とに線を引き,そこから折りまげ第

袖の裁ち方



第四




二圖の如く,袖ぐり及び袖口を定める。

イ,袖附を三等分してスワリの三分の一の處へ向つて斜線を引く。

ロ,斜線の中央で斜線の十分の一出して丸みをつける。

ハ,スワリの處から横に三分の一のばす。

ニ,裁ち目から一糎三粍下げる。

ホ,ハとニを二等分して第三圖の如く中央から上下に三粍づゝの丸みをつける

ヘ,袖口をスワリの折り山の方で十分の一の切り上げをつける。

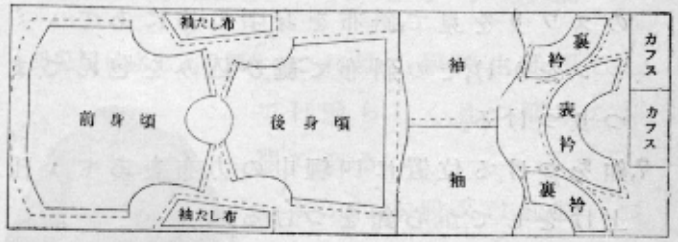
以上で袖の型紙は裁てたのであるが,袖の長さは好みによつて適宜に裁ち切る。

㊁　布の裁ち合せ方

上圖は六十八糎巾の大體の裁ち合せ方の圖で,袖に接ぎが出來るが,布巾が充分あればつけて裁つ。



裁ち方綜合圖




㊂　縫ひ方順序

1,袖下を地質によつて袋縫か伏せ縫とし折りはスワリの方に返す。

2,カフスを出來上りの袖口より四粍程大きく,巾は適宜好みの寸法に縫ひ合せ,袖口に縫ひつける。

3,肩及び脇を縫ひ,折りは後に返す。

4,前明に斜布で細く緣をとる。

5,衿を表裏縫ひ合せて身頃につける。

6,袖附　袖附の方を第四圖の如く縫ひ代八粍の深さに絹糸二本を以て細かく縫ひしめ,袖のスワリと身頃のスワリを合せ,袖山の最も高い處を前肩の方につくやうにして,肩のあたりは袖の方を稍弛めにし,脇のあたりは袖

を張り加減にして,かりに縫ひ合せ,表から袖のスワリを見て,斜布を身頃の方にあてゝミシンをかけ,その斜布で縫ひ込みを包んでまつりつける。

7,釦をつける位置に四糎巾の力布をあてゝ仕上げをしてから釦をつける。



# 第二十五章　男兒小學生服

男兒服仕立上りの圖

これは小學校生徒用として可愛らしく,且つ簡單な洋服である。

ヅボンは,本股又は,蛙股いづれにしてもよい。

**用布**　冬は羅紗・メルトン・サージ等,夏は小倉地・セル・アルパカ・麻等すべて男物の洋服地を用ひる。

## 上衣の裁ち方

### ㊀　積り方

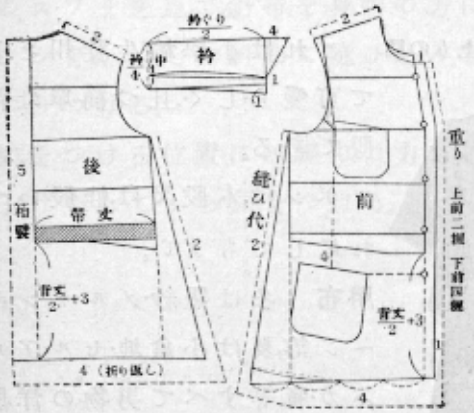
八才用を羅紗巾正方形として,年齢を増す毎に十三糎づゝの増減をする。六十八糎巾ならその二倍とし,年齢を増す毎に二十五糎を増減するのである。

### ㊁　型紙の裁ち方

**1,身頃の裁ち方**

1,顎ぐりを一糎下げる。

上着型紙の裁ち方




2, 前重なりを上前二糎,下前四糎とる。

3, 背丈の二分の一に三糎加へて前中心から丈をのばす。

4, 裾で巾の三分の一開く。

5, 胸ポケツトの寸法を胸巾の五分の三と定める。

6, 下ポケツトを下胴線から四糎下げ,胸ポケツトより二糎大きく,深さは更に一糎深くする。

7, 釦の位置は原型の中心に,上は裁ち目より三糎下り,下は下ポケツトの口と同じ位置につけ,中間を四等分して五個所に標をつける。



後身頃は前と同樣にする。但し背の中心に七糎の箱襞の寸法をとる。

**2, 衿の裁ち方**

1, まづ衿ぐり寸法の二分の一を横の寸法とし,四分の一を縦の寸法として基礎線を引く。

2, 衿先に四糎を出す。

3, 衿巾の中央より一糎下と,又衿先は基礎線より上下に一糎づゝの處に標をつけて衿こしの寸法とする。

**3, 袖の裁ち方**

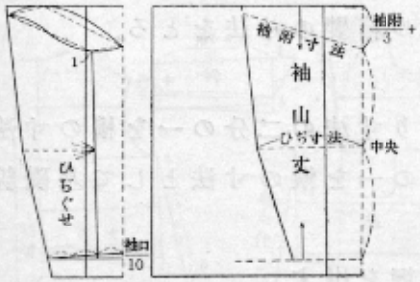
この袖は袖口を小さくするため,袖山丈・袖附寸法・袖口寸法の外に袖の太みを割出して定める。但し第十二章の女兒外套の二枚袖の裁ち方にしてもよい。

1, 袖のくり下げは袖附の三分の一より更に一糎程深くして,そこから袖附の寸法を計るのである。

2, 袖山丈を上の裁ち目より計る。

3, 袖口寸法を標す。

袖の裁ち方




$$袖口寸法=\frac{袖附寸法+附\times\frac{2}{10}}{2}$$

$$肱寸法=\frac{袖附寸法+袖口寸法}{2}$$

4, スワリの方の中央で肱の寸法を定めて,二圖の如く折りまげると中央に肱ぐせの皺が出來る。

5 袖口をその十分の一切り上げる。

6, 袖ぐりを女兒服と同樣にくる。

7, 袖口を三等分してその三分の一の處と,附の方で一糎スワリの方によつた處とに直線を引いて裁ち落す。

㊂ 布の裁ち方

肩及び脇には一糎の縫ひ代,裾は四糎の折り返し,前は持ち出し寸法の外に一糎つける。衿ぐり・袖ぐりは縫ひ代をつけない。

帶は十糎巾で,長さは後の原型の巾とする。



衿は周圍に一糎の縫ひ代をつけ,表衿は横地に裁ち,裏衿は斜布に裁つ(中央で接ぎ合してもよい)芯は麻の芯地を用ひ斜布にとる。

袖は袖下縫ひ代一糎五粍,袖口四糎,見返し布を十三糎巾位に表布で裁つ。

㊃ 縫ひ方順序

1, **袖** (1) 肱ぐせを四糎位の間で縫ひ縮めて,その縮みをアイロンで消し,袖下の合標を合せて伏せ縫或は袋縫とする。

(2) 袖口を折りまげてまつる。

2, **身頃** (1) 前身頃に縫ひ代だけ控へて吊布を入れ,見返し布と中表に合せて縫ひ,表に返し身返しを控へ目にして飾りミシンをかける。

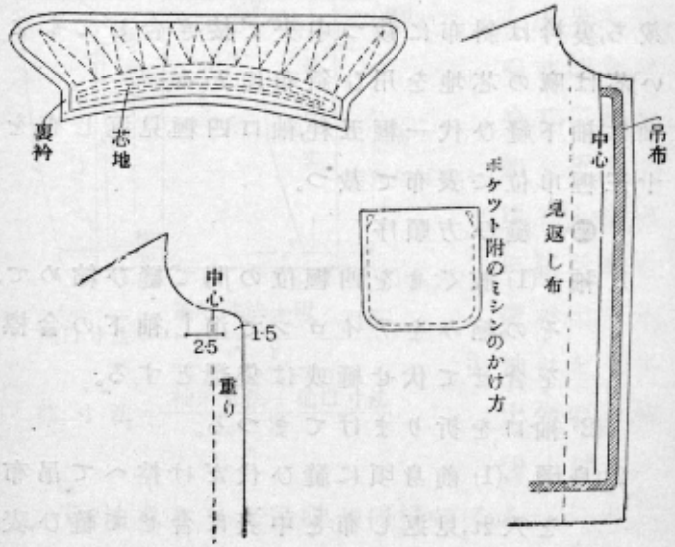
(2) ポツケトの口を四糎折りまげてまつり,その位置に圖の如くミシンをかける。

(3) 帶を輪に芯を入れて表に返す。

(4) 背の箱襞を縫ふ。上は第一線まで下は帶のつく位置を縫ふ。

(5) 縫ひ目を割つておく。

衿ミシンのかけ方　　前身頃の作り方




(6) 帶を兩脇の下胴線の位置に縫ひつける。

(7) 肩及び脇を袋縫或は折り伏せ縫にして折りは後に倒す。

(8) 裾を折りまげてまつる(地厚の布の時は,端ミシンをかけて折りまげてまつる)

3, **衿**　裏衿に芯地をのせて圖の如くミシンでさし,表衿と縫ひ合せ,身頃の中心と裏衿の中心を合せて縫ひつけ,上前の鉤をつけ,下前に輪



のホックをつけて表衿をまつりつける。

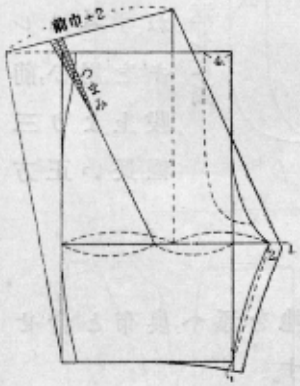
4, **袖附**　袖の左右及びスワリに注意して斜布を身頃の方にのせミシンをかけ,縫ひ代を斜布でくるみまつりつける。

仕上げをして釦附,穴かゞりをする。

穴の位置は裁ち方圖に示した通りで,大きさはボタンの直徑より四粍位大きく穴をあけてかがる。

半ヅボン(前立ポケツト附)の裁ち方

半ヅボンの裁ち方

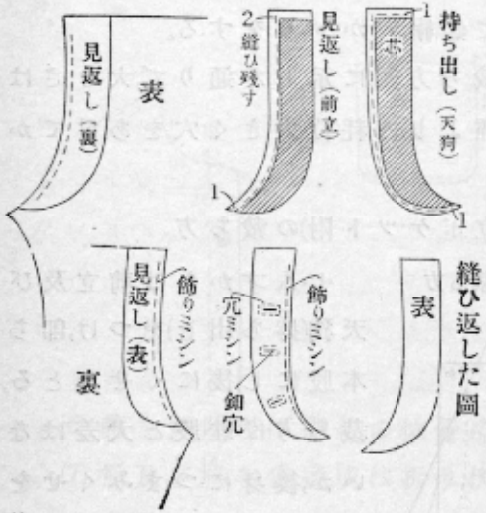



七·八才からは前立及び天狗(持ち出し)をつけ,卽ち本股にし,後にくせをとる。裁ち方は蛙股と大差はないが,後身につまみくせをとる。左圖のやうに後腰巾を前巾よりくせの分として,二糎程廣くとる。くせの分はつまんで縫ひ,後の方に倒しておく。(鋏を入れぬやうに注意すること)

㊀ 前立布の裁ち方

表布は左右一枚づゝ二枚,裏布は右一枚·左二枚,芯地二枚。

見返し作り方の圖




丈は前小股より一糎短く,巾は四糎位にする

ポケツト布は,キヤラコ或は毛繻子·ねずみスレキを用ひ,前股上より三糎長い正方形の布を裁つ

㊁ 縫ひ方順序

1,持出し(天狗)の表布に芯地を添へ,裏布と合せてミシンをかけ,表に返す。

2,前立布の表にも芯をのせ裏布と中表に合せ,持ち出しの反對側にミシンをかける,(その時

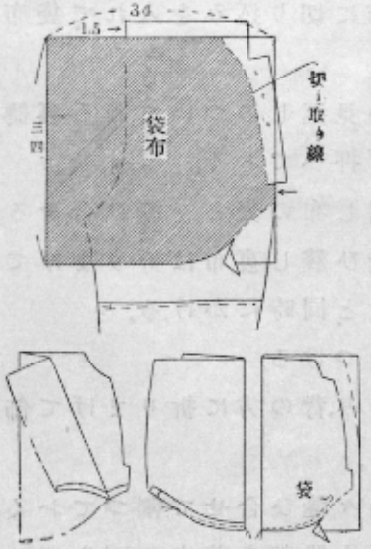


上を二糎下を一糎縫ひ残しておく)表に返してミシンをかけ,圖の如く穴の位置を定めて穴ミシンをかけ穴かゞりをする。

3,前左身に見返し布をつける,前立と同様に上下を縫ひ残す。

4,ポケツト布をつける,ポケツト布の一端を前布の脇につける

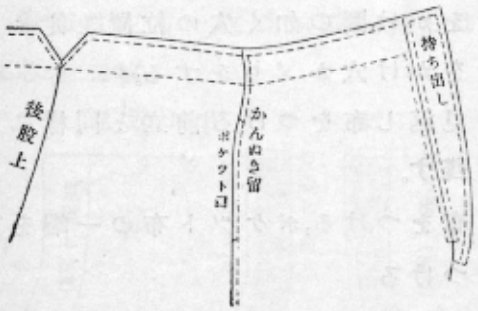
袋布のつけ方




即ち前布の脇の縫ひ代だけ控へ,上の裁ち目より一糎下つてポケツト布を挾み,圖の如く切り込みを入れて表からミシンをかける。次にポケツトの他端を折りまげ,袋布の下を袋縫にする。

5,脇縫はポケツト

飾りミシンのかけ方




口明の上と下とを前後縫ひ合せ,前に倒して表から飾りミシンをかける。

6,後脇明の處の布に切り込みを入れて袋布にまつりつける。

7,前立を前左身の見返しのついてゐる裏側に少し控へて躾で押へておく。

8,右前身と持ち出し布の表とを縫ひ合せる。但し下を一糎縫ひ殘し,裏布は折りまげて腰布の飾りミシンと同時にかける。

9,六糎巾の腰布をつける。

10,後のくせをつまみ,背の方に折りまげて飾りミシンをかける。

11,兩足の股下を各々縫ひ合せて割つておく

12,後股上から前の小股,卽ち前立の下を縫ひ合せて縫ひ目を割る。後の股上は充分伸して二度ミシンをかけ,前立の下は閂留をしておく。

13,裾の仕末は前の蛙股に同じ。

14,仕上げの仕方も前と同樣でよい。

ヅボンを吊るチヨッキは第三章のコーセツトウエストと同樣でよい。

# 第二十六章　運動シヤツ及びヅボン下

## 第一　運動シヤツ

運動シヤツ仕立上りの圖

この形は小學生の終りから中學時代の者に適す。少し念入りに仕立てて上衣の代用として運動の時等にも用ひる。

**用布**　縞キヤラコ又は無地ヤキラコ・縮・本ネル等を用ひる

その他カフスの芯地として白芯を使ふ。

### ㊀　積り方

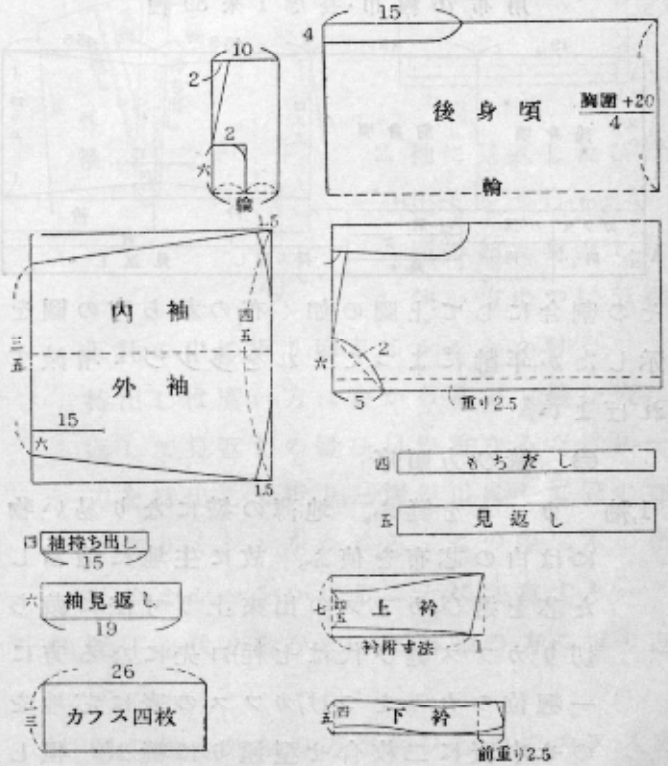
七十六糎巾で一米八十五糎と芯地二十五糎を要す。

### ㊁　裁ち方

丈は下胴より十五糎下まで,巾は胸圍に二十糎の弛みを加へ,その二分の一が前後各々の身巾となる。



型紙の裁ち方

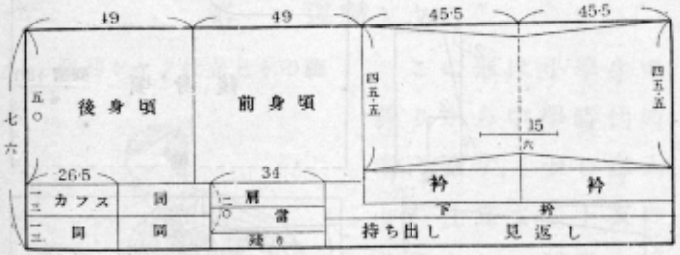



その外,肩當布は裸體胸圍の二分の一とする。

大體の割出しは右の如くであるが,この型のシヤツを着る年齢は,十四五才が標準であるから,

## 布の裁ち方

用布76糎巾・長さ1米89糎



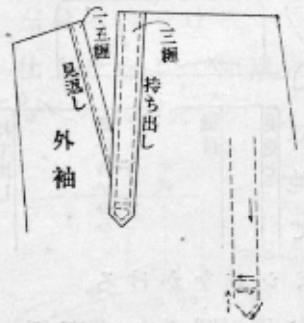

その割合にして上圖の如く布の裁ち方の圖を示したが,年齢によつてこれを多少づゝ增減すればよい。

### ㊂ 縫ひ方順序

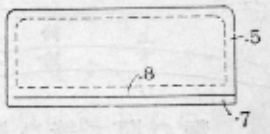
**1,袖**　カフスを縫ふ。地薄の繻になり易い物には白の芯布を使ふ。故に生地に適當した芯を選び,カフスの出來上り寸法に裁ち切り(カフス縫ひ代は七粍)口先になる方に一糎位の丸みをつけ,カフスの表に芯地をのせ,中表に二枚合せ型通りに縫ふ。但し芯地の入らぬ方は縫ひ代を圖の如く七粍折りまげて三方は五粍位,附の方は八粍の深さに飾りミシンをかける。



袖の見返しのつけ方




カフスの縫ひ方



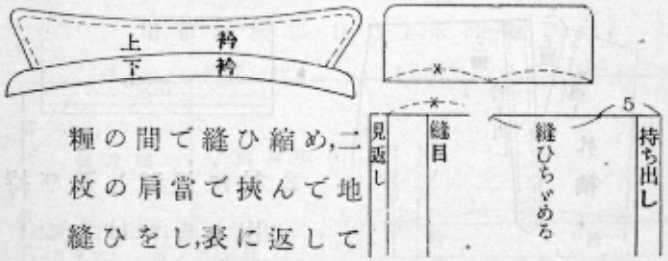

2, 袖に見返し及び持出しをつける。圖の如く見返しは狹い方につけ,五糎五粍の巾に折り,飾りミシンをかける。持出しは廣い方に裏から當てゝ縫ひ,表に返して見返しの縫ひ目の重なるだけに一方を持出して折り,三糎の巾にして圖の如く飾りミシンをかける。この際二本の横どめミシンをかけることに注意する。

(3) 袖下を伏せ縫ひにして外袖の方に折り返す。

(4) 圖の如く外袖の方を縫ひ縮めてカフスを袖の裏に當てゝ縫ひ,折り返して飾りミシンをかける。

**2, 身頃**　(1) 後身頃を後肩當寸法に中央から五

衿の縫ひ方　　カフスの附け方




糎の間で縫ひ縮め,二枚の肩當て挟んで地縫ひをし,表に返して五糎の深さに飾りミシンをかける。

(2) 前身頃の上前に仕立上り圖の如く,表側に三糎巾に見返しをつけ,下前は裏側につけて各々飾りミシンをかける。

**3, 衿**　(1) 上衿を表裏縫ひ合せて,周圍に飾りミシンをかける。下衿の中央と上衿の中央を合せて縫ひつける。

(2) 衿と身頃を縫ひ合せ,縫ひ代は衿の方に返してミシンをかける。

**4, 袖附**　袖の方を五糎出して身頃を合せ,伏せ縫にして表から飾りミシンをかける。

袖下の縫ひ殘してある部分から脇につゞけて伏せ縫をする。

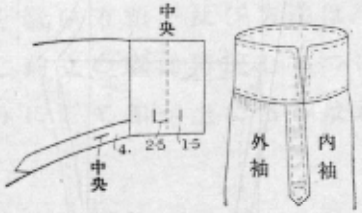
5, 裾を二糎巾の三つ折りにする。



6, ポケツトを十二糎位の大きさに折りまげて左身頃につける。

仕上げをして釦附,穴かゞりをする。

ボタン穴の位置　釦は前中心に四個,袖口に一個づゝと奥の見返しの處に一個,都合四個をつける。




前中心の釦穴は横穴,その他は十糎位の間隔をおき中心に二糎の縦穴をあける。

袖の釦穴は袖の見返しに一つ,これは四糎奥るゞかに。

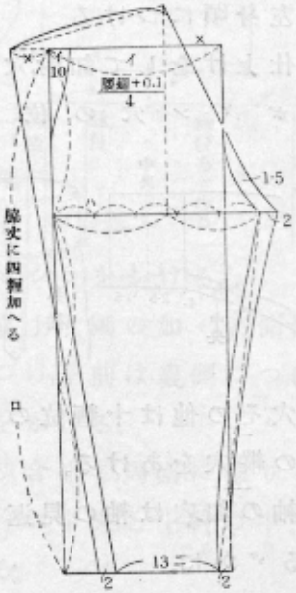
カフスの穴は,巾を二つ折りにして,山から二糎五粍,端から一糎五粍入つた處から奥に二糎の穴をかゞる。

## 第二　長ヅボン

これは足首迄の長さのヅボン下である。裁ち方が前の半ヅボンと僅か違ふのみで縫ひ方は全部同じである。

ヅボン仕立上りの圖

ヅボン裁ち方




㊀　裁ち方

イ線は腰廻りに一割の弛みを加へて,その四分の一とする。

ロ線は脇丈に四糎加へる。但し脇丈は下胴線から足首までを計る。

ハはロ線を三等分して,その三分の一を股上とする。

ニはロ線の右角より二糎内側に入り,其處から十三糎と計り足首の太さとする。



その他は全部ヅボンに同じ。

そして丈は好みにより各々適當な長さに裁ち切るがよい。

㊁　縫ひ方順序

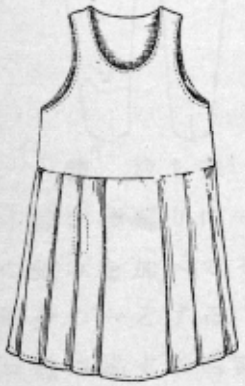
縫ひ方順序及び方法は半ヅボンに同じ。但し前立の處は持出しをつけ,上前は見返し布のみにして釦が上にあらはれてもよい。

# 第二十七章　女學生服

## 第一　エプロンドレス

エプロンドレスはシヤツウエストの上に着るもので,小學生·女學生等の發育盛りの者の女兒服として最も適當な型である。卽ち洋服の汚れ易い衿や袖が無いので下に用ひるシヤツのみを洗濯すればよいから極めて便利である。

エプロンドレス仕立上りの圖



又下に着るシヤツで調節すれば夏冬いづれに用ひてもよい。たゞ注意の要ることは,シヤツとエプロンドレスとの色の配合である。白のシヤツを用ひるのが一番無難である。

**用布**　夏はアルパカ·地厚の木綿·綿リンネル等,冬は紺サージ·ラシヤ(格子縞)等を用ひる。

### ㊀　積り方

スカート丈に折り返して加へてその四倍と



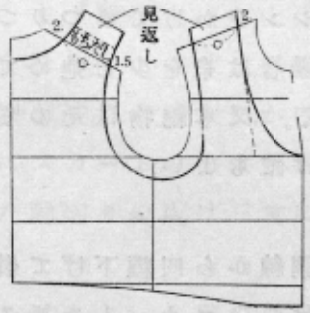
す。(六十八糎巾にて)　但し十四·五才になると胴廻りが大きいため,裾が淺くなるからスカートの巾は三布半か四布を使ふこともある。

### ㊁　裁ち方

仕立上り圖のやうに,上半身と下半身の二つにわける。

上半身の裁ち方はスリップと同じで,ただ肩をスナツプ掛けにするため,圖のやうに持出しをつける。但し布の都合で肩明に限らず,背を明けてもよい。又衿明の形も角でも丸でもよい。

裁　ち　方




### ㊂　布の裁ち方

上半身を前後共に中心を輪にして,その他は裾及び脇に一糎,衿ぐり·袖ぐりには五粍の縫ひ代をつけて裁ち,殘りの布をスカート布として裁ち切ればよい。

### ㊃　縫ひ方順序

1, 上半身の前後の脇を袋縫又は割り縫ひにす

る。

2, 肩の持出し及び見返しを折りまげてまつりつける。

3, 袖ぐり及び衿ぐりに二糎巾の共色の斜布で見返しをつける。その時衿ぐりの明はのばさぬやうに注意する。

4, スカート布を接ぎ合せて縫ひ目は割り,裾を豫定の寸法に折りまげる。地薄物はそのままに地厚物は端にミシンをかけてまつりつける。すべてまつる場合は糸を少し弛めてまつるやうに注意する。又木綿物はそのまま表からミシンをかけてもよい。

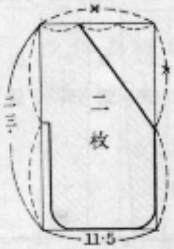
5, 襞を折る。

6, スカートの右脇に下胴線から四糎下げて襞の奥にポケツトをつける。スカートを折る時は,なるべくこの位置に縫ひ目のくるやうに折ればポケツト口を切りあける必要なく,又綺麗に仕上げられる。

7, ポケツトの裁ち方　ポケツトの裁ち方は圖のやうにする。但し寸法は年齢によつて加減する。



ポケツトの裁ち方



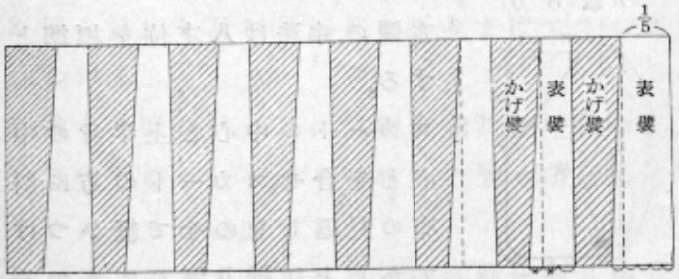

左圖の寸法は八才位を標準とする。

8, スカートの中心と,上半身の中心とを合せ,スカートの方に斜布の見返しをのせて縫ひつけてから上に折り返してまつる。

## ㊄　スカートの折り方

まづ縫ひ上げた上半身の出來上りの胴の巾を計る。この寸法が表襞の寸法になり,その寸法を減じた殘りが,かげ襞となるのである。故にスカートの巾は胴廻りの三倍,卽ち折り上げた胴廻りの處は三重になるけれども,布の都合によつて積り方の時に記したやうに布巾で定めてもよい。襞の數は六·八·十或は尙細かいものもあるが,ここには八つ襞を說明する。前中心の襞巾は少し廣く,その他の七つの襞は全部同寸法にする故に出來上つた上半身の胴廻りの寸法を計つて,その二分の一の寸法を胴巾とし,スカート布も輪に折る。

スカートの折り方




**襞の巾**　前中心は胴巾の五分の一で裾の方は圖のやうに更に其四分の一開く。その他の襞巾は胴巾の七分の一,裾でその二分の一開く。かげ襞巾は胴巾を減じた殘りの八等分した寸法である。

**襞の折り方についての注意**

一,折り山の斜のものを眞直ぐの處に折る故に和服用の袴と反對であること。

二,縫ひ目が表襞にあらはれぬやうに寸法をかげ襞で加減する。

三,襞數によつて,表襞·かげ襞の割出し方が違ふが,これを標準にしてどんな襞でも折ることが出來る。

四,左右の襞に不同のないやうに注意する。又標



の附け方は木綿物は鋲又はルレットを用ひ,毛織物はチョークで標をつけて更に消えないやうに糸標をつける。

標がついたならば,まづ折り山をアイロンでしつかりと押へてから,上下及び中央を和服の袴のやうに襞をかける。

## 第二　シヤツウエスト

シヤツウエスト仕立上りの圖

この服は圖に示したやうな型であつて,ヂヤンパー(袖のつかない洋服)やエプロンドレスの下に着る服で,男女兒及び女學生の服として極めて便利である。夏は半袖位にし,冬は長袖にする。

**用布**　夏は木綿縮·メリンス·アヤモス·富士絹等,

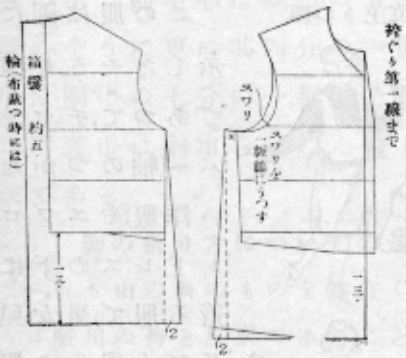
冬はセル・フランネル等を用ひる。なるべく洗濯のきく丈夫なものがよい。

㊀ 積り方

背丈に十五糎加へてその四倍とする。但し夏物で半袖にする時は三倍半位でよい。

㊁ 裁ち方

身頃の裁ち方




裁ち方は第六章男兒服其の二の處で詳しく説明しておいたから,こゝでは圖解によつてその違ふ點のみを述べることにする。

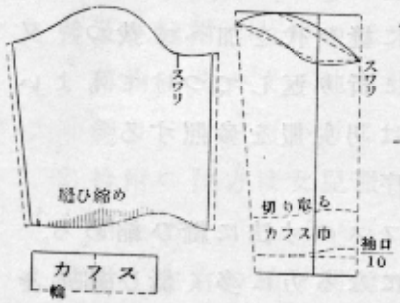
1, 前中心を眞直ぐにして,見返しをつけるので胸ぐせの寸法の差を,圖の如く袖ぐりと脇で補ふために,袖ぐりを脇の方に胸ぐせ寸法だけ出す。

2, 前中心で十糎位丈をのばし,脇巾は二糎開く。

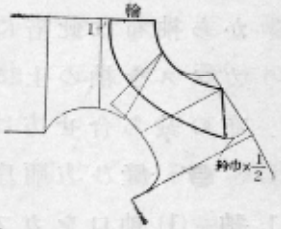
3, 衿ぐりを第一線まで斜に下げる。



袖及びカフスの裁ち方




衿の裁ち方




4, 後の背の中心に巾にゆとりを作るため箱襞をとる。

5, 丈を背の中心で前と同寸法にのばし,巾は同様に裾で二糎開く。

6, 衿は前に同じく衿明にならつて巾を定め,中心から巾の二分の一開く。但し衿巾は自由であるが,後中心の巾より前の方を稍廣くする方が出來上りの形がよい。

7, 袖の裁ち方は男兒服と同じでよい。但しカフス巾だけ袖口の切り上げの形にならつて裁ち落す。

8, カフスの丈は八才を十糎位とし,巾はその二分の一で五糎の出來上りとする。但しこの

カフスは袖先を縫ひ縮めてつけるのであるから袖布は此倍に縫ひ代を加へて裁つ。又カフスを袖の上に折り返してつけてもよい。布の裁ち合せ方は男兒服を參照する。

㊂ 縫ひ方順序

**1, 袖** (1) 袖口をカフスの寸法に縫ひ縮める。その位置は肱になる方に多く縫ひ縮めを作る。

(2) カフスをつけて飾りミシンで押へる。

(3) 袖下とカフスとを續けて縫ひ,地厚物は割り,地薄物はスワリの方に折り返す。

(4) カフスを裏に返してまつる。

**2, 身頃** (1) 前身頃の上前の方は,六糎巾の見返し布を,裏からつけて表に返し三糎五粍の巾に折り,左右に三粍の深さに飾りミシンをかけ,下前の見返しは,表につけて裏に折りまげ飾りミシンで押へる。

(2) 背の中心を原型の第一線まで縫ひ,箱襞の寸法を割り,縫ひ目に飾りミシンをかける。

(3) 肩及び脇を縫ひ,折りは前に返す。



(4) 裾を三つ折りにしてミシンをかける。

**3, 衿及び衿附** (1) 衿の三方を縫ひ表に返し,地薄物はそのまゝ,地厚物は三粍位の深さに飾りミシンをかける。

(2) 衿附の仕方は女兒服と同じであるから説明を省く。

**4, 袖附** 左右の袖を間違へぬやうによく見定めて,身頃と袖のスワリとを合せ,斜布を身頃の方にのせて袖をつけ,斜布で縫ひ代を包んで縫ひ目をまつりつける。

**5, 仕上げ** 仕上げをして釦附·穴かゞりをする。

**6, 紐附** 下胴線の處に紐をつける。又は裏側に三糎巾の布をつけ,その中にゴムテープを入れてもよい。

## 第三 セーラースタイル(水兵型)

セーラースタイルは男兒は八才以下のものに,女兒は八才以上に用ひ,又婦人服として使用する。殊に女學生の通常服として輕快で,且つ仕立てがゆるやかなため,運動に便利であり,又日本人に一番ふさわしい型である。

**用布**　冬はサージ・メルトン,夏はアルパカ・カツラギ・ビッケ・リンネル・麻・ボプリン等を用ひる。

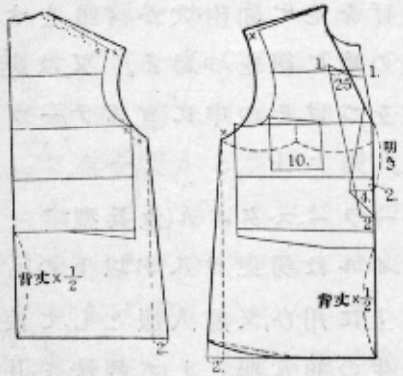
㊀　積り方

上衣丈(背丈にその二分の一加へる)の四倍,(但し六十八糎巾)

**附屬品**　ジヤバラブレード五米,スナツプ三個その外胸飾りとして,調和のよいネクタイ或はリボンを要す。

㊁　型紙の裁ち方

裁　ち　方




**1, 後身頃の裁ち方**　圖の如く丈を背の中心で,背丈の二分一のばし,肩巾をその五分の一だけ肩先に出して肩巾を廣げる。脇巾及び袖下も同寸にくり下げて,袖ぐりを圖の如く稍淺く刳る。



脇巾を更に裾で二糎開く。

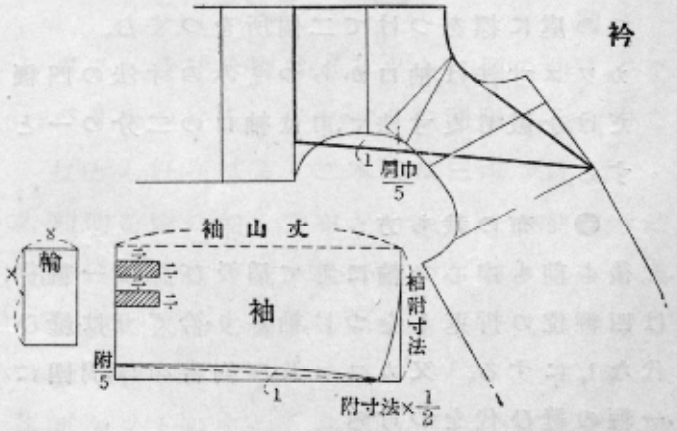
**2, 前身頃の裁ち方**　背丈の二分の一を前中心でのばす。

肩巾・袖下・脇巾は後と同様で,脇丈も後と同寸にして,巾の中央まで裁ち落す。

衿ぐりは第二線まで斜に明け,更に第三線より二糎下まで明ける。但し此處は縫ふ時に當布を當てゝから裁ち切る。

胸當布は圖に示す寸法で型を取り,前中心を輪にして型紙を裁つ。當布も型紙同様に裁

衿・袖・カフスの裁ち方



ち切る。

3, **衿の裁ち方**　原型を圖の如く肩巾の五分の一重ね,後原型第一線の處で一糎出し,前中心の第二線と結びつけ,それを延長して後の第二線までを衿巾とする。

4, **袖及びカフスの裁ち方**　袖山丈·袖附寸法を定めて圖の如く一方輪にして型紙を裁つ。袖附の方を三等分して,上から三分の一に向つて袖附寸法の五分の一だけ袖をくり落す。袖口も附寸法の五分の一を裁ち落す。更に袖口に襞をとるため圖の如く山から二糎づつの處に標をつけて二個所をつまむ。

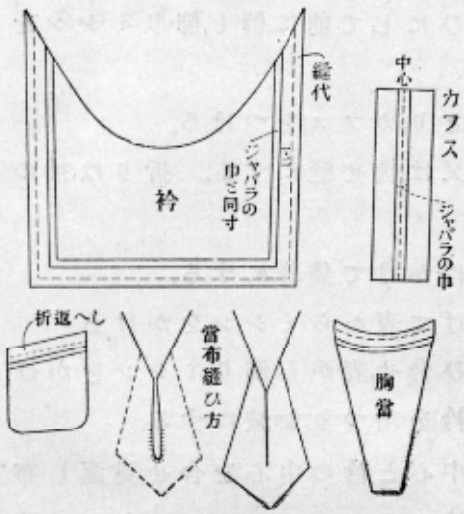
カフス寸法は,袖口からつまみの寸法の四糎だけを減じた寸法で,巾は袖口の二分の一とする。

㊁　布の裁ち方

後も前も中心を輪にして肩及び脇に一糎,裾は四糎位の折返しをつけ,袖ぐり·衿ぐりは縫ひ代なしにする。又カフス及び胸當布は,周圍に一糎の縫ひ代をつける。



ジヤバラの附け方




ポケツトは口の方に四糎,其他は一糎づゝの縫ひ代をつける。

衿は周圍に一糎の縫ひ代をつけ,衿ぐりには縫ひ代をつけない。

㊂　縫ひ方順序

1, カフス及び衿·胸當·ポケツトに圖の如く,ジヤバラをつける。ジヤバラの間隔は,その巾だけとし,好みにより二本或は三本つける。

2, 前明を圖の如く當布と中表に合せ,前明寸法だけ四粍位の縫ひ代に縫つて切り込みを入れ,表に返して飾りミシンをかけ穴かゞりの如く角をかゞる。

3, ポケツトの中心と身頃の中心とを合せて,第

二線より下につける。

4, 肩を伏せ縫ひにして前に倒し,飾りミシンをかける。

5, 袖先の襞をとり,カフスをつける。

6, 袖附を袋縫又は伏せ縫にする。折りは袖の方に返す。

7, 袖下から脇にかけて袋縫にする。

8, 裾を折り上げて表からミシンをかける。

9, 衿を表裏縫ひ合せ,表から飾りミシンをかける。但し裏衿を稍つり加減にする。

10,衿附　背の中心と衿の中心を合せ,見返し布(二糎五粍)を衿の上にのせてミシンをかけ,縫ひ代をくるんで身頃にまつりつける。

11, 胸當も裏表縫ひ合せて表から飾りミシンをかける。

12, 仕上げをしてネクタイ・胸當をつける。胸當は一方を絎けつけ,他方をスナツプがけにする。

13, スカートの仕立て方はエプロンドレスと同樣で,スカート吊をキヤラコ又は毛繻子等



で作る。又襞を作らずただ布を縫ひ縮めるだけでもよい。

# 第二十八章　男學生服

詰衿は大人物を基として製圖する故,その方法は少し子供服とは異つてゐるが,前に述べたことを充分會得すれば容易に出來るのである。

**用布**　夏は小倉地,冬はサージ・ラシヤ・ヘル等を用ひる。

## ㊀　積り方

七・八才は三米十四・五才は四米五十五糎,大人物は五米四十六糎。(六十八糎巾)

**附屬品**

1, 芯地(麻)上衣丈に凡そ十五糎を加へた寸法(前・腰・尾錠に用ひる)
2, 裏地(上衣丈に二十糎を加へる)
3, 縞サテン,凡そ八十糎大人物に限り袖裏・腰裏にこれを用ひる
4, 袋地,凡そ六十糎(ヅボンかくし)
5, 甲斐絹,凡そ五十五糎(ヅボン膝當に使用する,スレキを用ひてもよい)
6, 鼠スレキ凡そ七十五糎,これはかくしの袋布



等に用ひる。
7, 釦,大五・小四・他にヅボン釦一人分。
8, 衿ホツク・尾錠金具・カラ釦。

子供物は上の三・四・五は不要で四・五はスレキで充分である。又麻・小倉類の場合は芯は白芯を用ひ,前の七・八にキヤラコ(又はスレキ)凡そ一米あればよい。

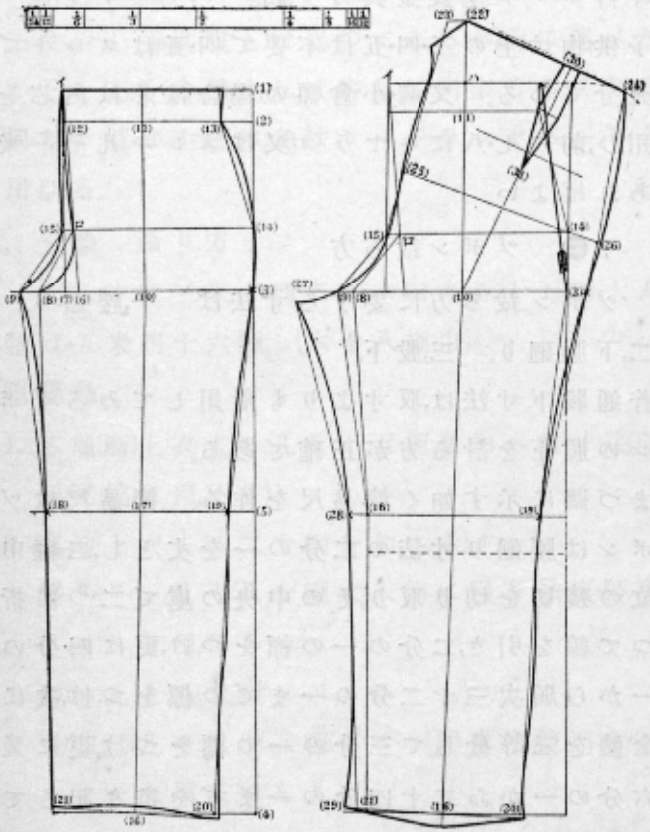
## ㊁　ヅボン裁ち方

ヅボン裁ち方に要する寸法は　一,腰廻り。二,下胴廻り。三,股下。

普通股下寸法は,取寸よりも着用してゐるヅボンの股下を計る方が正確である。

まづ圖に示す如く簡易尺を作る。簡易尺はヅボンは腰廻り寸法の二分の一を丈とし,二糎巾位の殘切を切り取り,その中央の處で二つに折つて線を引き,二分の一の標をつけ,更に四分の一から順次三十二分の一までの標をつけ,次に全體を三等分して三分の一の標をつけ,更に又六分の一から二十四分の一までを書き記しておく。以上裁方說明に單に何分の一とある場

## ズボン裁ち方





合はすべてこの簡易尺の分數である。

最初に(1)を基點として縱橫に直角線を引く。

(2)(1)間は十二分の一。

(3)(2)間は二分の一。

(4)(3)間は股下寸法.

(5)(4)間は股下の中央より五糎上げる,膝廻に當る。

(2)(3)(4)(5)の各點の橫直角線を引く。

6)(3)間は二分の一より五糎減じる。

(7)(6)間は一糎。

(8)(7)間は十二分の一。

(9)(8)間は二糎。

(10)は(8)(3)間の中心點。

(10)を直角に上に引く。

(11)は(10)の延長線と(2)の延長線の出合つた所。

(12)(11)は下胴の四分の一.

(13)(11)も下胴の四分の一。

(13)を直角に上に引き延ばす。

(12より(6)へ直線.

(12)の上部をイとなす。

イより(7)へ直線。

(14(3)間は六分の一。

(15)(7)間も六分の一。

ロ(6)間も六分の一。

(15)より(9)へ斜線。

ロより(8)へ斜線。

イ(12)ロ(8)の各點を通つてゐる線は下前線。

イ(12)(15)(9)の各點を通つてゐる線は上前線。

(16)4)間は三分の一。

(16)より10へ直線を引く,この直線に對して16)の點を直角に左右に斜線を引く。

(17)(18)間は四分の一。

(18)(19)間も四分の一。

(18)より(9)へ直線,(18)より(8)へ直線。

(19)より(3)へ直線。

(20)(16)間は下胴の四分の一。

(21(16)間も下胴の四分の一。

兩方共(16の直角線卽ち斜線上に求む。

(20より(19)へ直線。

(21)より(18へ直線。



以上て大體の基礎線は引けたわけてす。

仕上げ線の入れ方。

最初は脇から引きます。

13)の上部を五粍開かせる。

(13)(14)の中間に於て一糎の丸味。

(14(3)間は直線の上なれど引く心持ちは丸味を失はないやうになす。

(3)19)の中間に於て直線より三粍內側を通り(19)て直線の上を通り,(20)(19)間は上部三等分の二の間は三粍外側に丸味,一度直線の上にそひ裾口(20)の所て五粍開かす。

股上の仕上げ線。

(イ)(ロ)の中間て三粍の丸味。

(ロ)8)の中間て二糎繰る。

(15)(9)の中間て一糎繰る。

(イ)(15)は下前線と同樣。

股下の仕上げ線。

(9)18)の中間て八粍繰る。

(18)(21)は直線通り。

裾口の仕上げ線。

(16)の上部一糎繰る,(21)より二糎五粍位迄は斜線の上を通りそれより自然に繰つてゆき(20)も(21)と同様になす。

以上でヅボンの前身は全部製圖が出來上つたのである後身はこれを基礎として製圖することは男兒用半ヅボンと同樣である。

次に後身の製圖を前身の基礎線の上に引きます番號も前身より續かせます。

(22)はハより6分の一。

(23)(22)間は二糎五粍,(15)へ斜線を引く。

(24)は(3)を基點として矢の寸法だけを半徑として弧を畫く。

(24)(22)間は二分の一に加へること五糎斜線を引く。

(25)(15)間は六分の一,(14)へ斜線を引き五糎だけ引き延ばし(26の點となす。

(26)より(24)へ線を引く。

(26)より(19)へ線を引く。

(19)(20)は前の線と共通。

(27)(9)間は八分の一。



(27)の下一糎五粍に點を打つ。

(28)(18)間は二糎五粍,(27)の下の點へ直線を引く,(29)(21)間は二糎五粍,直線は(28)より(29)(21)の中間へ引く,(29)の點は仕上げ線の時に用ふ。

(30)24)間は六分の一。

(31)(30)間は十四糎,中央で二糎,上で(30)を中間として左右に七粍づゝ點を打ち,(31)より曲線で圖の如く褄の線を引く,

腰ポケツトの位置は上より左の方は十三糎脇の方は十二糎下げ脇の裁目の線より四糎入つて口の寸法は十三糎乃至14糎五粍で袋の深さは四糎增しになす。

以上で大體の基礎線は引けたわけです次に仕上線を引きます。

最初脇より始めます。

(24)3)の右横間は中央で四粍の丸味,(19)との中間では反對に內側へ繰る。

(19)(20)間の中央で四粍の丸味,(20)の少し上より裾口へと開かせる。

股上の(27)の下より(9)を少し繰り加減にして,(15)

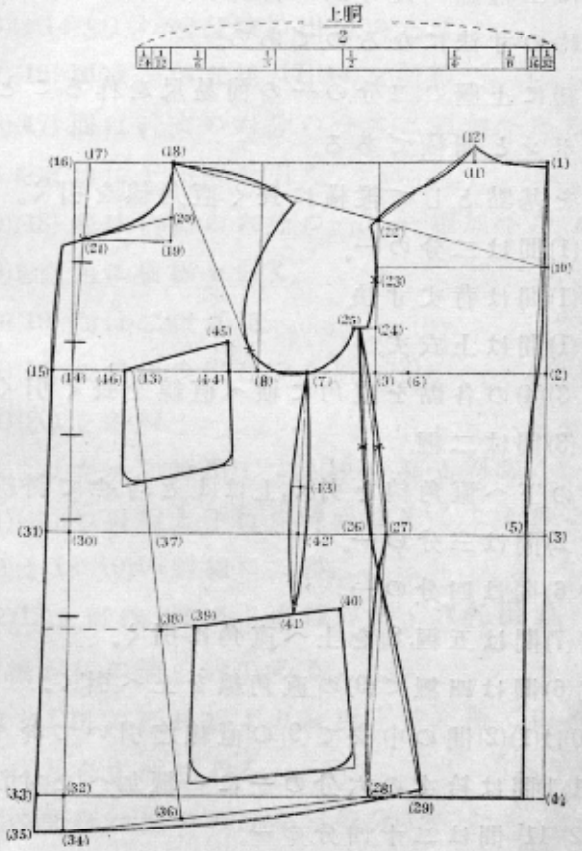
の中央で(8)(ロ)の線にそふやうに繰る。
(15)の角を取り(25)を通り,前身の腰の線との間で三粍の丸味。
(22)より(23)の下二糎五粍下へ斜線を引き其の斜線を一糎だけ出し,後の中心の仕上げ線に繰つた線で續かせる。
股下は(27)の下と(28)との線の中間で一糎繰る。
(28)下の直線の中央迄はそのまゝ直線通りに引き,それより(29)へと繰つた線にて引く。
(16)の下は二糎の丸味。
以上で後身の仕上げ線は出來たわけになります,次に膝の合標,(31)の合標を忘れないやうに注意なす。
この製圖によつて作られたる型紙は,その周圍は,すべて,八粍の縫代がついてゐる。但し後身の股上と前身及び後身の裾口は出來上り寸法になつてゐる。

### ㊂ 詰衿上衣の裁ち方

上衣裁ち方に要する寸法。
一,上胴。二,下胴。三,上衣丈。四,衿丈。五,背丈。



## 上衣の裁ち方



六,袖山丈。　衿丈は(取寸＋１糎)＝セラ寸法て更に二糎加へた寸法が衿丈であつて製圖をなす時の寸法になるのである。

最初に上胴の二分の一の簡易尺を作ることはヅボンと同樣である。

(1)を基點として縱橫に長く直角線を引く。

(2)(1)間は二分の一。

(3)(1)間は背丈寸法。

(4)(1)間は上衣丈。

(2)(3)(4)の各點を直角に橫へ直線を長く引く。

(5)(3)間は二糎。

(5)の下へ直角線を引く,上は(1と合せて斜線。

(6)(2)間は三分の一。

(7)(6)間は四分の一。

(8)(7)間は五糎,8)を上へ直角に引く。

(9)(6)間は四糎で(9)の直角線を上へ引く。

(10)は(1)(2)間の中央で(9)の直線迄引いておく。

(11)1)間は衿丈の六分の一に一糎加へた寸法。

(12)(11)間は二十四分の一。

(13)(2)間は半度即ち上胴の二分の一。



(14)(13)間は六糎。

(15)(14)間は二糎。

(16)は(14)と(1)の延長線の出合つた所。

(17)(16)間は一糎五粍,(17)(14)を斜線。

(18)(17)間は衿丈の六分の一に二糎加へた寸法。

(18)を直角に下へ線を引く。

(19)(18)間は衿丈の六分の一に一糎加へた寸法。

(19)を直角に橫線を引く。

(20)(19)間は二糎五粍。

(17)(14)の斜線の出合つた所が(21)。

(21)(20).を斜線。

(21)より左へ二糎出して,(15)の點と斜線。

(21)(14)の斜線と平行の線が出來ることになる。

(22)は(18)(10)の斜線にて得。

(22)(12)を直線,(22)より直線のまゝ六粍出す。この線が後の肩の線である。

(23)は(10)の延長線より一糎下つた所で山袖の縫目と合す所である。

(24)9)間は二糎その間を三等分しておく。

(26)は(9)の直角線を下げた所。

(27)(26) 間は三十二分の一。
(26)と(25)(24)の三等分の内の左の一つ目とを斜線, (27)と上は同じ所に斜線。
(28)は(26)の延長線であつて, (27)と斜線。
以上で背の方の製圖は出來たことになります。
次は前身。
(29)(28) 間は八分の一, 26)と斜線。
(30)は(14)の直角線。
(31)(30)は二糎。
(32)は(30)の延長線。
(33)(32) 間は二糎五粍。
(34)(32) 間は十二分の一。
(35)は(33)と(34)の延長線の出合つた所。
(34)と(29)を斜線。これは前身の裾の線である。
(36)は裾の線に直角にそして上は半度と合ふやうに直線を引く。背丈の線の上が(37)
(38)(37) 間は六分の一に二糎加へた寸法。
(39)(38) 間は十二分の一。
(40)(39) 間はポケツトの口で十五糎(大人物),深さは口より二糎增す。前の線と平行。脇も脇の



線にほゞ平行。袋の底は二糎五粍の丸味に落す,切りポケツトの場合はふたの巾は八分の一になし,袋布も夏物の場合は表地と同じ布を用ひこれより周圍二糎廣く製圖なす。
(41)(40) 間は五糎。(7)と斜線。背丈の線の上に(42)を得。
(43)(42) 間は八分の一。左右へ八粍づゝ取り曲線で(7)及び(41)へ引く。これは前褄になる。
(44)(8)間は三糎。
(44)(45) 間は三糎。
(46)(13) 間は八粍。
(46)(45)の斜線が胸ポケツトの口の位置で深さは口より二糎長くし, 前は平行。脇は少し下にて開かせる。丸味は一糎位。
ポケツトは兩方ともアウトポケツトである。
以上で大體の基礎線が出來たことになる次は仕上げ線を引きます。
背の仕上げ線,
衿ぐりは背の中心線(斜線)に直角を取り他の端は衿ぐりの中心に當るやうに卽ち(1)の下が少

し繰り取られるやうに引く。これは詰衿に限られて引くことであつて衿ぐりの,しわをなくす爲である。(12)へと弓なりに線を引く。これが後身の衿ぐりである。

背の中心は(10)(2)間の中央で三糎の丸味。

(5)のすぐ上で三糎繰る。下は直線の通り。

裾も同様。

脇は(28)(27)間は中央で四糎の丸味。

(27)の直線では反對に三糎内側へ繰る。

(22)より(23)を通り右の三等分の一へ繰り加減に引いてゆく。

肩の線は中央に點を打ち上は三糎繰り,肩先きは反對に三糎の丸味になす。これで背の方は全部出來上つたのである。

前身の前は上前の線であつて,下前は更に二糎廣く裁つ。

(15)の斜線で三糎の丸味。

(21)(18)は前の衿ぐりの線,

肩は(18)より三糎位の間は直線の上を通り丸味を少しづゝ付けて(8)の直線上では五糎にして

大妻圖



肩先きは五糎下げる。肩の寸法は後肩より六糎少なき寸法。

(18)と(8)と斜線。(8)より二糎五糎上つた所は袖の合標と合ふ所即ち袖のすわりの所である。

(7)(25)へも曲線を引く,餘り繰り込まないやうに,注意なす。

脇の線は背の脇と同様。

裾は中間で一糎の丸味,

衿の付く所は(21)迄で,それより先きは打ち合せである。

脇の線の(9)より下八糎下げて兩方へ合標を付けておく。

穴の位置は脇ポケツトの口の線を點線にて引き,それより一糎上が一番下の穴間であつて,上は(21)より二糎五糎下で,その間を四等分して,五個の穴の位置を付けておく。

前端より一糎五糎入つて二糎の穴間になす。

以上で身頃の製圖は出來上つたのである。

兩脇。袖ぐり。兩肩。前繰には各々八糎の縫代が型紙の内にふくまれてある。

衿ぐり。背の中心。裾。前の中心。ポケットは全部出來上りの寸法である。

脇は背丈の下より裾迄前身と後身が重なつて製圖されてゐることに注意して型紙を裁つ。

又下胴線の脇の合標と,袖の合標,衿付の標を忘れないやうに型紙に記入なすやう注意をすること,最後に衿ぐりの線の上を計り衿丈寸法と同じかを見て過不足のある場合は前肩及び打合線で加減をする。

### ㉓　袖の裁ち方

袖製圖の分數は上衣の簡易尺の分數である。

(1)を基點として直角線を縱橫に引く。

(2)(1)間は十二分の一。

(3)(1)間は三分の一より一糎減じた寸法。

(4)(1)間は袖山丈に二糎加へた寸法。

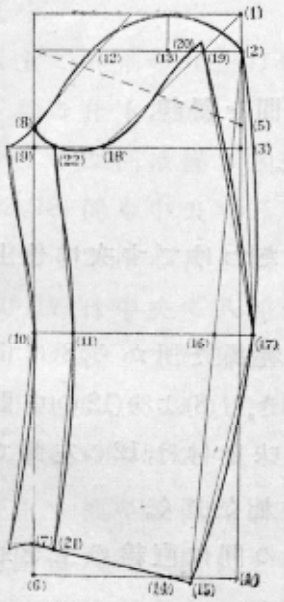
(4)(3)(2)(1)の各點を直角に橫へ線を引く。

(5)(3)間は二糎五粍。

(5)より(2)の直線上に斜に二分の一を計る,其の點を上下に引き延ばす,(4)の橫直線と出合つた所を(6)となす。



裁ち方圖(三)




(7)(6)間は三糎。

(9)(8)間は二糎五粍。

(10)は8)(7)間の中心。(10)を直角に橫に直線。

(11)(10)間は四糎五粍。

(7)より左へ二糎五粍。直角線を引き,(10)と斜線。

(9)より左へ二糎五粍,直角線を引き,(10)と斜線。

(12)(2)間は三分の一。

(13)は(12)(2)の中心,上へ引き延ばす。

(14)(7)間は三分の一。

(15)(14)間は二糎,(14)(7)の延長線の上で計る。

(15)2)を斜線。

(17)(16)間は四糎。

(17)(15)を斜線。

(17)(2)へも斜線。

以上で外袖の大體の基礎は引けたわけです,こ

の上に重ねて下袖を引く。

(18)(9)間は六分の一。

(18)(1)を斜線。

(20)(19)間は八糎。(19)(17)間を斜線。

(21)(7)間は二糎。(11)と斜線。

(22)(9)間は二糎。(11)と斜線。

以上で下袖の大體は引けたわけです,次は仕上げ線を引く。

外袖袖付の(9)より二糎五糎出た所から,(8)に向つて心持ち繰り加減に引き。(8)より(12)の中間迄同様。中間より少し丸味を付け,(12)の左側で三糎の所を通り,圖の如く丸く引く。

(13)の上部は左右一糎づゝの間は直線の上を通つて(2)に引く。

(2)(17)間は中央で五糎の丸味。

(17)(15)間も五糎の丸味。

袖口は(15)(7)間は直線の上を通り。(7)より二糎五糎の間で五糎開かせる。

(10)の中央で五糎繰る。

9)の左側二糎五糎の所と(10)の間は圖の如く上



部は三糎の丸味。下部は(10)の角を取るやうに丸味

以上で外袖の仕上げ線は出來上つたのである。

下袖の仕上げ線。

8)より(22)間は繰り加減に引く。

(22)(18)間も中央で三糎繰り下げる。

(18より(20)も心持ち繰る。

(20)(17)は中央で八糎の丸味。

袖下の繰り方は外袖と同樣。

(21)(11)(22)(18)(20)(17)(15)の各點を通つてゐる線が下袖の線である。

以上で袖の製圖が出來上つたのである。

周圍に八糎の縫代を型紙の內にふくむ。但し袖口だけ出來上り寸法。

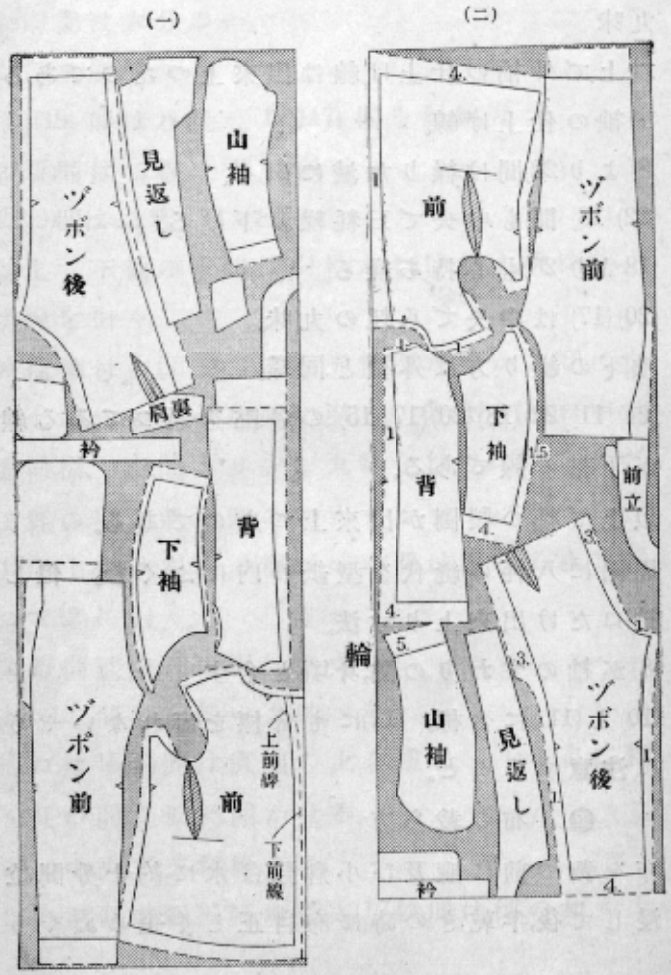
(8)が袖のすわりの點,身頃と合す。

(10)と(11)に合標。(17)にも合標を忘れないやうに注意すること。

### ㊄ 布の裁ち方

布を裁つ前に麻及び小倉類は水に約十分間位浸して後,半乾きの時に布目正しく歪めぬやう

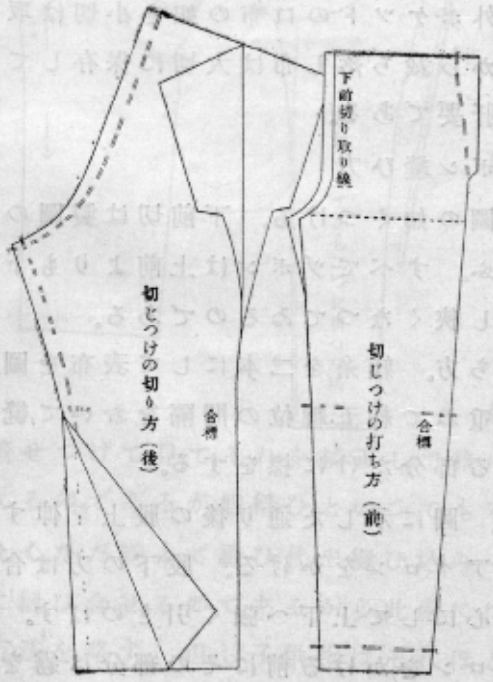
布の裁ち合せ圖






にアイロンをかける。芯地等も皆この方法による。毛織物は細かく霧を一面に吹き,アイロンを徐々にかけて地伸しをする。型紙裁ち合せ方及び縫ひ込みの附け方は圖の通りであるが,前にも記した如く上衣の背と衿ぐり・前中心・裾・ヅボンの後股上と裾をのぞく外は全部八粍縫ひ代があるので,この縫ひ込みは假縫ひをしてその窮屈な處を補ふための寸法である。上圖の一は六十八糎巾の布を用ひた

切り躾の打ち方



のである。

二はその倍のラシヤ巾で,卽ちサージ・メルトン・ラシヤ等の裁ち方である。見返しの巾は十三糎位が普通であるが,多少狹くとも又はぎが出來てもよいのである。

衿布は衿丈に四方に一糎づゝの縫ひ代をつけて裁つ。此外ポケツトの口布の如き小切は取つてゐないから裁ち落し布は大切に保存しておくことが肝要である。

### ㊅　ヅボン縫ひ方

まづ切躾を圖の如くつける。下前切は製圖の下前線を用ふ。すべてヅボンは上前よりも下前の方が少し狹くなつてゐるのである。

切り躾の打ち方。躾糸を二本にして表布を圖の如く二枚重ねて約五糎位の間隔をおいて,縫ひ込みのある部分だけに標をする。

裥の取り方。圖に示した通り後の股上を伸すやうに强くアイロンをかける。股下の方は合標の處を中心にして上下へ强く引きのばす。その時アイロンをかける前にその部分に霧を



裥の取り方

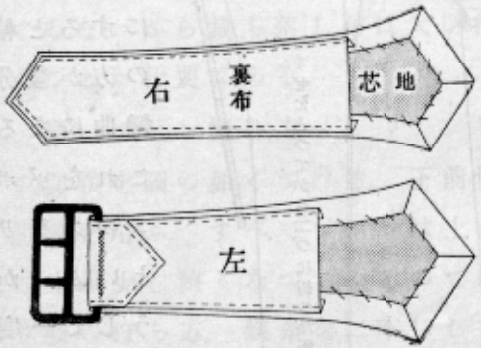
吹き,その上をアイロンで伸す。

かうしてヅボンの裥の取り方圖の如く二つ折にすると輪の方が幾分彎曲になる。これをヅボンのスワリといふ。かうして一度假縫ひして着せつけて見て,それを補正して後に本縫にかゝるのであるが,假縫ひといつても本縫と大差なく,ただ躾糸で縫ひ代や縫ひ込み寸法を重ねて縫ひ合せるのであるから,此處には假縫ひの方法を略す。但し子供物はそれほどの必要な

く,袖付や衿附の時に本縫のミシンをかける前に一寸着せつけて見る位でよい。

1, 尾錠の作り方は先づ芯を二枚重ねて裁ち切る,長さは十三糎で巾は廣い處が三糎五粍,狹い處が二糎として圖の如く裁ち,表布は周圍に五粍位の縫ひ代をつけて裁ち,芯地を表布に躾で押へ,その上に裏布をのせてミシンをかける。左には金具をつける。

尾錠の作り方



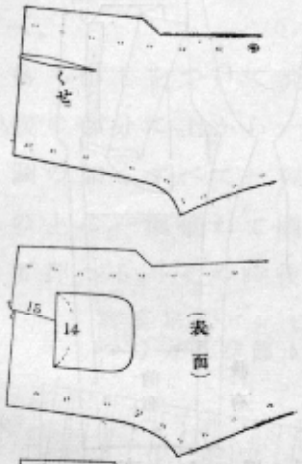

2, 前立及び天狗の作り方は男兒半ヅボンと同樣であるから說明を略す。

3, バンド通しの作り方は表布を二糎五粍位に裁ち,八粍巾位に折り,ミシンを中央に三本程かけておく。

4, たてがくしの作り方は男兒半ヅボンの處を參照する。



瓣の取り方
ポケットの附け方
(毛織物の場合)



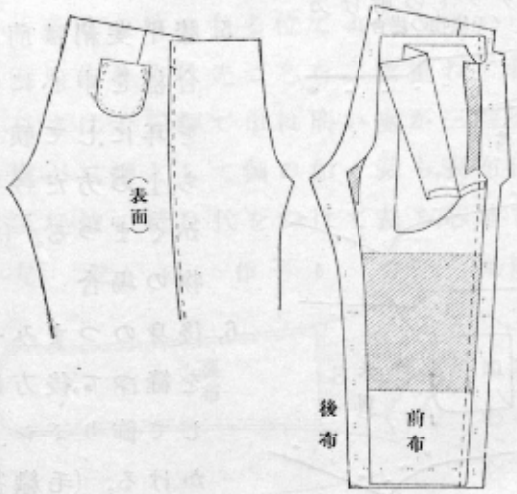

5, 膝甲斐絹は前身の合標を中心に上下を耳にして躾を打ち,上の方だけを細かくまつる。(毛織物の場合

6, 後身のつまみぐせを縫つて,後方に倒して飾りミシンをかける。(毛織物の場合は割る)

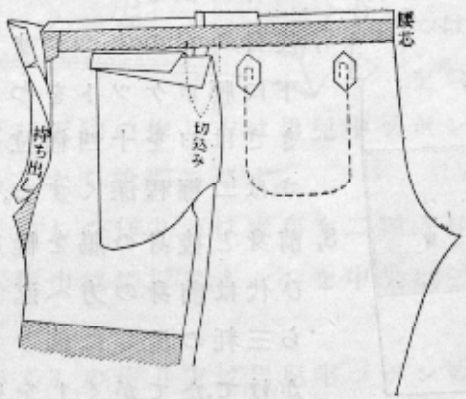
7, 後身の右の方へつまみぐせの下に腰ポケツトをつける。大きさは口を十四糎位にして深さは二糎程深くする。

8, 前身と後身の脇を縫ひ合せ,縫ひ代は前身の方へ返して表から三粍の深さに飾りミシンをかけて,たてがくしを躾でとめ

脇の縫ひ方




腰芯の据え方



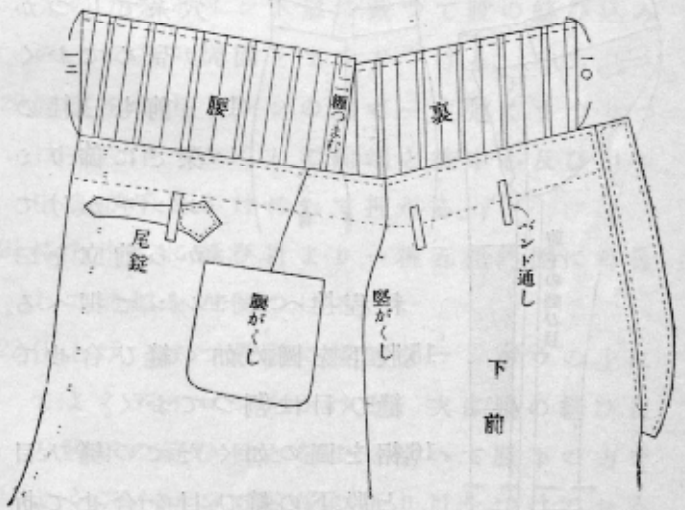



て,袋布の一枚を後布の縫ひ込みにゆるくまつりつけ,口明の上下にかんぬき留をしておく。

9, 持ち出しをつけて縫ひ目を割つて置く。

10,腰の部分に上から一糎下げて,腰芯(五糎巾)を圖の如くすべて一糎の縫ひ代を折りまげその上に一糎重ねて圖に示す寸法の腰裏を躾で押へる。その時後のつまみの處と脇縫と

腰裏・尾錠・バンド通し・腰がくしのつけ方及び飾りミシンのかけ方

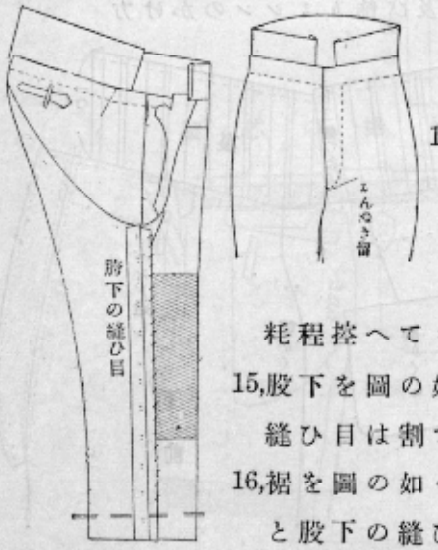


の間で腰裏を四糎つまむ。

11,飾りミシンを圖の如く約三粍程はいつた處から順にミシンをかける。

12,尾錠を後の方を八粍程下げて尖端より一糎程外に出してつける。

13,バンド通しは圖の如く尾錠の止めのミシンの上へ一本と,たての縫ひ目より一糎五粍程はなれて一本,それから前巾の中央へ一本附ける。何れも穴糸でしつかり留めておく。







14,上前も三粍の深さに飾りミシンをかけてから前立を二粍程控へてミシンで押へる。

15,股下を圖の如く縫ひ合せて縫ひ目は割つておく。

16,裾を圖の如くたての縫ひ目と股下の縫ひ目を合せて折り,前の方を一糎程切替より上へ斜に折り上げ,細かく且つ弛く表にひびかぬやうにまつる。これは前の切り上げとなる。



17,前の小股(天狗の下)を穴糸で細かく返し針に縫ひ,その糸を切らずにつゞけて門留をしておく。

18,後の股上を切替通りミシンをかける,此處は充分に伸して二度縫ひをする。

19,シックを斜布で長さ十二糎,巾五糎位の布を先の方をポイント形に裁つて股の縫ひ込みの上にあて周圍をまつりつける。

20,腰裏を飾りミシンの處で一度弛くまつりつけ,次に下へおろして,前端と後中心及び巾の中央で千鳥がけにして押へる。

21,持ち出しに,縫ひ目より一糎五粍內側に等分して,前釦を四個つける。

22,仕上げ　まづ最初に腰部をマンヂウの上にてよくアイロンをかける。次に脇の縫ひ目と股下の縫ひ目とをよく揃へて股下の方をよくアイロンで前後の折り目をつけておく。

## 詰衿上衣の縫ひ方

### ㊀　袖

1, 外袖の袖下を圖の如く伸して地伸しをする。

上衣出來上りの圖

2, 山袖の地縫ひをして內袖でくるみ, 外袖に倒して飾りミシンをかける。

3, 下袖を縫ひ合せ同じく內袖で縫ひ代を包んでミシンをかける。

4, 袖山の部分を絲糸二本で圖の如く細かに縫ひ縮めておく。(A・B間は割合に多く)

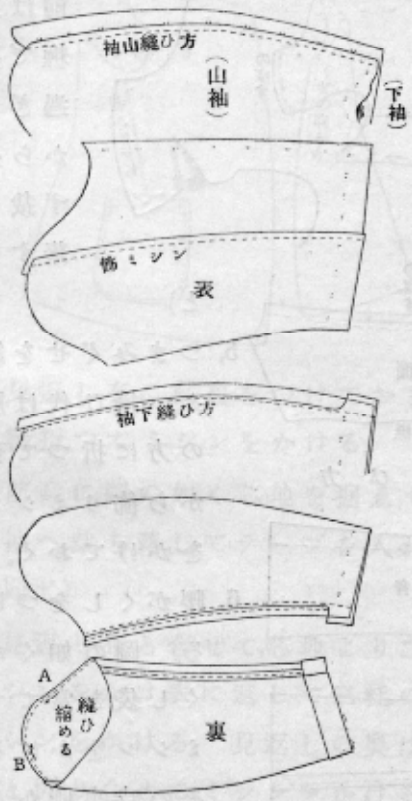
5, 袖釦は袖山の縫ひ目から約一糎程內側にて口先より四糎の處へ一個, それより更に二糎はなれて一個つける。(但し此寸法は何れも中心へ測る)これで袖は出來上つた。

### ㊁　身頃

1, 左圖の如く前身の肩及び脇・後身の背の中心をのばしてくせをとる。



袖の縫ひ方圖

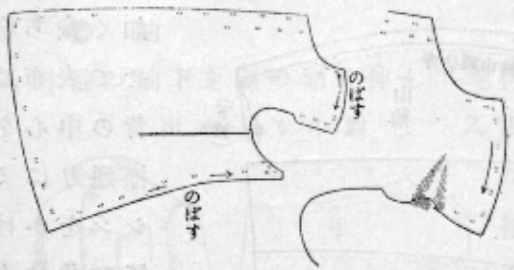


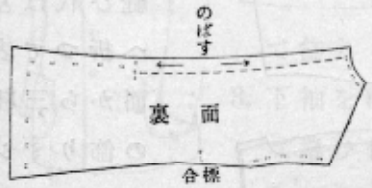

2, 肩裏を圖の如く裁ち合せて, 表布は背の中心を標通りにミシンをかけ, 縫ひ代は左へ折つて表面から三粍の飾りミシンをかける。

3, 肩裏も同じやうにその中心を縫ひ, 縫ひ目は割つて割りミシンをかけ, 裾を一糎程折つてミシンをかけ, 表にとぢつける。

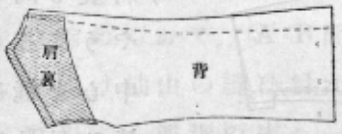
4, 上前の前端を切り絲より二糎內側で裁ち落

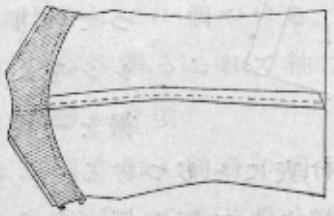
癖の取り方




背の縫ひ方



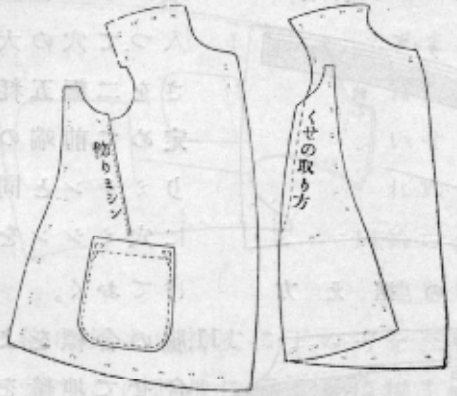



す。(上前は五糎て多過ぎるから必ず裁ち落すこと)

5, つまみぐせを縫ふ。縫ひ代は脇の方に折つて表から飾りミシンをかけておく。

6, 腰がくしをつける。圖の如くかくし袋を當ててミシンをかける。その時裏側から共布で,かくし口の兩端へ力布を






當てる。口の處は鍵の手に丈夫に二度程ミシンをかけ,力布の周圍はまつりつける。

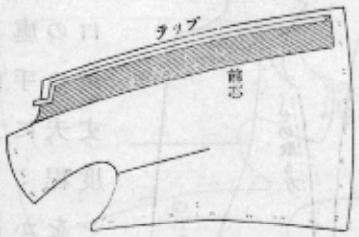
7, 見返し布に前裏をつけておき,前裏の裾は一糎折つてミシンをかける。

8, 前身に圖の如く芯地を据ゑて,縫ひ代八粍程控へ,裁ち落してテープを入れる。(ケープに同じ)

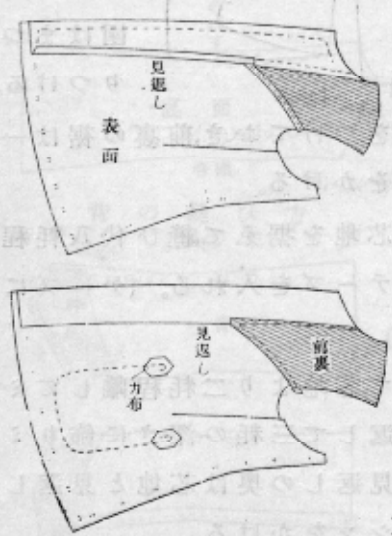
9, 見返し布と合せて,芯地より二粍程離してミシンをかけ,表に返して三粍の深さに飾りミシンをかける。見返しの奥は芯地と見返しと折り合せてミシンをかける。

10, 上前に釦穴の標をつける。下端の穴はかくしより一糎上につけ,上端は約二糎半程下り,

前芯及びテープの入れ方




見返の据え方



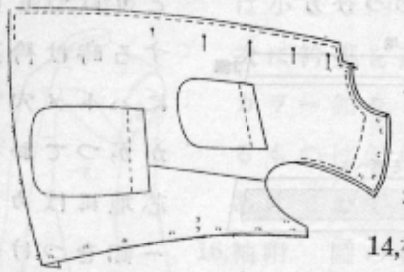

端から一糎五粍入つて穴の大きさを二糎五粍に定めて,前端の飾りミシンと同時に穴ミシンをかけておく。

11,脇の合標をよく合せて地縫をし,袖山のやうに伏せ縫ひにして背の方に返して飾りミシンをかける。

12,裾は三つ折りにして,細かく丈夫にまつる。

13,表の肩を,背の方を八粍程いせるやうにして縫ひ合せ,縫ひ目は背の方に倒して飾りミシンをかけ,次に裏





布の背を上にしてまつりつける。背の裏布も八粍いせることを忘れぬやうにする。

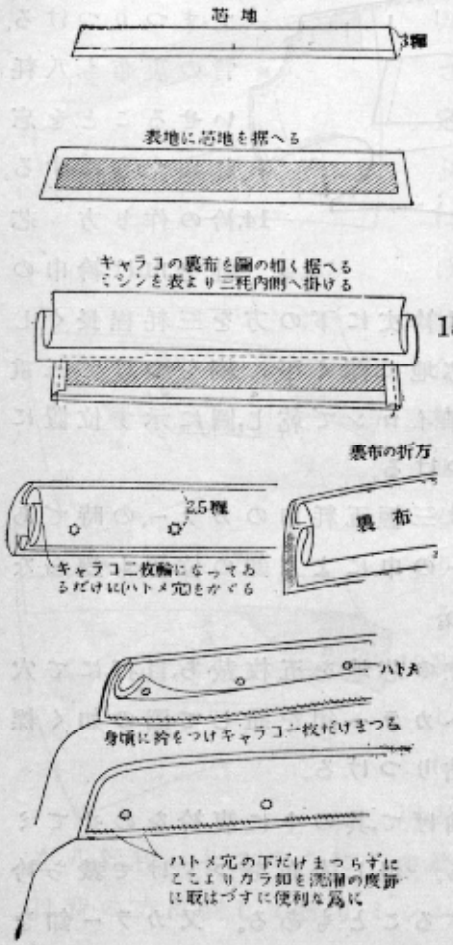
14,衿の作り方　芯地を巾は衿巾の三倍に,長さは衿丈に下の方を三粍程長くして裁ち,この芯地に薄く平に糊をつけて三重に張りつけ,アイロンで乾し,圖に示す位置にカラー釦をつける。

左圖の寸法は三糎五粍巾のカラーの時であるから,カラーの巾により釦の位置も變らなければならぬ。

次に二糎角位の芯地を五枚裁ち,目打にて穴をあけ,そこへカラー釦を通して圖の如く標の上に糊で貼りつける。

三方を折り曲げて,其の上に裏衿をのせてミシンをかける。但し表布をつゞけて裁ち衿裏の代りにすることもある。又カラー釦を

カラー釦のつけ方

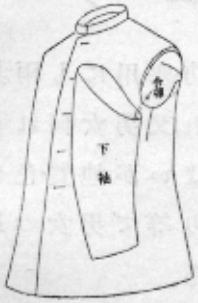



とりはづしにする時は衿裏にハトメ穴をかがつておき,芯地にはカラー釦をつけないこともある。

15,衿の附け方　出來上つた身頃の衿ぐりへ縫ひつけて,縫ひ代は衿の方へ返し,中央へ衿づりを穴糸で堅くとぢつけておき,衿の兩端へホック二組を丈夫にとぢつけ,又衿附け留の處へ



袖のつけ方




は小さな閂留をしておく。次に衿裏を返してまつる。カラー釦をとりはづしにするものは釦の下部を二糎程あけておく。

16,袖附　圖の如く前身の合標と袖の縫ひ目とをよく合せて縫ふ。但し下袖の縫ひ目を合標より約一糎程上に合せる方が實際の具合がよい(女兒服と同じく躾で押へておきその具合をみて落ち着きを正しくする)。ミシンをかける時は,やはり斜布を身頃の上にのせて縫ひつけ,後にその緣布で縫ひ代をくるんでまつる。袖附の落ち着きは出來上り圖の如く,袖を垂してみて,袖口がポケツトの中央より一糎程前方にあればよいのである。

17,仕上げ　仕上げの順序は,肩の縫ひ目と衿の附け根を,最初にマンジユウの上でよくアイロンをかけ,次に脇の縫ひ目,背の縫ひ目等にかけ,最後にポケツト・裾・前端等にかける。

# 第二十九章　ケ　ー　ブ

ケープ仕立上りの圖

ケープは防寒用にも雨具にも用ひられ,又男女何れも同樣の型でよいが,地質·色合又は前重なり等で男女の區別をしてゐる。

裏も肩裏だけつけることもあり,又總裏にすることもあるが,こゝには肩裏附の物を説明する。

**用布**　防寒用にはラシヤ·アストラカン·ビロード·シール等を普通用ひ,雨具としては繻びきの布を用ひる。

㊀　積り方

背總丈の一倍半,又は二倍(ラシヤ巾)

裏布は六十八糎巾で背總丈だけ要する。

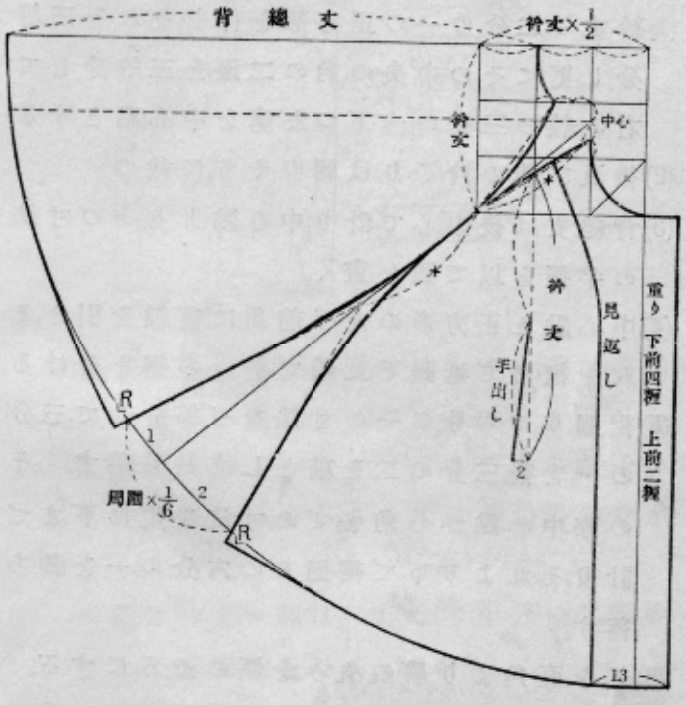
**附屬品**　芯地(麻或はみつあや)三十糎·釦三個·鉤ホツク一組

㊁　裁ち方

裁ち方には原型を使用する方法と,衿廻りを

女兒オーバコート及びケープ(右端)

## ケープ型紙の裁ち方




基礎として割り出す方法とあるが,ここには簡單な衿廻りから割り出すものを說明する。

1, **身頃**　まづ衿丈を定める。衿丈の計り方には洋服或は和服着用のまゝ弛く衿廻りを計つて定めてもよい　又その人の半胸圍に四糎

加へて,これをその寸法と定めてもよい。

(1)衿丈の二分の一の正方形を作り,それを三等分し,更にその中央の角の二邊を三等分して右の線の三分の一下つた處を中心點とする。

(2)後及び前の衿ぐりは圖のやうに裁つ。

(3)背總丈は後中心で計り,中心點よりその寸法の半徑を以て弧を畫く。

(4)中心點と正方形の左手前角に直線を引き,それを裾まで延長し,此線で前後の裾を分ける。

(5)裾廻りの六分の一の寸法を三等分して,三分の一を後,三分の二を前として裁ち落す。その際中心點から角までの寸法を更に下まで計り,それより下で裾廻りの六分の一を裁ち落す。

(6)裾を直角より肩の丸みを圖のやうにする。

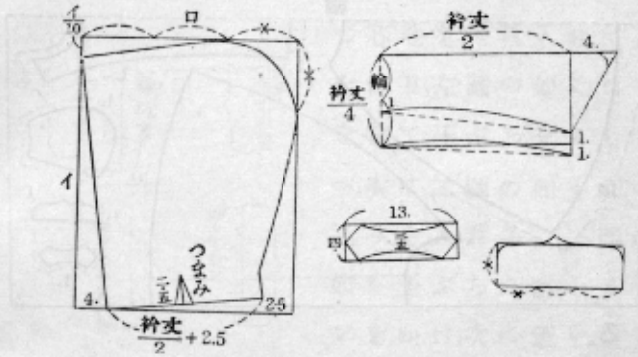
(7)手出しの位置を定む。寸法は衿丈の二分の一とし,更に下二糎斜にする。

(8)前重なりを四糎とる。

(9)見返しの型紙を裾で十三糎位,肩で三糎位にして形をとる。



頭布の裁ち方




(10)肩裏を背の處で適宜寸法を定め,前は手出しのかくれる程度までつける。

**2, 頭巾**　頭巾の大きさは,その人の帽子の形によつて大小あるが,ここには普通の形を示しておく。

イ線は衿丈,ロ線はイ線より十分の二短かくして基礎線をひく。

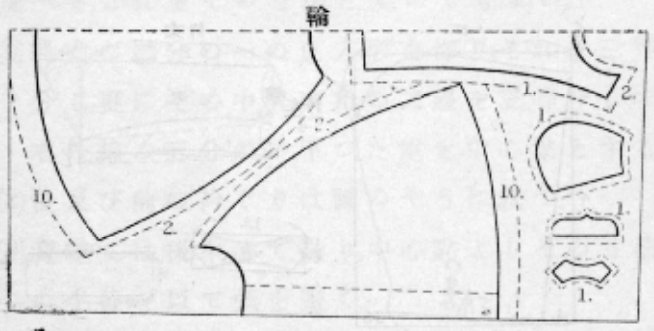
(1)ロ線を三等分し圖の如く丸みをつける。

(2)イ線の十分の一前の方を裁ち落す。

(3)イ線の下に四糎と標し斜線を引く。

(4)衿丈の二分の一につまみの寸法二糎五粍加へて計り,其の點と頂きの丸みを形よく合せ

布の裁ち合せ方




る。

3, **衿**　衿の裁ち方は男兒服の衿を參照して圖解によれば明瞭である。

手出しの巾は丈の三分の一とし,形は各々好みによつてする。

㊂　布の裁ち合せ方

上圖の如く裾開きの少ない時は前後を裁ち合せる。

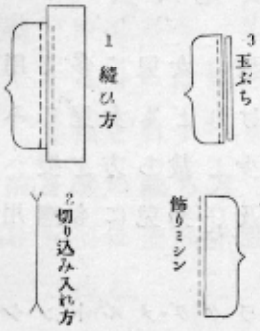
又毛並のある地質は逆毛にならぬやに注意して裁つ。從つて布が多く要る。

裾の折り返しは十糎內外,但し大人物は裁ち切りのまゝにする。

㊃　縫ひ方順序



手出しの作り方




1, 手出しの蓋を作る。まづ芯地を一枚入れて蓋を作り,左圖の如く口布を當て,玉ぶちをこしらへ,次に二圖の如く切り込みを入れる。三圖の如く玉ぶちに落しミシンをかけ,次に蓋を折り返して飾りミシンで押へる。

2, 前身頃に芯地をのせ,男兒服の如く吊布を入れ,見返し布と中表に合せて縫ひ,表に返して見返しを控へ目にして飾りミシンをかける。

3, 肩を縫ひ合せ後に返し,飾りミシンをかける。

4, 肩裏をまつりつける。

5, 見返し及び裾に斜布で緣を取り,裾を折り上げてまつる。

6, 衿を男兒服の如く仕上げて身頃につける,その時衿中心に吊布を入れる。

7, 頭巾を縫ひ合せる。

8, 仕上げをし,穴かゞり及び釦附をする。

大要圖

# 第三十章　女兒外套

女兒外套仕立上り圖

この型は女兒に多く用ひられるけれども,女兒のみに限らず,少し裁ち方を變へれば婦人及び男兒にも應用が出來る。

**用布**　ラクダ・メルトン・シール・アストラカン等を多く用ひるけれども,近頃オーバ地としていろいろ新しいものがある。

## ㊀　積り方

背總丈に折り返しを加へて二倍する。但し毛並のある布の時は二倍半位を要す。

## ㊁　裁ち方

オーバ地を裁つ時に特に注意をしなければならぬことは毛並である。卽ち逆毛にならぬやうに裁つこと,逆毛とは出來上つた服の毛並が上に向いてゐることである。



衿や袖等も同じで,袖口の方に毛並が向くやうに裁つのである。又表と裏の違つた縞柄になつてゐるものは裏をつけないのが普通である。但し裏袖と肩すべりはつける。

### 1, 前身頃の裁ち方

(1) 原型は全部洋服を着た上から取つた寸法で作る。

(2) 袖ぐりを三糎位下げ,脇に一糎程出して袖附をゆるやかにする。

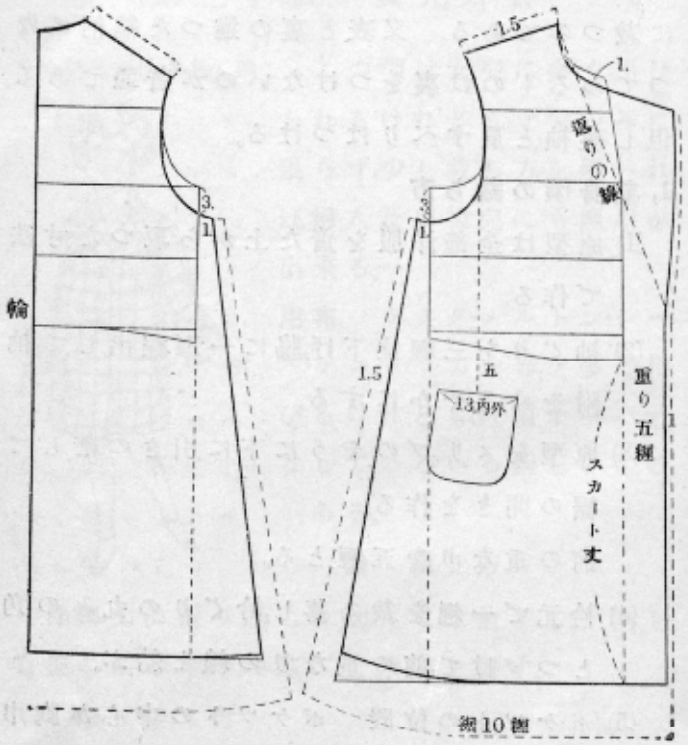
(3) 原型をスリップのやうに下に引きのばして裾の開きを作る。
前の重なりを五糎とる。

(4) 衿元で一糎を裁ち落し,衿ぐりの丸みの角とつゞけて,前の重なりの線と結ぶ。

(5) ポケツトの位置　ポケツトの中心が胸巾の垂線と合ふやうに,下胴から五糎下げる,形は自由である。

(6) 縫ひ代及び裾の折り返しは次の圖の通りである。

## 身　頃　の　裁　ち　方




**2, 後身頃の裁ち方**　袖ぐり・裾及び脇の開き等全部前身頃に同じ。

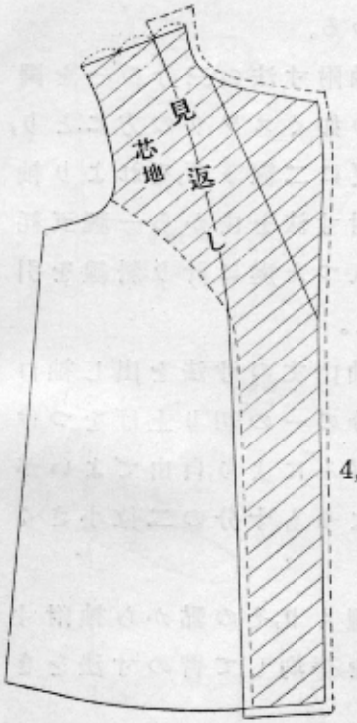
**3, 見返し及び芯地の取り方**

(1) 見返しの取り方　これは衿が折れて表に出る處になるのである。肩巾の三分の一の處から自然に下げて裾は十二糎巾位に取る。

(2) 芯地の取り方　原型の第二線から斜に,見返しの巾より五粍程狹く圖の如く取る。



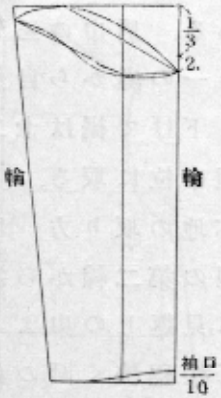
見返し及び芯地の裁ち方




**4, 袖の裁ち方**　袖には一枚袖と二枚袖とがある。一枚袖はこれまでの女兒服の袖の如く一枚布で仕立てるのである。

二枚袖は外袖と內袖と二枚の布で仕立てるので,外套にはこの二枚袖を使ふことが多いから一枚袖は圖解のみにとゞめ,こゝでは二枚袖の裁ち方を說明する。

袖の裁ち方(一)




(1) 袖附寸法と袖山丈とを定める。

(2) 袖附寸法の三分の一を圖の如くスワリの方にとり,更に二糎下げ,それより袖附寸法を山から一糎五粍入つた處に計り,斜線を引く。

(3) 袖山丈の寸法を出し袖口を定め,袖口の十分の一の切り上げをつける。袖口寸法は好みにより,自由でよいが大體は袖附寸法よりも十分の二位小さくする。

(4) 袖下の中央で一糎くり,その點から袖附寸法と袖口寸法とを平均して臂の寸法をきめる。

(5) その他は一枚袖と同樣である。

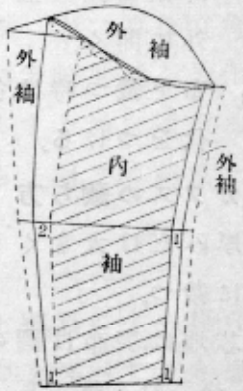
(6) 內袖は圖に示すやうに袖下で一糎,袖山にて附の方は內袖の三分の一入つた處から引いた斜線の三分の一の寸法,臂で二糎,袖



袖の裁ち方

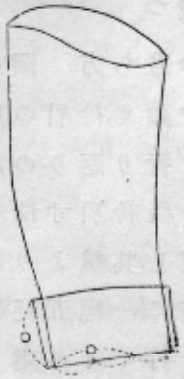
(二の一)

(二の二)

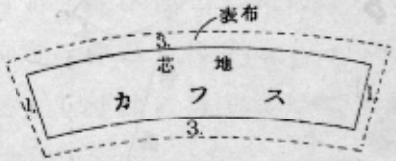



カフスの裁ち方

(一)



(二)



ロで一糎入りし處が內袖となる。

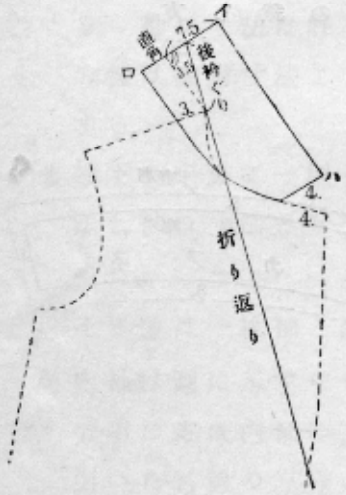
外袖は圖の如く內袖と反對に同じ寸法を外に開く。

布を裁つ時は,各々袖の縫ひ合せ目に縫ひ代をつける。

5, **カフスの裁ち方**　袖口の大きさよりも布の厚みだけ大きくして,巾は袖口の三分の二位に裁つ。

芯地は,表布は圖の如く型通りに上下左右に縫ひ代をつけ,裏布は巾を稍控へ目に裁つ。

**衿の裁ち方**




6, **衿裁ち方**　圖に示す如く,衿肩の處にて折り返りの斜線を後衿肩寸法を伸ばし,其線より肩の方に一糎五粍寄せて衿ぐりの處より斜線を引き,それに



直角を取つて,イへ七糎五粍,ロへ三糎取つて衿巾とする　ロハは衿附止りからロに向つて衿ぐりにならつて裁つ。次に前身頃角から四糎離してハに向つて斜線を引く。仕立上り圖よりも衿巾を廣くする場合はイまでの寸法を隨意に廣くする。隨つて前重なりも稍多くすればよい。

㊂　縫ひ方順序

外套は半裏にする場合と總裏にする場合とあるが,こゝには半裏のものを述べておき,總裏の方はたゞこれが長くなるだけであるから略しておく。

1, **袖及びカフス**

(1) 表裏共各々袖下を縫ひ合せて,表袖は割り,裏袖は外袖の方に片返しにする。

(2) 表袖口を出來上り寸法に折りまげて千鳥掛にする。

(3) 表裏の袖下縫ひ目を中央八糎程の間をとぢ合せて,裏袖口を表袖口の返しだけ控へてまつる。

(4) カフス布の裏に芯地を當てゝ輪に縫ひ,兩方から布を折つて千鳥掛にして芯地につける。カフス巾の充分ある時は芯の中間で兩方の裁ち目が突き合せになるやうにし,不足の場合は,芯地が見えぬやうに裏布をあてゝまつりつける。

(5) 出來上つたカフスを袖口より一糎先に出し,袖口先をまつりつける。

## 2, 身頃

(1) 前身頃に芯地をのせ折り返りより先を殘して假とぢし,折り返りの處は細くハの字に刺す。

ハの字の刺し方は,初め下方に向つて刺し,後上に刺して上る。これをくりかへす。

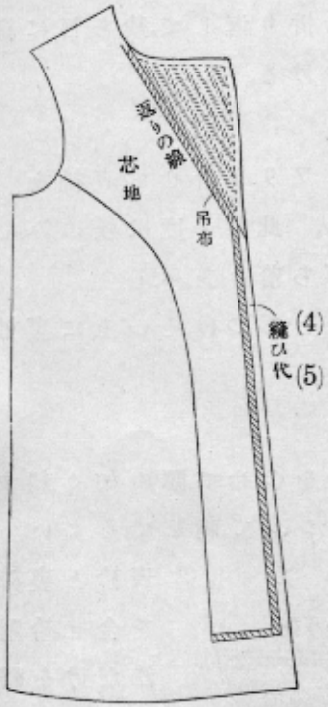
但し芯地の方を弛み加減にし,縫ひ代だけ芯地を控へる。

(2) 返りの斜の處と前端とに吊布を入れる。(これはケープの時と同樣でよい)

(3) 見返し布と身頃と中表に合せ,折り返りの部分は見返しを稍弛め,其下は平にして裾



返りの刺し方




まで芯地より二粍先にミシンをかけ,表に返して,返りの線から上は身頃が見えぬやうに少し控へ,其下は見返しを控へ目にして躾をしておく。

(4) ポケツトをつける。

(5) 見返しの奥に裏身頃をのせてミシンを掛ける。裏布のつかぬ處は斜布(肩裏と共布)で緣をとり,表布にひびかぬやうにまつりつける。緣は二糎巾の斜布を用ひ出來上り五粍として落しミシンをかける。

(6) 表の肩及び脇を縫ひ合せて割り,裏布及び芯地は縫ひ代にとぢつけてまつる。脇の縫ひ込みも裏のない處は緣を取つてまつ

りつける。

(7) 裾も出來上りに折り返して,裁ち目に緣をとつてまつりつける。

**3, 袖附**

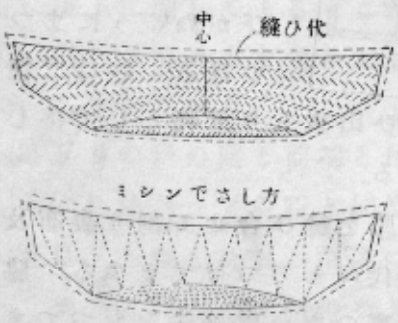
(1) 袖及び身頃のスワリを合せて表袖をつけて縫ひ代は割る。此時一度は襞のみで假縫ひして袖の落ち着きをみる。

(2) 表袖に裏身頃をとぢつけ,その上に裏袖をのせてまつる。

**4, 衿**

(1) 裏衿の裏に芯地をのせて圖の如く刺す,地質によつてはミシンで刺してもよい。

衿の刺し方




(2 表衿と裏衿とを合せ,衿附寸法だけを殘して三方を縫ひ合せる。

(3) 縫ひ代を細かく裁ち切り,折り返りの線より二糎までは衿の方に返し,それより先は切り込みを入れて割り,表布も同樣に返りの部分は身頃と衿を突き合せ接ぎにし,その他は表衿でまつりつける。その時中央にケープの如く衿ぐりを入れる。

飾りミシン。前見返しの裾から衿までずつと通してかける。その深さは,地薄物は四粍の深さ,地厚物は七粍位。但し毛並のよく見える物や,シール・ビロード等は飾りミシンの代りに裏から縫ひ代をとぢつけておくこともある。

穴かゞり・釦附。

穴の位置。折り返りの線より一糎下に前端から二糎入つて釦の直徑よりも釦の厚さだけ大きく穴ミシンをかけてから切りあけて穴をかゞる。



———(終り)———

昭和二年四月廿六日印刷
昭和二年四月廿九日發行
昭和三年三月　四　日修正再版發行
昭和八年四月二十日修正五版發行

不許複製

極準裁縫書〔後編〕

定價金壹圓八拾錢

編者　大妻コタカ

發行兼印刷者　東京市神田區神保町一丁目一番地
株式會社三省堂
代表者　亀井貫雄

印刷所　東京市淀橋區出雲町一〇一番地
株式會社三省堂蒲田工場

發行所　東京市神田區神保町一丁目一番地
株式會社三省堂
（振替東京三一五五五番）

大阪市西區阿波座下通二ノ六
株式會社三省堂大阪支店
（振替大阪八一三〇〇番）